Autodesk[®] Maya[®]

Autodesk⁻

2011

Maya マッスル

著作権の注意事項

Autodesk® Maya® 2011 Software

© 2010 Autodesk, Inc. All rights reserved. Except as otherwise permitted by Autodesk, Inc., this publication, or parts thereof, may not be reproduced in any form, by any method, for any purpose.

Certain materials included in this publication are reprinted with the permission of the copyright holder.

The following are registered trademarks or trademarks of Autodesk, Inc., and/or its subsidiaries and/or affiliates in the USA and other countries: 3DEC (design/logo), 3December, 3December, com, 3ds Max, Algor, Alias, Alias (swirl design/logo), AliasStudio, Alias/Wavefront (design/logo), ATC, AUGI, AutoCAD, AutoCAD Learning Assistance, AutoCAD LT, AutoCAD Simulator, AutoCAD SQL Extension, AutoCAD SQL Interface, Autodesk Envision, Autodesk Intent, Autodesk Inventor, Autodesk Map, Autodesk MapGuide, Autodesk Streamline, AutoLSP, AutoShap, AutoSketch, AutoTrack, Backburner, Backdraft, Built with ObjectARX (logo), Burn, Buzzsaw, CAiCE, Civil 3D, Cleaner, Cleaner Central, ClearScale, Colour Warper, Combustion, Communication Specification, Constructware, Content Explorer, Dancing Baby (image), DesignCenter, Design Doctor, Designer's Toolkit, DesignKids, DesignProf, DesignServer, DesignStudio, Design Web Format, Discreet, DWF, DWG (logo), DWG Extreme, DWG TrueConvert, DWG TrueView, DXF, Ecotect, Exposure, Extending the Design Team, Face Robot, FBX, Fempro, Fire, Flame, Flare, Flint, FMDesktop, Freewheel, GDX Driver, Green Building Studio, Heads-up Design, Heidi, HumanlK, IDEA Server, i-drop, ImageModeler, iMOUT, Incinerator, Inferno, Inventor, Inventor LT, Kaydara, Kaydara (design/logo), Kynapse, Kynogon, LandXplorer, Lustre, MatchMover, Maya, Mechanical Desktop, Moldflow, Moonbox, MotionBuilder, Movimento, MPA, MPA (design/logo), Moldflow Plastics Advisers, MPI, Moldflow Plastics Insight, MPX, MPX (design/logo), Moldflow Plastics Xpert, Mudbox, Multi-Master Editing, Navisworks, ObjectARX, ObjectDBX, Open Reality, Opticore, Opticore Opus, Pipeplus, PolarSnap, PortfolioVall, Powered with Autodesk Technology, Productstream, ProjectPoint, ProMaterials, RasterDWG, RealDWG, Real-time Roto, Recognize, Render Queue, Retimer, Reveal, Revit, Showcase, ShowMotion, SketchBook, Smoke, Softimage, SoftimagelXSI (design/logo), Sparks, SteeringWheels, Stitcher, Stone, StudioTools, ToolClip, Topobase, Toxik, TrustedDWG, ViewCube, Visua

Visual LISP, Volo, Vtour, Wire, Wiretap, WiretapCentral, XSI, and XSI (design/logo). ACE[™], TAO[™], CIAO[™], and CoSMIC[™] are copyrighted by Douglas C. Schmidt and his research group at Washington University, University of California, Irvine, and Vanderbilt University, Copyright © 1993-2009, all rights reserved.

Adobe, Illustrator and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

Intel is a registered trademark or trademark of Intel Corporation or its subsidiaries in the United States and other countries.

mental ray is a registered trademark of mental images GmbH licensed for use by Autodesk, Inc.

OpenGL is a trademark of Silicon Graphics, Inc. in the United States and other countries. Python and the Python logo are trademarks or registered trademarks of the Python Software Foundation.

The Ravix logo is a trademark of Electric Rain, Inc.

All other brand names, product names or trademarks belong to their respective holders.

Disclaimer

THIS PUBLICATION AND THE INFORMATION CONTAINED HEREIN IS MADE AVAILABLE BY AUTODESK, INC. "AS IS." AUTODESK, INC. DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE REGARDING THESE MATERIALS.

目次

第1章	Maya マッスルの基礎知識1
	概要
	Maya マッスルをロードする2
	マッスルのワークフロー2
第2章	マッスルを作成する............................7
	Mava マッスルを作成する
	$z_{y}z_{h}$
	マッスルのタイプ 8
	その他のマッスルデフォメーション 11
	マッスルジグルについて
	カプヤルを作成する 13
	カプヤルの設定を調整する 15
	カプセルからポリゴン シリンダを作成する 15
	Mava ジョイントをカプヤルに変換する 17
	ポリゴンメッシュをボーンに変換する 18
	NURBS をマッスル オブジェクトに手動で変換する 19
	マッスルのアタッチ ポイントを設定する 20
	マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する 22
	マッスル クリエイタ ウィンドウを聞く 23
	マッスルを作成する 23
	· / / ································

	. 25
マッスルのポーズ状態を設定する................	. 25
マッスルをスカルプトする	. 26
マッスルを成長させる.............................	. 28
マッスルをミラーする	. 30
マッスル クリエイタ(Muscle Creator)の設定をコピー & ペーストす	
ద్	. 30
マッスル ビルダ(Muscle Builder)を使用してシンプル マッスルを作	
成する	.31
シンプル マッスルのシェイプを変更する	. 34
シンプル マッスルを確定する	. 37
シンプル マッスルのパラメータを調整する	. 39
マッスル スプライン デフォーマを作成する	. 40
マッスル スプライン デフォーマを設定する	. 41
マッスル伸長デフォーマを作成する	. 50
マッスル ジグル キャッシュを削除する	. 51
マスター マッスル コントロールを設定する	. 52
無効なマッスル オブジェクト ノードを修正する	. 54
スキン デフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 55
スキンデフォメーション	55
770 y y y y z = 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	. 55
	. 50
イワイト ナリオメーション	. 39
スフイト アノオメーンヨン	. 39 . 60 64
スフィト アノオメーション	. 39 . 60 . 64
スフィト アノオメーション	. 39 . 60 . 64 . 65
スフィト アノオメーション	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 66
スライト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 74
 スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 77
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトを接続解除する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 77 . 77
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトを接続解除する 削除済みや欠落したマッスルの自動修正	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 77 . 78 . 78
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトを接続解除する 削除済みや欠落したマッスルの自動修正	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 77 . 78 . 78 . 78
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトのベース ポーズをリセットする	. 399 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 78 . 78 . 78 . 79 . 79 . 79
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正 マッスル ノードを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトを接続解除する 選択したマッスル オブジェクトのベース ポーズをリセットする 選択したマッスル オブジェクトのベース ポーズをリセットする	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 78 . 78 . 78 . 79 . 79 . 80
スフィト アノオメーション ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング フォース デフォメーション ポイント単位のジグル デフォメーション リラックス デフォメーション スムース デフォメーション マッスル スキン デフォーマを適用する Maya スキンを Maya マッスルに変換する マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する Maya マッスルのセットアップ データを再初期化する	. 39 . 60 . 64 . 65 . 66 . 67 . 69 . 69 . 71 . 74 . 76 . 77 . 78 . 77 . 78 . 79 . 79 . 80 . 81

iv ∣ 目次

第3章

	スティッキー バインド距離を視覚化する............	82
	相対スティッキー デフォメーションを設定する	83
	スライド デフォメーションに対して一定の脂肪オフセットを設定する	
		84
	マッスル方向オブジェクトを作成する.............	86
	ディスプレイスメント デフォメーションを設定する	88
	フォース デフォメーションを設定する	97
	ジグル デフォメーションを設定する	97
	デフォルト ウェイトを適用する	98
	マッスル ウェイトをペイントする	. 100
	ウェイトのロードと保存	. 102
	ウェイトをミラーする.......................	. 106
	ウェイトを転送する..............................	. 107
	ウェイトを削減する	. 108
笋⊿咅	コルジョン	111
ㅠ ㅜ 두		
		. 1 1 1
		. 112
		. 114
	マルチオフジェクト コリジョン	. 115
	KeepOut ノードを使用したコリションのトランスフォーム	. 116
	マッスル スマート コリションを設定する	. 117
	選択したマッスル スマート コリジョン ノードを接続する	. 118
	スマート コリジョン領域ウェイトを設定する	. 119
	セルフ コリジョンを設定する	. 120
	マッスル マルチ コリジョンを設定する	. 121
	KeepOut コリジョンに対しオブジェクト階層をリグ設定する	. 122
	マッスルと KeepOut を接続する	. 123
第5章	キャッシング	. 125
	ポイントキャッシング	. 125
	キャッシュを作成する	. 126
	ノードキャッシュを削除する	. 127
		. 12/
第6章	テクニカル API	. 129
	Mava マッスルのコマンド	. 129
	cMuscleBindSticky	. 129
	cMuscleCache	. 131
	cMuscleCompIndex	. 131
	cMuscleQuery	. 132

/uscleRayIntersect	33
<i>A</i> uscleRelaxSetup	34
AuscleSplineBind	34
AuscleWeight	35
Auscle Weight Default	37
AuscleWeightMirror	±0 4 1
$\begin{array}{llllllllllllllllllllllllllllllllllll$	±1 44
	11
ッスル メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
$\neg \nabla \nabla$	45
マッスル > マッスル/ボーン > マッスル クリエイタ(Muscle >	
Muscles/Bones > Muscle Creator)	45
マッスル > マッスル/ボーン > サーフェスをマッスル/ボーンに変	
換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to	
Muscle/Bone)	45
マッスル > マッスル/ボーン > カプセルの作成(Muscle >	
Muscles/Bones > Make Capsule)	46
マッスル > マッスル/ボーン > 終点ロケータ付きのカプセルを作	
成(Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule with End	
Locator)	46
マッスル > マッスル/ボーン > 終点ロケータをカプセルに追加	
(Muscle > Muscles/Bones > Add End Locator to	
Capsule) $\ldots \ldots \ldots$	46
マッスル > マッスル/ボーン > カプセルからポリゴン シリンダを	
生成(Muscle > Muscles/Bones > Generate Polygon Cylinders	
from Capsules)	1 6
マッスル > マッスル/ボーン > マッスル ジグル キャッシュの削除	
(Muscle > Muscles/Bones > Delete Muscle Jiggle	
Cache)	ł7
マッスル > マッスル/ボーン > 無効なマッスル オブジェクト ノー	
ドの修正(Muscle > Muscles/Bones > Fix Invalid Muscle Object	
nodes)	47
マッスル > マッスル/ボーン > マスター マッスル コントロールの	
設定(Muscle > Muscles/Bones > Setup Master Muscle	
Control)	47
ッスル > シンプルマッスル (Muscle > Simple Muscles)	48
マッスル > シンプル マッスル > マッスル ビルダ(Muscle >	
Simple Muscles > Muscle Builder)	48
マッスル > シンプル マッスル > マッスル パラメータの設定	
(Muscle > Simple Muscles > Set Muscle Parameters) 14	48

第7章

マッスル > シンプル マッスル > マッスル スプライン デフォーマ
を適用(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Spline
Deformer)
マッスル > シンプル マッスル > カスタム マッスル シェイプ
(Muscle > Simple Muscles > Custom Muscle Shapes) 148
マッスル > シンプル マッスル > マッスル スプライン デフォーマ
のベース ポーズをリセット(Muscle > Simple Muscles > Reset
Base Pose for Muscle Spline Deformer)
マッスル > シンプル マッスル > マッスル伸長デフォーマを適用
(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Stretch
Deformer)
マッスル > スキン セットアップ (Muscle > Skin Setup)
マッスル > スキン セットアップ > マッスル システム スキン デ
フォーマを適用(Muscle > Skin Setup > Apply Muscle System
Skin Deformer)
マッスル > スキン セットアップ > スムース スキンをマッスル シ
ステムに変換(Muscle > Skin Setup > Convert Maya Skin to
Muscle System)
マッスル > スキン セットアップ > マッスル システムのセット
アップ データを再初期化(Muscle > Skin Setup > Re-Initialize
Setup Data on Muscle System)
マッスル > スキン セットアップ > 脂肪をマッスル システムにバ
インド(Muscle > Skin Setup > Bind Fat on Muscle
System)
マッスル > スキン セットアップ > 無効なスティッキー バインド
ポイントの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Invalid
Sticky Bind Points)
マッスル > スキン セットアップ > 削除済みや欠落したマッスル
の自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Deleted/Missing
Muscles)
マッスル > スキン セットアップ > 安全なヒストリの削除(Muscle
> Skin Setup > Safe Delete History)
マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル オブジェク
トを接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle
Objects)
マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル方向を接続
解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle
Directions)
マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル ディスプレ
イスメントを接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all
Muscle Displaces)

マッスル > スキン セットアップ > すべてのスマート コリジョン
を接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Smart
Collides)
マッスル > スキン セットアップ > 相対スティッキー デフォメー
ションの設定(Muscle > Skin Setup > Setup for Relative Sticky
Deformation)
マッスル > スキン セットアップ > 選択したマッスル/ボーンを非
相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles
as Not Relative)
マッスル > スキン セットアップ > 選択したマッスル/ボーンを相
対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles
as Relative)
マッスル > マッスル オブジェクト(Muscle > Muscle Objects)154
マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッスル オブジェ
クトを接続(Muscle > Muscle Objects > Connect selected
Muscle Objects)
マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッスル オブジェ
クトの接続解除(Muscle > Muscle Objects > Disconnect
selected Muscle Objects)
マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッスルオブジェ
クトのベース ポーズをリセット(Muscle > Muscle Objects >
Reset Base Pose for selected Muscle Objects)
マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッスル オブジェ
クトの削除(Muscle > Muscle Objects > Delete selected
Muscle)
マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッスル オブジェ
クトのベースを作成(Muscle > Muscle Objects > Create Base
for selected Muscle Objects
マッスル > マッスル オノンェクト > 選択したマッスル オノンェ
クトに人アイッキーを再ハイント (Muscle > Muscle Objects >
Re-Bind Sticky for selected Muscle Objects/
$\langle y \rangle \langle h \rangle > \langle y \rangle \langle h \rangle \langle h \rangle \langle h \rangle \rangle $ また $\langle h \rangle \langle $
クトの人ナイツナー ハイント距離を視見化(Muscle > Muscle Objects > Visualize Sticky Bind Distance for selected Muscle
(highers) 155
マッスルトマッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle
Weights)
マッスル > ウェイト付け (Muscle > Weighting) 154
マッスル>ウェイト付け>デフォルトウェイトを適用 (Muscle
> Weighting > Apply Default Weights)

マッスル > ウェイト付け > ウェイトのロード/保存(Muscle >
Weighting > Load/Save Weights)
マッスル > ウェイト付け > ウェイトのミラー(Muscle >
Weighting > Mirror Weights)
マッスル > ウェイト付け > ウェイトの転送(Muscle > Weighting
> Transfer Weights)
マッスル > ウェイト付け > ウェイトの削減(Muscle > Weighting
> Prune Weights)
マッスル > 方向(Muscle > Direction)
マッスル > 方向 > マッスル方向の作成(Muscle > Direction >
Make Muscle Direction)
マッスル > 方向 > 選択したマッスル方向を接続(Muscle >
Direction > Connect selected Muscle Directions)
マッスル > 方向 > 選択したマッスル方向を接続解除(Muscle >
Direction > Disconnect selected Muscle Directions) 158
マッスル > ディスプレイスメント (Muscle > Displace)158
マッスル > ディスプレイスメント > マッスル ディスプレイスメ
ントの作成(Muscle > Displace > Create Muscle
Displace)
マッスル > ディスプレイスメント > 選択したマッスル ディスプ
レイスメント ノードを接続(Muscle > Displace > Connect
selected Muscle Displace nodes)
マッスル > ディスプレイスメント > 選択したマッスル ディスプ
レイスメント ノードを接続解除(Muscle > Displace >
Disconnect selected Muscle Displace nodes)
マッスル > ディスプレイスメント > NURBS カーブをマッスル
ディスプレイスメントに接続(Muscle > Displace > Connect
NURBS Curve to Muscle Displace)
マッスル > ディスプレイスメント > NURBS カーブをマッスル
ディスプレイスメントから接続解除(Muscle > Displace >
Disconnect NURBS Curve from Muscle Displace) 159
マッスル > ディスプレイスメント > Maya マッスル シェーダ ネッ
トワークの作成(Muscle > Displace > Create Maya Muscle
Shader Network)
マッスル > ディスプレイスメント > Mental Ray
mib_cMuscleShader ネットワークの作成(Muscle > Displace
> Create Mental Ray mib_cMuscleShader Network) 160
マッスル > スマート コリジョン (Muscle > Smart Collision) 160
マッスル > スマート コリジョン > マッスル スマート コリジョン
の作成(Muscle > Smart Collision > Create Muscle Smart
Collide)

マッスル > スマート コリジョン > 選択したマッスル スマート コ
リジョン ノードを接続(Muscle > Smart Collision > Connect
selected Muscle Smart Collide nodes)
マッスル > スマート コリジョン > 選択したマッスル スマート コ
リジョン ノードを接続解除(Muscle > Smart Collision >
Disconnect selected Muscle Smart Collide nodes)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン(Muscle > Self/Multi
Collision)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > セルフ コリジョンのグ
ループ化(Muscle > Self/Multi Collision > Self Collision
Grouping)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスル マルチ コリジョ
ン デフォーマを適用(Muscle > Self/Multi Collision > Apply
Muscle Multi Collide Deformer)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > KeepOut に選択項目をリ
グ設定(Muscle > Self/Multi Collision > Rig selection for
KeepOut)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスルを KeepOut に
接続(Muscle > Self/Multi Collision > Connect Muscles to
KeepOut)
マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスルを KeepOut か
ら接続解除(Muscle > Self/Multi Collision > Disconnect
Muscles from KeepOut)
マッスル > キャッシング (Muscle > Caching)
マッスル > キャッシング > ファイル キャッシュの場所を設定
(Muscle > Caching > Set Location of Cache File)
マッスル > キャッシング > キャッシュの作成(Muscle > Caching
> Create Cache)
マッスル > キャッシング > ノード キャッシュの削除(Muscle >
Caching > Delete Node Cache)
マッスル > キャッシング > ポイント単位のスキン ジグル キャッ
シュを削除(Muscle > Caching > Delete Per-Point Skin Jiggle
Cache)
マッスル > 選択項目(Muscle > Selection)
マッスル > 選択項目 > 選択した muscleSystem に接続された
muscleObject を選択(Muscle > Selection > Select connected
muscleObjects from selected muscleSystems)
マッスル > 選択項目 > 選択した muscleSystem に接続された
muscleDirection を選択(Muscle > Selection > Select
connected muscleDirections from selected
muscleSystems)

	マッスル > 選択項目 > 選択した muscleObject に接続された muscleSystem を選択(Muscle > Selection > Select connected
	muscleSystems from selected muscleObjects)
	マッスル > 選択項目 > muscleDirection に接続された
	muscleSystems を選択(Muscle > Selection > Select connected
	muscleSystems from muscleDirections)
	マッスル > ボーナス リギング(Muscle > Bonus Rigging)166
	マッスル > ボーナス リギング > マッスル スプラインの作成
	(Muscle > Bonus Rigging > Create Muscle Spline)166 マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチ(Muscle >
	Bonus Rigging > Surface Attach)
	マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチを固定して
	ポリゴンのスムースを可能にする(Muscle > Bonus Rigging >
	Fix Surface Attach to allow for Poly Smooth)
第8章	マッスルのウィンドウとツール
	マッスル ビルダ(Muscle Builder)ウィンドウ
	マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウ
	スティッキー バインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)
	ウィンドウ
	マッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンドウ
	デフォルト ウェイト(Default Weights)ウィンドウ
	ウェイトの保存(Save Weights)ウィンドウ
	セルフ コリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィンド
	<u>ウ</u>
	マッスル スプライン(Muscle Spline)ウィンドウ
	マッスル スプライン デフォーマ(Muscle Spline Deformer)ウィンド
	ウ
	マッスル スプライン デフォーマ(Muscle Spline Deformer Shape)
	ウィンドウ193
第9章	マッスル ノード
	マッスル ノード
	cMuscleCreator $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleDirection $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleDisplace $/-k$
	cMuscleDisplay $/-F$
	$cMuscleKeepOut / - F \dots 203$
	cMuscleMultiCollide / - F
	cMuscleObject \nearrow \checkmark \checkmark \checkmark \checkmark \checkmark \checkmark \checkmark \sim

	cMuscleRelative $\mathcal{I} = \mathcal{F}$
	cMuscleShader $/-k$
	cMuscleSmartCollide $/- F$
	cMuscleSmartConstraint $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleSpline $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleSplineDeformer $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleStretch $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleSurfAttach $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
	cMuscleSystem $\mathcal{I} - \mathcal{F}$
第 10 章	Maya マッスルの高度なテクニック..............233
	シンプルマッスルのリギング 23
	其礎知識 233
	上ッスンの進備 23
	レッスン 1: 基本的なスキン デフォメーションの設定 23
	b_{y} z_{y} z_{z
	レッスン 3·シンプル マッスルの設定 2.5
	レッスン 4. スティッキー ウェイトをシンプル マッスルにペイン
	トする
	レッスン 5: スライド デフォメーションの設定
	レッスン 6: ジグル デフォメーションの設定
	マッスルのリギング
	基礎知識
	レッスンの準備
	レッスン 1: マッスル オブジェクトを作成して設定する279
	レッスン 2: マッスルのポーズ状態を設定する
	レッスン 3: マッスル シェイプを編集する
	レッスン 4: マッスルの長さの調整
	レッスン 5: マッスルのスカルプト
	レッスン 6: マッスルのミラーリング
第 11 章	マッスルのトラブルシューティング...........299
	カプセルのトラブルシューティング 200
	マッスルのトラブルシューティング 290
	マッスル ウェイトのペイントに関するトラブルシューティング 300
	変形に関するトラブルシューティング
	玄引

Mayaマッスルの基礎知識

概要

Maya マッスルは、マッスル オブジェクトを基礎に持つキャラクタのリグを設定 し、リアルなスキンデフォメーションを可能にするスキンデフォーマです。さら に独立したディスプレイスメント(Displacement)、フォース(Force)、ジグ ル(Jiggle)、リラックス(Relax)、スムース(Smooth)、コリジョン (Collision)の各機能を使用して、ほかのデフォメーション エフェクトを作成で きます。Maya のすべての NURBS サーフェスはマッスル オブジェクト シェイプ ノードを含むように変換することができ、Maya マッスルのスキン デフォーマに 接続できます。

キャラクタ リギングでは、キャラクタのスケルトンをベースにマッスルを構築で きるので、スケルトンが動くとマッスルが収縮し、さらにマッスルの収縮によっ てスキンのサーフェスが動くようになります。

マッスルは、肌と相互作用する筋肉の物理特性を正確にシミュレートする、特殊 なインフルエンスオブジェクトと言えます。Maya Muscle ではウェイトをポイン ト単位でペイントできるので、スティッキー(Sticky)、スライド(Sliding)、 リラックス(Relax)、ジグル (Jiggle) などのマッスルのアトリビュートの、ス キンへの作用を詳細に定義することができます。

本項では、Maya マッスルを使ってスキン デフォメーション作成するためのキャ ラクタリグとその他のデフォメーションエフェクトの設定方法について紹介しま す。

関連項目

■ Maya マッスルを作成する (7 ページ)

- スキン デフォメーション (55 ページ)
- ポイントキャッシング (125 ページ)
- コリジョン (111 ページ)

Maya マッスルをロードする

Maya マッスルは自動的にロードされます。手動でロードする場合は、次の手順 に従ってください。

Maya マッスルをロードするには

- 1 Maya を起動します。
- ウィンドウ > 設定/プリファレンス > プラグイン マネージャ(Window > Settings/Preferences > Plug-in Manager)を選択します。プラグイン マネージャ(Plug-in Manager)が開きます。
- 3 MayaMuscle を見つけ、ロード(Loaded)をオンにします。Muscle モ ジュールがロードされ、メインのメニューセットにマッスル(Muscle)メ ニューが追加されます。

Maya を起動する度にマッスルを自動的にロードする場合は、自動ロード (Auto load)をオンにします。

4 閉じる (Close) をクリックします。

Maya マッスルの各機能は、メイン メニュー バーのマッスル (Muscle) メ ニュー、またはマッスル シェルフからアクセスできます。

マッスルのワークフロー

Maya マッスルでスキンデフォメーションのセットアップを行うためのオプションがあります。

Mayaのスキンクラスタ(skinClusters)をすでに使用している場合は、既存のスキンクラスタを変換して Maya マッスルを使用できるようにするか(Maya スキンを Maya マッスルに変換する(71ページ)参照)、相対スティッキーモードを使用して既存のスキンクラスタ上にマッスルデフォーマを使

用すると(相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)参照)、リグを 転送または再作成する必要はありません。

- Maya のすべての NURBS サーフェスはマッスル オブジェクト シェイプノー ドを含むように変換することができ、Maya マッスルのスキン デフォーマに 接続できます。詳細については、NURBS をマッスル オブジェクトに手動で 変換する (19 ページ)を参照してください。
- Maya マッスルを使用してキャラクタに一からリグを設定する場合は、まず スキン メッシュとジョイントやボーン オブジェクトの間に基礎的なスキン デフォメーションを設定します。 ボーンやマッスルの作成とそれらのウェイト付けから始めることも可能です が、ジョイント/ボーン/カプセルのリギングは、より一般的な手順を踏むこ とをお勧めします。まずリグ全体に正しいウェイト付けやトランジションを 設定することで、次にマッスルにウェイトを作成、追加する際に、必要に応 じて各ジョイントから転写することができます。

このワークフローの詳細は次の手順で説明します。

手順1: リグに基礎的なスキン デフォメーションを設定する

リグに基礎的なスキン デフォメーションを設定するには

- ジョイントやボーンを含むポリゴンスキンメッシュがあるリグをロードします。
- ジョイントまたはボーン オブジェクトをカプセルに変換します。詳細については、Maya ジョイントをカプセルに変換する (17 ページ)を参照してください。
- 3 スキン メッシュにマッスル デフォーマを適用します。詳細については、 マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)を参照してください。
- 4 ボーンまたはジョイントオブジェクトをスキンメッシュに接続します。詳細については、マッスルオブジェクトをマッスルデフォーマに接続する(74ページ)を参照してください。
- 5 リグにデフォルト ウェイトを適用します。詳細については、デフォルト ウェイトを適用する (98 ページ)を参照してください。

注: シーンビューがシェーディングモードになっていることを確認します。

6 ウェイトをペイントすることで、デフォルト ウェイトを洗練させます。詳細については、マッスルウェイトをペイントする (100ページ)を参照してください。 これでジョイントまたはボーンによる基礎的なスキンのセットアップがで

手順2: リグにマッスル デフォメーションを設定する

きあがりました。マッスルの作成に移ります。

マッスル デフォメーションとスキン デフォメーションでリグを設定するには

- 1 メッシュへのジョイント/ボーン/カプセルオブジェクトに基礎的なウェイトがペイントされているリグをロードします(詳細については、手順1:リグに基礎的なスキンデフォメーションを設定する(3ページ)を参照してください)。
- 2 使用するマッスルの種類を選択し(マッスルのタイプ (8 ページ)参照)、 マッスルを作成します。
 - マッスルを作成するには、マッスルクリエイタを使用してマッスルを作 成する (22 ページ)を参照してください。
 - シンプルマッスルを作成するには、マッスルビルダ(Muscle Builder) を使用してシンプルマッスルを作成する (31ページ)を参照してください。

注: 既存の NURBS サーフェスを変換することで、マッスルを作成する ことも可能です。詳細については、NURBS をマッスル オブジェクトに 手動で変換する (19 ページ)を参照してください。

- **3** マッスルの場合は、収縮と伸長のポーズを設定します。詳細については、 マッスルのポーズ状態を設定する (25 ページ)を参照してください。
- 4 マッスルを目的の形状にスカルプトします。
 - マッスルについては、マッスルをスカルプトする (26 ページ)を参照してください。
 - シンプルマッスルについては、シンプルマッスルのシェイプを変更する (34ページ)を参照してください。

- 5 マッスルをマッスル スキン デフォーマに接続します。詳細については、 マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する (74 ページ)を参 照してください。
- 6 マッスルにデフォルトウェイトを適用します。詳細については、デフォルトウェイトを適用する (98ページ)を参照してください。
- 7 マッスル ウェイトをペイントすることで、ウェイトを洗練させます。詳細 については、マッスルウェイトをペイントする (100ページ)を参照してくだ さい。

ヒント: マッスルのウェイトをペイントする場合は、マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウのインフルエンス リストにあるジョイントま たはボーンオブジェクトを右クリックし、ウェイトのロック/保持を有効化 します。領域から次の領域への減衰が、リグ全体を通じて一定であるよう に設定するには、ボーンとマッスルをそれぞれ 1 つずつロック解除し、そ のマッスルにウェイトを追加します。詳細については、マッスル ペイント (Muscle Paint) ウィンドウ (182 ページ)を参照してください。

手順3:キャッシュを作成して高速再生する

マッスルのウェイト付けを終えたら、ノードやファイル キャッシュを作成する ことで、アニメーション再生をより簡単に行い、ライティングやレンダリングを より素早く行えます。詳細については、キャッシュを作成する (126 ページ)を参 照してください。

注: Maya のジオメトリ キャッシュの機能を使用してキャッシュを作成すること もできます。詳細については、「ジオメトリのキャッシュの概要」を参照してく ださい。

マッスルを作成する

2

Maya マッスルを作成する

本マニュアルでは、Maya[®] マッスル スキン デフォーマで扱うオブジェクトの作 成とセットアップについて説明します。カプセルの作成、ジョイントからカプセ ル、ポリゴン メッシュからボーンへの変換の方法について表示します。マッスル の作成プロセスについても説明します。

関連項目

■ マッスルのワークフロー (2 ページ)

マッスル オブジェクト

カプセル

カプセルは、Mayaマッスルスキンデフォーマに接続できるマッスルのプリミティ ブオブジェクトです。カプセルは、下位に特殊なシェイプノードを持つ Mayaの 基本のトランスフォーム グループで、ポリゴンや NURBS オブジェクトをスキン で接続するマッスル オブジェクトに変換するのに使用します。

カプセルは、シェイプやボリュームがある点を除いては Maya ジョイントに似て おり、スライドエフェクトに使用できます。スキンにスティッキー付けされると、 カプセルを移動、回転、スケールするとき、カプセルによってスキンが変形され ます。これは、Maya skinClusters に似ています。ウェイトをスライドすると、カ プセルがシェイプに基づいてスキン ジオメトリを押し出します。カプセルを不均 ーにスケールしてダイナミックなシェイプを作成することができます。 カプセルを一から作成することも既存のジョイントをカプセルに変換することも できます。

ポリゴン ボーン

スキンを変形するボーンとしてポリゴンメッシュを使用できるようにするには、 マッスルオブジェクトシェイプノードを追加する必要があります。カプセルの 代わりにポリゴンメッシュをボーンオブジェクトとして使用することの利点は、 スライドエフェクトでデフォーマがポリゴンメッシュのリアルシェイプを使用 することだけです。ポリゴンメッシュにとってのスティッキー ウェイトは、カ プセルとボーンの場合と同じで、サーフェスの変形には基づきません。

関連項目

- カプセルを作成する (13 ページ)
- Maya ジョイントをカプセルに変換する (17 ページ)
- ポリゴンメッシュをボーンに変換する (18 ページ)

マッスルのタイプ

Maya の NURBS サーフェスはいずれも、マッスル オブジェクト シェイプ ノー ドを持つように変換することができるため、マッスル デフォーマに接続できま す。また、次の 2 種類のマッスルを作成できる 2 つのツールがあります。

- マッスル (8 ページ)
- シンプルマッスル (11ページ)

この2種類のマッスルの主な違いは、シンプルマッスルが特殊なスプラインや スプラインデフォーマ(ベンド時に使用)を持つ通常の NURBS モデルを使用 する一方、新しいマッスルは変形/ポーズ設定が可能なパラメトリックスタイル の NURBS シェイプであることです。

マッスル

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウを使用すると、リギング、 成形/スカルプト、変形が可能な新しい、より強力なマッスルを構築できます。 これらのマッスルには、アタッチ位置1つに対して2つの終点が含まれるため、 「フラットな」マッスルの作成や方向付けをより簡単に行うことができます。ま た、マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウを使用すると、マッス ルをサーフェスの外側まで大きくすることができます。新しいリグには、こちら のマッスルを使用することをお勧めします。

この新しいタイプのマッスルを使用すると、次のようないくつかの利点がありま す。

- 解像度を調整できる
- セットアップ後にマッスルをミラーできる
- リギングが簡単にできる(開始と終了のロケータやカーブを制約なく自由に ペアレント化できます)
- 各状態のマッスルの断面やアタッチポイントを分離し、カスタムマッスルの成形を行わずに、収縮、伸長、レストに必要なシェイプやポーズを作成できる
- マッスルの長さだけでなく、回転/移動におけるポーズの状態をベースにする ことができる
- マッスルの1点でコントロールセクションを引き出しまたは移動すると、
 マッスルスプラインデフォーマでそのままローカライズされるのではなく、
 サーフェスがマッスルのスプラインを通って正しくスライドされ、より「正しい」変形が行われる

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)を使用した高度な操作

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) を使用して構築したマッスルは、リギ ングをすばやく簡単に行えるようにデザインされていますが、より高度なリギン グを行うために拡張することもできます。たとえば、マッスルのアタッチロケー タや開始/終了カーブを再ペアレント化すると、リグの別の部分にマッスルを再 ペアレント化できます。また、アタッチ コントロール カーブを設定してそのま まにしておくこともできます。

アタッチ カーブへの「リグの設定」または調整が可能です。たとえば、マッス ル KeepOut ノードを使用してマッスルコントロールのリグや、ノードをアタッ チしてスライドしカプセルとあるいは互いを衝突させることができます(詳細に ついては、KeepOut ノードを使用したコリジョンのトランスフォーム (116 ペー ジ)を参照してください)。マッスルのグループは、マッスルマルチコリジョン デフォーマで変形し、マッスル同士で衝突させてからスキニングに影響を与える こともできます(詳細については、マルチオブジェクトコリジョン (115 ページ) を参照してください)。 アタッチ カーブは他の方法で再ペアレント化、コンストレイン、リグの設定を 行うこともできます。断面カーブをブレンド シェイプ ターゲットを使用して変 形すると、アニメータはさまざまな状況でマッスルのシェイプを詳細にコント ロールできます。

Mayaマッスルを使用すると、マッスルのリギングを高度にコントロールできま すが、標準の Maya アーティキュレーション テクニックを使用した細かいカス タマイズも可能です。

マッスル コンポーネント

マッスルを構成する主要コンポーネントは次の4つです。

- アタッチポイント:マッスルの両端それぞれに2つのアタッチポイントが存在する上に、各断面/コントロールには、長さに沿った独自の赤い「アタッチ」コントロールが付きます。この赤いコントロールは「リギング」コントロールです。これらのコントロールは、マッスルをアタッチするオブジェクトにペアレント化できます。デフォルトでは、マッスルクリエイタ(Muscle Creator)が半分をペアレント化し、後の半分をマッスルの作成時に選択するアタッチジョイントにペアレント化します。 コントロール単位で、レスト状態、収縮状態、伸長状態用に1つずつ、3つのアタッチポイントがあります。マッスルの長さやカーブを調整できるため、各状態で異なって見えます。これらの各アタッチポイントはマッスルクリエイタ(Muscle Creator)によって自動的にデフォルトの位置にドリブンされます。さまざまな状態を調整することにより、ジョイント周りで引き出されているマッスルのようなエフェクトをシミュレートできます。赤い「アタッチ」コントロールは設定/コンストレインできますが、通常は自動的にドリブンされるため必要ありません。
- 断面:モデルはシェイプをドライブする NURBS サークル断面によって作成されます。レスト/デフォルト、収縮、伸長用に1つずつ、3つのセットあります。
- コントロール:各断面に、マッスルを時間とともにコントロールするための 黄色いコントロールキューブがあります。これらは、「アニメータ」コント ロールと考えることができます。これらのコントロールは、赤い「アタッチ」 コントロールの子として自動的に移動します。通常はコントロールを使用し てマッスルスプラインをアニメートする必要はありませんが、各コントロー ルにはマッスル各部でのジグル量を調整するための設定が用意されています。

 MuscleCreator ノードアトリビュート:残りのコントロールの大部分は MuscleCreator ノードで使用できます。マッスルの解像度、ポーズ情報、そ の他のオプションはここで設定できます。詳細については、cMuscleCreator ノード (195 ページ)を参照してください。

シンプル マッスル

オリジナルの**マッスル ビルダ(Muscle Builder**)ウィンドウを使用すると、基 本的なマッスル スプライン マッスルが作成されます。本マニュアルでは、これ らの旧式のマッスル スプライン ベース タイプのマッスルは「シンプル マッス ル」と呼ばれます。

関連項目

- マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する (22 ページ)
- マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウ (177 ページ)
- マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)

その他のマッスル デフォメーション

マッスルオブジェクトノードを持つ任意のNURBS シェイプを使用すると、マッ スルスキンデフォーマでスキンを作成できます。一般的に、マッスルクリエイ タ (Muscle Creator) またはマッスルビルダ (Muscle Builder) ウィンドウを 使用してマッスルの作成やセットアップを行いますが、通常の Maya ツールの いずれかを使用して手動でマッスルを変形することもできます。さらに、Maya マッスル独自のデフォーマのいずれかを任意のオブジェクトで設定することもで きます。

たとえば、マッスルを使用しない予定であっても、ポリゴン メッシュなどの任 意のオブジェクトにマッスル スプライン デフォーマを適用し、スプラインまた はジグルでオブジェクトを変形できます。スプライン デフォーマを使用し、脊 椎やアンテナのような物のカーブに沿ってジョイントのリグを作成することもで きます。

関連項目

- マッスル スプライン デフォーマを作成する (40 ページ)
- マッスル伸長デフォーマを作成する (50 ページ)

マッスル ジグルについて

本セクションでは、マッスルの**ジグル(Jiggle**)設定について説明します。ここ に挙げる例は、マッスル スプライン ベースのマッスルのような他のマッスル タ イプにも適用できます。

マッスルのコントロールを選択すると、ジグルのさまざまなアトリビュートが表示されます。通常は、ジグル(Jiggle)、サイクル(Cycle)、レスト(Rest)アトリビュートです。また、Mayaマッスルには、X、Y、Zの個別の値とインパクト(Impact)などさらに多数のオプションがあります。

ジグル(Jiggle) コントロールにおけるジグルの基本乗数です。0 に設定する とジグルは発生しません。値を大きくすると、マッスルの移動時に発生するジグ ルの量がより強く、極端になります。

ジグル X/Y/Z(JiggleX/Y/Z) ジグル値の乗数です。これらの値は、コントロールスペースに関連します。マッスルクリエイタのマッスルは常に長辺方向に沿ったY軸ポイントのようなコントロールを持ちます。この場合、X 値とZ 値によってマッスルのプレーンでのモーションが強くなったり弱くなったりし、Y 値によって長辺方向に沿ったジグルの量が変わります。マッスルが長辺方向に沿って内破またはスライドし過ぎないようにするため、デフォルト値は X 値と Y 値よりも小さく設定されています。

ジグルインパクト(Jiggle Impact) マッスルが静から動、または動から静に急速に変化する際に発生するジグル。事実上、モーションに大きな変化が起きると、ジグルインパクト開始(Jiggle Impact Start)アトリビュートによって強度やその変化によるエフェクトの量が設定されます。このモーションは、マッスルの軸を中心とした回転移動として適用されます(X-Zプレーンでのジグルのみ)。

ジグル インパクト開始 (Jiggle Impact Start) /ジグル インパクト中止 (Jiggle Impact Stop) 適用されるインパクト モーションを起こすために必要なフォー スの大きさを設定します。通常は、マッスルが動きを停止するとき (大きな生物 が歩行サイクルで足を止める場合など) にジグルを発生させますが、動きを再開 するときはそれ程必要ありません。このため、ジグル インパクト開始 (Jiggle Impact Start) 値は 1000 などの大きな数値にし、マッスルのフォースが 1 フ レームに 1000 単位以上変化しない限りトリガされないようにします。ジグル インパクト中止 (Jiggle Impact Stop) のデフォルトは、マッスルのフォースが フォース/動きのある値から 0.001 単位小さい値になるまでインパクト ジグルが トリガされないことを意味します。 ジグル インパクト(Jiggle Impact)のエフェクトを確認する最適な方法は、ジ グルの法線の X/Y/Z の値を 0 に設定してから、マッスルの移動と急停止をアニ メートし、そのジグル インパクト(Jiggle Impact)設定で再生することです。

サイクル(Cycle) マッスルが前後にバウンスするときのフレーム数。たとえば、値12はマッスルが12フレームの間、前後にジグルすることを意味します。 値を小さくするとマッスルの折り返しが早くなり、大きくするとマッスルが重く 動作がゆっくりになるように見えます。

レスト(Rest) フォースの作用が停止した後、マッスルがレスト状態になるま でのフレーム数。この値を大きくすると、マッスルが動きを停止するまでの時間 が長くなります。

カプセルを作成する

基本のカプセル オブジェクトを作成するには

▶ メインメニューバーからマッスル > マッスル/ボーン > カプセルの作成 (Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule)を選択します。

基本のカプセルが作成されます。現在選択されているため、ここでは緑色 にハイライトされています。



終点ロケータ付きのカプセルも作成できます。このロケータにより、カプセル オブジェクトの長さが自動的にドライブされます。これは、カプセルを筋肉のよ うに大きくする/伸ばす必要がある場合にスライドさせるときに役立ちます。

終点ロケータ付きのカプセルを作成するには

 メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>終点ロケータ付きのカプセルを作成(Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule with End Locator)を選択します。
 約点ロケークはきのカプセル・オブジークトが作成されます。

終点ロケータ付きのカプセル オブジェクトが作成されます。

2 カプセルまたはロケータを移動すると、カプセルの長さが自動的にロケータに合わせて成長します。ロケータを回転すると、カプセルのスピンがコントロールされます。ロケータを移動すると、カプセルの長さが長くなります。カプセルはスケールできますが、ロケータをスケールしても影響はありません。



ヒント: 終点ロケータのないカプセル オブジェクトを作成した後、終点ロ ケータを追加する場合は、カプセルオブジェクトを選択してメインメニュー バーからマッスル > マッスル/ボーン > 終点ロケータをカプセルに追加 (Muscle > Muscles/Bones > Add End Locator to Capsule)を選択しま す。

関連項目

■ カプセル (7 ページ)

カプセルの設定を調整する

マッスルオブジェクトノードのさまざまなカプセルアトリビュートを調整できます。カプセルに特有の設定(半径(Radius)や長さ(Length)など)もいくつか存在しますが、その他の設定(強さ(Strength)や脂肪(Fat)など)もポリゴンボーンやNURBSマッスルのマッスルオブジェクトシェイプノードに表示されます。これらの設定の詳細については、cMuscleObjectノード(205ページ)を参照してください。

マッスルオブジェクトの設定には次の3ヶ所からアクセスして変更できます。

- チャンネルボックス(Channel Box):オブジェクトを選択してからチャン ネルボックスのシェイプ(SHAPES)セクションにある適切なマッスルオブ ジェクトシェイプを選択します。
- アトリビュートエディタ(Attribute Editor):オブジェクトを選択してから アトリビュートエディタを開き、適切なマッスルオブジェクトシェイプを 選択します。
- マッスルパラメータ (Muscle Parameters) タブ: マッスル > シンプル マッ スル > マッスル パラメータの設定 (Muscle > Simple Muscles > Set Muscle Parameters) を選択します。

マッスルビルダ(Muscle Builder) ウィンドウが開き、マッスルパラメータ (Muscle Parameters) タブが表示されます。このタブでは、マッスルオブ ジェクト シェイプ ノード アトリビュートの任意のカプセル、ボーン、マッ スル設定だけでなく、マッスルのデフォーマや設定もコントロールできます。

カプセルからポリゴン シリンダを作成する

カプセルを直接レンダリングすることはできませんが、変換プロセスを使用して カプセル/ジョイントを表示またはレンダリングし、カプセルからシンプルポリ ゴン シリンダを生成することはできます。

1 ポリゴンを作成するカプセルオブジェクトを選択します。



2 メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>カプセルからポリ ゴンシリンダを生成(Muscle > Muscles/Bones > Generate Polygon Cylinders from Capsules)を選択します。

サイズとマテリアルカラーが同じ新しいポリゴンシリンダが作成され、各 カプセルに自動的にペアレント化されます。これらはレンダリング可能で す。



Maya ジョイントをカプセルに変換する

Maya ジョイントはすべてカプセルに変換できます。ジョイントにペアレント化 される個別のカプセル オブジェクトを作成する必要がないため、便利です。代 わりに、ジョイント自体がマッスル オブジェクト シェイプを取得してマッスル スキン デフォーマへの直接接続が可能です。

ジョイントをカプセルに変換するには

1 ジョイントをいくつか Maya シーンに作成またはロードします。

必須ではありませんが、ローカル軸のいずれかが明確にジョイントチェー ンの長辺方向を指すようにジョイント軸をアラインします。デフォルトは、 X です。任意の自由なジョイントの方向ツールを使用してジョイントを前 述のようにアラインすることができます。あるいは、ジョイント ツール (Joint Tool) 設定を使用して方向 (Orientation) を yzx に設定し 2 番目 のワールド軸方向 (Second axis world orientation) を +y に設定します。 いずれにしても、ジョイントの長辺方向になっている軸を把握しておく必 要があります。



- 2 カプセルに変換するジョイントを選択します。
- 3 メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>サーフェスをマッ スル/ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)を選択します。
- 4 表示されるウィンドウでジョイントの長辺方向に使用する軸を選択します。



オブジェクトがカプセルシェイプを持つように変換されます。カプセルに 色を付け、その他の設定を変更できるようになりました。デフォルトの長 さと半径は、初めのジョイントの位置に基づいて設定されます。



注: Maya の制限により、変換されたジョイントのマッスル オブジェクト パラメータはチャンネル ボックスとマッスル パラメータ (Muscle Parameters) タブでしか設定できません。アトリビュート エディタ (Attribute Editor) は、最初に直接マッスル オブジェクト シェイプ ノー ドを手動で選択する場合のみ機能します。

関連項目

■ カプセル (7 ページ)

ポリゴン メッシュをボーンに変換する

ポリゴン ボーンを設定するサンプル ワークフローを次に示します。

- ポリゴンオブジェクトを作成または選択します(たとえば、作成>ポリゴンプリミティブ(Create > Polygon Primitives) > トーラス(Torus)を 選択します)。
- メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>サーフェスをマッ スル/ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)を選択します。
 オブジェクトにマッスルオブジェクトシェイプノードが追加されます。

デフォルトでは、描画(Draw)はオフ(off)に設定されています。描画 (Draw)が脂肪(fat)に設定されている場合は、ポリゴンオブジェクト からのオフセットが生じ、スキンにスライドエフェクトが表示されます。 以下のイメージは描画(Draw)を脂肪(fat)に設定してハイライト (Highlight)をオフ(off)に設定したポリゴントーラスで、マッスルオ ブジェクトシェイプは白色で描画されています。



注: ポリゴン メッシュ オブジェクトの場合、マッスル オブジェクト アト リビュートの半径(radius)、長さ(length)、セグメント数(nSeg)、 サイド数(nSides) は必要ないため使用できません。

NURBS をマッスル オブジェクトに手動で変換 する

NURBS サーフェスを変換してマッスル オブジェクト シェイプ ノードを付加す ると、NURBS サーフェスをマッスルデフォーマに接続できるようになります。 NURBS サーフェスは自由に変形できます。通常は Maya マッスル独自のデフォー マのいずれかを使用して実行しますが、その他の Maya ツールを使用しても変 形できます。既存の NURBS ベースのマッスル モデルを変換したり、ユーザ独 自のツールを使用してマッスルを変形する方法です。

NURBS サーフェスをマッスル互換のサーフェスに変換するには

1 変換する NURBS サーフェスを選択します。

 メイン メニュー バーからマッスル > マッスル/ボーン > サーフェスをマッ スル/ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)を選択します。

オブジェクトが変換されてマッスルオブジェクトシェイプを持つようにな ります。このシェイプには、基本の描画オプションだけでなく、マッスル とスキン デフォーマの相互作用を定義する基本設定が用意されています。

カプセルやボーンと同様に、チャンネルボックス、アトリビュートエディ タ(Attribute Editor)、マッスルνビルダ(Muscle Builder)ウィンドウの マッスルパラメータ(Muscle Parameters)タブからマッスルオブジェク ト設定にアクセスできます。

マッスルのアタッチ ポイントを設定する

Maya マッスル プラグインでは、NURBS またはポリゴン メッシュ オブジェク トを変形する場合でも、それらのサーフェスにアタッチされるロケータを簡単に 生成できます。これにより、移動時にもメッシュのサーフェス ポイントに常に 存在する通常オブジェクトが生成されます。マッスル コントロールをペアレン ト化する場合、またはマッスル クリエイタ(Muscle Creator)やマッスル ビル ダ (Muscle Builder) ウィンドウでアタッチ オブジェクトを指定する場合、こ れらのオブジェクトを使用できます。

NURBS マッスルまたはオブジェクトのアタッチ ポイントを生成するには

- 1 NURBSオブジェクトまたはマッスルを右クリックし、表示されるマーキン グメニューからサーフェスポイント(Surface Point)を選択します(ポリ ゴンの場合は、サーフェスポイントではなく、ポリゴンフェース(Polygon Faces)を選択します)。
- 2 1つまたは複数のサーフェスポイントを選択し、アタッチポイントとして 使用します(ポリゴンの場合は、ポリゴンフェースか2つの相対するエッ ジを選択します)。

注: 2 つの相対するエッジを選択し、アタッチ ロケータが使用するエッジ を手動で選択することもできます。エッジを 2 つ選択した場合は、その間 にアタッチ ロケータを 1 つ置きます。エッジを 4 つ選択した場合は、選択 順の 2 つのエッジに 1 つずつ、2 つのロケータを置きます。



3 マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチ (Muscle > Bonus Rigging > Surface Attach)を選択します。

マッスル サーフェス アタッチ ノードが作成され、各サーフェス ポイント にカラー コード化されたロケータが配置されます。これらのロケータは、 変形する場合でも、NURBS オブジェクトのサーフェスにアタッチされたま まになります。



4 チャンネルボックスやアトリビュートエディタ(Attribute Editor)のU 位置(u Loc)とV位置(v Loc)のアトリビュートを調整し、オブジェクトのサーフェスにあるロケータのu/vの位置を変更できます。

注: ポリゴンのアタッチ ロケータがフリップしたり対角線上に移動する場合は、ロケータを選択し、チャンネル ボックス(Channel box)でポリゴンフリップの固定(FixPolyFlip)アトリビュートをオンにします。

関連項目

■ cMuscleSurfAttach /- F (224 $\sim - \checkmark$)

マッスルクリエイタを使用してマッスルを作成 する

以下は、マッスルクリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウを使用してマッス ルの構築や作業を行う方法を示すワークフローの概要です。

- マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウを開いてマッスルを作成します。詳細については、マッスルクリエイタウィンドウを開く (23 ページ)とマッスルを作成する (23ページ)を参照してください。
- レスト(Rest)、収縮(Squash)、伸長(Stretch)のマッスルポーズを 設定/格納します。詳細については、マッスルのポーズ状態を設定する(25 ページ)を参照してください。

これを行うには、編集(Edit)タブに切り替え、レスト(Rest)、収縮 (Squash)、伸長(Stretch)状態でマッスルをアタッチする実際のボー ン/ジョイントをベンドしてから、各状態のカレントの状態を設定(Set Current State As)ボタンをクリックします。

- 3 デフォルトの状態/ボーンの位置に戻ります。赤い立方体だけでなく、マッスルの開始/終了位置を調整し、レスト状態のマッスルのデフォルトのスプラインカーブを設定します。
- 4 収縮(Squash)状態に移動します。この場合、赤い四角を移動せずに、その子であるスクエアカーブを移動する以外は、コントロールを再移動できます。マッスルが収縮状態のとき、このカーブが中心線スプラインをコントロールします。
- 5 伸長に関連する伸長カーブを使用して繰り返します。

注: 上記の手順を実行する間ジグルを無効にし、ジグル エフェクトがまったく表示されないようにすることもできます。

これを理解するには、マッスルに中心線が通っていると考えてください。 この線はレスト状態の赤いボックスによって定義されたインプリシットス プラインか、収縮と伸長状態の収縮または伸長カーブです。まず、マッス ルの状態を指定してその状態を保存した後、修正または調整します。状態 の読み取りが正しく機能するには、3つの状態すべてを設定する必要があり ます。

実際に成形する各状態の断面を調整します。すべてが明示されることと、 目的の3つの状態を設定することを除いては、カスタムマッスルの成形に

22 | マッスルを作成する

似ています。断面カーブにブレンド シェイプやリギングを配置することも できます。

関連項目

- マッスル (8 ページ)
- マッスル コンポーネント (10 ページ)

マッスル クリエイタ ウィンドウを開く

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウを起動するには

➤ メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスル クリエイ タ(Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウが表示されます。ウィ ンドウには、作成(Create)と編集(Edit)の2つのメインタブがありま す。

関連項目

- マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する (22 ページ)
- マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウ (177 ページ)

マッスルを作成する

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウで新しい NURBS マッスル を構築します。通常、開始位置と終了位置に 1 つずつ、マッスルをアタッチす る 2 つのオブジェクトが必要です。両端の幅を設定できるように、両端にロケー タ カーブが作成されます。

マッスルを新規作成するには

 メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスル クリエイ タ (Muscle>Muscles/Bones>Muscle Creator)を選択し、マッスル クリ エイタ (Muscle Creator) ウィンドウを開きます。

- 2 マッスルクリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウで以下を実行します。
 - マッスル名 (Muscle Name) フィールドにマッスルのベース名 (MusBiceps など)を入力します。
 - マッスルに設定するコントロールと断面の数、周辺のセグメント数を指 定します。

注: マッスルを一旦作成したら、その数を変更することはできません。

■ 開始オブジェクトを選択して**アタッチ開始**(Attach Start) ばタ ンをクリックし、その後終了オブジェクトを選択して**アタッチ終了**

 マッスルオブジェクトシェイプノードを作成する場合は、cMuscle シェイプノードの作成(Create cMuscle shape node)オプションがオンであることを確認します。

通常、マッスルをマッスル デフォーマに接続できるようにマッスル オブ ジェクト シェイプ ノードが必要です。作成を決定する場合は、(このオプ ションはオフ可)、マッスルを変換してマッスル オブジェクト シェイプを 後で変換してください。

3 マッスルの作成 (Create Muscle) をクリックします。

マッスルが作成されます。アタッチ ポイントの方向によって、マッスルが ツイストされるか、終点を調整する必要があります。

ロケータに似た2つのカーブが両端に表示されます。これらの始点と終点 をシーンビューで調整してマッスルの位置を設定します(シーンビューに 表示されるマッスルの詳細については、マッスルコンポーネント(10ペー ジ)を参照してください)。

マッスルを作成したら、マッスルの基本のモデリングと編集用の編集(Edit) タブ (178 ページ)に切り替えることができます。

関連項目

- マッスル (8 ページ)
- マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する (22 ページ)
■ マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウ (177 ページ)

マッスルを削除する

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウで作成したマッスルを削除 するには

- 1 マッスルクリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウで作成したマッスルを 選択します。
- メインメニューバーからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッ スルオブジェクトの削除(Muscle > Muscle Objects > Delete selected Muscle)を選択します。

マッスルが削除され、必要なくなったノードと接続が適切に削除されます。

警告: マッスルを削除すると、同じマッスル名を再度使用することはできま せん。新しいマッスルには固有の名前を指定する必要があります。

注: マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウで作成したシンプルマッ スルを削除する場合、選択されたマッスルの削除(Delete selected Muscle) メニュー項目を使用することはできません。シンプル マッスルを完全に削 除するには、関連するオブジェクトや接続をすべて手動で削除する必要が あります。

マッスルのポーズ状態を設定する

マッスルへの組み込みには、レスト、収縮、伸長の3つの状態があります。各 状態のマッスルの中央線カーブの表示だけでなく、マッスルをそれぞれの状態に する要因を設定することができます。

ポーズ状態を設定してからマッスルをスカルプトすることをお勧めします。こう すると、現在スカルプトしているポーズが確実に実際の状態になります。

マッスルの状態を設定するには

メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイ
 タ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウが開きます。

- 2 ウィンドウにまだロードしていない場合は、マッスルを選択します。
- 3 編集(Edit) タブをクリックし、ポーズ(Poses) セクションで設定する状態のボタンを押します。

たとえば、デフォルト/レストポーズに移動してレスト(Rest)ボタンをクリッ クしてから、ボーンまたはジョイントを使用してモデルを収縮状態にします。次 に収縮(Squash)ボタンをクリックし、その後同様にして伸長(Stretch)状態 にできます。

これらのボタンを使用してマッスルを3つのすべての状態に設定してからアタッ チ位置やモデルをツィークすることが重要です。内部的には、マッスルクリエ イタ (Muscle Creator) にマッスルの開始アタッチ オブジェクトと終了アタッ チ オブジェクトでの相対的変化が保存されます(「グループ」ノードが作成さ れ、マッスルに存在する開始の親カーブにペアレント化されることが分かりま す)。このデータには、子ボーンの回転や親ボーンに関連した移動の情報が含ま れます。その後、この情報を使用してマッスルをさまざまな状態にします。

また、マッスルの両端にある2つのアタッチロケータを再スカルプトまたは位置を調整して整える場合は幅のリセット(Reset Width)をクリックします。これにより、新しいロケータの距離がマッスルの新しいデフォルトの開始/終了幅にリセットされます。このように自動ワイド化(autoWiden)アトリビュートを使用すると、断面が正しくスケールされます。

これでポーズ状態のデータが格納されるたため、アタッチ(Attach) コントロー ルの中央線の位置を設定できます。つまり、アタッチ(Attach) コントロールの それぞれを調整/移動し、各状態のマッスルの表示を設定できます。たとえば膝 の場合、膝を曲げたときにマッスルがボーンの外側にアタッチしたままで、マッ スルが膝の前面にスライドするように見えるように、マッスルのアタッチ状態を 調整できます。

マッスルをスカルプトする

マッスルを作成した後、断面カーブを編集してマッスルを目的のシェイプにスカ ルプトできます。このため、編集(Edit) タブにはスカルプト セクションがあ ります。

マッスル クリエイタのマッスルには、デフォルトのレスト位置、収縮状態、伸長状態それぞれに1つずつ、編集可能な3つのビルトイン断面カーブ セットが

あります。シーン ビュー、またはマッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィ ンドウを使用してカーブを直接編集できます。

重要: マッスル サーフェス自体ではなく、カーブ断面を編集する必要がありま す。マッスル クリエイタ ノードのアトリビュートを使用するとサーフェスの詳 細を設定できるため、通常はNURBSサーフェスを直接操作する必要はありませ ん。

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウを使用してスカルプトする には

- メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイ
 タ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。
- 2 編集(Edit) タブをクリックしてから、マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウを使用して作成した1つまたは複数のマッスルを選択 します。
- 3 編集(Edit) タブのスカルプト(Sculpting) セクションで編集する断面の 軸を選択します。

断面はフラットであるため、デフォルトは X-Z です。レスト(Rest)、収 縮(Squash)、伸長(Stretch)断面を編集することもできます。たとえ ば、マッスルをよりフラットにするには、X をオンにして Z をオフにする か、その逆を設定します。

ヒント: ウィンドウのスカルプト (Sculpting) セクションは、選択したポイントのみに作用するようにもできます。断面カーブで特定の CV を選択すると、スカルプト (Sculpt) スライダは選択した CV のみに影響します。

- 4 場所(Location)スライダを使用してマッスルの影響を与える部分を選択します(マッスルクリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウの編集(Edit) タブにある設定の詳細については、マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウ(177ページ)を参照してください)。
- 5 スカルプト(Sculpt)スライダを調整し、マッスルのサイズを変更します。 ドラッグすると、調整途中のシェイプを確認できます。

シーンビューで断面を直接選択、編集することもできます。編集(Edit)タブ の下部にあるオプションを使用すると、マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウで選択したマッスルのコントロールまたは断面を選択できます。 **ヒント**: 各セクションを右クリックすると、cMuscleCreator ノードの表示 (Visibility) アトリビュートを設定して項目を簡単に表示/非表示にできます。

ヒント: セレクションリストの上にあるクリエイタ(Creator)ラベルを右クリッ クすると、cMuscleCreator ノードを選択するだけでアトリビュート エディタ (Attribute Editor) やチャンネル ボックス(Channel Box)で値を調整できま す。

関連項目

■ スカルプト (Sculpting) 設定 (178 ページ)

マッスルを成長させる

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウの1つの利点は、ウィンド ウを使用してマッスル シェイプを大きくすることによりマッスル シェイプをス カルプトしやすくできることです。つまり、マッスルを選択し、ポイントを実際 のモデル サーフェスの外へ「成長」させることができます。マッスルのシェイ プを手動で編集する必要がなくなるため、マッスルのモデリング時間を短縮でき ます。

マッスルを成長させるには

- メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイ
 タ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。
- 2 編集(Edit) タブを選択します。
- 3 選択していない場合は、マッスルを選択します。マッスルがマッスルクリ エイタ (Muscle Creator) ウィンドウにロードされます。
- 4 マッスルを成長させるサーフェスを選択します。通常は、スキンメッシュ です。
- 5 成長 (Grow) セクションで、成長させるサーフェス (Grow To Surface)

マッスルの長辺に最も近接して沿っているジョイントやボーンが、リファ レンスとしてウィンドウで設定されている必要があります。

28 | マッスルを作成する

6 メインジョイントを選択し、メインボーン(Main Bone) **「**ボタンを クリックします。

たとえば、回転部内側のマッスルの場合、上腕ジョイントをメインボーン、 肘ジョイントを先端ボーンに選択できます。メインボーンチップ(Main Bone Tip)オブジェクトが自動的に選択されます。うまくいかなかったり、 正しいボーンが見つからない場合は、正しいチップ ボーンを選択し、もう

ボタンを押してそのボーンをチップとしてロードします。

- 7 編集(Edit)タブの成長(Grow)設定でオプションを設定します。オプ ションの詳細については、成長(Grow) 設定 (179 ページ)を参照してくだ さい。たとえば、脂肪(Fat)スライダを使用すると、サーフェスの内側に ある成長させたポイントを維持するようオフセットを設定できます。
- **8 マッスルの成長(Grow Muscle)**をクリックします。何も選択されていな い場合は、レスト(Rest)、収縮(Squash)、伸長(Stretch)の3つの断 面のすべてがマッスルの成長(Grow Muscle) ボタンによって影響を受け ます。

注: 断面の特定ポイントを選択し、選択したポイントの成長(Grow Sel Points)をクリックすると選択したポイントのみを成長させることもでき ます。

デフォルトでは、選択した開始/メインボーンと終了/チップボーンで定義 される中心線から外側へ成長します。成長(Grow) 設定にある角度 (Angle)範囲内のポイントすべてが成長します。

% レスト/収縮/伸長(%Rest/Sq/St)フィールドに設定した値によって、 マッスルの断面が成長させるサーフェス(Grow To Surface)で選択した サーフェスの外側に成長します。%レスト/収縮/伸長の値を100%より大 きくすると、マッスルは成長させるサーフェス(Grow To Surface)で選択 したメッシュのシェイプに基づいて成長しますが、選択したメッシュより も大きくなることがあります。

ヒント: クリーン マッスル シェイプから成長を開始する場合は、シリンダ にリセット(Reset to Cyl)をクリックしてマッスルを完全なシリンダシェ イプにリセットすることができます。

マッスルを成長させると、マッスルの断面ポイントが実際に移動すること に注意してください。マッスルが NURBS サーフェスで断面のポイントが 正確にはサーフェスに存在しないため、脂肪(Fat)値が 0 で 100 % に設 定されていてもサーフェス メッシュからオフセットされている場合があり ます。

マッスルをミラーする

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウを使用すると、マッスルを スカルプトした後、命名規則を使用してミラーできます。両「側」のマッスル は、左側(Left)または右側(Right)の命名規則(前面(Front)、後面(Back) の場合も同様)に従うジョイント/ノードにペアレント化され、各マッスルはそ の命名スタイルを用いて作成されている必要があります。たとえば、_Lと_Rを 使用し左右で命名規則が異なっている場合は、先に作成するマッスルに Bicep_L または Bicep_R のような名前を付ける必要があります。

マッスルをミラーするには

- メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイ タ(Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。
- **2 作成 (Create)** タブをクリックして**ミラー (Mirror)** セクションを探します。
- 3 ミラーの中心線となる軸を選択します。
- 4 検索 (Search) /置き換え (Replace) の対象となる命名規則を入力します (フィールドを右クリックすると、頻繁に使用される規則が表示されま す)。
- **5 選択項目からマッスルをミラー**(Mirror Muscle from Selection)をクリックします。

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)の設定 をコピー & ペーストする

ミラーリングと同様、1つのマッスルから別のマッスルへ設定をコピー&ペーストできます。

1 つのマッスルから別のマッスルへ設定をコピー & ペーストするには

- コピー元のソースマッスルを選択してから、ペースト先の別のマッスルを 選択します。
- マッスル クリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウで、最初に選択した マッスルをコピーし、選択したその他のマッスルにペーストします(Copy First Selected Muscle, Paste to Other Selected Muscles) をクリックしま す。

マッスル ビルダ(Muscle Builder)を使用して シンプル マッスルを作成する

NURBS サーフェスを手動で変換する代わりに、マッスル ビルダ(Muscle Builder) ウィンドウを使用してシンプル マッスルを作成できます。以下のセク ションでは、マッスル ビルダ(Muscle Builder) ウィンドウを使用してシンプ ル マッスルを作成する方法について説明します。

シンプル マッスルを構築するには

1 Maya シーンでジョイントをいくつか作成します。

必須ではありませんが、ローカル軸のいずれかが明確にジョイントチェーンの長辺方向を指すようにジョイント軸をアラインします。デフォルトは、 X です。任意の自由なジョイントの方向ツールを使用してジョイントを前述のようにアラインすることができます。あるいは、ジョイントツール (Joint Tool) 設定を使用して方向(Orientation)を yzx に設定し2番目のワールド軸方向(Second axis world orientation)を +y に設定します。

いずれにしても、ジョイントの長辺方向になっている軸を把握しておく必要があります。Y 軸がチェーン方向になるようにマッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウが設定されますが、このウィンドウはどのような設定 でも機能します。以下のイメージには、Y を長辺方向に正しくアラインし たジョイントの例が示されています。



 メイン メニュー バーからマッスル > シンプル マッスル > マッスル ビルダ (Muscle > Simple Muscles > Muscle Builder)を選択します。

構築(Build)タブが開いた状態のマッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウが表示されます。

🖉 Muscle Builder						
Build	Cross Section	Finalize Mus	de Parameters			
Attach Obj 1:						
	0.250					
	0.000					
	0.000					
	0.250					
	0.000					
	0.000					
	6					
	1.000					
Falloff:	0.500					
			De			

3 Obj 1 のアタッチ(Attach Obj 1)と **Obj 2 のアタッチ(Attach Obj 2)**の フィールドに各ジョイントまたはアタッチ オブジェクトの名前を入力しま

す。これには、ジョイントを選択してから、 ^{<<<} ボタンをクリックして オブジェクトをフィールドにロードします。以下の図では、joint1とjoint2 が入力されています。

🐻 Muscle I	🖥 Muscle Builder 📃 🗆 🗙							
Build			alize Mus	cle Parameters				
Attach (Obj 1:	joint1						
At:	0.250							
Off. X:	0.000							
Off. Z:	0.000							
Attach 0	Obj 2:	joint2				<<<		
At:	0.250							
Off. X:	0.000							
Off. Z:	0.000							
nSpans:								
nSegs:	6							
Width:	1.000							
Falloff:	0.500							

さらに、スパン数 (nSpans) とセグメント数 (nSegs) が目的の値に変更 されました。これらの 2 つの値はいつでも設定できますが、サーフェスを リフレッシュするには構築/更新 (Build/Update) を再度クリックする必要 があります。その他の値はすべて、サーフェスの構築後にツィークできま す。各オプションの詳細については、マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)を参照してください。

4 構築/更新 (Build/Update) をクリックし、指定した値でシンプル NURBS マッスルを生成します。



5 シンプルマッスルの配置場所、全幅、減衰スケーリングをコントロールする設定を調整します。Obj1のアタッチ(Attach Obj1)またはObj2のアタッチ(Attach Obj2)をクリックし、シンプルマッスルのアタッチポイントを直接選択して移動できます。



断面ツールで作業できるようになったため、シンプル マッスルのシェイプ を変更できます。

関連項目

- マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)
- シンプル マッスル (11 ページ)

シンプル マッスルのシェイプを変更する

シンプル マッスルのシェイプを変更するには

1 シンプルマッスルを選択し、マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンド ウで断面(Cross Section)タブをクリックします。



2 左側にある断面(Cross Section)リストから1つまたは複数の断面を選択 します。選択した後は、断面を移動できます。



- 3 断面の編集(Edit Cross Section)をクリックします。 断面カーブのポイントがハイライトされ、ポイントを移動またはスケール できます。
- 4 完了したら、編集(EDITING)をクリックします。編集モードでは、シーン内の1つまたは複数の断面を選択して編集するか、スパン(Span)スライダを使用してその他の断面を独自に選択できます。



注: エディタを使用してシンプル マッスルのシェイプを変更することも、 任意のシーン ビューで断面のカーブやシンプル マッスルのサーフェスを直 接編集することもできます。



5 完了後に編集(EDITING)をクリックして断面の編集モードが終了すると、 ボタンのラベルが断面の編集(Edit Cross Section)に戻ります。



断面での作業が終了すると、確定(Finalize)タブでシンプルマッスルの構 築プロセスを終了できます。このタブでは、NURBSサーフェスをマッスル スキンデフォーマで使用できるシェイプに変換できます。シンプルマッス ルは確定するまではマッスルとして接続または使用できず、任意のマッス ルデフォメーションを適用できません。

関連項目

■ マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)

シンプル マッスルを確定する

マッスルを確定するには

1 確定(Finalize) タブをクリックします。

📓 Musc	cle Builder	_ 🗆 🗵
Build	Cross Section Finalize Muscle Parameters	
Defo	ormer: Muscle Spline Deformer Muscle Stretch	
Num C	Controls 3 Type: cube	
c	Create Mirrored Muscle 💿 None 💿 X 💿 Y 💿 Z	
Search:	Replace:	
	Convert to Muscle	

2 使用するデフォーマ (Deformer) を選択します。

デフォーマについては、その他のマッスル デフォメーション (11 ページ)セ クションで詳細に説明しています。通常は、強力かつ柔軟性が高いため、 マッスル スプライン デフォーマを使用します。このデフォーマを使用する と、カスタム スプライン カーブと任意の数のコントロールを持つシンプル マッスルのシェイプを変更できます。

cMuscleSplineDeformerを選択すると、制御点の数をコントロール数(Num Controls)フィールドで定義できます。開始と終了に1つずつで最低2、 ジグル用に真中に1つで、通常は3を定義します。マッスルにコントロー ルとジグルを増加する場合は、コントロールの数を増やすことができます。

- 3 (オプション) タイプ (Type) プルダウンリストを使用し、立方体 (Cube) またはサークル (Circle) コントロールのようなシンプル マッスル コント ロール オブジェクトのシェイプを選択します。
- 4 (オプション)キャラクタの反対側にミラーするシンプルマッスルを構築 する場合は、ミラーの中心線となるワールド軸を選択し、検索(Search)/ 置き換え(Replace)に適切なアタッチメントやマッスルの命名規則が検索 されるように名前を入れます。ミラーリングする場合は、検索と置き換え の正しい値を入力する必要があります。名前を付けるダイアログが表示さ れ、検索文字列がシンプルマッスルの名前の一部に表示される必要があり ます。

ヒント: ミラーリングの検索(Search)フィールドを右クリックし、複数の プリセットの検索/置き換えオプションから選択します。

- 5 完了したら、マッスルに変換(Convert to Muscle)をクリックします。 シンプルマッスルに名前を付けるダイアログボックスが表示され、断面に 編集が加えられる可能性があるという警告が表示されます。完了処理後に シェイプを編集することもできますが、そうする場合は、マッスルのベー スをリセットする必要があります。詳細については、選択したマッスルオ ブジェクトのベースポーズをリセットする(79ページ)を参照してください。通常は、マッスルシェイプの構築後にマッスルをリモデルする必要は ありません。
- 6 シンプルマッスルに MusBicep_L のような固有の名前を入力し、OK をク リックします。



注: ミラーリングを使用する場合は、検索文字列がマッスルの名前の一部として表示される必要があることを覚えておいてください。たとえば、命名規則として_Lと_Rを使用する場合は、マッスルに「Bicep_L」という名前を付ける必要があります。ミラーリング時に検索文字列が名前に表示されなければ、エラーが発生して操作を元に戻す必要があります。

しばらくすると、シンプルマッスルは選択したデフォーマでリグが設定され、マッスルオブジェクトに変換されます。基本のリギングによって「grpMUSCLES」NULLが作成され、作成する各マッスルのグループ内に 完成したマッスルリグが配置されます。マッスルはオリジナルのジョイントに正しくコンストレインされます。



シンプルマッスルの構築後、パラメータを調整できます。

関連項目

■ マッスルビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)

シンプルマッスルのパラメータを調整する

シンプル マッスルのパラメータを変更するには

- マッスルビルダ(Muscle Builder) ウィンドウでマッスル パラメータ (Muscle Parameters) タブをクリックするか、マッスル > シンプル マッ スル > マッスル パラメータの設定(Muscle > Simple Muscles > Set Muscle Parameters)を選択します。
- 2 1つまたは複数のシンプルマッスルを選択し、設定を変更します。 1つの設定のみを変更すると、すべての有効な値が選択したマッスルに設定されます。リアルタイム更新(Realtime Update)ボタンがオンの場合は、値がすべての選択したマッスルに設定されるだけでなく、選択したマッスルのカレント値がウィンドウに自動的にロードされます。このボタンがオフの場合は、関連ボタンで各セクションを選択してロード、適用できます。

関連項目

■ マッスルビルダ (Muscle Builder) ウィンドウ (169 ページ)

マッスル スプライン デフォーマを作成する

マッスル スプライン デフォーマの一部は独自の spline curve ノードです。この ノードには、true 接線長コントロールを伴うエルミート タイプのスプラインが 用意されています。システムによって、自動的に 1 つのスプラインと必要な数 の制御点やコントロールを作成できます。また、spline ノードには各制御点のジ グルが構築されます。このツールは、ボーナス リギングツールとして使用され、 ヘアやアンテナのような物のジグルを伴うカーブに沿ってジョイントを配置しま す。

マッスル スプラインを作成するには

 メインメニューバーからマッスル>ボーナスリギング>マッスルスプラ インの作成(Muscle > Bonus Rigging > Create Muscle Spline)を選択し ます。

マッスルスプライン (Muscle Spline) ウィンドウが表示され、spline ノードを作成するオプションを選択します。

- 2 マッスルスプラインウィンドウでは、スプラインの固有名を入力し、必要 なその他のオプションを設定してください。各オプションの詳細について は、マッスルスプライン(Muscle Spline)ウィンドウ (191 ページ)を参照 してください。
- 3 マッスル スプライン リグの作成(Create Muscle Spline Rig) をクリック します。

以下の図は、スプライン カーブに 5 つの立方体コントロールと 7 つのドリ ブン ジョイントが存在する例です。



関連項目

- その他のマッスル デフォメーション (11 ページ)
- マッスル スプライン (Muscle Spline) ウィンドウ (191 ページ)

マッスル スプライン デフォーマを設定する

マッスルスプラインデフォーマは、マッスルスプラインをベースにした任意の オブジェクトを変形する deformer ノードです。変形はスプライン情報に基づく ため、前のセクションのほとんどが関連します。前述のように、デフォーマ自体 はマッスルスプラインオブジェクトから接続/入力され、ジグルのすべてがスプ ライン ジグリングに基づいています。オブジェクトはスプライン カーブから変 形されるため、スプライン カーブが移動/変更されるとジオメトリが変化しま す。

マッスル スプライン デフォーマは、マッスル コントロールに使用する通常のデ フォーマです。基本的な収縮や伸長を含むいくつかの主なオプションとスプライ ンの長さを基にしたカスタム マッスル/ジオメトリの成形が用意されています。

任意のオブジェクトにマッスル スプライン デフォーマを適用するには

1 デフォーマを適用するオブジェクトを選択します。

通常は、オブジェクトがマッスルとして動作できる NURBS サーフェスで すが、そうである必要はありません。以下の例では、基本の NURBS オブ ジェクトが使用されています。



 メインメニューバーからマッスル>シンプルマッスル>マッスルスプラ インデフォーマを適用(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Spline Deformer)を選択します。

マッスル スプライン デフォーマ ノードの作成オプションを含むマッスル スプライン デフォーマ (Muscle Spline Deformer) ウィンドウが表示され ます。詳細については、マッスル スプライン デフォーマ(Muscle Spline Deformer)ウィンドウ (192 ページ)を参照してください。



- 3 マッスルスプラインデフォーマ(Muscle Spline Deformer) ウィンドウで 以下を実行します。
 - デフォーマと関連項目の固有名を名前(Name)に入力します。
 - スプラインに設定する制御点の数を入力します。
 - 制御点のシェイプを**タイプ(Type)**プルダウン メニューから選択しま す。
 - マッスル スプライン デフォーマのセットアップ (Setup Muscle Spline Deformer) をクリックします。
- 4 完了したら、マッスルスプラインデフォーマ(Muscle Spline Deformer) ウィンドウを閉じます。

ジオメトリにリグが設定されます。マッスル スプライン ノードが作成され、マッスル スプライン デフォーマがサーフェスに適用され、必要なスプ ライン情報がすべてデフォーマに接続されます。



5 スプラインコントロールを移動/アニメートすると、オブジェクトがスプラ イン カーブに基づいて変形されます。

関連項目

- cMuscleSpline /- F (217 $\neg \vartheta$)
- cMuscleSplineDeformer / F (220 $^{\sim} \checkmark$)
- マッスル スプライン デフォーマ (Muscle Spline Deformer) ウィンドウ (192 ページ)

マッスル スプライン デフォーマのベース ポーズをリセットする

マッスルスプラインデフォーマが作成されると、コントロールカーブとコント ロールがサーフェスの内側に自動的に配置されます。場合によっては、コント ロールのデフォルト位置をサーフェスに影響を与えずに調整することをお勧めし ます。これによって、変形を適用する前にカーブのシェイプを作成する位置と方 法が具体的に設定されます。

これを行うには、コントロールを調整してから、デフォーマの基本ポーズをリ セットします。これによって、カーブのカレント シェイプがデフォルト シェイ プになります。

マッスル スプライン デフォーマのベース ポーズをリセットするには

1 マッスルスプラインデフォーマを持つオブジェクトを選択します。



2 Maya のチャンネル ボックスまたはアトリビュート エディタ (Attribute Editor) のメイン シェイプでエンベロープ アトリビュートを探し、エンベロープ (envelope) アトリビュートを0 に設定して無効にします (この手順はオプションですが、通常は実行します)。



3 コントロールを移動または調整し、スプラインの新しいデフォルト状態を 作成します。



4 マッスルスプラインデフォーマによって変形されているオブジェクトを再 選択します。



5 エンベロープを 1.0 に戻し、変形する場合カーブを伴うマッスルがこの状態でどのように表示されるかを確認します(必要に応じて、この手順は最後に実行することもできます)。



 マッスル > シンプル マッスル > マッスル スプライン デフォーマのベース ポーズをリセット (Muscle > Simple Muscles > Reset Base Pose for Muscle Spline Deformer)を選択します。

しばらくすると、変形されないかのようにオブジェクトがリセットされま す。スプラインのカレントの状態が変形のデフォルトの状態として使用さ れるようになりました。



7 コントロールを移動し、新しいデフォルトのスプライン状態でオブジェクトがさまざまに変形される様子を確認します。



関連項目

■ cMuscleSplineDeformer /- F (220 $\sim - \checkmark$)

マッスル スプライン デフォーマでカスタム マッスル シェイプを設定す る

マッスル スプライン デフォーマを使用する場合は、カスタムのマッスル成形機 能を使用することもできます。このツールを使用すると、マッスル デフォメー ションとシェイプを直接修正、スカルプトし、マッスルの長さを自由に変更でき ます。マッスルの長さを変更すると、作成した各カスタム シェイプがトリガさ れます。

これは、変形がマッスル スプライン デフォーマに直接結びついていることを除 けば、マッスルの長さによってドライブされるマッスルのブレンド シェイプの 作成に似ています。オリジナルのリセットポーズでスカルプトする代わりにマッ スルのシェイプをカレントのポーズで直接修正できます。

カスタム マッスル シェイプを設定するには

 変形にマッスルスプラインデフォーマでリグを設定するオブジェクトを選 択します。



- 2 さまざまなフレームをスクラブする場合は、デフォーマ コントロールの任意のジグルを無効にします。
 ジグルを有効にしておくと、マッスルシェイプにジグル エフェクトが含まれるため、表示される成形が不正確になります。各マッスル コントロールを選択してそれぞれのジグルの大きさを0 に設定するか、マッスル パラメータ (Muscle Parameters) タブを使用すると、ジグルを無効にできます。
- 3 選択したマッスルを使用して、メインメニューバーからマッスル>シンプ ルマッスル>カスタムマッスルシェイプ(Muscle > Simple Muscles > Custom Muscle Shapes)を選択します。

4 マッスル スプライン デフォーマのシェイプ(Muscle Spline Deformer

Shape)ウィンドウが表示され、オブジェクトとデフォーマの名前が最上部

に表示されます。マッスルを選択していない場合は、 ¹⁰⁰⁰ ボタンを押し て選択したジオメトリをロードできます。



5 マッスルを、長さが原因で好ましくないシェイプに変形されている問題の ポーズにします。マッスルの長さを変更したときに、ウィンドウの最下部 にあるカレントの状態(Current State)スライダが変更される様子に注目 してください。値を -1 に設定するとマッスルが完全に収縮され、+1 に設 定すると完全に伸長され、0 に設定するとデフォルトの長さになります。



6 スカルプトの準備(Prep for Sculpt)をクリックします。編集可能なポイントを持つスカルプトジオメトリの一部であるテンポラリジオメトリが表示されます。カラーが変化してスカルプトモードになります。テンポラリカラーはスカルプトの準備(Prep for Sculpt)ボタンの横にあるカラーサンプルを使用して調整できます。



7 このテンポラリスカルプトオブジェクトに任意の変更をスカルプトする と、マッスルを表示する長さにできます。



- 8 この長さの新しいシェイプを作成する場合は、新規作成(Create New)を クリックします。既存のシェイプを修正する場合は、右側にあるリストか らシェイプを選択して編集(Edit)をクリックします。
- 9 新規作成(Create New)をクリックすると、新しいターゲットシェイプの ポーズ名を設定するウィンドウが表示されます。固有の名前を入力してOK をクリックします。

しばらくすると、修正が適用されたオリジナルのオブジェクトが表示され ます。ウィンドウ右側のリストで名前の横に、シェイプを作成した**カレン** トの状態(Current State)値が表示されます。



10 マッスルの長さをインタラクティブに調整するか、アニメーションを再生します。

マッスルは、指定の長さになるとスカルプトしたポーズになります。**ブレンド**(Blend)値を調整し、発生するシェイプのフェードオンとフェードオフの方法をコントロールします。値を小さくすると長さがスカルプトを実行した長さに近接する場合のみシェイプが表示され、値を大きくすると長さがかけ離れている場合でもブレンドが実行されます。既存のポーズを編集したり、長さの異なるポーズを複数作成することもできます。



関連項目

■ マッスル スプライン デフォーマ (Muscle Spline Deformer Shape) ウィン ドウ (193 ページ)

マッスル伸長デフォーマを作成する

マッスル伸長デフォーマは、スプラインベースのマッスルデフォーマに対する もう1つのデフォーマです。収縮と伸長のオプションはほとんどなく、始点、 真中、終点での3つのコントロールのオプションのみが許可されています。す べての設定がデフォーマ全体に存在します。

マッスル伸長デフォーマをオブジェクトで設定するには

1 デフォーマを適用するオブジェクトを選択します。

以下の例では、シンプル NURBS オブジェクトを使用しますが、ジオメト リを使用することもできます(マッスルとして接続する場合は、NURBS ベースのオブジェクトを使用する必要があります)。リギングを適切に自 動化するには、ジオメトリのローカル Y 軸がオブジェクトの長辺方向を指 している必要があります。



メインメニューバーからマッスル>シンプルマッスル>マッスル伸長デフォーマを適用(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Stretch Deformer)を選択します。

マッスル伸長デフォーマがオブジェクトに適用され、ロケータがコントロー ルとして作成、リグ設定されます。シアンのロケータは開始コントロール を表し、オレンジのロケータは終了コントロールを表します。



50 | マッスルを作成する

ベースのロケータも作成されます。開始/終了ロケータに沿ってベースを移 動すると、変形は変更されませんが、移動オブジェクトのベース位置を簡 単に編集できます。MidBase を移動すると、真中の移動オブジェクトが自 動的に調整されます。開始、真中、終了ロケータのみを移動/調整すると、 基本の収縮、伸長、ジグルを伴うオブジェクトが変形されます。



マッスル ジグル キャッシュを削除する

時間を再生またはスクラブすると、マッスルにジグル情報が格納されます。この 情報を削除すると、メモリを保存してからファイルを保存したり、タイムライン を再スクラブせずにマッスルのジグル情報を単純にクリアすることができます。

マッスルのジグル キャッシュをクリアするには

マッスル>マッスル/ボーン>マッスル ジグル キャッシュの削除(Muscle > Muscles/Bones > Delete Muscle Jiggle Cache)を選択します。



- 2 内部のキャッシュ データを削除するタイム レンジを入力します。
- キャッシュ データを削除するマッスルを選択し、選択したマッスルのジグ ルキャッシュの削除(Delete Jiggle Cache for Selected Muscles) をクリッ クします。

関連項目

■ マッスル ジグルについて (12 ページ)

マスター マッスル コントロールを設定する

多くの場合、キャラクタの各セクションには複数のマッスルがあります。多数の 個々のマッスルコントロールとジグル設定を持つアニメータを用意できますが、 ジグル (Jiggle)、サイクル (Cycle)、レスト (Rest) 値を設定できる1つの 上部コントロールを持つマッスルをグループ化する場合にも役立ちます。これに より、アニメータは、太もも(例)のジグル、サイクル、レストを、脚の各マッ スルの複数のコントロールに代わって3つのアトリビュートだけでコントロー ルできます。

マスターマッスルコントロールの設定ウィンドウを使用すると、マスターコン トロールオブジェクトを作成してすべてのアトリビュートを保持し、選択した マッスルコントロールのそれぞれがマスターのエクスプレッションによってド リブンされるように設定できます。通常、マッスルのジグルは、同じグループ内 であってもひとつのマッスルから別のマッスルにオフセットできます。アニメー タがマスター値を調整するようにスクリプトにオフセットが保持され、マッスル 単位のオフセットは同量に維持されます。

マスターコントロールにするオブジェクトを作成します。このオブジェクトは、グループ、カーブ、アトリビュートを保持する何かである可能性があります。

注: マッスルをマスター コントロール オブジェクトとして作成する場合、 自動作成したロケータ コントロールを使用することはできません。

2 以下の例では、手で作成したシンプルカーブシェイプを使用します。



3 オブジェクトを選択し、メインメニューバーからマッスル>マッスル/ボーン>マスターマッスルコントロールの設定(Muscle > Muscles/Bones > Setup Master Muscle Control)を選択します。

マスター マッスル コントロールの設定(Setup Master Muscle Control) ウィンドウが表示されます。

- 4 グループとしてコントロールするすべてのマッスルにある真中のマッスル コントロールを選択します。すでに確定している場合、一般にはマッスル のエンドポイントの選択は避けたいところです。この例では、太ももにあ るマッスルの iControls を選択しました。
- 5 コントロール (Controls) 領域の横にある SSS ボタンをクリックし、マッ スル コントロールをロードします。
- 6 作成したマスターコントロールオブジェクトを選択してから、マスターコ

ントロール (Master Control) ボタンをクリックしてウィンドウに オブジェクトをロードします。

7 マッスルのこのグループの名前(Name)を指定します。マスター コント ロールがアトリビュートとエクスプレッションを作成するときにこの名前 が使用されます。

ヒント:名前(Name)フィールドを右クリックし、プリセットの命名規則 を選択します。



8 マスターマッスルコントロールの設定(Setup Master Muscle Control) を選択します。必要なアトリビュートがマスターコントロールに存在しな い場合は作成され、マッスルに基づいたデフォルト値に設定されます。 マスター コントロールが選択され、現在表示されているアトリビュートに よってマッスルのグループ全体が即座にコントロールされます。また、オ リジナルの iControls には、大文字で示した JIGGLE、CYCLE、REST アト リビュートの異なる設定が含まれるようになります。アニメータはこれら により、各項目の量をマスター コントロールからオフセットできます。

移動(Translate)、回転(Rotate)、スケール(Scale)アトリビュート は、必要ないため、ロックして非表示にできます。ジグル(jiggle)/サイ クル(cycle)/レスト(rest)アトリビュートを使用すると、各オリジナル マッスルをコントロールできます。

9 キャラクタのその他のセクションすべてに同じマスター マッスル コント ロールを使用すると、このプロセスを繰り返して適用できます。

無効なマッスルオブジェクトノードを修正する

カプセルまたはマッスルオブジェクト ノードを手動で複製すると、マッスルオ ブジェクト シェイプ ノードへのトランスフォームから、特定の必要な接続が正 しく再作成されない可能性があります。メイン メニューからマッスル > マッス ル/ボーン > 無効なマッスルオブジェクト ノードの修正(Muscle > Muscles/Bones > Fix Invalid Muscle Object nodes)を選択すると、これらの接続が自動検出さ れて修正されます。

たとえば、カプセルを手動で複製して移動すると、トランスフォームの発生位置 に従ってシェイプが表示されないことが警告されます。上記のユーティリティを 使用して問題を解決してください。

スキン デフォメーション

3

スキン デフォメーション

Maya[®] マッスルの核となるのはデフォーマです。デフォーマは主要なスキン デフォメーションを提供し、プラグインの他のほとんどの部分と連結して動作します。これを使用して、マッスル デフォメーションやスキン デフォメーションを行うことができます。また、Mayaのその他の標準的なツールの上部で単独のデフォーマとして使用し、キャッシングやポイント単位のジグルなどのオプション機能を利用することもできます。

マッスル デフォーマにより、スティッキーやスライド デフォメーションを主とし た、さまざまなデフォメーション エフェクトを実現できます。マッスル オブジェ クト シェイプの任意のノードを接続してウェイト付けし、以下の変形機能を使用 できます。

- スティッキー デフォメーション (56 ページ)
- スライド デフォメーション (60 ページ)
- ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング (64 ページ)
- フォース デフォメーション (65 ページ)
- ポイント単位のジグル デフォメーション (66 ページ)
- リラックス デフォメーション (67 ページ)
- スムース デフォメーション (69 ページ)

cMuscleSystem ノードは、使用する前にオブジェクトに適用しておく必要があり ます。また、通常はマッスルやボーン、マッスル方向、マッスル スマート コリ ジョン、その他の機能など、その他の各種ノードもオブジェクトに接続します。 本書では、マッスル デフォーマの設定と修正について、さまざまな角度から解 説します。

マッスル デフォーマをスティッキー ウェイトやスライド ウェイト用のスキン ソリューションとして使用するには、最初にマッスルやボーン オブジェクトを 接続しておく必要があります。マッスル オブジェクト シェイプ ノードを含む任 意の NURBS、ポリゴン メッシュ、またはカプセル オブジェクトをシステムに 接続できます。

複数のオブジェクトを、複数のマッスル変形オブジェクトに、同時に接続することも可能です。たとえば、マッスルを適用した3つのマッスルオブジェクトと2つのスキンオブジェクトを選択し、マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトを接続(Muscle>Muscle Objects>Connect selected Muscle Objects)を選択すると、3つのマッスルが両方のスキンデフォーマに接続されます。

スティッキー デフォメーション

マッスル デフォーマのおもな使用方法の1つとして、Maya skinCluster に対す る加算または置き換えがあります。このノードは、ポリゴンボーンだけでなく、 カプセルやジョイントに対しても同様のスキニング技法を使用できます。また、 NURBS オブジェクトの場合はポイントは NURBS サーフェスにアタッチされ、 変形をより細かくコントロールします。

プロセス全般は Maya skinCluster と似ており、マッスル デフォーマをメッシュ に適用し、オブジェクトをマッスル オブジェクトに変換して接続し、そして最 後にポイントをマッスルまたはボーン オブジェクトにウェイト付けします。

また、相対スティッキー モードを使用してマッスルなどの新しいインフルエン スだけをメッシュに適用し、二重に変換されないようにすることも可能です。詳 細については、相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)を参照してくだ さい。

スティッキー ウェイト

スティッキー ウェイト機能は Maya skinClusters と似ていますが、こちらの方 がより強力です。この機能では、スキン メッシュのポイントをマッスル、ボー ン、カプセルに直接アタッチできます。このウェイトは通常は正規化されます。 つまり、ポイントがウェイト付けされているすべてのマッスルやボーンに対し て、そのポイントのウェイト全体の合計がちょうど 1.0になるようにする必要が あります。合計が1.0より小さいと、スケルトンを移動したときにそのポイント だけ移動せずに残ります。合計が1.0より大きいと、動きすぎることになりま す。

スティッキー ウェイトは、ウェイト付けするオブジェクトのタイプによって動 作が異なります。

スティッキー ウェイトとカプセル/ポリゴン ボーン

スティッキー ウェイトを使用してポイントをカプセルまたはポリゴン ボーンに ウェイト付けすると、オブジェクトの変換以外ではポイントを動かせなくなりま す。つまり、オブジェクトがスキンに影響を与えるのは、移動、回転、スケーリ ングのみとなります。これは Maya のウェイトと似ています。

スティッキー ウェイトと NURBS マッスル

スティッキー ウェイトを使用してポイントを NURBS マッスルにウェイト付け すると、そのポイントはマッスルの表面にアタッチされます。そのため、マッス ル自体の変換だけでなく、サーフェス シェイプを変更したり、マッスル上のポ イントを調整しただけでもスキンが移動します。つまり、マッスルのピボットの 位置は変えずに、マッスルの形状だけを変えた場合でも、スキンが影響を受けま す。通常は、マッスルは独自のマッスル ベースのデフォーマを使用して変形さ れ、収縮や伸長を行います。マッスルが収縮または伸長すると、マッスルにス ティッキー ウェイト付けされたポイントがサーフェスと一緒に移動します。こ れはマッスルがジグルする場合でも同じです。また、ブレンド シェイプなどの 他のツールで変形や移動を行い、NURBS オブジェクトを設定することもできま す。

注: 最初にスティッキー ウェイトをオブジェクトにペイントするときには、メイ ンベースまたはルート ベースを選択し、ウェイトを 1.0 に設定して、**ウェイト** の設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood)をクリックします。これにより、ウェ イト全体が 100% になるようにボーンまたはオブジェクトが塗りつぶされます。 これを最初に実行しておかないと、正規化(Normalize)ボタンをオンにして も、1.0 の正しく正規化されたウェイトがないため、ペイントしたときにポイン トが間違って移動することがあります。



デフォルト メッシュ 左カプセルの 左カプセルを移動 スティッキー ウェイト

マッスルには、スティッキー、スティッキーB、スティッキーCの3セットのス ティッキー ウェイトが用意されています。各セットは通常のスティッキー ウェ イトとして機能しますが、各セットを使い分けて異なるエフェクトをペイントす ることもできます。

以下は、複数のスティッキー ウェイト セットを使用したワークフロー例です。

- 1つのセットはボーンだけにウェイト付けし、もう1つのセットはボーンとマッスルにウェイト付けして、アニメータが2つのモードを切り替えられるようにします。
- 椅子に座っているキャラクタなど、異なるウェイトセットが頻繁に必要になるキャラクタに対して、そのショットに補助のウェイトセットをペイントします。
- スティッキー ウェイト セットでボーンまたはカプセルだけにウェイト付けし、それからスティッキー セットでウェイトを保存してスティッキーBセットでロードし、2つのウェイトが一致するようにします。スティッキーBセットでマッスルにウェイトを追加します。スティッキー セットは Maya のskinClusterのようにしっかり固定していますが、スティッキーBセットは通常の全体のウェイト付けです。

ヒント: ウェイトの保存(Save Weights)ウィンドウにより、セット間でス ティッキー ウェイトのロードと保存を行うことができます。詳細について は、ウェイトのロードと保存 (102 ページ)を参照してください。

スティッキー バインド距離を視覚化する

NURBSマッスルをマッスルデフォーマにバインドするときには、バインドする ポイントを、距離ベースのマッスルにウェイト付けできるポイントの中から選択 できます。マッスルプラグインでは、球体を表示してデフォルト距離を確認す る方法を提供しています。自動計算モードを使用している場合は、球体の半径内 にあるポイントはすべて使用できます。また、独自の値を指定するのであれば、 球体の半径を手動で調整して、他に適切な値がないか確認することもできます。

これはスキン ポイントがマッスルに正しくスティッキー ウェイト付けできるようにするための機能であることに注意してください。実際にデフォルトのウェイト付けを行うものではありません。これは単に、そのポイントが指定した NURBSマッスルにスティッキー ウェイト付けされて正しく動作できるようにするための機能です。ポイントがバインド時に許可された範囲内になく、後でスティッキーウェイトをペイントする場合は、マッスル デフォーマはその時点でバインドを計算するため、スティッキー デフォメーションの速度が遅くなります。

ヒント: マッスル > スキン セットアップ > 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Invalid Sticky Bind Points)を使用してスティッキー バインドのエラーを検出して修正できます。

関連項目

■ スティッキー アトリビュート (226 ページ)

相対スティッキー デフォメーション

相対スティッキーモードは、特定のマッスルまたはボーンを「相対」としてマー クし、マッスル デフォーマと一緒に通常の skinCluster を使用したときに、二 重にトランスフォームされることがないようにします。

この方法を使用して、通常のジョイントと skinCluster を使用してキャラクタに リグを設定し、上部にマッスルを適用してからマッスルまたはカプセルを追加し て、skinCluster の上面に追加のスティッキー ウェイトまたはスライド ウェイ トを適用することができます。

また、skinCluster を使用していない場合(クラスタを使用してオブジェクトを 変形している場合など)でも相対スティッキー デフォメーションを設定できま す。

相対スティッキー モードは、skinClusters を持つオブジェクトにマッスル デ フォーマを適用するとき (マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)を 参照) や、マッスル デフォーマの適用後 (相対スティッキー デフォメーション を設定する (83 ページ)を参照) にオンにできます。

相対スティッキーモードをオンにすると、cMuscleSystemノードの相対スティッ キー(Relative Sticky)アトリビュートが相対(relative)(オン)に設定され ます。さらに、cMuscleRelativeという名前の新しい補助デフォーマを作成し、 メッシュを変形するように設定します。このデフォーマは、skinCluster ノード より前で、ブレンド シェイプなどの他のデフォーマより後に配置する必要があ ります。

また、カプセル、ボーン、マッスルの各 cMuscleObject ノードには、相対 (Relative) アトリビュートがあります。オンの場合、マッスルは相対スティッ キーデフォメーションを使用します。オフの場合、相対(Relative) モードがオ フであるかのように動作します。

これはペイントウェイトを正規化するために使用されます。たとえば、相対ス ティッキーモードを使用するときには、ダミーのカプセルオブジェクトを1つ 作成し、スティッキーウェイト用にマッスルデフォーマに接続します。この1 つのカプセルに対して、その相対(Relative)アトリビュートをオフにし(マッ スル>スキンセットアップ>選択したマッスル/ボーンを非相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles as Not Relative)メニュー項目を使 用)、すべてのスティッキーウェイトをこのボーンまで塗りつぶします。カプ セルは最初の位置から移動させないでください。それからマッスルに接続し、 ウェイトの追加やスムージングを開始してスティッキーウェイトを作成します。 一般的には相対(Relative)はオンに設定します。このようにすると、スティッ キーウェイトを正しく正規化して、ダミーカプセルに戻すことができます。

関連項目

- マッスルスキンデフォーマを適用する (69 ページ)
- 相対スティッキー デフォメーションを設定する (83 ページ)
- cMuscleObject /- F (205 $\sim i$)

スライド デフォメーション

マッスル デフォーマ ノードのスライド アトリビュートにより、オブジェクトが スキン メッシュの下をスライドしているように見せることができます。マッス ルデフォーマの各スライド アトリビュートの詳細については、スライダ アトリ ビュート (227 ページ)を参照してください。

60 | スキン デフォメーション
注: スライドにはスティッキー ウェイト付けは必要ありません。たとえば、スラ イド エフェクトを得るためだけに、オブジェクトをデフォーマに接続すること もできます。これにより、基礎的なスキニングには Maya スキンを使用し、そ れからマッスル デフォーマでスライドまたはその他の機能を使用するといった 使い方も可能です。

スライドウェイト

スライド ウェイトは、カプセル、ボーン、マッスルによってスキン サーフェス を押し出し、実際のスライド結果を生成します。ポイント自体はオブジェクトと 一緒に移動するのではなく、押し出されたり、オブジェクトに衝突したりしま す。

スライド ウェイトは通常は正規化されません。つまり、複数のマッスルが同じ ポイントに 100% 作用することが可能です。複数のマッスルが 1 つのポイント を押し出すと、そのポイントは最も遠い位置まで押し出されます。

ヒント: マッスルにスライド ウェイトとスティッキー ウェイトを組み合わせて 使用すると、おもしろい結果が得られます。たとえば、スティッキー ウェイト を少し低めに適用してマッスルがポイントを少しだけ引き寄せるようにし、それ から 100% のスライド ウェイトを適用します。その結果、マッスルは下でスラ イドしますが、同時にスキンに少しだけ引っ張られるか、引き寄せられます。

スライドの計算速度は、マッスルスライドの精度設定とスライドを行うオブジェ クトのタイプによって決まります。一般的には、スライドにカプセルを使用する のが最も速く、ポリゴンオブジェクトは中程度、NURBSマッスルが最も遅くな ります。

これを念頭に置いて、基礎的なボーンの スライド エフェクトには、できるだけ カプセルを使用してください。たとえば、ポリゴンの膝のボーンをモデリングす る代わりに、均一でない縮小したカプセルを使用した方が、より高速に同じよう な結果が得られます。



デフォルト メッシュ

センター カプセルの スライド ウェイト

スライド有効

また、ボーンやマッスルに対しては、そのボーンやマッスルがスライド可能な領 域だけをペイントできます。これにより、指定したオブジェクトのスライド計算 がウェイト付けするポイントだけに限定され、変形時間が短縮されます。たとえ ば、上腕二頭筋は脚の周りのスキンまでスライドすることはないため、二頭筋に 対しては腕の周囲にスライド ウェイトをペイントするだけで十分です。

スキンが折り重なるところの折り目や領域では、外方向に正しくスライドしない ポイントが見つかることがあります。このような領域には、方向ウェイト (62 ページ)で説明するように、cMuscleDirection ノードを使用します。このノード はスキンがスライドする方向を無効にし、外方向に正しく移動するようにしま す。

方向ウェイト

方向ウェイトにより、スライドエフェクトをより高度にコントロールできます。 これは、cMuscleDirection ノードにウェイト付けされたポイントが、指定した 方向に移動するようにします。

たとえば、反対方向にスライドしていたり、正しくない方向に移動しているポイ ントがある場合(折り目部分やスキンが折り重なる領域でよく発生します)、 マッスル方向にウェイトを作成してペイントし、このポイントがスライドする方 向をコントロールします。

関連項目

- cMuscleDirection /- F (198 $\sim ジ$)
- マッスル方向オブジェクトを作成する (86 ページ)

注: サブディビジョンサーフェスオブジェクトを直接スキニングしている場 合は、メッシュ全体が正しくスライドできるように cMuscleDirection ノー ドの設定が必要な場合があります。

重要: マッスル方向オブジェクトは独立したオブジェクトとしても作成され ますが、メニュー コマンドがコールされて、カプセル オブジェクトが現在 選択されている場合は、cMuscleDirection ノードは新規シェイプとして既存 のカプセルの下に作成されます。これにより、1 つのオブジェクトでカプセ ルと放射状方向ノードの両方を同時に併せ持つことができます。

方向ノードの使用

放射状方向は、円柱状のスライドスキンや、スライドに円柱タイプの押し出し が必要なスライドスキンの領域を処理する場合に便利です。通常は、スライド

はサーフェスの形状に基づきます。凹面やリンクルがある場合は、マッスル方向 を使用してスライドの方向を修正します。放射状方向は、通常はメッシュの主要 な中心の内側に長いボーンがあるようなもの、たとえば上腕や前腕などで効果を 発揮します。たとえば、上腕用の1つの主要なボーンまたはカプセルがあり、 その領域の中心線に配置されているような場合です。カプセルがある場合は、そ れを選択してマッスル方向オブジェクトにします。カプセルがない場合は、分離 した放射状方向オブジェクトを作成し、それをボーンにペアレント化します。



デフォルトのメッシュ 凹状添加物でスライド (黄色のカプセルがスライド)

放射状に変換された 中心のホワイト カプセル

ベクトル方向は、膝の後ろや肘の領域など、スライドやスキンのつまみがより大 きく発生する領域で使用するのに便利です。方向オブジェクトは2つのボーン の角度を分割し、スライド方向が外方向を維持できるようにして、2つのスライ ドがお互いに押し合わないようにします。



貫通を発生させるスライド ベクトル方向で修正された 方向付きのメッシュ



スライド方向

関連項目

■ cMuscleDirection /- F (198 $\sim - \emptyset$)

関連項目

■ スライド デフォメーションに対して一定の脂肪オフセットを設定する (84) ページ)

ディスプレイスメントデフォメーションとレン ダリング

Maya マッスルには、より高度な変形とエフェクトを実現するディスプレイスメ ントオプションがあります。ディスプレイスメントノードは、マッスルデフォー マに接続してポイント デフォメーションを調整します。ディスプレイスメント ノード は、ノードがメッシュのサーフェスに近づくにつれて、スライド エフェ クトまたはオフセット エフェクトを生成します。これはカプセルやマッスルの スライドと似ていますが、イメージマップに基づいており、実際のウェイトの スライドよりも高速です。

あるいは、同じノードを特殊な cMuscleDisplace を使用可能な Maya シェーダ または mental ray シェーダ ネットワークに接続させることもできます。これに より、レンダーしたときに、より高品質なディスプレイスメントとスライド エ フェクトが得られます。

cMuscleDisplace に関する詳細項目

cMuscleDisplace 機能により、スライド エフェクトをすばやく得ることができ ます。シェーダとして使用すると、レンダー時まで計算されないスライドが得ら れるだけでなく、トポロジだけを使用した場合よりも詳細な部分まで作成される ため、より詳細な ディスプレイスメントやスライドが得られます。たとえば、 ぼやけた減衰のある単純な白い四角をテクスチャ マップとして使用して、スラ イドするヒップ ボーンまたは鎖骨エフェクトをすばやく作成できます。

これはリブ ケージのようなものに使用すると効果的です。リブ ケージ テクス チャをシミュレートする 1 つまたは複数のマップをペイントし、これをディス プレイスメント マップに適用します。cMuscleDisplace ノードは、キャラクタ リグの適切なジョイントやボーンにペアレント化またはコンストレインされ、そ れからシェーダがモデルに適用されます。このようにして、スキン メッシュが キャラクタの胴体を移動すると、ディスプレイスメント エフェクトがスライド を表示します。cMuscleDisplace ノードがメッシュに近づいたり離れたりするの に合わせて、スライドする量が増減します。

その他のこの機能を使用できるアイデアとして、のど仏や首のテクスチャなどが あります。首のベースからモデルの顎の前面までエイム コンストレインされた ジョイントにリグを設定できます。このジョイントには、詳細な首のテクスチャ があり、円柱の cMuscleDisplace ノードがペアレント化されています。首が移 動し、ジョイントまたはエイム コンストレインが調整されると、シェーダを使 用したスキン上に非常に精密なスライド エフェクトが生成されます。

複数の cMuscleShaders をまとめて「チェーン」できることに注目してくださ い。各シェーダには入力ディスプレイスメント(inDisplacement)アトリビュー トがあります。ディスプレイスメント アトリビュートを各ノードから次のノー ドの入力ディスプレイスメントに、またはその他の標準の Maya ディスプレイ スメント ノードに接続します。それから最後のノードを最終シェーディング グ ループに接続します。

さらに、シェーダノードをその他のユーティリティに接続することもできます。 たとえば、ディスプレイスメント値をブレンダとして使用する blendColors ノー ドを作成できます。これは、ディスプレイスメントやスライドがサーフェスの近 くで増加するのに合わせて、サーフェスのカラーを変更します (カラーの計算 順序により、振幅 (Amplitude) を 1.0 に設定したときに最も効果を発揮しま す)。

場合によっては、ディスプレイスメント エフェクトだけを接続して、チェーン 全体ではなく、1つのノードで作成されるようにする場合もあります。このよう な場合には、シェーダでローカルディスプレイスメント(displacementLocal) アトリビュートを使用します。これはカレントの cMuscleDisplace ノードから ディスプレイスメントだけを返します。正規化ローカル ディスプレイスメント (displacementLocalNormalized) は同じものですが、振幅(Amplitude)が1 より大きくても、0 から 1 の正規化された値を使用します。

最後に、シェーディングネットワークを設定する場合は、同じ cMuscleDisplace ノードをマッスルデフォーマに接続することもできます。この方法を使用して、 デフォーマのディスプレイスメントの有効化(Enable Displace)アトリビュー トをオンにしてディスプレイスメントを視覚化することができます。レンダリン グ時にはディスプレイスメントの有効化(Enable Displace)をオフにし、結果 シェーダだけを使用して最終的なエフェクトが得られます。

関連項目

- ディスプレイスメント デフォメーションを設定する (88 ページ)
- ディスプレイスメント アトリビュート (229 ページ)
- cMuscleDisplace /- F (200 $\sim ジ$)

フォース デフォメーション

マッスル デフォーマにはウェイトとアトリビュートのセットがあり、重力と風 やノイズ タイプ エフェクトをメッシュに適用します。これらのアトリビュート の全リストについては、フォースアトリビュート (229 ページ)を参照してください。

たとえば、重力が方向を設定し、ペイントされたフォース ウェイトがそのポイントを指定した方向に移動させます。



重力を適用したフォース ウェイト

風設定は、指定したスピードと密度でメッシュを移動するノイズタイプのエフェ クトを生成します。



風を適用したフォース ウェイト

関連項目

■ フォース デフォメーションを設定する (97 ページ)

ポイント単位のジグル デフォメーション

ポイント単位のスキンのジグル 機能により、スキン メッシュの各ポイント上に 直接ジグル エフェクトを作成できます。これは、ジグルの既存のマッスル デ フォーマに対する動作と同じです。

デフォーマのジグル部分にはスティッキー ボーン、スライド ボーン、マッスル は必要ありません。本質的に、これはデフォーマの完全に単独な機能として使用 できます。これにより、マッスル デフォーマを任意のオブジェクトに適用し、

オブジェクトがスキンされていなくても、それを使用してポイント単位のジグル エフェクトを作成できます。

各ポイントにウェイトのペイントや設定を行い、ジグル、サイクル、レストのフ レーム時間の値を個別に設定できます。このウェイト(0~1の範囲)は、マッ スル デフォーマ ノード上の最小値と最大値に基づいて修正されます。0 でペイ ントされたウェイトは最小値セット、1 でペイントされたウェイトは最大値セッ トになり、その間の値はすべて補間されます。

ヒント: ポイント単位のスキンのジグルに対するジグル計算は、多くの RAM を 消費します。エフェクトをキャッシングするか、マッスルを使用して同様のエ フェクトを得る方法も検討してください。詳細については、ポイントキャッシン グ (125 ページ)を参照してください。

関連項目

■ ジグル デフォメーションを設定する (97 ページ)

リラックス デフォメーション

マッスル デフォーマのリラックス機能は、スキン メッシュにリラックス エフェ クトとリンクル エフェクトを適用します。リラックス エフェクトは、ポイント が伸長したり、遠くに離れたりしたときに、オリジナルの相対距離にポイントを 戻そうとします。近づくと、リラックスはリンクルを生成し、正しい距離を保ち ます。

また、マッスルには個別のリンクル ウェイトとリラックス ウェイトが用意され ており、領域が圧縮されると、定義したリンクルが生成されます。

リラックスは、ジグルと同様に単独の機能として使用できます。たとえば、デ フォーマでマッスルやボーンをスキニングまたは使用していない場合でも、任意 のオブジェクトにデフォーマを適用し、リラックスをオンにして、リラックス ウェイトまたはリンクル ウェイトをペイントできます。この方法でもメッシュ にリラックス機能を使用できます。



デフォルトのスライド

リラックス有効

通常、リラックスはスライドする領域の周囲に適用し、メッシュがスライドする と同時にスライド エフェクトが周囲のスキンを引き上げるようにします。

リラックス ウェイトのペイントにより、基礎的なスキニングとスライドが発生 した後でメッシュ上のどのポイントを調整するかを設定します。これらのポイン トは、リンクルを生成して引き出されるか、または押し出されます。0にウェイ ト付けされたポイントはリラックス/リンクルによって移動することはありませ んが、その周囲のポイントは影響を受けることがあります。







ペイントされたリラックス ウェイト

- 圧縮されたエリア
- リラックス/リンクル 有効

リラックス ウェイトは、デフォルトでメッシュ全体を 1.0 に設定するため、デフォーマ設定でオンにするだけで簡単に有効にできます。リンクル ウェイトの デフォルトは 0 で、ペイントしなければリンクル エフェクトは得られません。

関連項目

■ リラックス アトリビュート (231 ページ)

スムース デフォメーション

マッスル デフォーマのスムース機能は、スキン メッシュをスムースにする操作 を適用します。この機能のエフェクトでは、ポイントが一緒に移動してメッシュ をスムースにし、ディテールが失われます。

スムース デフォメーションは単独の機能として使用できます。たとえば、デ フォーマでマッスルやボーンをスキニングまたは使用していない場合でも、任意 のオブジェクトにデフォーマを適用し、スムースをオンにして、スムース ウェ イトをペイントできます。この方法でもメッシュにスムース機能を使用できま す。



デフォルトのスライド

スムース有効

スムースを使用してスライドしている領域を引き出しやすくしたり、不要なリン クルやつまみが発生したメッシュの領域をスムースにすることができます。

多くの場合、スムースはリラックスと同じような結果になりますが、通常はリ ラックスより高速です。その他のケースとして、リンクルのようなものにリラッ クスを使用して、それから追加でスムースを使用する方法もあります。スライド する領域を処理する場合には、リラックス、スムース、またはその両方を使用す ることをお勧めします。

関連項目

■ スムースアトリビュート (233 ページ)

マッスル スキン デフォーマを適用する

Maya マッスル スキン デフォーマはどのようなサーフェス オブジェクトにも適 用できますが、ポリゴン メッシュ オブジェクトを使用すると、最良の結果が得 られます。NURBS サーフェスやサブディビジョンサーフェスを使用すると、ペ イントのフィードバックが遅くなり、またその他のパフォーマンスの問題や制限 事項も発生します。

サブディビジョン サーフェスを使用する場合は、ポリゴン メッシュにリグを設 定してから、ブレンドシェイプやダイレクト接続を使用してメッシュをサブディ ビジョン サーフェスに接続するワークフローを使用することがあります。サブ ディビジョン サーフェスをポリゴン プロキシ モードにできない場合は、その複 製を作成してポリゴン プロキシ モードにし、それを接続用の仲介オブジェクト として使用します。この方法では処理が遅くなるように思われますが、多くの場 合、リギング メッシュにポリゴン オブジェクトを使用すると、アニメーション のフィードバックと再生の速度が向上します。

マッスルデフォーマを適用すると、マッスルオブジェクトのボーン、カプセル、 またはマッスルに接続し、スキニングデフォメーションを作成できます。ウェ イトは、標準のスティッキースキニングに適用する、またはスライド、ジグル、 その他の Maya スキンの上面にも作用可能な機能に対してのみ適用することも できます。

マッスル デフォーマをオブジェクトに適用するには

- マッスルスキンデフォーマを適用するオブジェクトを選択します。
- メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>マッスルシス テムスキンデフォーマを適用(Muscle>Skin Setup>Apply Muscle System Skin Deformer)を選択します。

計算が完了すると、マッスル デフォーマが適用され、オブジェクト上で使 用可能になります。メッシュにポイントが多いほど、この処理時間は長く なります。

これでポイント単位のスキンのジグル、リラックス、スムース、セルフ コ リジョン、キャッシュなどの各種オプションをすぐに使用できるようにな ります。スティッキー オプションまたはスライド オプションを使用するに は、最初にマッスルやボーンをデフォーマに接続しておく必要があります。

デフォーマを skinClusters を持つオブジェクトに適用する場合は、次の手 順を参照してください。

マッスル デフォーマを skinClusters を持つオブジェクトに適用するには

 マッスルスキンデフォーマを適用する skinClusters を持つオブジェクトを 選択します。

 メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>マッスルシス テムスキンデフォーマを適用(Muscle>Skin Setup>Apply Muscle System Skin Deformer)を選択します。

マッスル スキン デフォーマを skinCluster を持つメッシュに適用すると、 通常(Normal)スティッキーの代わりに相対スティッキー ウェイトでデ フォーマを使用するかを確認するウィンドウが表示されます。相対スティッ キー モードでは、マッスルとボーンがマッスル デフォーマに適用されて も、下にある skinCluster から二重に変換されることはありません。詳細に ついては、相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)を参照してくだ さい。



3 デフォーマを適用して相対スティッキー モードをオンにするには、はい (Yes)をクリックします。

注: このオプションは、後で選択して適用することもできます。詳細につい ては、相対スティッキー デフォメーションを設定する (83 ページ)を参照し てください。

新しい cMuscleRelative ノードが作成され、cMuscleSystem ノードの相対 スティッキー(Relative Sticky)アトリビュートが相対(relative)に設定 されます。

関連項目

- 相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)
- cMuscleRelative /- F (208 $\sim ジ$)
- cMuscleSystem /- F (225 $\neg \vec{v}$)

Maya スキンを Maya マッスルに変換する

既存のスキンされたメッシュにマッスル デフォーマを適用する代わりに、 skinClusterをマッスル設定に変換することもできます。これにより、skinCluster はマッスルのスティッキー ウェイトに効率的に交換されます。これを行うため に、ジョイントはカプセルに変換され(つまり cMuscleObject シェイプ ノード が適用され)、接続できるようになります。また、skinCluster のウェイト付け は cMuscleSystem ノードに自動的に転写されます。

スティッキー ウェイトに相対モードを使用するか、またはすべての変形にマッ スル デフォーマを使用するか、どちらかに決定します。マッスルを使用する利 点の1つは、3セットのスティッキー ウェイトをペイントして、必要に応じて それらをブレンドできることです。詳細については、スティッキー デフォメー ション (56ページ)と相対スティッキー デフォメーション (59ページ)を参照し てください。

既存の skinCluster 変形オブジェクトをマッスル変形オブジェクトに変換するに は

Maya skinCluster が適用されたオブジェクトを選択します。ジョイントまたはオブジェクトが skinCluster のデフォルトのオリジナルのバインド ポーズであることを確認します(つまり、メッシュがオリジナルのデフォルト状態であることが必要です)。



- メイン メニュー バーからマッスル > スキン セットアップ > スムース スキンをマッスル システムに変換(Muscle > Skin Setup > Convert Maya Skin to Muscle System)を選択します。
- 3 表示されるウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - オリジナルの skinCluster を削除するには、**削除(Delete)** をクリック します。
 - エンベロープを0に設定してオリジナルの skinCluster を無効にするに は、**無効化 (Disable)** をクリックします。



変換が開始し、ジョイントがカプセルに変更されます。

4 ジョイントの長辺方向の軸を確認するウィンドウが表示されるので、正しい軸を選択します。



ジョイントは cMuscleObject シェイプ ノードをカプセルとして含めるよう に変換され、転写されたオリジナルのウェイト付けを使用してデフォーマ が適用されます。終了しても変形は変わらないように見えますが、マッス ル デフォーマを使用するように変換されています。これで、マッスルを追 加してスティッキーやスライドのウェイト付けをするなど、このデフォー マに対してオプションを使用できるようになりました。



関連項目

■ カプセル (7 ページ)

マッスルオブジェクトをマッスルデフォーマに 接続する

オブジェクトにマッスルオブジェクト シェイプ ノードを追加すると、このオブ ジェクトをマッスル スキン デフォーマに接続することができます。接続するオ ブジェクトのタイプによってプロセスは少し異なります。

カプセルまたはポリゴン メッシュ ボーンをマッスル デフォーマに接続するには

1 接続するカプセルまたはポリゴンオブジェクトを選択し、マッスルデフォーマを適用した1つまたは複数のスキンオブジェクトを選択します。選択の順序は関係ありません。

注: スキンとボーンが、デフォルトのスキン バインド位置にする、デフォ ルトのベース ポーズ位置にあることを確認してください。

 メインメニューバーからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッ スルオブジェクトを接続(Muscle > Muscle Objects > Connect selected Muscle Objects)を選択します。
 選択したオブジェクトは即座に接続されます。スティッキーバインド(Sticky Bind)ウィンドウが表示されます。これは Maya マッスルがスティッキー ウェイトを使用して各オブジェクトのサーフェスをメッシュのサーフェス に接続しているためです。

NURBS オブジェクトをマッスル デフォーマに接続するには

 接続する NURBS オブジェクトを選択し、マッスル デフォーマを適用した 1 つまたは複数のスキン オブジェクトを選択します。選択の順序は関係あ りません。

注: スキンとボーンが、デフォルトのスキン バインド位置にする、デフォ ルトのベース ポーズ位置にあることを確認してください。

メインメニューバーからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトを接続(Muscle > Muscle Objects > Connect selected Muscle Objects)を選択します。

スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィ ンドウが表示されます。このウィンドウでは、スティッキーを正しくウェ

イト付けできる、NURBSマッスルの中心からポイントまでの最大距離を設 定します。たとえば、操作対象が右腕であれば、通常ならメッシュの左脚 のポイントに作用するマッスルは必要ありません。このウィンドウでは、 マッスルがメッシュに対して効果を与える領域を制限できます。

- 3 スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウで、使用するオプションを選択します。
 - 自動計算(Auto-Calculate)をクリックすると、Mayaマッスルが選択した各NURBSマッスルに最適なスティッキーバインド距離を計算します。

ヒント: Mayaマッスルには、マッスルを接続する前に自動計算オプションで使用される領域を確認できるツールも用意されています。詳細については、スティッキーバインド距離を視覚化する (58 ページ)を参照してください。

さらに、**警告メッセージを表示**(Show Warnings) アトリビュートに より(設定がオンの場合)、どのポイントが(もしあれば)どのマッス ルに対してスティッキーバインド(Sticky Bind)距離の範囲外にある か知ることができます。これは、特定のマッスルに対してスティッキー の再バインドが必要かどうか、またいつ必要か判断するのに便利です。

 平均値(Avg. Value)をクリックして、マッスルの中心からの最大距離 (Max. Distance from center of muscle)値フィールドで指定する数値 を使用します(表示されるデフォルト値は、選択したすべての NURBS オブジェクトの平均値です。選択したすべてのマッスルがほぼ同じサイ ズであれば、この値は許容範囲内と言えます)。
 この初期マッスル接続では、ここで設定した最大距離より外にあるポイ ントはすべて無視されます。これにより、大きめのメッシュに対する マッスルの接続の計算時間が短縮されます。
 後でこの最大距離値の外側にあるポイントにウェイト付けをしようとす ると、その時点でそのポイントの計算が行われます(変形速度が下がり)

ると、その時点でそのポイントの計算が行われます(変形速度が下がり ます)。このような場合は、前に戻ってマッスルのスティッキーデータ を再バインドすれば補正できます。マッスル > スキン セットアップ > 無効なスティッキーバインド ポイントの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Invalid Sticky Bind Points)メニュー項目を使用して修正す ることもできます。

 すべてのポイント(ALL Points)をクリックしてマッスルを接続し、 メッシュのすべてのポイントにウェイト付けできるようにします。 詳細については、スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウ (181 ページ)を参照してください。

スティッキー バインド (Sticky Bind) ウィンドウが表示され、各マッスル が処理されて接続されます。

完了すると、マッスル、ボーン、カプセルが Maya マッスル スキン デフォーマ に接続され、ウェイトのペイントや設定を行えるようになります。詳細について は、マッスル ウェイトをペイントする (100 ページ)を参照してください。

重要:単にマッスルを接続するだけでは、デフォルトのウェイトは設定されません。ウェイトを手動でペイントするか、マッスル > ウェイト付け > デフォルト ウェイトを適用(Muscle > Weighting > Apply Default Weights)オプション を使用します。

Maya マッスルのセットアップ データを再初期 化する

場合によっては、Mayaマッスルが変形に使用するデータを再初期化する場合も あります。たとえば、古い cMuscleSystem ファイルを Maya マッスル ファイル に変換する場合、マッスル デフォーマ上のセットアップ データを再初期化する 必要があります。これを行わないと、何も変形できません。

既存のマッスル データを再初期化するには

- 1 再初期化するマッスルデフォーマを適用したメッシュを選択します。
- 2 メッシュがデフォルトのレスト ポーズであることを確認します。
- 3 メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>マッスルシス テムのセットアップデータを再初期化(Muscle>Skin Setup>Re-Initialize Setup Data on Muscle System)を選択します。

ノードが再度処理されます。

無効なスティッキーバインドポイントの自動修 正

NURBS マッスルをマッスル スキン デフォーマに接続するときには、スティッ キー ウェイト付けを行う特定のポイントだけが計算されます。正しくバインド されていなかったポイントに後でウェイト付けを行う場合、変形中に直接この情 報を計算するため、デフォーマが遅くなるように見えます。

前にバインドされていなかったポイントを修正してマッスルにウェイト付けを行 えるようにするには、次の自動修正オプションを使用します。

- マッスルにスティッキーウェイト付けしたマッスルデフォーマを適用した メッシュを選択します。
- メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>無効なスティッキーバインドポイントの自動修正(Muscle>Skin Setup>Auto-Fix Invalid Sticky Bind Points)を選択します。

メッシュが点検され、必要に応じてマッスルやポイントが修正されます。

マッスルノードを接続解除する

場合によっては、特定のタイプのすべてのマッスル ノードをマッスル デフォー マから接続解除することもあります。

同じタイプのすべてのマッスル ノードを接続解除するには

➤ マッスル>スキンセットアップ(Muscle>Skin Setup)を選択し、接続解除するノードタイプに適切なメニュー項目を選択します。

たとえば、すべての cMuscleDisplace ノードを接続解除するには、マッス ル>スキン セットアップ > すべてのマッスル ディスプレイスメントを接続 解除 (Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle Displaces)を選択し ます。

選択したマッスルオブジェクトを接続解除する

マッスル、ボーン、カプセルをマッスル デフォーマから削除するには

- 1 接続解除するマッスル、ボーン、またはカプセルを選択し、1つまたは複数のマッスル変形オブジェクトを選択します。選択する数と順序は関係ありません。
- メインメニューバーからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッ スルオブジェクトの接続解除(Muscle > Muscle Objects > Disconnect selected Muscle Objects)を選択します。

ウェイトがゼロになり、ノードが正しく接続解除されます。

マッスル オブジェクトを間違って削除したり、不適切に削除または接続解除してしまった場合は、マッスル > スキン セットアップ > 削除済みや欠落したマッスルの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Deleted/Missing Muscles)を使用して修正できます。

削除済みや欠落したマッスルの自動修正

マッスル(Muscle)メニューには、マッスルをデフォーマから接続解除するための項目が含まれています。このオプションを使用してマッスルを接続解除すると、接続解除されたマッスルまたはボーンのウェイトはプラグインによってゼロにされます。このメニュー項目を使用せずにボーンやマッスルの削除や接続解除を行うと、デフォーマの内部のウェイト付けとインデックスが食い違ってしまう可能性があります。

不適切に接続解除されたマッスルを修正するには

- マッスルにスティッキーウェイト付けしたマッスルデフォーマを適用した メッシュを選択します。
- メイン メニュー バーからマッスル > スキン セットアップ > 削除済みや欠 落したマッスルの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Deleted/Missing Muscles)を選択します。

メッシュの点検が行われ、内部のインデックスが修正されます。ただし、 ウェイト付けが調整されることはありません。

マッスルのヒストリを削除する

マッスル デフォーマで変形されたモデル上にあるヒストリを削除できますが、 安全なヒストリの削除(Safe Delete History)オプションを使用して、マッスル やその他の接続済みノードが自動的に削除されないようにしておくことが重要で す。

マッスル ヒストリを安全に削除するには

- 1 ヒストリを削除するオブジェクトを選択します。
- 2 メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>安全なヒスト リの削除(Muscle>Skin Setup>Safe Delete History)を選択します。 マッスルシステムは、最初にノードを選択したオブジェクトから接続解除 し、次にヒストリを削除します。

選択したマッスルオブジェクトのベースポーズ をリセットする

どんなカプセル、ボーン、またはマッスルでも、ベース ポーズのリセットや作 成を行うことができます。これにより、スキン デフォーマ全体を削除して再作 成しなくても、マッスルやボーンの位置を調整できます。

たとえば、ジョイントまたはカプセルを配置してポイントにウェイト付けした 後、より正確な変形にするためにカプセルを移動する必要があると判断したとし ます。このような場合、ウェイト付けを失って接続解除してからマッスル デ フォーマを再作成しなくても、ジョイントを再配置してそのベース ポーズをリ セットすることができます。これにより、マッスル デフォーマは、オブジェク トが前からそのポーズでバインドされていたかのように処理します。

NURBS マッスルのデフォルト シェイプを編集する場合は、そのベース ポーズ もリセットする必要があります。移動したジョイントやカプセルをリセットする 場合は、それにアタッチされて移動した子カプセルやマッスルもリセットする必 要があります(つまり、変更されたものとその下位の階層全体をリセットする必 要があります)。

カプセル、ボーン、マッスルのベース ポーズをリセットするには

- ベースポーズをリセットするカプセル、ボーン、またはマッスルオブジェ クトを選択します。
- マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトのベースポーズをリセット(Muscle > Muscle Objects > Reset Base Pose for selected Muscle Objects)を選択します。
 関連するあらゆるマッスルデフォーマに対して、オブジェクトがリセット

国連9 るめらゆる、 (ッスル) フォー くに対して、 オブジェクトがりセット されます。リセットするオブジェクトが NURBS マッスルの場合は、マッ スルは自動算出された値を使用して、スティキー バインド距離を自動的に 再計算します。終了すると、オブジェクトが前から同じようにバインドさ れていて何も変更されなかったかのように、スキン デフォメーションが表 示されます。

選択したマッスルオブジェクトのベースを作成 する

ベース ポーズのリセットは1回限りのイベントですが、実際のベースオブジェ クトを作成しておくと、スキン ジオメトリに影響を与えずに、カプセル、ボー ン、マッスルの移動や調整をインタラクティブに行えるようになります。

ほとんどの場合はこれは必要ありませんが、この技法を使用することによって、 高度なリギングの実行、ピボットの調整、再スキニングなしのリグのサイズ変更 などが可能になります。

カプセル、ボーン、マッスルのベースを作成するには

- ベースオブジェクトを作成するカプセル、ボーン、またはマッスルオブ ジェクトを選択します。
- マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトのベースを作成(Muscle > Muscle Objects > Create Base for selected Muscle Objects)を選択します。

終了すると、選択したオブジェクトが複製されてマッスル デフォーマに接 続され、ベース オブジェクトとして動作するようになります。ベースをオ リジナルのオブジェクトに合わせて移動すると、スキンに影響を与えずに オブジェクトを調整できます。 3 ベースの使用が終了したら、ベースオブジェクトを削除できます。

選択したマッスルオブジェクトにスティッキー を再バインドする

NURBS マッスルを Maya マッスル システムに接続すると、スティッキー ウェ イト付けを行うときに、どのポイントが実際にマッスルにウェイト付けされるか を指定できるようになります。前にスティッキー バインドされる距離の外側に あったポイントにウェイトをペイントする場合は、そのポイントはその時点でバ インドを計算するため、変形速度が下がります。オリジナルの距離が小さすぎた 場合は、いつでも戻ってマッスルのスティッキー バインド情報をリセットし、 より大きい距離またはすべてのポイントを使用するように変更できます。

NURBS マッスルのスティッキー情報を再バインドするには

- 1 距離のスティッキー情報を再バインドする1つ以上のマッスルを選択しま す。
- 2 再バインドするマッスル変形オブジェクトを選択します。
- メインメニューバーからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトにスティッキーを再バインド(Muscle > Muscle Objects)
 > Re-Bind Sticky for selected Muscle Objects)を選択します。

スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウが表示されます。

4 目的のオプションを選択して(スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウ(181ページ)参照)、適切なボタン をクリックします。

スティッキー バインド(Sticky Bind)のプログレス ウィンドウが表示され、選択したオプションに基づいてマッスルがポイントを使用できるようになります。

関連項目

■ スティッキー デフォメーション (56 ページ)

スティッキーバインド距離を視覚化する

選択した NURBS マッスルのスティッキー バインド距離を視覚化するには

1 スティッキー バインド距離を確認する 1 つまたは複数の NURBS マッスル を選択します。



 マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトのスティッキーバインド距離を視覚化(Muscle > Muscle Objects > Visualize Sticky Bind Distance for selected Muscle Objects)を選択します。
 選択した各 NURBS マッスルに対して、視覚化球体が表示されます。これは、メッシュ上のスティッキーウェイト付けが可能な領域を示しています。
 接続するときには、球体内のどのポイントでも正しくバインドされます。



相対スティッキーデフォメーションを設定する

マッスル デフォーマを skinClusters を持つオブジェクトに適用する場合、デフォーマ適用時に表示されるウィンドウを使用して相対スティッキー モードを オンにできます。詳細については、マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)を参照してください。

マッスル デフォーマの適用時に相対スティッキー モードをオンにしていなかった場合は、次を実行して相対スティッキー モードをオンにできます。

相対スティッキー モードをオンにするには

- 相対スティッキーモードを設定するオブジェクトを選択します(オブジェ クトには予めマッスルデフォーマを適用しておく必要があります)。
- マッスル>スキンセットアップ>相対スティッキーデフォメーションの設定(Muscle > Skin Setup > Setup for Relative Sticky Deformation)を選択します。

マッスル デフォーマは相対スティッキー(Relative Sticky)アトリビュー トを相対(オン)に切り替えます。新規 cMuscleRelative デフォーマが作 成され、接続されます。オブジェクト上に skinClusterが存在する場合は、 デフォーマはヒストリ リスト内の skinCluster の直前に自動的に正しく配 置されます。skinCluster がない場合は、デフォーマはヒストリの前に配置 されます。

cMuscleRelative デフォーマのヒストリの順序を変更するには、右クリック してすべての入力(All Inputs)を選択し、通常の順序変更の操作を行いま す。

選択したマッスル オブジェクトを相対スティッキー モードに設定する

相対スティキー ウェイト付けを使用する場合、各カプセル、ボーン、マッスル に対して相対モードにするかどうか個別に設定できます。これにより、1つのダ ミー カプセルを絶対に「非相対」に移動しないように設定し、これを使用して スティッキー ウェイトを正規化することができます。これはデフォルトでは相 対(Relative)にマークされています。

個々のマッスル オブジェクトに対して相対スティッキー モードをオンにするに は

- 1 マッスルオブジェクト(カプセル、ボーン、マッスル)を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>選択した マッスル/ボーンを相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles as Relative)を選択します。
 - 相対 (relative) アトリビュートを手動で1に設定して、オンにします。

個々のマッスル オブジェクトに対して相対スティッキー モードをオフにするに は

- 1 マッスルオブジェクト (カプセル、ボーン、マッスル)を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
 - メインメニューバーからマッスル > スキンセットアップ > 選択したマッスル/ボーンを非相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles as Not Relative)を選択します。
 - オブジェクトの相対 (relative) アトリビュートを0に設定して、オフ にします。

関連項目

- cMuscleRelative /-F (208 $\sim ジ$)
- 相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)

スライドデフォメーションに対して一定の脂肪 オフセットを設定する

スライド デフォメーションは、スキン メッシュを衝突したボーンやマッスルか ら外方向に移動させます。ときにはメッシュを非常に精密にモデリングする場合 があります。デフォルト状態でマッスルやボーンによってメッシュが外方向に移 動する場合、スキンがメッシュやボーンのサーフェスの下から動かされないよう にして、実質的にスカルプトされたモデルのオリジナルの状態を保ちたい場合も

あります。マッスルデフォーマの**バインドを使用(useBind)**アトリビュートと **負の脂肪を許可(allowNegFat)**アトリビュートを使用して、これを実現できま す。

バインドを使用アトリビュートは、最近接ボーン/マッスルに対するスキンメッシュの脂肪オフセットを格納します。たとえそのポイントが別のメッシュでスライドされても、変形中は一貫してこのオフセットが使用されます。通常は、各ボーンやマッスルの脂肪値により、オブジェクトとスキン間のオフセットが設定されます。いったんバインドを使用を有効にすると、スキン上のポイントごとにオフセットが格納され、マッスルやボーンオブジェクトの変更とは無関係に使用されます。

結果として、スキンとマッスルの間の「脂肪」またはオフセットは一定になりま す。**負の脂肪を許可をオン**にすると、オリジナルのメッシュ状態を保ちながら、 脂肪またはオフセットがマッスルやボーンの下または内側に入るようにすること ができます。

注: cMuscleObject ノード自体にも、**脂肪(fat)や法線の反転** (reverseNormals) などのスライディング動作に作用するオプションがありま す。このオプションの詳細については、cMuscleObject ノード (205 ページ)を参 照してください。

また、**方向(Direction)**ウェイトと方向ノードを使用して、スライド動作の調 整やコントロールを行うこともできます。詳細については、cMuscleDirection ノード (198 ページ)を参照してください。

バインドを使用(useBind)モードを設定するには

- マッスル変形オブジェクトを選択し、モデルのオリジナルのバインドポーズ状態にします。
- メインメニューバーからマッスル>スキンセットアップ>脂肪をマッス ルシステムにバインド(Muscle>Skin Setup>Bind Fat on Muscle System)を選択します。

脂肪距離が cMuscleSystem ノードに格納され、オブジェクトがモデリング された状態に戻ります。

バインドを使用すると、マッスルが遠くやメッシュの別の領域までスライドした ときに、不適切なエフェクトが生じる可能性があるので注意が必要です。これ は、マッスルからのオフセットが格納されているために、脂肪での変化が見られ るために起こります。このため、通常はキャラクタの製作では**脂肪バインド(Bind** Fat)は使用しない方がよいでしょう。その代わりに、マッスルが必ずオリジナルのスキンメッシュの内側になるようにしてください。

マッスル方向オブジェクトを作成する

マッスル方向オブジェクトを作成するには

メインメニューバーからマッスル > 方向 > マッスル方向の作成(Muscle > Direction > Make Muscle Direction)を選択します。

何も選択されていない場合、方向オブジェクトが新規作成されます。1つ以 上のカプセル オブジェクトを選択していると、放射状方向ノードの方向オ ブジェクトがカプセルの子シェイプとして作成されます。

マッスル方向ロケータが表示されます。



 ここで設定を調整するか、または cMuscleSystem ノードに接続した後で調 整することもできます。

注: 減衰内側(falloffInner)アトリビュートは、cMuscleDirection ノードの表示をコントロールします。ノードのエフェクトはウェイト付けだけで 定義されます。減衰内側値は結果には影響しません。

減衰外側(falloffOuter)値は、「放射状」またはカプセルベースのマッス ル方向に対してのみ作用します。この値を大きくすると、放射状方向オブ ジェクトが効率的に長くなり、赤い中央ラインが長く表示されます。これ は「ベクトル(vector)」モードでは無効です。

3 方向ノードをマッスル変形オブジェクトに接続するには、変形オブジェクトと接続するマッスル方向オブジェクトの両方を選択します(選択の順序は関係ありません)。



 4 メイン メニュー バーからマッスル > 方向 > 選択したマッスル方向を接続 (Muscle > Direction > Connect selected Muscle Directions)を選択します。

オブジェクトが接続されますが、方向ウェイトがペイントまたは設定され るまでは無効です。

- 5 スキンメッシュを選択し、マッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights)を選択してマッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウを開きます。
- 6 マッスルペイントウィンドウでウェイト(Weights)を方向(Direction) に切り替え、ペイントする適切な方向ノードを選択します。
- 7 目的の領域にあるウェイトをペイントします。スライドしているマッスル 方向で作用されるポイントに対して、スライド方向を調整します。以下の 図に示すように、方向ノードが回転し、外側に突き出していたポイントが、 cMuscleDirection ノードによって指定された軸に沿ってスライドし、押し 出されています。



注: 複数の cMuscleDirection ノードがポイント領域に作用するようにして ウェイト付けを行えば、それらのエフェクトをブレンドできます。

ディスプレイスメントデフォメーションを設定 する

cMuscleDisplace ノードを変形機能として使用するには、ディスプレイスメント ノードを作成し、それをマッスル変形オブジェクトに接続します。

cMuscleDisplace ノードを作成または接続した後で、目的のエフェクトが得られ るようにアトリビュートを調整します。アトリビュートの詳細については、 cMuscleDisplace ノード (200 ページ)を参照してください。ディスプレイスメン ト ノードは距離ベース (つまり、サーフェスに接近したり離れたりすると、エ フェクトが減衰または強くなる) であるため、ペイントするウェイトはありませ ん。

ディスプレイスメント ノードを変形用に設定するには

 メインメニューバーからマッスル>ディスプレイスメント>マッスルディ スプレイスメントの作成(Muscle > Displace > Create Muscle Displace) を選択します。

ディスプレイスメントノードが作成され、選択されます。デフォルトでは、 このノードは平面スタイルのディスプレイスメントノードです。このディ スプレイスメント設定には、グループノードと cMuscleDisplace ロケータ シェイプだけでなく、ファイル テクスチャを選択するためのファイル入力 も含まれています。選択したディスプレイスメントノードを**ハイパーシェー** ド (Hypershade) または**ハイパーグラフ**(Hypergraph) でグラフ化して これを確認できます。



2 シェイプに入れるファイルノードを選択し、テクスチャとして使用するイメージファイルを選択します。通常は、ノードを選択し、アトリビュートエディタ(Attribute Editor)に移動してイメージの名前(Image Name)

の横にあるフォルダ アイコンをクリックして参照し、使用するイメージ ファイルを選択します。

注: 高度なユーザであれば、ファイル テクスチャ ノードを使用する代わり に、従来の Maya 2D テクスチャを作成し、シェーダの出力カラー (outColor)をディスプレイスメント ノードの「dispData.shader」アト リビュートに接続することもできます。



エフェクトをなしにする場所はイメージを黒にし、ディスプレイスメント を押し出すか発生させる場所は白にします。

3 必要に応じて cMuscleDisplace ノードのアトリビュートを変更し、マッス ルデフォーマに接続します。

たとえば、cMuscleDisplace ノードを平面(Planar)モードから**円柱** (Cylindrical)に変更するか、他のオプションを設定します。

cMuscleDisplace ノードを接続するには

- 1 つまたは複数の cMuscleSmartCollide ノード オブジェクトと、1 つまた は複数のマッスル変形オブジェクト(マッスル スキン デフォーマ適用済 み)を選択します(選択の順序は関係ありません)。
- マッスル > ディスプレイスメント > 選択したマッスル ディスプレイスメン ト ノードを接続(Muscle > Displace > Connect selected Muscle Displace nodes)を選択します。

これでノードが接続されました。

3 マッスル変形オブジェクトを選択し、チャンネルボックス(Channel Box) またはアトリビュート エディタで cMuscleSystem デフォーマ ノードを検 索します。 4 ディスプレイスメントの有効化(Enable Displace)アトリビュートをオン に設定します。

これでディスプレイスメント エフェクトが確認できるようになりました。 必要に応じて、cMuscleDisplace ノードの移動、スケール、またはその他 の設定の変更を行い、エフェクトを確認してください。



ディスプレイスメントノードを使用する必要がなくなった場合は、cMuscleSystem デフォーマから接続解除できます。

ディスプレイスメント ノードを接続解除するには

- 1 つまたは複数の cMuscleDisplace ノードと、1 つまたは複数のマッスル 変形オブジェクトを選択します (選択の順序は関係ありません)。
- メインメニューバーからマッスル>ディスプレイスメント>選択したマッ スルディスプレイスメントノードを接続解除(Muscle > Displace > Disconnect selected Muscle Displace nodes)を選択します。
 選択したノードが接続解除され、今後メッシュに影響を与えることはなくなります。

NURBS カーブを cMuscleDisplace ノードに接続する

cMuscleDisplace モードを**カーブ(Curves)**に設定すると、ディスプレイスメ ントノード上の位置とイメージマップはもはや関係なくなり、代わりにノード に接続された NURBS カーブを使用してディスプレイスメントが行われます。 カーブがサーフェスに接近するにつれて、ポイントが押し出されます。 **注**: この機能は変形ベースのディスプレイスメントと Maya シェーダのディスプ レイスメントで使用できますが、シェーダの mental ray バージョンではサポー トされていません。

この機能を使用するには、NURBS カーブを cMuscleDisplace ノードに接続する 必要があります。1つまたは複数のカーブを選択できますが、その半径や減衰は 同じ値になり、接続している cMuscleDisplace ノードの値から設定されます。 異なる半径や減衰を使用する場合は、複数の cMuscleDisplace ノードを使用す る必要があります。

カーブを接続するには

- 1 標準の Maya カーブ ツールを使用して、1 つまたは複数の NURBS カーブ を描画します。
- ディスプレイスメント デフォメーションを設定する (88 ページ) の説明に 従って、cMuscleDisplace ノードを作成します。
- **3** 1 つまたは複数のカーブと cMuscleDisplace ノードを選択します。
- 4 メインメニューバーからマッスル>ディスプレイスメント>NURBS カーブをマッスルディスプレイスメントに接続(Muscle>Displace>Connect NURBS Curve to Muscle Displace)を選択します。

これでカーブが接続されました。ディスプレイスメントノード自体は、マッ スル デフォーマに接続するか、またはシェーディングネットワークの一部 にする必要があります。詳細については、Maya cMuscleShader ネットワー クを作成する (92 ページ)を参照してください。

5 cMuscleDisplace モードをカーブ(Curves)に切り替えます。これでサー フェスの変形にカーブが使用されるようになりました。

カーブを cMuscleDisplace ノードから接続解除するには

- 1 1つまたは複数の NURBS カーブと cMuscleDisplace ノードを選択します。
- マッスル > ディスプレイスメント > NURBS カーブをマッスル ディスプレ イスメントから接続解除(Muscle > Displace > Disconnect NURBS Curve from Muscle Displace)を選択します。

カーブが接続解除され、今後はノードが**カーブ(Curves**)モードであって も、変形に影響を与えることはなくなります。

Maya cMuscleShader ネットワークを作成する

cMuscleDisplace 機能は、変形ツールだけでなく、シェーダとしても使用できま す。これを行うには、Maya の特殊な cMuscleShader ノードを作成し、ディス プレイスメントを行い、cMuscleDisplace ノードからの接続を処理できるように します。このシェーダがオブジェクトのマテリアルに接続されます。 cMuscleShader は、内部の Maya レンダラ用に設計されたシェーダです。

Maya ベースの cMuscleDisplace シェーディング用にノードを設定するには

- 1 基本マテリアルを作成し、それをメッシュに適用します。
- メインメニューバーからマッスル>ディスプレイスメント>Mayaマッス ルシェーダネットワークの作成(Muscle>Displace>Create Maya Muscle Shader Network)を選択します。

新規 cMuscleShader ノードと新規 cMuscleDisplace ノードが作成され、選 択されます。

3 ハイパーシェード (Hypershade) を開き、選択したオブジェクトをグラフ 化します。



- 4 シェーダに入れるファイルノードを選択し、ディスプレイスメントに使用 するイメージファイルを選択します。エフェクトをなしにする場所はイメー ジを黒にし、ジオメトリを置き換える場所は白にします。
- 5 cMuscleDisplace シェーダ ノードとメインの Maya マテリアルを選択し、 ハイパーシェードでグラフ化します。



6 cMuscleShader をマテリアルのシェーディング グループにドラッグし、表示されるメニューから「その他(other)」を選択します。

Maya コネクション エディタ(Connection Editor)が表示されます。

- 7 左側のシェーダからディスプレイスメント(Displacement)を選択し、そ れを右側のディスプレイスメント シェーダ(Displacement Shader)に接 続します。
- 8 コネクション エディタ (Connection Editor) を閉じます。

これでシェーダからの接続がシェーディンググループに表示されるように なりました。



9 Maya レンダラを使用してエフェクトを確認します。ディスプレイスメントの精度を上げるには、通常の Maya の調整を使用します。たとえば、メッシュを選択し、メッシュのアトリビュート エディタのディスプレイスメントマップ(Displacement Map) セクションで、初期と追加のディスプレイスメントサンプルの数を増やします。



cMuscleDisplace と cMuscleShader 付き Maya レンダラ

mental ray mib_cMuscleShader ネットワークを作成する

cMuscleDisplace 機能は、変形ツールだけでなく、シェーダとしても使用できま す。mental ray レンダリングでは、特殊な mib_cMuscleShader ノードを作成 し、これを使用してディスプレイスメントを行い、cMuscleDisplace ノードから の接続を処理します。このシェーダがオブジェクトのマテリアルに接続されま す。

mental ray ベースの cMuscleDisplace シェーディング用にノードを設定するに は

- 1 基本マテリアルを作成し、それをメッシュに適用します。
- メインメニューバーからマッスル > ディスプレイスメント > Mental Ray mib_cMuscleShader ネットワークの作成(Muscle > Displace > Create Mental Ray mib_cMuscleShader Network)を選択します。

新規 mib_cMuscleShader ノードと新規 cMuscleDisplace ノードが作成され、選択されます。

3 ハイパーシェード (Hypershade) を開き、選択したオブジェクトをグラフ 化します。



- 4 シェーダに入れる mentalray_Texture ノードを選択し、アトリビュートエ ディタでディスプレイスメントに使用するイメージファイルを選択します。 エフェクトをなしにする場所はイメージを黒にし、ジオメトリを置き換え る場所は白にします。
- 5 cMuscleDisplace シェーダ ノードとメインの Maya マテリアルを選択し、 ハイパーシェードでグラフ化します。
- **6** cMuscleShader をマテリアルのシェーディング グループにドラッグし、表示されるメニューから「その他(other)」を選択します。

Maya コネクション エディタ(Connection Editor)が表示されます。

- 7 左側のシェーダからディスプレイスメント(Displacement)を選択し、それを右側のディスプレイスメントシェーダ(Displacement Shader)に接続します。
- 8 コネクションエディタ(Connection Editor)を閉じます。 これでシェーダからの接続がシェーディンググループに表示されるように なりました。



9 シーンを mental ray レンダラでレンダリングし、エフェクトを確認します。通常の Maya mental ray 調整を使用して、より高精度なディスプレイスメントにすることもできます。

たとえば、レンダー設定(Render Settings) ウィンドウのオプション (Options) タブで、テッセレーション(Tessellation) セクションを展開 します。このセクションで、近似のディスプレイスメント(Displace Approx)の横のテクスチャアイコンをクリックし、このシーンのレンダリ ング用に新しい mentalrayDisplaceApprox ノードを作成します。これに は、まず、レンダラとして mental ray を選択します。アトリビュート エ ディタで、これを空間(Spatial)近似法、詳細(Fine)近似スタイルに設 定し、目的に合わせて最大サブディビジョン(Max Subdivisions)を増や します。



mental ray mib_cMuscleShader ディスプレイスメント

関連項目

■ ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング (64 ページ)
フォース デフォメーションを設定する

フォース デフォメーション エフェクトをメッシュに適用するには

- 1 マッスル デフォーマをメッシュに適用します。詳細については、マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)を参照してください。
- メッシュ上のフォース ウェイトをペイントします。詳細については、マッ スル ウェイトをペイントする (100 ページ)を参照してください。
- 3 cMuscleSystem ノードで目的に合わせてフォースアトリビュートを調整します(たとえば、フォースの有効化(Enable Force)をオンに設定するなど。アトリビュートの詳細については、フォースアトリビュート(229ページ)を参照してください)。

関連項目

- フォース デフォメーション (65 ページ)
- フォースアトリビュート (229 ページ)

ジグル デフォメーションを設定する

ジグルを使用するには

- オブジェクトのジグル ウェイトをペイントし、デフォーマで必要に応じて 値を設定します(詳細については、ジグル アトリビュート (231 ページ)を 参照してください)。
- 2 アニメーション全体を1フレームずつ順に進めます。この間に、マッスル は適切なジグルエフェクトを計算します。
- **3** いつでも任意のフレームにジャンプし、ジグル値の調整を行い、アニメー ションを再生できます。

注: ジグル値を調整するだけであれば、1フレームずつ再生する必要はあり ません。ただし、オブジェクトのコア アニメーションやモーションを変更 した場合は、マッスルがジグル情報を正しく再計算できるように、再度 1 フレームずつ順に進める必要があります。

たとえば、基本アニメーションを完了して、ジグルをオンにし、アニメー ション全体を1フレームずつ進めると、デフォーマはジグルを計算し、そ れを正しく表示します。ジグルの最小値や最大値の設定を変更して再生し ても(たとえフレームをスキップしても)、ジグルは正確に表示されます。

たとえばジョイントを別の方法で回転するなど、最初のアニメーションを 調整した場合は、デフォーマがジグル エフェクトを再計算できるように、 再度1フレームずつ順に進める必要があります。

関連項目

- ポイント単位のジグル デフォメーション (66 ページ)
- ジグル アトリビュート (231 ページ)

デフォルト ウェイトを適用する

デフォルト ウェイト (Default Weights) ウィンドウでは、メッシュに初期の ウェイト付けを設定します。通常は、ノードの接続やマッスル デフォーマの作 成にはデフォルト ウェイトを設定しません。このウィンドウにより、接続され たノードに基づいて(マルチ ウェイト タイプ)、または曲率や方向などのその 他の要因に基づいて(ジグルやリラックスなどの単一のウェイト タイプ)、初 期値を設定または再設定できます。

このウィンドウは、選択されたポイント、またはメッシュが選択されている場合 はすべてのポイントに作用します。そのため、モデルの他の部分がすでにウェイ ト付けされていても、モデルの一部だけにデフォルト ウェイトの再設定や適用 を行うことができます。 **重要**: スティッキーやスライドウェイトのデフォルトを適用するときには、特定 のマッスルオブジェクトだけを対象にする場合がよくあります。たとえば、ス ライド用にカプセル/ボーンを作成し、スティッキーには使用しないとします。 このような場合でも、デフォルトウェイトを適用すると、スティッキーウェイ トも適用されます。これを修正するために、cMuscleObjectノードにはスティッ キーに作用(affectSticky)アトリビュートとスライドに作用(affectSliding) アトリビュートがあります。デフォルトウェイトを適用する前にこれを設定し ておくと、この情報を使用して必要に応じてノードが選択されます。

たとえば、ボーンの**スティッキーに作用をオフ**または0に設定しておくと、ス ティッキー ウェイトの設定時にはそのオブジェクトは使用されません。

デフォルト ウェイトを適用するには

 メインメニューバーからマッスル>ウェイト付け>デフォルトウェイト を適用(Muscle>Weighting>Apply Default Weights)を選択します。
 デフォルトウェイト(Default Weights)ウィンドウが表示されます。選 択したウェイト(Weight)タイプに応じて、複数の使用可能なオプション があります。詳細については、デフォルトウェイト(Default Weights) ウィンドウ(187ページ)を参照してください。

🐻 Default Weights			
Weight: Sticky	Smooth: 3		
	Falloff: 10.0		
By Direction	Direction: 0.0 -1.0 0.0		
	Angle: 45.0		
By Curvature	Curve: 5.0		
	Reverse Curvature		
✓ Prune weights to 3 decimal places.			

- 2 デフォルトを適用するウェイトのタイプを選択します。ウェイトのタイプ に応じて、異なるオプションが表示されます。
- 3 目的に合わせてスムース (Smooth) 値を設定します。どのポイントをどの ノードまたはどの値に適用するかが決まり、次にウェイトにスムース操作 が適用されます。スムース値は、スムース操作で行う反復回数を設定しま す。

4 デフォルトウェイトを適用するメッシュを選択します。メッシュの一部だけにデフォルトウェイトを適用する場合は、そのポイントだけを選択します。

ヒント: マッスル ペイント (Muscle Paint) ウィンドウを開いておくと、 操作が完了したときにウェイトを確認できます。

5 デフォルトウェイトを適用(Apply Default Weights)をクリックします。

マッスル ウェイトをペイントする

マッスル ペイント(Muscle Paint) ウィンドウでは、各種変形機能をペイント するために、さまざまなウェイト タイプが用意されています。ウェイトのペイ ントやデフォルト ウェイトの適用に加え、ウェイトのロード、保存、ミラー、 転送、削減もできます。

ウェイトをペイントするには

1 ウェイトをペイントするオブジェクトを選択します。

オブジェクトにはマッスル デフォーマが適用されている必要があります。 また、オブジェクトのポイントを選択することもできるので、選択したポ イントだけをペイントするように「マスク」して効率的にペイントできま す。

メインメニューバーからマッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights)を選択します。

ポリゴン メッシュを使用している場合は、マッスルのウェイトのペイント 機能は Maya ペイントと同様にカラー メッシュを描画します。NURBS サー フェスやサブディビジョン サーフェスでは、カラー メッシュの代わりにカ ラー ポイントが表示されます。

マッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンドウが表示され、ペイントを開 始できます。

注: スキン ウェイト ペイント カラーを表示するには、シーン ビューの表示(Show)メニューで、ロケータ(Locators)をオンに設定する必要があ ります。

100 | スキン デフォメーション

3 ウェイト(Weights) プルダウンで、ペイントするウェイト タイプを選択 します。デフォルトはスティッキー(Sticky)ですが、スライド(Sliding)、 方向(Direction)、またはその他の任意のウェイトを選択することもでき ます。

ヒント:最初にスティッキーウェイトをペイントするときには、ベースボーンまたはルートボーンを選択し、ウェイト(Weight)値を 1.0 に設定して、ウェイトの設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood)をクリックします。

これにより、ウェイト全体が 100% になるようにボーンまたはオブジェク トが塗りつぶされます。これを最初に実行しておかないと、**正規化** (Normalize) ボタンをオンにしても、1.0の正しく正規化されたウェイト がないため、ペイントしたときにポイントが間違って移動することがあり ます。

4 マッスルまたはボーンオブジェクトを選択し、メッシュのペイントを開始 します。

ヒント: シーン ビューで b キーを押しながら左右にドラッグし、ブラシの サイズを変更します。

- 5 (オプション)リグをアニメートしてウェイト付けの結果を試し、必要に 応じてウェイト付けをツィークします。
- 6 (オプション) ウェイト (Weights) プルダウンで別のウェイト タイプを 選択し、その他のウェイト タイプ (スライド (Sliding)、リラックス (Relax)、リンクル (Wrinkle)、ジグル (Jiggle)、サイクル (Cycle)、 レスト (Rest) ウェイトなど)で前のステップを繰り返します。

ヒント: ウェイト タイプを切り替えるときには、タイプを無効にすると処 理速度が向上します。たとえば、リラックスウェイトで作業するときには、 スライド ウェイトを無効にできます。

また、ウェイトをペイントするときにデフォーマを無効にして、より高速 なインタラクションを実現することも可能です。

その他のウェイトタイプでの作業が終了したら、スムースウェイトを使用 して問題を修正します。

各ポイントまたは複数のポイントにポイント ウェイトを設定するには

 マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウで、ペイント (Paint) オプ ションをオフにします。
 これでメッシュ上のポイントを直接選択して、スライダを使用してウェイ トを設定できるようになりました。ポイントが選択されていて、ライブアッ プデート (Live Update) がオンであれば、選択されたポイントの平均ウェ イトがウェイト (Weight) フィールドに表示されます。
 終了したら、ペイント モードに戻る場合は、現在選択しているポイントを 翌日知知らし、ペイント モードに戻る場合は、現在選択しているポイントを

選択解除し、ペイント(Paint)オプションをオンに戻して、メッシュ全体のペイントに戻ります。あるいは、いくつかのポイントを選択したままにしておくと、そのポイントだけがペイント可能になり、「マスク」して選択したポイントだけを効率的にペイントできます。

関連項目

- デフォルト ウェイトを適用する (98 ページ)
- ウェイトをミラーする (106 ページ)
- ウェイトを転送する (107 ページ)
- ウェイトを削減する (108 ページ)
- マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウ (182ページ)

ウェイトのロードと保存

ウェイトの保存(Save Weights) ウィンドウでは、オブジェクトのさまざまな 種類のウェイトをテキスト ファイルに保存できます。これらのウェイトは、ポ イントの順番や位置で同じオブジェクトまたは別のオブジェクトにリロードでき ます。さらに、ミラー オプションを正しく設定したポイント位置でメッシュを 保存して再ロードすることにより、ウェイトのロード/保存(Save/Load Weights) を使用してウェイト付けのミラーを実現できます(より高速なビルトインミラー リングを行う、独立したミラー ツールもあります)。

ウェイトを保存するには

メインメニューバーからマッスル>ウェイト付け>ウェイトのロード/保存(Muscle > Weighting > Load/Save Weights)を選択します。

102 | スキン デフォメーション

ウェイトの保存(Save Weights) ウィンドウが表示されます。

最上部のセクションには、ウェイトをロードまたは保存するマッスルシス テムと、使用するファイル名に関する共有情報が表示されます。2番目のセ クションには、各種タイプのウェイトを保存するオプションが表示されま す。3番目のセクションには、ロードオプションと関連する機能が表示さ れます。

🐻 Save Weights 📃 🗖 🗙				
Node: cMuscleCreatorMus1	<<<			
Filename: C:\Temp\wtsSticky.txt Weights: Sticky v				
Load				
Filename: Weights: Sticky 🗸 🗸 Normalize				
Load By: Pt. Order World Pos. Local Pos. 				
Point Position Match Tolerance: -1.000000				
✓ Prune weights to 3 decimal places.				
Mirror Pos.: • None • X • Y • Z				
Search: Replace:				
Select Influences from File Load Weights				

- 2 Muscle デフォーマが適用されたメッシュを選択し、ノード (Node) 領域 にあるロード選択
- **3** ファイル名を指定するか、 ボタンをクリックしてファイルを参照します。
- 4 ウェイト(Weights) プルダウン リストからウェイトのタイプを選択し、 ウェイトの保存(Save Weights) をクリックします。

指定した cMuscleSystem ノードで変形されたオブジェクトのすべてのポイント(現在選択されているポイントだけでなく)が保存されます。

ウェイトをメッシュにロードするには

メインメニューバーからマッスル>ウェイト付け>ウェイトのロード/保存(Muscle>Weighting>Load/Save Weights)を選択します。

ウェイトの保存(Save Weights)ウィンドウが表示されます。このウィン ドウにはウェイトのロード オプションも含まれます。

2 ウェイト(Weights) プルダウン リストからロードするウェイトのタイプ を選択します。

ウェイト タイプが似ていれば、保存したタイプとは別のタイプで再ロード が可能です。たとえば、スティッキー(Sticky)ウェイトとスライド

(Sliding) ウェイトは同じマッスルまたはボーンリストを使用するため、

一方で保存したものを他方で再ロードできます。ジグル(Jiggle)、サイク ル(Cycle)、レスト(Rest)、リラックス(Relax)、スムース(Smooth) ウェイトはすべて単純なポイント単位のウェイトのため、ウェイトを保存 したタイプとは別のタイプでロードできます。たとえばジグルのウェイト を保存し、レストウェイトに再ロードできます。

正規化(Normalize)オプションは自動的にオン/オフされますが、この値 を無効にして、各ポイントに対してロードされたウェイトが 1.0 に正規化 されるかどうか定義することもできます。この設定は、単純なポイント単 位のウェイトには影響しません。

3 ポイント順序(Pt. Order)、ワールド位置(World Pos.)、ローカル位置 (Local Pos.)のいずれを使用してロードするかを選択します。

ウェイトをロードするオブジェクトがポイント互換の場合は、ポイント順 序の方が格段に高速です。ポイントカウントを変更した場合や、別のオブ ジェクトに再ロードする場合は、ワールド位置またはローカル位置これら のモードは、メッシュに新規のエッジループが追加された場合やメッシュ が比較的似ている場合には、ウェイトを補間します。

許容値を0以上に設定すると、ポイントがオリジナルのメッシュに比較的 近い場合のみウェイトのロードが実行され、許容値を-1に設定すると無視 されます。小数点以下の任意の桁数でウェイトを切り捨てることもできま す。

ワールド位置/ローカル位置でロードする場合は、ロードされた情報をミ ラーする軸を指定できます。これは Search/Replace フィールドでよく使用 されます。

たとえば、キャラクタ用のウェイトを保存したが、実際には左側だけしか ウェイト付けをしていない場合、ミラー位置(MirrorPos.)にX軸を選択 し、適切な検索(Search)/置き換え(Replace)値(_Lや_Rなど)を入 力します。これにより、ロードされたポイントが反対側と比較され、名前 に基づいて一致するマッスルやボーンにウェイトが適用されます。 4 ウェイトをロードするポイントを選択します。何も選択していない場合は、 変形済みメッシュ上のすべてのポイントが自動的に選択されて、ロードされます。

ウェイトをミラーする場合は、ウェイトをロードしている側のポイントだ けを選択することが重要です。たとえば、リグの左側を正しくウェイト付 けし、そのウェイトを保存した場合、ロードするときには右側のポイント だけを選択し、右側の値を設定する適切なミラーオプションを設定します。

注: ロードされたウェイトは、選択したポイント、または何も選択していな い場合はすべてのポイントに適用されることを覚えておいてください。こ の点を利用して、ロードする必要があるポイントだけを選択することによ り、ロード時間が短縮されるだけでなく、そのままにしておきたいメッシュ 部分のウェイトが変更されるのを防ぐことができます。

ヒント:ファイルからインフルエンスを選択(Select Influences from File) をクリックすると、前に保存されたメッシュで使用していたオリジナルの カプセル、ボーン、マッスルをすべて再選択できます。これは、同じリグ を別のオブジェクトに再適用する場合や、マッスル デフォメーションを削 除してこれらの項目に再接続する場合に便利です。また、このオプション は検索/置き換えフィールドでも有効です。この場合は、反対側のマッスル を選択してマッスル デフォーマに接続します。

たとえば、左右の腕のメッシュがあり、左腕に対してスティッキウェイト を保存した場合、検索と置き換えを設定して名前を_Lから_Rに変更し、 ファイルからインフルエンスを選択をクリックします。検索/置き換えの設 定により、右側のインフルエンスが選択されるので、これを右側のメッシュ に接続します。

注: ウェイトを保存すると、後のロード操作で必要となるデータがすべて自動的に保存されます。ただし、サブディビジョン サーフェスからウェイト を保存したファイルは、現時点ではポイント位置を使用して再ロードする ことはできません。ポイント位置によるウェイト付けを使用する必要があ る場合は、NURBS オブジェクトまたはポリゴン メッシュ オブジェクトか らウェイトを保存してください。

関連項目

■ ウェイトの保存(Save Weights) ウィンドウ (188 ページ)

ウェイトをミラーする

ウェイトのミラ- (Mirror Weights) ウィンドウを使用すると、メッシュの片 方から他方にウェイト値をすばやく反射させることができます。**ウェイトの保** 存/ロード (Save/Load Weight) ウィンドウでもウェイトをミラーできますが、 **ウェイトのミラ**- ウィンドウは外部ファイルを必要としません。このツールは、 より簡単な最近接ポイント アルゴリズムを使用してポイントをマッチングして おり、そのためにより高速ですが、メッシュが左右対称かほぼ対称である場合に その機能が発揮されます。

他のウェイト ツールと同様に、**ウェイトのミラー**はメッシュ全体、または選択 したポイントだけに作用できます。

メッシュのウェイトをミラーするには

 メインメニューバーからマッスル>ウェイト付け>ウェイトのミラー (Muscle > Weighting > Mirror Weights)を選択します。

ウェイトのミラー(Mirror Weights) ウィンドウが表示されます。

 ウェイトをミラーするメッシュを選択し、
 をクリックしてウィンド ウにロードします。

ヒント: シーン内のマッスル変形オブジェクトのリストから選択するには、 ノード (Node) フィールドを右クリックします。

- 3 ウェイト (Weights) プルダウン リストから、ミラーするウェイト タイプ を選択します。
- 4 ミラーリング時に使用する位置を選択します。ワールド位置(World Pos.) はメッシュのワールド位置を使用し、ローカル位置(Local Pos.)はオブ ジェクト位置を使用します。
- 5 ポイント位置の一致許容値(Point Position Match Tolerance)を指定しま す。

反対側のポイントと位置で一致させるため、一致していると判断される最 大距離を指定します。値を大きくすると、一致点が多くなります。値を小 さくすると、より精密になります。デフォルトの許容値は -1 で、これは距 離に関係なく最近接ポイントを一致させます

106 | スキン デフォメーション

ヒント: 複数のデフォルト設定を表示するには、許容値(Tolerance)フィールドを右クリックします。

- 6 方向をミラー平面に設定します。これによりデフォルトが+Xから-Xになり、-X側のポイントにウェイトが設定されます。
- 7 命名規則に従って検索(Search)/置き換え(Replace)文字列を入力しま す。スティッキーウェイトなどのインフルエンスベースのウェイトを適切 にミラーするためには、マッスルやボーンに何らかの命名規則に従って名 前を付ける必要があります。たとえば、左側のマッスル名の最後に_Lを、 右側には_Rを付けた場合、左側から右側にミラーするには、検索に_Lを、 置き換えに_Rを指定します。

ヒント:一般的な命名規則を表示するには、検索(Search)フィールドを右 クリックします。

- 8 ウェイトをロードするポイントを選択します。ポイントが選択されていない場合は、メッシュ上のミラーする側にあるすべてのポイントが使用されます。
- **9 ウェイトのミラー(Mirror Weights)**をクリックします。ウェイトが一方 から他方にミラーされます。

ウェイトを転送する

ウェイトの転送(Transfer Weights)ウィンドウにより、1つまたは複数のボーン、マッスル、カプセル、または方向ノードから、別のものにウェイトを移動できます。一般的には、このツールは1つまたは複数のウェイト付けされたジョイントがあって、このインフルエンスから別のインフルエンスにすべてのウェイトを転送する場合、たとえば腕のボーンから腕のマッスルにウェイトを移動する場合などに使用されます。別の使用方法として、誤って間違ったオブジェクトのポイントをウェイト付けした場合にも使用できます。このような場合は、オリジナルのインフルエンスから正しいインフルエンスに単純にウェイトを移動するだけです。このウィンドウは選択されたポイントに作用します。ポイントが選択されていなければ、すべてのポイントが使用されます。

ウェイトを転送するには

- メイン メニュー バーからマッスル > ウェイト付け > ウェイトの転送 (Muscle > Weighting > Transfer Weights)を選択します。
 ウェイトの転送(Transfer Weights) ウィンドウが表示されます。
- 2 マッスル デフォーマによって変形されたメッシュを選択し、最初のフィー ルドの横にある選択項目をロード ボタン をクリックします。
- 3 ウェイトの転送元のオブジェクトを選択し、フィールド横の ボタン をクリックします。1つまたは複数のオブジェクトを指定できます。たとえ ば、複数の首のボーンから1つのボーンにウェイトを転送することも可能 です。
- 4 ウェイトの転送先のオブジェクトを選択し、フィールド横の ≤<< ボタン をクリックします。
- 5 ウェイトを転送する準備が整ったら、転送するポイントを選択します。ポ イントが選択されていなければ、メッシュ全体が使用されます。
- ・選択したポイントのウェイトを転送(Transfer Weights for Selected Points)をクリックします。

ウェイトを削減する

ウェイトの削減(Prune Weights)ウィンドウにより、指定した値未満のウェイトをゼロにすることができます。これは、小さいウェイトまたは不要なウェイトを削除し、一般的にはノード上の不要なウェイトをクリーンアップする効果があります。

- 1 ウェイトを削減するマッスルデフォーマを適用したメッシュを選択します。
- メインメニューからマッスル>ウェイト付け>ウェイトの削減(Muscle > Weighting > Prune Weights)を選択します。
 - ウェイトの削減(Prune Weights)ウィンドウが表示されます。

108 | スキン デフォメーション



- **3 ウェイト (Weight)** プルダウン リストから、削減するウェイト タイプを 選択します。
- 4 削減する値を入力します。この値以下のウェイトが0になります。正規化 するウェイトタイプ(スティッキーウェイトなど)では、必要な残りの ウェイトはすべて一番大きいウェイトに再配分されます。
- 5 ウェイトの削減 (Prune Weights) をクリックします。

コリジョン

4

コリジョン

Maya[®] マッスルには、どのようなデフォーマ上にも適用できるコリジョンオプ ションが多数用意されています。たとえば、skinCluster の最上部にマルチコリ ジョンまたはマッスルコリジョンを適用して、セルフコリジョンエフェクトを得 ることができます。コリジョンはデフォーマベースで、シミュレーションではな いため、準備や前処理は必要ありません。

コリジョンにはスマートコリジョン、セルフコリジョン、マルチオブジェクトコ リジョン(セルフ コリジョンの結果を含む)の3種類があります。また、トラン スフォーム ノードにスライド エフェクトを提供する KeepOut というスライド/コ リジョンタイプのノードもあります。以降のセクションでは、それぞれのコリジョ ンタイプについて説明します。

- スマート コリジョン (112 ページ)
- セルフ コリジョン (114 ページ)
- マルチオブジェクト コリジョン (115 ページ)
- KeepOut ノードを使用したコリジョンのトランスフォーム (116 ページ)

関連項目

■ コリジョンアトリビュート (234 ページ)

スマート コリジョン

スマート コリジョンはコリジョンデフォメーションの1つで、マッスルデフォー マの一部です。このコリジョンでは、コリジョンの領域と、処理方法を決定する ための cSmartCollide プレーン ノードを設定することができます。単純な平面 コリジョン エフェクトになりますが、より精度の高い正確なメッシュ同士のコ リジョンに切り替えることもできます。

コリジョンを提供するほか、cSmartCollide ノードと変形では、基本的なスキニ ングエフェクトを増大させるその他のウェイト タイプも使用できます。これら のウェイトは、余分なジョイントやマッスルを使用せずに、メッシュ部分のバル クまたはバルジアウト、リンクルエフェクトの作成、ポイントのスライドなど、 ジョイントの位置でより適切な変形が行えるようにします。

たとえば、cSmartCollide ノードは、2 つのジョイントが一緒に回転している メッシュの部分をバルジ アウトするウェイトを提供します。この結果、実際の マッスルを使用するというオーバーヘッドなしに、指のようなものにすばやくボ リューム エフェクトを加えることができます。

スマート コリジョンは、Maya マッスルの提供する 3 種類のコリジョン手法の 中で最も高速です。

スマート コリジョンについて

スマート コリジョン ノードの主な用途の 1 つに、スキニングで発生する一般的 な問題の解決があります。実際にコリジョンを起こさずに、スマート コリジョ ンを使用できます。マッスル スマート コリジョン ノードにはいくつかの動きに 関するアトリビュートがあります。これらのアトリビュートはウェイト付けされ たポイントに適用されるモーションの強さや量をコントロールするもので、それ ぞれ対応するウェイト マップが存在します。たとえば、バルク A (bulkA) /バ ルク B (bulkB) アトリビュートは、ペイント可能なスマート バルク (Smart Bulk) ウェイトに関連しています。

2つのジョイントをアラインすると、ペイントされたウェイトやアトリビュート は多かれ少なかれ、メッシュに影響を与えます。つまり、動きのウェイトのエ フェクトは、ジョイントの回転に基づいて「トリガ」されます。Bジョイントが Aジョイントに向かって回転すると、エフェクトは増大します。各ポイントは、 ペイントされたウェイトに基づいてアトリビュートごとに調整されます。たとえ ば、バルク1.0 でペイントされたウェイトには、そのポイントが「領域」ウェイ ト A または B のどちらに含まれているかに応じて、バルク A (Bulk A) または **バルクB**(Bulk B) アトリビュートの値が掛けられます。ポイントがオリジナル の「領域」ウェイトに含まれていない場合、変形はされません。

ウェイトの大半では、ジョイントが一緒に回転している側面では、その反対側よ りも多くのポイントが移動されるということに注意しておくことが重要です。た とえば、指を内側に曲げる場合、メッシュ全体の周りにペイントされているとし ても、バルク(Bulk)ウェイトは主に指の「内側」部分に影響を与えます。この ようにして、脊椎や腹部全体などキャラクタの周囲にウェイトを適用できます が、実際に膨らむ領域が発生するのは、その方向にジョイントを回転させたとき のみです。この減衰角度を設定するには、マッスルスマートコリジョンノード の最小角度(angleMin)アトリビュートと最大角度(angleMax)アトリビュー トを使用します。この減衰角度は、暗示的にジョイントの回転に基づいて2つ のジョイントを二分割するように定義されます。

動きのオプションの他、スマート コリジョン ノードは平面コリジョン、または メッシュ-メッシュ コリジョンも提供します。平面化またはコリジョンされる領 域のウェイトとこのコリジョンに基づいてボリューム化または膨らませる領域を ペイントできます。

コリジョン アトリビュートの詳細については、cMuscleSmartCollide ノード (209 ページ)を参照してください。

スマート コリジョン領域ウェイト

作成とコネクトが完了したら、各マッスルスマートコリジョンノードのウェイ トを設定する必要があります。これは手動、またはデフォルトウェイト(Default Weights)ウィンドウを使って行います。スマートコリジョンノードには主に、 メッシュのスキン結果のモーションに影響するウェイトと、実際のコリジョンに 関係するウェイトとアトリビュートの2つの機能があります。たとえば、ポイ ントの移動に影響するバルクまたはスライドウェイトがあります。これは、「つ まむ」など必要のないスキニングアーティファクトの削除に役立ちます。これ らのツールをすべて使用するためには、ポイントのセットまたは「領域」を2 つウェイト付けして、デフォーマがこれらの領域を区別できるようにする必要が あります。

関連項目

- cMuscleSmartCollide /-F (209 $\neg \vec{>}$)
- デフォルト ウェイト (Default Weights) ウィンドウ (187 ページ)

セルフ コリジョン

マッスルデフォーマは自動計算されたセルフコリジョンも提供します。これは、 ユーザにより定義されたコリジョンエリア グループに基づくものです。計算す る必要のない領域を除外するためにセルフ コリジョン ウェイトをペイントする こともできますが、セルフ コリジョンの有効化に時間がかかる可能性がありま す。これは、作成するメッシュ グループ全体が対象となるからです。この手法 の長所は、スマート コリジョン (Smart Collision) と比べてセットアップ作業 や対応しなければならないアトリビュートの数が少なく、2つのジョイントで接 続されていない領域でも機能することです。計算により、セルフ コリジョンす ると定義された領域が自動的に検索、解決、補正されます。

セルフコリジョンは時間をベースにしていないため、スタティックモデルにマッ スル デフォーマを適用して、コリジョンを解決させることができます。マッス ルペイント(Muscle Paint)ウィンドウで使用できるペイント可能なセルフコ リジョン ウェイトには、次の3種類があります。

- セルフ コリジョン ウェイトは、衝突させる必要のない部分をメッシュから 除外するために使用します。たとえば、キャラクタの頭部が事実上固定され ている場合は、コリジョンの計算から頭部を除外することができます。
- セルフ剛性ウェイトは、衝突時にメッシュの一部をより固く、または柔らかくするために使用します。たとえば、腕は腹部よりも固いので、より高いウェイトを設定してペイントします。
- セルフボリューム化ウェイトは、メッシュで、他の部分よりも大きく移動またはボリューム化する領域をペイントするために使用します。





モデル ©2007 作成者: Chris Moffat

114 | コリジョン

オリジナル メッシュ

セルフコリジョンを適用

セルフ コリジョンと、モデルの解像度は関連しているということに注意するこ とが重要です。モデルの解像度が高ければ高いほどコリジョンの速度は遅くなり ますが、精度はより高くなります。コリジョンの一部はポイント ベースで行わ れるため、衝突する領域がメッシュ上のポリゴンよりも小さい場合には発生しま せん。一般に、使用するモデルが精密であればあるほど、コリジョンはよりス ムースになり、精度もより高くなります。

また、コリジョンはユーザが定義したポイントグループで発生します。これは、 ポイントのAセットとBセットをペイントするSmartCollide ノードと似ていま す。セルフ コリジョンでは、セルフ コリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィンドウ(マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > セルフ コリ ジョンのグループ化(Muscle > Self/Multi Collision > Self Collision Grouping))を使用して、衝突する領域のペアをマークします。たとえば、太 ももとふくらはぎを衝突させるには、各領域のポイントを定義するグループを作 成し、これを cMuscleSystem ノードに格納します。

関連項目

- セルフ コリジョンを設定する (120 ページ)
- コリジョンアトリビュート (234 ページ)

マルチオブジェクト コリジョン

Mayaマッスルには、複数のオブジェクト、または単一のオブジェクトに適用で きる マッスル マルチ コリジョン デフォーマが別途用意されています。これに より、オブジェクト同士のコリジョンエフェクトを作成し、サーフェスで Maya マッスルのセルフ コリジョン機能を使用できます。

これは通常の Maya デフォーマなので、ペイント可能なウェイト タイプはビル トインの Maya デフォーマ ウェイト 1 つのみです。このウェイトは、エフェク トのカリングやエンベロープではなく、オブジェクトの剛性設定に使用されま す。



衝突前の複数のオブジェクト

複数の衝突デフォーマが適用

関連項目

■ cMuscleMultiCollide /- F (204 ページ)

KeepOutノードを使用したコリジョンのトラン スフォーム

Maya マッスルのコリジョン/スライド ユーティリティには、もう1つ、マッス ル KeepOut ノードもあります。このノードが任意のマッスルオブジェクト(カ プセル、マッスル、ボーンなど)と「スライド」、つまり衝突するように、グ ループなどのトランスフォーム ノードを移動/回転させることができます。

これにより Maya マッスルのスライディング アルゴリズムを利用して、スライ ド タイプまたはコリジョン タイプのエフェクトを使用できますが、トランス フォーム オブジェクトが必要です。マッスル KeepOut ノードを使用して、さま ざまなおもしろいリギングやコンストレインを作成できます。

たとえば、地表プレーンを作成してマッスルオブジェクト(Muscle Object)に して、プレーンに対してスライドするようにアニメーション コントロールにリ グを設定すると、地表にロックするエフェクトが得られます。あるいは、腕が常 に胸の外側に来るように、平らにした特殊なジョイントを腕にペアレント化し、 腕を下げたときに胸のカプセルまたはマッスル オブジェクトと衝突させること ができます。ジョイント/トランスフォームおよびコンストレインを使用すると、 KeepOut ノードから、カスタム リギングと一緒にスライドエフェクトが得られ ます。

筋肉や衣類のようなオブジェクトについては、胸郭カプセルまたはマッスルを作成し、このノードから「遮断する」ためのジョイントを設定します。これによ

116|コリジョン

り、アニメータが腕を下ろすポーズを取らせても、スキンジョイントは衝突し、 貫通しません。

関連項目

- KeepOut コリジョンに対しオブジェクト階層をリグ設定する (122 ページ)
- cMuscleKeepOut /- F (203 $\sim \checkmark$)

マッスル スマート コリジョンを設定する

スマート コリジョンを使用するためには、マッスル スマート コリジョン ノー ドを作成する必要があります。このノードは 2 つの異なるジョイントやトラン スフォームに接続する特殊なロケータで、その間に留まるようにマッスルスマー ト コンストレイン ノードを使って自動的にコンストレインされます。このノー ドが移動、回転するに従って、その影響は各種ウェイトで使用されるさまざまな 方向に波及し、スキニングを支援します。また、このプレーンは実際のコリジョ ンの実行方法を決定する際に役立ちます。

マッスル スマート コリジョン ノードを作成するには

2つのジョイント、ボーン、またはトランスフォームを選択します。この場合、選択の順序が重要です。

1番目のジョイントは通常「A」領域またはサイドを、2番目のジョイント は「B」サイドを表します。普通、接続されている2つのジョイントを選択 しますが、厳密にはこれは必要ではありません。たとえば、上腕ボーンと 下腕または肘ボーンを選択できます。

メインメニューバーからマッスル>スマートコリジョン>マッスルスマートコリジョンの作成(Muscle>Smart Collision>Create Muscle Smart Collide)を選択します。

新しいマッスルスマートコリジョンロケータが作成されます。このノード は、変形に関連するアトリビュートをいくつか持っています。このノード を使用するには、まず、マッスル変形オブジェクトに接続する必要があり ます。



選択したマッスル スマート コリジョンノード を接続する

作成したマッスル スマート コリジョン ノードは、マッスル デフォーマで接続 してウェイト付けする必要があります。

ノードをマッスル変形オブジェクトに接続するには

- 1 1つまたは複数のマッスルスマートコリジョンノードと、1つまたは複数のマッスル変形オブジェクトを選択します(選択の順序は重要ではありません)。
- メインメニューバーからマッスル>スマートコリジョン>選択したマッ スルスマートコリジョンノードを接続(Muscle > Smart Collision > Connect selected Muscle Smart Collide nodes)を選択します。
 これでコリジョンノードが接続され、ウェイト付けや使用が可能になります。

マッスル スマート コリジョン ノードを接続解除するには

- 1 つまたは複数のマッスルスマート コリジョン ノードと、1 つまたは複数の Maya マッスル:変形オブジェクトを選択します(選択の順序は重要ではありません)。
- メインメニューバーからマッスル>スマートコリジョン>選択したマッ スルスマートコリジョンノードを接続解除(Muscle > Smart Collision > Disconnect selected Muscle Smart Collide nodes)を選択します。 コリジョンノードが切断され、cMuscleSystemノードに影響を与えなくな ります。

スマート コリジョン領域ウェイトを設定する

マッスル スマート コリジョン ノードの初期ウェイトを設定するには

- 1 前述の手順に従ってノードを作成し、デフォーマに接続します(詳細については、マッスルスマートコリジョンを設定する(117ページ)と選択したマッスルスマートコリジョンノードを接続する(118ページ)を参照してください)。
- 2 まだ完了していない場合は、変形中のオブジェクトの cMuscleSystem ノー ドで、スマート コリジョン (smartCollision) アトリビュートを「オン」 に設定します。これにより、デフォーマでスマート コリジョン (Smart Collision) が有効化されます。
- ペイントウェイト(Paint Weights)ウィンドウで、コネクトされたノードのスマート領域A(Smart Region A)とスマート領域B(Smart Region B)のウェイトを設定します。

通常、各領域のウェイトには 100% の値を設定します。プレーンの「前」 の領域は「A」、後ろの領域は「B」になります。たとえば、コリジョン ノードが肘にペアレント化されている場合、上腕のポイントが「A」、前腕 のポイントが「B」です。これらの領域は、AまたはBアトリビュートによ る変形や衝突が許されているポイントを判断するために役立ちます。

ポイントのスパンが共有の場合は、ウェイトを 1.0 ではなく 0.5 に設定し ます。これにより、ポイントは両方のアトリビュートの影響を受けるよう になります。



サンプル領域 "A" のウェイト

サンプル領域 "B" のウェイト

4 その他のスマートコリジョンウェイト付けを行い、ノードで必要な値を設 定します。

関連項目

■ マッスル ペイント (Muscle Paint) ウィンドウ (182 ページ)

セルフ コリジョンを設定する

セルフ コリジョンを使用するには

- 1 まだ完了していない場合は、オブジェクトにマッスルデフォーマを適用します。
- メインメニューバーからマッスル>セルフ/マルチ コリジョン>セルフ コ リジョンのグループ化(Muscle > Self/Multi Collision > Self Collision Grouping)を選択します。
- 3 ウィンドウで、作成するグループの名前を指定します。
- 4 衝突させる領域の前半のポイントを選択します。たとえば、上腕領域のポ

イントを選択し、選択したポイントのロード

- 5 衝突させる領域の後半を選択し、 「「「「ボタンをクリックして、それらの ポイントを ポイント B (Pts B) セクションにロードします。
- 6 新規グループ化の作成(Create New Grouping)をクリックします。 これでこのデータがマッスルデフォーマに格納され、メッシュの衝突する 領域が設定されます。
- 7 オブジェクトのマッスル デフォーマを選択します。
- 8 チャンネル ボックス(Channel Box)またはアトリビュート エディタ (Attribute Editor)で、セルフ コリジョン(selfCollision)アトリビュー トをオンに設定します。

コリジョンが計算されます。

9 必要に応じて、セルフコリジョン(Self Collision)、セルフ剛性(Self Rigidity)、セルフボリューム化(Self Volumize)のウェイトを調整しま す。また、セルフコリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィ ンドウ(190ページ)のセルフコリジョンに関連するアトリビュートも調整で きます。

マッスル マルチ コリジョンを設定する

オブジェクトにマルチオブジェクト コリジョンを適用するには

- 1 マルチオブジェクト コリジョンで使用するオブジェクトを選択します。
- メインメニューバーからマッスル>セルフ/マルチコリジョン>マッスル マルチコリジョンデフォーマを適用(Muscle > Self/Multi Collision > Apply Muscle Multi Collide Deformer)を選択します。

新しいマッスル マルチ コリジョン デフォーマが適用され、すべてのオブ ジェクトに接続されます。チャンネル ボックスまたはアトリビュート エ ディタで、ボリューム化やセルフ コリジョンなどその他のオプションも設 定できます(セルフ コリジョンを設定すると、各オブジェクトでマルチオ ブジェクト コリジョンとともにセルフ コリジョンが計算されるようになり ます)。

3 剛性ウェイトを調整する場合は、対象となるオブジェクトを選択してから、 修正>ペイントアトリビュートツール(Modify>Paint Attributes Tool)

□ を選択します。

ペイントアトリビュート (Paint Attributes) ツールが表示されます。ウェ イト「cMuscleMultiCollide#.weights」が**ウェイト (Weights)** ボタンに 表示されます。

表示されない場合は、次の MEL コマンドを使用してウェイトをプリント可 能に設定します。

makePaintable -attrType "multiFloat" -sm "deformer"
"weightGeometryFilter" "weights" makePaintable -attrType
"multiFloat" -sm "deformer" "cMuscleMultiCollide" "weights"

4 ペイント ウェイトを開始します。

ウェイトの値を小さくすると、マッスルデフォーマの場合とは反対の動作 をします。この場合、ウェイト0の方が剛性が高くなり、ウェイト1(デ フォルト)はソフトになります。

5 エフェクトの修正や変形の削減/削除が必要な場合は、メンバーシップの編 集(Edit Membership)など通常の Maya メンバーシップ ツールを使用し て、計算からポイントを削除します。

デフォルトでは、**ボリューム化(Volumize)**は0に設定されていますが、 デフォーマで大きくすることができます。

関連項目

■ マルチオブジェクト コリジョン (115 ページ)

KeepOutコリジョンに対しオブジェクト階層を リグ設定する

KeepOut に対してオブジェクト階層をリグ設定するには

- KeepOut 機能にリグを設定するオブジェクトを選択します。 選択したオブジェクトは、アニメータがポーズの作成に使用する「アニメー ションコントロール」とみなされます。子オブジェクトはすべて KeepOut ノードの下で再ペアレント化され、任意の数のマッスル オブジェクトと衝 突させることができます。
- メイン メニュー バーからマッスル > セルフ/マルチ コリジョン > KeepOut に選択項目をリグ設定(Muscle > Self/Multi Collision > Rig selection for KeepOut)を選択します。

階層の子として新しいグループが挿入されます。デフォルトでは、この KeepOut ノードは子がマッスル オブジェクトに入らないように、X 軸に対 して投影を試みます。

マッスル KeepOut ノードは必要な情報を計算し、KeepOut ノードの設定 用のその他のアトリビュートを備えます。「ドリブン」グループと呼ばれ る、その下にグループ化されているグループは停止するか、またはオブジェ クトと衝突します。

この結果、KeepOut ノードをマッスルオブジェクトに接続できるようになります。マッスルと KeepOut を接続する (123 ページ)を参照してください。

122|コリジョン

関連項目

- KeepOut ノードを使用したコリジョンのトランスフォーム (116 ページ)
- cMuscleKeepOut /- F (203 $\sim \checkmark$)

マッスルと KeepOut を接続する

KeepOut 階層にリグを設定したら、この階層と衝突させる1つまたは複数のマッ スル オブジェクト ノード(カプセル、ボーン、マッスルなど)と接続する必要 があります。

- 1 マッスル KeepOut ロケータまたは親グループを選択します。
- Ctrl キーを押しながらクリックして、マッスルオブジェクトまたは衝突の 対象となるオブジェクトを選択します。
- 3 マッスル>セルフ/マルチコリジョン>マッスルをKeepOutに接続(Muscle > Self/Multi Collision > Connect Muscles to KeepOut)を選択します。 ノードが接続され、ドリブン グループは、常に接続されたマッスル オブ ジェクトの外側になるように、指定された方向にスライドを試みます。

KeepOut 計算からマッスル オブジェクトを接続解除するには

- 1 マッスル KeepOut ロケータまたは親グループと接続先のマッスルオブジェ クトノードを選択します。
- メイン メニュー バーからマッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスル を KeepOut から接続解除(Muscle > Self/Multi Collision > Disconnect Muscles from KeepOut)を選択します。

ノードが切断され、マッスル KeepOut が影響を受けなくなります。

関連項目

■ cMuscleKeepOut /- F (203 $\sim - \checkmark$)

キャッシング

5

ポイントキャッシング

Maya®マッスルデフォーマのポイントキャッシング機能では、変形が発生するま でのすべてのポイントに関する情報をキャッシュできます。これにより、主とな る変形とアニメーションが完了した後のフィードバックの表示速度が上がります。 たとえば、この機能を使用して、ライティングやレンダリング時のタイムライン のスクラブ速度を上げることができます。

ジグルとリラックスの変形機能と同様、キャッシングはデフォーマの独立した機 能です。つまり、デフォーマでスキニングやその他の計算を行っていないときで も使用できるということです。その他のデフォーマの一番上に適用してオブジェ クトのキャッシュ データを読み書きすることができます。

キャッシングを無効にしたり**書き込みノード(write-node)**モードに設定すると、 主となるデフォーマは有効になっている設定についてはすべて計算を行います。 読み取りノード(read-node)モードでキャッシングを行うと、主な計算が無効に なり、単純なポイントキャシュが実行されます。

ファイル キャッシュで、アトリビュート エディタ (Attribute Editor) を使用す るかメインメニューのマッスル>キャッシング>ファイル キャッシュの場所を設 定 (Muscle > Caching > Set Location of Cache File)を選択してファイルを格納 する場所を設定できます。

キャッシュ(Cache)を書き込みファイル(write-file)に設定すると、各フレームで、指定した場所とファイル名に基づいてメッシュのポイントに関する情報を 含む1つの ASCII テキストファイルが出力されます。ノードベースのキャッシン グでは、**キャッシュ パス(Cache Path)**の機能は使用できません。 **注**: キャッシングには Maya のジオメトリ キャッシュ機能を使用することもで きます。詳細については、『アニメーション』マニュアルの「ジオメトリのキャッ シュの概要」を参照してください。

関連項目

■ cMuscleSystem /- F (225 $\neg - \vec{v}$)

キャッシュを作成する

キャッシュを作成するには

- 1 マッスル変形オブジェクトを選択します。
- メイン メニュー バーからマッスル > キャッシング > キャッシュの作成 (Muscle > Caching > Create Cache)を選択します。

キャッシュの生成(Generate Cache)ウィンドウが表示されます。

- 3 キャッシュを作成する開始(Start)フレームと終了(End)フレームを入 力します。デフォルト値は現在選択されているタイムラインの範囲に基づ きます。
- **4 キャッシュ先(Cache To)**オプションで、キャッシュを外部ファイルに生成するか、内部的にノードに作成するかを指定します。



5 メッシュを選択し、**選択したオブジェクトのキャッシュを生成**(Generate Cache for Selected Objects)をクリックします。

タイムラインが自動的にスクラブし、キャッシュが格納されます。完了す ると、影響を受けた各オブジェクトに作成されたキャッシュタイプのキャッ シュアトリビュートが読み取り(Read)モードに設定されます。

ノードキャッシュを削除する

ノードベースのキャッシュを削除すると、ファイル サイズが小さくなります。

注: ファイルキャッシュを削除するには、ファイルを手動で削除する必要があり ます。

ノードベースのキャッシュを削除するには

- メインメニューバーからマッスル>キャッシング>ノードキャッシュの 削除(Muscle > Caching > Delete Node Cache)を選択します。
- 2 キャッシュの削除(Delete Cache) ウィンドウで、削除するフレーム範囲 を入力します。
- 3 選択したオブジェクトのノードキャッシュを削除(Delete Node Cache for Selected Objects) をクリックします。

テクニカル API

6

Maya マッスルのコマンド

ここでは、Maya マッスル プラグインに用意されている各種コマンドについて説 明します。これらのコマンドは Maya マッスル スクリプトで使用できますが、カ スタム MEL スクリプトでも使用できます。

ヘルプを表示するには、コマンドに -h オプションまたは -help オプションをつけ て実行します。また、多くのコマンドでは、オプションをつけずにコマンドを入 力してヘルプを表示することもできます。たとえば、「cMuscleBindSticky -h;」 と入力すると、cMuscleBindSticky コマンドのヘルプが表示されます。さらに、 これは Maya「help」コマンドにも連携しているため、「help cMuscleAbout」と 入力すると、このコマンドに関する簡単な情報を表示できます。

関連項目

■ マッスルノード (195 ページ)

cMuscleBindSticky

説明: マッスル デフォーマへの NURBS マッスルのスティッキー バインド情報を 計算します。

フラグ:

ショートフ ラグ	ロング フラ グ	引数	説明
-c	-cbind		指定されたマッスルからの距離に基づい て、デフォルトスティッキー バインド の中心と全体的な距離を計算します。返 される値は4つで、最初の3つは中心の X、Y、Z 値、4つめはデフォルトの距離 です。
-d	-dist	float	マッスルの中心から、バインドの影響を 受けるポイントまでの最大距離。
-sys	-system	string	スティッキー バインド先のマッスル デ フォーマ ノード。
-mus	-muscle	string	バインドの対象となるマッスル (cMuscleObject)ノード。あらかじめ、 システムノードに接続しておく必要があ ります。
-mi	-mindex	int	マッスルの直接インデックス 0…n。バイ ンドするには、このフラグまたは -muscle を指定する必要があります。

例

```
cMuscleBindSticky -system cMuscleSystemNode -muscle
cMuscleObjectNode ; // Perform sticky bind on given muscle to
system node.
cMuscleBindSticky -system cMuscleSystemNode -mindex 0 ; // Perform
sticky bind on first muscle to system node.
cMuscleBindSticky -system cMuscleSystemNode -mindex 0 -d 2.5 ; //
Perform sticky bind on first muscle to system node, but only to
points within 2.5 units from the center of the muscle.
float $result[4] = `cMuscleBindSticky -cbind -muscle
cMuscleObjectNode` ; // Calculate best distance and center for
sticky distance binding.
```

cMuscleCache

説明:マッスル変形オブジェクトを経時的にキャッシュします。

フラグ:

ショートフ ラグ	ロング フラ グ	引数	説明
-е	-endf	int	キャッシュ時に使用する終了フレーム。
-m	-mode	string	書き込むキャッシュのタイプ(「node」 または「file」)。指定しなかった場合は、 デフォルトで「node」が指定されている とみなされます。
-s	-start	int	キャッシュ プロセスで使用される開始フ レーム。

例

cMuscleCache -start 0 -end 100 -mode "file" cMuscleSystem1 cMuscleSystem2 ; // Write to external file cache for the two given cMuscleSystem // nodes from frame 0 to 100.

cMuscleCompIndex

説明: 選択された NURBS コンポーネント CV では、スクリプト化またはプログ ラム化されたデフォーマにより MltGeometry ループで認識される内部インデッ クスに対応する単一のエントリ インデックスを返します。

フラグ:

なし

例

cMuscleCompIndex myNurbsSurface.cv[3][2] ; // Get index number as a single order for this vert.

cMuscleQuery

説明:マッスルデフォーマノードに関する情報を取得します。

フラグ:

ショート フ ラグ	ロング フラ グ	引数	説明
-dir	-direction		システムに関連付けられている方向 (cMuscleDirection)ノードを返します。
-geo	-geometry		このシステムにより変形されるジオメト リを返します。
-idx	-index		マッスル/方向の名前ではなく、これらの 接続先の論理インデックスを返します。
-mus	-muscle		システムに関連付けられているマッスル/ ボーン(cMuscleObject)ノードを返しま す。
-smr	-smartcollide		システムに関連付けられている smartcollide ノードを返します。
-sys	-system	string	情報の取得元であるマッスル デフォー マ。

例

```
cMuscleQuery -system cMuscleSystemNode -muscle; // Return all
muscles tied to the system node.
cMuscleQuery -system cMuscleSystemNode -direction ; // Return all
dir's tied to the system node.
cMuscleQuery -system cMuscleSystemNode -mus -idx ; // Return the
indexes the muscles are connected into. // ie:
system.muscleData[#], this returns the #.
cMuscleQuery -system cMuscleSystemNode -dir -idx ; // Return the
indexes the directions are connected into. // ie:
system.dirData[#], this returns the #.
cMuscleQuery -system cMuscleSystemNode -geometry ; // Return the
name of the geometry this system is deforming.
```
cMuscleRayIntersect

説明: サーフェスと交差する光線の最近接位置ポイントを返します。X、Y、Z、 0 または 1 (成功した場合)を返します。

フラグ:

ショートフ ラグ	ロング フラ グ	引数	説明
-ba	-boneangle	float	ボーンを成長させる角度を指定します。 デフォルトは-1で、これは無視を意味し ます。それ以外の場合は、0~180の範 囲で指定します。
-bpt1	-bonepoint1	float float float	ボーンの開始位置を指定します。デフォ ルトは 0,0,0 です。
-bpt2	-bonepoint2	float float float	ボーンの終了位置を指定します。デフォ ルトは 0,0,0 です。
-loc	-local		指定されたオブジェクト空間で交差しま す。それ以外の場合は、デフォルトとし てワールド空間が使用されます。
-mlt	-mult	float	最終結果を調整するために、最終ポイン ト距離に乗算される値。たとえば、2.0 は通常の 2 倍遠くにあるポイントを返し ます。デフォルトは 1,0 です。
-off	-offset	float	その地点からポイントを内方向にオフ セットするための値。これは、ヒット サーフェスからの脂肪オフセットをシ ミュレートします。デフォルトは 0,0 で す。
-pt1	-point1	float float float	光線の開始位置を指定します。デフォル トは 0,0,0 です。
-pt2	-point2	float float float	光線の終了位置を指定します。デフォル トは 0,1,0 です。

cMuscleRayIntersect -pt1 0 0 0 pt2 0 1 0 pCube1 ; // Return location of ray intersect from pt1 to pt2 on surface.

cMuscleRelaxSetup

説明:メッシュを変形するためのマッスルデフォーマを準備します。デフォーマ を実行できるようにするには、まず、このコマンドを実行する必要があります。 このコマンドの名前や引数は以前と変わっていませんが、旧バージョンでは、リ ラックス セットアップにのみ使用されていました。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-gen	-genspring		リラックスの新しいスプリング情報を生成し ます。

例

cMuscleRelaxSetup -gensprings cMuscleSystem1 ;

cMuscleSplineBind

説明:指定された cMuscleSplineDeformer のジオメトリをバインド、またはシェ イプします。

フラグ:

ショート フラグ	ロングフ 引数 ラグ	説明
-b	-bind	バインドを実行します。
-ер	-endpts	サーフェスの開始/終了ポイントの位置を返し ます。返される値は6つで、最初の3つはワー ルド空間での開始ポイントのX、Y、Z 位置、 残りの3つは終了ポイントのX、Y、Z 位置で す。

例

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-si	-sindex	int	格納するカスタム シェイプ インデックス。
-tgt	-target	string	シェイプ作成のターゲット シェイプ。

例

cMuscleSplineBind -bind cMuscleSplineDeformer1 ; // Perform bind on given muscle spline deformer, so deformation // can occur. float \$posData[6] = `cMuscleSplineBind -endpts cMuscleSplineDeformer1` ; // Retrieve the start/end points on the surface where the start/ // end movers should be placed at. cMuscleSplineBind -si 3 -tgt "shapeTgtObjShape" cMuscleSplineDeformer1 ; // Store a new shaping target at index 3 from the given shape // object.

cMuscleWeight

説明: マッスル デフォーマ ウェイトを設定または取得します。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-1	-lock	boolean	マッスルまたは方向ノード上のウェイトのロッ ク/保持を有効/無効にします。
-mus	-muscle	string	ウェイトの取得または設定の対象となるマッ スル、ボーン、または方向の cMuscleObject または cMuscleDirection ノード。
-mi	-mindex	int	マッスル、ボーン、または方向の直接インデッ クス 0n。ウェイトを設定/取得するには、こ のフラグまたは -muscle を入力する必要があ ります。
-n	-normalize	boolean	ポイントのウェイトを正規化しますが、設定 値はそのまま維持します。指定されていない 場合は、デフォルトでオンになります。

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-pi	-pindex	int	設定するウェイトの直接ポイント インデック ス。このフラグ、または obj.component を指 定する必要があります。
-sys	-system	string	設定対象となるマッスル デフォーマのウェイ ト。
-V	-value	float	設定されたウェイトの値、または取得とマー クされたウェイトの値。
-wt	-weight	string	変更するウェイトのタイプ。次の文字列のい ずれかで指定する必要があります。 「sticky」、「stickyb」、「stickyc」、 「sliding」、「direction」、 「smartregiona」、「smartregionb」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartslideangular」、「smartsmooth」、 「smartvolumize」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「relax」、「wrinkle」、 「smooth」、「smoothcompress」、 「smoothexpand」、「selfcollision」、 「selfrigidity」、「selfVolumize」。何も指定 しなかった場合、sticky とみなされます。

例

```
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -v 0.0
-wt "sticky" -normalize true mySkin.vtx[12] ; // Set Sticky Weight
 to 0 with normalization on
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -v 0.0
 -wt "sliding" mySkin.vtx[12] ; // Set Sliding Weight to 0
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -v 0.0
-wt "direction" mySkin.vtx[12] ; // Set Direction Weight to 0
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -v 0.0 -wt "relax"
mySkin.vtx[12] ; // Set Relax Weight to 0
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -v 0.0 -wt "smooth"
mySkin.vtx[12] ; // Set Smooth Weight to 0
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -wt
"sticky" -q -v mySkin.vtx[12] ; // QUERY Sticky Weight
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -wt
"sliding" -q -v mySkin.vtx[12] ; // QUERY Sliding Weight
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -muscle cMuscleNode -wt
"direction" -q -v mySkin.vtx[12] ; // QUERY Direction Weight
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -wt "relax" -q -v
mySkin.vtx[12] ; // QUERY Relax Weight
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -mi 0 -pi 12 -wt "sticky"
 -q -v ; // QUERY Sticky Weight of 0th muscle on the 12th point
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -mi 0 -lock true ; // Set
Sticky Lock Weights on Oth muscle to on
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -mi 0 -wt "sliding" -lock
true ; // Set Sliding Lock Weights on Oth muscle to on
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -mi 0 -wt "direction" -
lock true ; // Set Direction Lock Weights on Oth direction node
to on
cMuscleWeight -system cMuscleSystemNode -mi 0 -q -lock ; // QUERY
 Sticky Lock Weights on Oth muscle
```

cMuscleWeightDefault

説明: 指定されたウェイト タイプとオプションに、選択したマッスル変形オブ ジェクトの初期/デフォルト ウェイトを設定します。これは無効なスティッキー バインディングの修正にも使用されます。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-ang	-angle	float	方向モードで、ウェイト付きと考慮するポイ ントの角度範囲を設定します。デフォルトは 45.0 です。
-byc	-bycurve		これは、単一のウェイト タイプでの曲率方法 の使用を意味します。
-byd	-bydirection		これは、単一のウェイト タイプでの方向/角 度方法の使用を意味します。
-crv	-curve	float	カーブモードで、必要な曲率を指定します。 1.0=曲率がより大きくなります。0.0=フラッ トを表します。
-def	-default		このフラグがデフォルト ウェイトを設定する ことを表します。
-dir	-direction	float float float	方向モードで、マッチの試行方向を設定しま す。デフォルトは 0,-1,0 です。
-fa	-falloff	float	スライドウェイトと方向ウェイトで使用する 減衰範囲。
-fix	-fixsticky		このフラグが指定されている場合、マッスル は必要なスティッキー マッスル ポイントを 再度バインドします。これにより、デフォー マで showWarnings オプションがオンになっ ているときに発生するエラーが修正されます。 デフォルトのスティッキー ウェイトが設定さ れている場合、これは自動的に行われます。
-n	-normalize	boolean	ロード時にウェイトが正規化されます。通常、 スティッキーのこのフラグはオンにしておき ます。

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-pr	-prune	int	小数点以下、指定された値の桁でウェイトを 切り捨てます。デフォルトは 0 で、これは切 り捨てが行われないことを表します。
-rev	-reverse		曲率モードによって単一ウェイトのエフェク トを逆転させて、カーブでなく、フラットに したときにウェイトがより大きくなるように します。
-sm	-smooth	int	ウェイトをスムースするために必要な反復数。 通常、この値は 0 から 20 の範囲で指定しま す。
-sys	-system	string	影響を与えるマッスル デフォーマ。
-wt	-weight	string	変更するウェイトのタイプ。次の文字列のい ずれかで指定する必要があります。 「sticky」、「stickyb」、「stickyc」、 「sliding」、「direction」、 「smartregiona」、「smartregionb」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「force」、「jiggle」、 「smartvolumize」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「relax」、 「wrinkle」、「smooth」、 「smoothcompress」、「smoothexpand」、 「selfvolumize」。何も指定しなかった場合、 sticky とみなされます。

例

```
cMuscleWeightDefault -sys cMuscleSystem1 -default -wt "sticky" -
normalize true -smooth 3; // Set default sticky weights
cMuscleWeightDefault -sys cMuscleSystem1 -default -wt "sliding" -
smooth 2 -falloff 50.0 ; // Set default sliding weights
cMuscleWeightDefault -sys cMuscleSystem1 -default -wt "direction"
    -smooth 0 ;
// Set default direction weights
cMuscleWeightDefault -sys cMuscleSystem1 -default -wt "jiggle" -
bydirection -direction 0.0 -1.0 0.0 -angle 45.0 ; // Set default
jiggle weights based on points that have normals // facing straight
down within a 45 degree threshold.
cMuscleWeightDefault -sys cMuscleSystem1 -fixsticky ; //
Automatically rebind sticky any muscle-points that need it
```

cMuscleWeightMirror

説明: あるサイドから別のサイドに軸全体にわたってマッスル デフォーマ ウェ イトをミラーします。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-a	-axis	int	ポイントの位置ごとにロードするときのミラー 軸。これは、検索および置き換えとともにポ イントをミラーする場合に使用できます。-1 はミラーがないことを意味します。0=X 軸、 1=Y 軸、2=Z 軸を表します。
-rep	-replace	string	各インフルエンス名で置き換えに使用する文 字列。
-spc	-space	string	ポイント位置ごとにロードするときに、ポイ ントで使用するスペース。「world」または 「object」になります。デフォルトは「world」 です。
-src	-search	string	各インフルエンス名で検索に使用する文字列。
-sys	-system	string	マッスル デフォーマ。

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-tol	-tolerance	float	ポイント位置を基準にロードするときには、 ロードされるポイントはこの距離の二乗の範 囲内に含まれていなければなりません。デフォ ルトは -1 で、これは無視を意味します。0 以 上の値は許容値マッチとして使用されます。
-wt	-weight	string	変更するウェイトのタイプ。変更するウェイ トのタイプ。次のいずれかの文字列になりま す。「sticky」、「stickyb」、「stickyc」、 「sliding」、「direction」、 「smartregiona」、「smartregionb」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartslideangular」、「smartslide」、 「smartvolumize」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「relax」、「wrinkle」、 「smooth」、「smoothcompress」、 「smooth」、「smoothcompress」、 「smoothexpand」、「selfcollision」、 「selfrigidity」、「selfVolumize」。何も指定 しなかった場合、sticky とみなされます。

例

cMuscleWeightMirror -sys cMuscleSystem1 -wt "sticky" -a 0 -search "Lf" -replace "Rt"; // すべての検索置換を考慮し、スティッキー ウェイトを // -X から +X に ミラーします。

cMuscleWeightSave

説明:マッスルデフォーマウェイトを外部ファイルにロードまたは保存します。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-a	-axis	int	ポイントの位置ごとにロードするときのミラー 軸。これは、検索および置き換えとともにポ イントをミラーする場合に使用できます。-1 はミラーがないことを意味します。0=X 軸、 1=Y 軸、2=Z 軸を表します。
-act	-action	string	「save」、「load」、または「infs」のいずれ かになります。デフォルトは「load」です。
-f	-file	string	使用するファイルを指定します。
-m	-mode	string	ポイントのロードに使用するモード。 「pointorder」または「pointposition」のどち らかになります。デフォルトは「pointorder」 です。
-n	-normalize	boolean	ロードするときにウェイトを正規化します。 通常、スティッキーのこのフラグはオンにし ておきます。
-pr	-prune	int	小数点以下、指定された値の桁でウェイトを 切り捨てます。デフォルトは 0 で、これは切 り捨てが行われないことを表します。
-rep	-replace	string	各インフルエンス名で置き換えに使用する文 字列。
-spc	-space	string	ポイント位置ごとにロードするときに、ポイ ントで使用するスペース。「world」または 「object」になります。デフォルトは「world」 です。
-src	-search	string	各インフルエンス名で検索に使用する文字列。
-sys	-system	string	マッスル デフォーマ。

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-tol	-tolerance	float	ポイント位置を基準にロードするときには、 ロードされるポイントはこの距離の二乗の範 囲内に含まれていなければなりません。デフォ ルトは -1 で、これは無視を意味します。0 以 上の値は一致許容値として使用されます。
-wt	-weight	string	変更するウェイトのタイプ。変更するウェイ トのタイプ。次のいずれかの文字列になりま す。「sticky」、「stickyb」、「stickyc」、 「sliding」、「direction」、 「smartregiona」、「smartregionb」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartvolukien」、「smartslide」、 「smartvolumize」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「relax」、「wrinkle」、 「smooth」、「smoothcompress」、 「smoothexpand」、「selfcollision」、 「selfrigidity」、「selfVolumize」。何も指定

例

```
cMuscleWeightSave -sys cMuscleSystem1 -wt "sticky" -f
"c:/temp/foo.txt" -action "save" ; // Save sticky weight, with no
pruning
cMuscleWeightSave -sys cMuscleSystem1 -wt "sticky" -normalize true
-f "c:/temp/foo.txt" -action "load" ; // Load sticky weights and
normalize them on load
cMuscleWeightSave -sys cMuscleSystem1 -wt "jiggle" -prune 3 -f
"c:/temp/foo.txt" -action "load" ; // Load jiggle weights and prune
to 3 decimal places
cMuscleWeightSave -f "c:/temp/foo.txt" -search "Lf" -replace "Rt"
-action "infs" ; // Return the list of bones/muscles that were
used in this file // taking into account any search and replace
```

cMuscleWeightPrune

説明: マッスル デフォーマ ウェイトの小数点以下の桁数を減らします。

フラグ:

ショート フラグ	ロング フ ラグ	引数	説明
-n	-normalize	boolean	ロードするときにウェイトを正規化します。 通常、スティッキーのこのフラグはオンにし ておきます。
-sys	-system	string	マッスル デフォーマ。
-wt	-weight	string	変更するウェイトのタイプ。変更するウェイ トのタイプ。次のいずれかの文字列になりま す。「sticky」、「sticky」、「sticky」、 「sliding」、「direction」、 「smartregiona」、「smartregionb」、 「smartbulk」、「smartbulkangular」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartbulkwiden」、「smartslide」、 「smartvolumize」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「force」、「jiggle」、 「cycle」、「rest」、「relax」、「wrinkle」、 「smooth」、「smoothcompress」、 「smoothexpand」、「selfcollision」、 「selfrigidity」、「selfVolumize」。何も指定 しなかった場合、sticky とみなされます。

例

cMuscleWeightPrune -sys cMuscleSystem1 -default -wt "sticky" - normalize true -prune 3; // Prune sticky weights to 3 decimal places

マッスル メニュー

7

マッスル › マッスル/ボーン(Muscle › Muscles/Bones)

マッスル > マッスル/ボーン > マッスル クリエイタ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)

マッスルクリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウを開きます。詳細については、 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウ (177 ページ)を参照してください。

マッスル > マッスル/ボーン > サーフェスをマッスル/ ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)

選択したオブジェクトにマッスルオブジェクトシェイプノードを追加して、マッ スル デフォーマに接続できるようにします。

- Maya ジョイントをカプセルに変換する (17 ページ)
- ポリゴン メッシュをボーンに変換する (18 ページ)

マッスル > マッスル/ボーン > カプセルの作成 (Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule)

カプセル オブジェクトを作成します。

- カプセル (7 ページ)
- カプセルを作成する (13 ページ)

マッスル > マッスル/ボーン > 終点ロケータ付きのカ プセルを作成(Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule with End Locator)

終点ロケータ付きのカプセル オブジェクトを作成します。詳細については、カ プセルを作成する (13 ページ)を参照してください。

マッスル > マッスル/ボーン > 終点ロケータをカプセ ルに追加(Muscle > Muscles/Bones > Add End Locator to Capsule)

選択したカプセル オブジェクトに終点ロケータを追加します。

マッスル > マッスル/ボーン > カプセルからポリゴン シリンダを生成(Muscle > Muscles/Bones > Generate Polygon Cylinders from Capsules)

選択したカプセル オブジェクトと同じサイズ、同じマテリアル カラーのポリゴ ン シリンダを作成します。これらのシリンダで、カプセルの描写をレンダーす ることができます。詳細については、カプセルからポリゴン シリンダを作成す る (15 ページ)を参照してください。

マッスル>マッスル/ボーン>マッスル ジグル キャッ シュの削除(Muscle > Muscles/Bones > Delete Muscle Jiggle Cache)

ジグルキャッシュの削除(Delete Muscle Jiggle Cache)ウィンドウが開き、選択したオブジェクトのジグル キャッシュを削除するタイム レンジを選択できます。

関連項目

■ マッスル ジグル キャッシュを削除する (51 ページ)

マッスル > マッスル/ボーン > 無効なマッスル オブ ジェクト ノードの修正(Muscle > Muscles/Bones > Fix Invalid Muscle Object nodes)

選択したマッスル オブジェクトの接続を修正します。

たとえば、カプセルやマッスルオブジェクトを手動で複製、移動した場合、そのシェイプがトランスフォームの位置に追従していないように見える場合があります。これは、トランスフォームからマッスルオブジェクトシェイプノードへの接続が正確に再作成されていないことから起こります。

マッスル > マッスル/ボーン > マスター マッスル コ ントロールの設定(Muscle > Muscles/Bones > Setup Master Muscle Control)

マスター マッスル コントロールの設定(Setup Master Muscle Control) ウィ ンドウが開き、コントロールするマッスルをグループとして選択し、マスター コントロール オブジェクトを定義できます。

マッスル > シンプルマッスル(Muscle > Simple Muscles)

マッスル > シンプル マッスル > マッスル ビルダ (Muscle > Simple Muscles > Muscle Builder)

マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウを開きます。詳細については、 マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウ (169 ページ)を参照してください。

マッスル > シンプル マッスル > マッスル パラメータ の設定(Muscle > Simple Muscles > Set Muscle Parameters)

マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウのマッスルパラメータ(Muscle Parameters)タブが開きます。

マッスル > シンプル マッスル > マッスル スプライン デフォーマを適用(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Spline Deformer)

マッスル スプライン デフォーマを適用します。詳細については、マッスル スプ ライン デフォーマを設定する (41 ページ)を参照してください。

マッスル > シンプル マッスル > カスタム マッスル シェイプ (Muscle > Simple Muscles > Custom Muscle Shapes)

マッスルスプラインデフォーマのシェイプ (Muscle Spline Deformer Shape) ウィンドウが開き、カスタムのマッスル シェイプを定義できます。

関連項目

 ■ マッスル スプライン デフォーマ (Muscle Spline Deformer Shape) ウィン ドウ (193 ページ)

マッスル > シンプル マッスル > マッスル スプライン デフォーマのベース ポーズをリセット(Muscle > Simple Muscles > Reset Base Pose for Muscle Spline Deformer)

オブジェクトが変形されていないかのように、状態がリセットされ、このポーズ が変形のデフォルト状態になります。

マッスル>シンプルマッスル>マッスル伸長デフォー マを適用(Muscle > Simple Muscles > Apply Muscle Stretch Deformer)

選択したオブジェクトにマッスル伸長デフォーマを適用し、コントロールとして リグを設定するロケータを作成します。

マッスル > スキン セットアップ(Muscle > Skin Setup)

マッスル > スキン セットアップ > マッスル システム スキン デフォーマを適用(Muscle > Skin Setup > Apply Muscle System Skin Deformer)

選択したメッシュにマッスル デフォーマを適用します。

詳細については、マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)を参照して ください。

マッスル > スキン セットアップ > スムース スキンを マッスル システムに変換(Muscle > Skin Setup > Convert Maya Skin to Muscle System)

オブジェクトに適用された skinCluster を、マッスル シェイプ ノードに変換し ます。変換時にウィンドウが表示され、選択したオブジェクトの長辺方向の軸を 選択します。

変換時には、次が行われます。

- ジョイントが、マッスルオブジェクトシェイプノードが適用されたカプセルに変換され、接続できるようになります
- skinCluster がスティッキー ウェイトに置き換えられます
- マッスルデフォーマが適用され、skinClusterのウェイトが cMuscleSystem ノードに転送されます

関連項目

■ Maya スキンを Maya マッスルに変換する (71 ページ)

マッスル > スキン セットアップ > マッスル システム のセットアップ データを再初期化(Muscle > Skin Setup > Re-Initialize Setup Data on Muscle System)

変形に使用するデータを再初期化します。たとえば、旧バージョンの cMuscleSystem ファイルを変換する場合などに便利です。Maya マッスルのセッ トアップ データを再初期化する (76 ページ)も参照してください。

マッスル > スキン セットアップ > 脂肪をマッスル シ ステムにバインド(Muscle > Skin Setup > Bind Fat on Muscle System)

スキン メッシュの脂肪のオフセット距離を最近接にあるボーンまたはマッスル に格納します。これはポイントがほかのマッスルによってスライドしても、変形 を通じて適用されます。

マッスル>スキンセットアップ>無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Invalid Sticky Bind Points)

マッスルにウェイト付けされてしまった、もともとバインドされていなかった マッスルやポイントを自動的に補正します。無効なスティッキー バインド ポイ ントの自動修正 (77 ページ)も参照してください。

マッスル > スキン セットアップ > 削除済みや欠落し たマッスルの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Deleted/Missing Muscles)

内部インデックスを自動的に検出して補正し、切断されたマッスルやボーンの ウェイトをゼロ設定します。削除済みや欠落したマッスルの自動修正 (78 ペー ジ)も参照してください。

マッスル > スキン セットアップ > 安全なヒストリの 削除(Muscle > Skin Setup > Safe Delete History)

選択したオブジェクトのノードを接続解除し、ヒストリを削除します。

マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル オブジェクトを接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle Objects)

選択したオブジェクトのすべてのマッスル オブジェクト ノードを接続解除します。

マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル 方向を接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle Directions)

選択したオブジェクトのすべてのマッスル方向ノードを接続解除します。

マッスル > スキン セットアップ > すべてのマッスル ディスプレイスメントを接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Muscle Displaces)

選択したオブジェクトのすべてのマッスル ディスプレイスメント ノードを接続 解除します。

マッスル > スキン セットアップ > すべてのスマート コリジョンを接続解除(Muscle > Skin Setup > Disconnect all Smart Collides)

選択したオブジェクトのすべてのスマートコリジョンノードを接続解除します。

152 | マッスル メニュー

マッスル > スキン セットアップ > 相対スティッキー デフォメーションの設定(Muscle > Skin Setup > Setup for Relative Sticky Deformation)

補助マッスル相対デフォーマを作成して接続し、相対スティッキー モードに切り替えます。このデフォーマは、主要 cMuscleSystem ノードに接続されます。 詳細については、相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)を参照してください。

選択したオブジェクトに skinCluster が接続されている場合、履歴ではデフォーマがオブジェクトの前に配置されます。

マッスル > スキン セットアップ > 選択したマッスル/ ボーンを非相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles as Not Relative)

選択したオブジェクトの相対モードをオフにします。

マッスル > スキン セットアップ > 選択したマッスル/ ボーンを相対に設定(Muscle > Skin Setup > Set Selected Bones/Muscles as Relative)

選択したオブジェクトの相対モードをオンにします。

マッスル > マッスル オブジェクト(Muscle > Muscle Objects)

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ル オブジェクトを接続(Muscle > Muscle Objects > Connect selected Muscle Objects)

> 選択したオブジェクトをマッスル デフォーマに接続します。詳細については、 マッスル オブジェクトをマッスル デフォーマに接続する (74ページ)を参照して ください。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ルオブジェクトの接続解除(Muscle > Muscle Objects > Disconnect selected Muscle Objects)

選択したマッスル、ボーン、またはカプセルをマッスル デフォーマから接続解除します。ウェイトがゼロになり、ノードが正しく接続解除されます。選択したマッスル オブジェクトを接続解除する (78 ページ)も参照してください。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ルオブジェクトのベース ポーズをリセット(Muscle > Muscle Objects > Reset Base Pose for selected Muscle Objects)

選択したカプセル、ボーン、またはマッスル オブジェクトのベース ポーズをリ セットします。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ル オブジェクトの削除(Muscle > Muscle Objects > Delete selected Muscle)

選択したマッスルと必要なくなったノードと接続が削除されます。詳細について は、マッスルを削除する (25 ページ)を参照してください。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ル オブジェクトのベースを作成(Muscle > Muscle Objects > Create Base for selected Muscle Objects)

選択したカプセル、ボーン、またはマッスルオブジェクトを、マッスルデフォー マに接続されたベース オブジェクトとして複製します。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ルオブジェクトにスティッキーを再バインド(Muscle > Muscle Objects > Re-Bind Sticky for selected Muscle Objects)

スティッキー バインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンド ウが開き、距離のスティッキー情報を再バインドするためのオプションを選択で きます。

詳細については、スティッキー バインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウ (181 ページ)を参照してください。

マッスル > マッスル オブジェクト > 選択したマッス ル オブジェクトのスティッキー バインド距離を視覚

化 (Muscle > Muscle Objects > Visualize Sticky Bind Distance for selected Muscle Objects)

選択した NURBS マッスルごとに視覚化球体を表示し、メッシュ上でスティッ キー ウェイト付けが可能な領域を表示します。球体内の任意のポイントを接続 すると正常にバインドされます。詳細については、スティッキー バインド距離 を視覚化する (82 ページ)を参照してください。

マッスル > マッスル ウェイトのペイント (Muscle > Paint Muscle Weights)

マッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンドウが開き、マッスル デフォーマの ウェイトをペイントまたは設定できます。詳細については、マッスル ペイント (Muscle Paint)ウィンドウ (182 ページ)を参照してください。

マッスル>ウェイト付け(Muscle>Weighting)

マッスル > ウェイト付け > デフォルト ウェイトを適 用(Muscle > Weighting > Apply Default Weights)

デフォルト ウェイト(Default Weights)ウィンドウが開き、メッシュの初期 ウェイト付けを行うことができます。詳細については、デフォルト ウェイト (Default Weights) ウィンドウ (187 ページ)を参照してください。

マッスル > ウェイト付け > ウェイトのロード/保存 (Muscle > Weighting > Load/Save Weights)

ウェイトの保存(Save Weights)ウィンドウでは、オブジェクトのさまざまな 種類のウェイトをテキスト ファイルに保存できます。これらのウェイトは、ポ イントの順番や位置で同じオブジェクトまたは別のオブジェクトにリロードでき ます。詳細については、ウェイトのロードと保存 (102 ページ)とウェイトの保存 (Save Weights) ウィンドウ (188 ページ)を参照してください。

マッスル>ウェイト付け>ウェイトのミラー(Muscle > Weighting > Mirror Weights)

ウェイトのミラー(Mirror Weights)ウィンドウが開き、ウェイト値をメッシュ の片側から反対側に反転できます。詳細については、ウェイトをミラーする (106 ページ)を参照してください。

マッスル > ウェイト付け > ウェイトの転送(Muscle > Weighting > Transfer Weights)

ウェイトの転送(Transfer Weights) ウィンドウが開き、1つまたは複数のボーン、マッスル、カプセル、方向ノードの間で、ウェイトを移動できます。詳細については、ウェイトを転送する (107 ページ)を参照してください。

マッスル > ウェイト付け > ウェイトの削減(Muscle > Weighting > Prune Weights)

ウェイトの削減(Prune Weights)ウィンドウが開き、指定した値より下のウェ イトをゼロに設定できます。ウェイトを削減する (108 ページ)を参照してくださ い。

マッスル > 方向(Muscle > Direction)

マッスル > 方向 > マッスル方向の作成(Muscle > Direction > Make Muscle Direction)

何も選択されていない場合、方向オブジェクトが新規作成されます。1つ以上の カプセルオブジェクトを選択していると、放射状方向ノードの方向オブジェク トがカプセルの子シェイプとして作成されます。詳細については、マッスル方向 オブジェクトを作成する (86 ページ)を参照してください。

マッスル > 方向 > 選択したマッスル方向を接続 (Muscle > Direction > Connect selected Muscle Directions)

選択した方向ノードを選択したマッスル変形オブジェクトに接続します。これ は、方向ウェイトがペイントまたは設定されるまで有効になりません。

マッスル > 方向 > 選択したマッスル方向を接続解除 (Muscle > Direction > Disconnect selected Muscle Directions)

選択したマッスル変形オブジェクトから選択した方向ノードを接続解除します。

マッスル > ディスプレイスメント(Muscle > Displace)

マッスル > ディスプレイスメント > マッスル ディス プレイスメントの作成(Muscle > Displace > Create Muscle Displace)

> ディスプレイスメント ノードを新規作成します。デフォルトでは、このノード は平面スタイルのディスプレイスメント ノードです。詳細については、ディス プレイスメント デフォメーションを設定する (88 ページ)を参照してください。

マッスル > ディスプレイスメント > 選択したマッス ル ディスプレイスメント ノードを接続(Muscle >

Displace > Connect selected Muscle Displace nodes)

選択したマッスルディスプレイスメントノードを選択したマッスル変形オブジェ クトに接続します。

マッスル > ディスプレイスメント > 選択したマッス ルディスプレイスメント ノードを接続解除(Muscle > Displace > Disconnect selected Muscle Displace nodes)

> 選択したマッスル変形オブジェクトから選択したマッスル ディスプレイスメン トノードを接続解除します。

マッスル > ディスプレイスメント > NURBS カーブを マッスル ディスプレイスメントに接続(Muscle > Displace > Connect NURBS Curve to Muscle Displace)

1つまたは複数のカーブとマッスルディスプレイスメントノードを接続します。

マッスル > ディスプレイスメント > NURBS カーブを マッスル ディスプレイスメントから接続解除(Muscle > Displace > Disconnect NURBS Curve from Muscle Displace)

1 つまたは複数のカーブとマッスル ディスプレイスメント ノードを接続解除し ます。ノードがカーブ(Curves) モードであっても、カーブがシェイプに影響 を与えなくなります。

マッスル > ディスプレイスメント > Maya マッスル シェーダ ネットワークの作成(Muscle > Displace > Create Maya Muscle Shader Network)

マッスルシェーダとマッスルディスプレイスメントノードを新規作成します。 詳細については、Maya cMuscleShader ネットワークを作成する (92 ページ)と cMuscleDisplace ノード (200 ページ)を参照してください。

マッスル > ディスプレイスメント > Mental Ray mib_cMuscleShader ネットワークの作成(Muscle > Displace > Create Mental Ray mib_cMuscleShader Network)

mib_cMuscleShader とマッスル ディスプレイスメント ノードを新規作成しま す。詳細については、mental ray mib_cMuscleShader ネットワークを作成する (94 ページ)を参照してください。

マッスル>スマートコリジョン(Muscle>Smart Collision)

マッスル > スマート コリジョン > マッスル スマート コリジョンの作成(Muscle > Smart Collision > Create Muscle Smart Collide)

選択したジョイント、ボーン、トランスフォームのスマート コリジョン ロケー タを作成します。スマート コリジョンは変形関連のアトリビュートを持つノー ドです。このノードは、使用前にマッスル変形オブジェクトに接続する必要があ ります。

関連項目

- スマート コリジョン (112 ページ)
- マッスルスマートコリジョンを設定する (117ページ)
- cMuscleSmartCollide /- F (209 $\sim \checkmark$)

マッスル > スマート コリジョン > 選択したマッスル スマート コリジョン ノードを接続(Muscle > Smart Collision > Connect selected Muscle Smart Collide nodes)

1 つまたは複数のスマート コリジョン ノードを 1 つまたは複数のマッスル変形 オブジェクトに接続します。

関連項目

- スマートコリジョン (112 ページ)
- cMuscleSmartCollide /- F (209 $\sim \vec{y}$)

マッスル > スマート コリジョン > 選択したマッスル スマート コリジョン ノードを接続解除(Muscle > Smart Collision > Disconnect selected Muscle Smart Collide nodes)

1つまたは複数のマッスル変形オブジェクトから、1つまたは複数のスマートコ リジョン ノードを接続解除します。

- スマート コリジョン (112 ページ)
- cMuscleSmartCollide /- F (209 $\sim \vec{y}$)

マッスル> セルフ/マルチ コリジョン(Muscle> Self/Multi Collision)

マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > セルフ コリ ジョンのグループ化(Muscle > Self/Multi Collision > Self Collision Grouping)

セルフコリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィンドウが開き、 メッシュ上で衝突させる領域を設定できます。

関連項目

- セルフ コリジョン (114 ページ)
- セルフ コリジョンを設定する (120 ページ)
- セルフコリジョンのグループ化 (Self Collision Grouping) ウィンドウ (190 ページ)

マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスル マ ルチ コリジョン デフォーマを適用(Muscle > Self/Multi Collision > Apply Muscle Multi Collide Deformer)

すべての選択したオブジェクトに新規マッスルマルチコリジョンデフォーマを 適用し、接続します。

- マッスル マルチ コリジョンを設定する (121 ページ)
- cMuscleMultiCollide /-F (204 $^{\sim}-i$)

マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > KeepOut に 選択項目をリグ設定(Muscle > Self/Multi Collision > Rig selection for KeepOut)

新規グループを、選択した階層の子として作成します。

マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスルを KeepOut に接続(Muscle > Self/Multi Collision > Connect Muscles to KeepOut)

選択したマッスル KeepOut ロケータ(または親グループ)のノードと選択した 1 つまたは複数のマッスル オブジェクト ノード(カプセル、ボーン、マッスル など)を接続します。

関連項目

- マッスルと KeepOut を接続する (123 ページ)
- cMuscleKeepOut /- F (203 $\sim i$)

マッスル > セルフ/マルチ コリジョン > マッスルを KeepOut から接続解除(Muscle > Self/Multi Collision > Disconnect Muscles from KeepOut)

選択したマッスル KeepOut ロケータ(または親グループ)のノードと選択した 1 つまたは複数のマッスル オブジェクト ノード(カプセル、ボーン、マッスル など)を接続解除します。

- マッスルと KeepOut を接続する (123 ページ)
- **CMuscleKeepOut** ノード (203 ページ)

マッスル > キャッシング(Muscle > Caching)

マッスル > キャッシング > ファイル キャッシュの場 所を設定(Muscle > Caching > Set Location of Cache File)

ファイル ブラウザが開き、キャッシュ ファイルの格納場所を設定できます。

マッスル>キャッシング>キャッシュの作成(Muscle > Caching > Create Cache)

キャッシュの生成(Generate Cache)ウィンドウが開き、オプションを指定し、 選択したマッスル 変形オブジェクトのキャッシュ ファイルを生成できます。詳 細については、キャッシュを作成する (126 ページ)を参照してください。

マッスル > キャッシング > ノード キャッシュの削除 (Muscle > Caching > Delete Node Cache)

ノード ベースのキャッシュを削除します。詳細については、ノード キャッシュ を削除する (127 ページ)を参照してください。

注:ファイルキャッシュの削除は手動で行う必要があります。

マッスル > キャッシング > ポイント単位のスキン ジ グル キャッシュを削除(Muscle > Caching > Delete Per-Point Skin Jiggle Cache)

指定したタイム レンジのジグル情報を削除します。詳細については、マッスル ジグル キャッシュを削除する (51 ページ)を参照してください。

マッスル > 選択項目(Muscle > Selection)

マッスル > 選択項目 > 選択した muscleSystem に接 続された muscleObject を選択(Muscle > Selection > Select connected muscleObjects from selected muscleSystems)

選択した cMuscleSystem ノードに接続されたすべてのマッスル オブジェクトを 選択します。

マッスル > 選択項目 > 選択した muscleSystem に接 続された muscleDirection を選択(Muscle > Selection > Select connected muscleDirections from selected muscleSystems)

選択した cMuscleSystem ノードに接続されたすべての方向ノードを選択します。

マッスル > 選択項目 > 選択した muscleObject に接 続された muscleSystem を選択(Muscle > Selection > Select connected muscleSystems from selected muscleObjects)

選択したマッスル オブジェクト(カプセル、ボーン)に接続されたすべての cMuscleSystem ノードを選択します。

マッスル > 選択項目 > muscleDirection に接続され た muscleSystems を選択(Muscle > Selection >

Select connected muscleSystems from muscleDirections)

選択した方向ノードに接続されたすべての cMuscleSystem ノードを選択します。

マッスル > ボーナス リギング(Muscle > Bonus Rigging)

マッスル > ボーナス リギング > マッスル スプライン の作成(Muscle > Bonus Rigging > Create Muscle Spline)

マッスル スプライン ウィンドウが開きます。詳細については、マッスル スプラ イン(Muscle Spline)ウィンドウ (191 ページ)とマッスル スプライン デフォー マを設定する (41 ページ)を参照してください。

マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチ (Muscle > Bonus Rigging > Surface Attach)

選択したオブジェクトのアタッチポイントを作成します。詳細については、マッ スルのアタッチ ポイントを設定する (20 ページ)を参照してください。

マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチ を固定してポリゴンのスムースを可能にする(Muscle

> Bonus Rigging > Fix Surface Attach to allow for Poly Smooth)

マッスル > ボーナス リギング > サーフェス アタッチ(Muscle > Bonus Rigging > Surface Attach)を使用して、ポリゴン メッシュにサーフェス アタッチ ポイントを設定した後にポリゴン メッシュをスムースすると、アタッチ ポイント ロケータが移動する場合があります。ロケータをポリゴン メッシュ上の正しい位置に戻すには、ロケータ オブジェクトを選択してから、このメニュー項目を選択します。
マッスルのウィンドウと ツール



マッスル ビルダ(Muscle Builder)ウィンドウ

このウィンドウでは、2つのオブジェクトにアタッチされた断面が編集可能な有 効な NURBS サーフェスを構築することができます。サーフェスの構築を完了する と、このウィンドウで、シンプルマッスルと適用されたすべてのデフォーマ両方 のパラメータを簡単に調整することもできるようになります。

このウィンドウは cMuscleSystem のオリジナルのマッスル作成ツールで、従来の スプライン デフォーマを使うユーザ向けに提供されています。

🐻 Muscle Bu	ilder 📃 🗖	×
Build Cro	oss Section Finalize Muscle Parameters	
Attach Ob	i l: 🛛 🗠	7
At: 0	.250	
Off. X: 0	.000	
Off. Z: 0	.000	
At: 0	.250	
Off. X: 0	.000	
Off. Z: 0	.000	
nSpans: 7		
nSegs: 6		
Width: 1	.000	
Falloff: 0	.500	
	Build/Update Delete	

構築 (Build) タブ

構築(Build) タブでは、基本の NURBS サーフェス マッスルを生成する場所や 方法を選択できます。マッスルのアタッチには通常 2 つのジョイントまたはカ プセルが必要です。これらのジョイントは長さ方向に対するローカルの Y 軸に 合わせておく必要があります。

Obj 1 のアタッチ(Attach Obj 1)/Obj 2 のアタッチ(Attach Obj 2) マッス ルを構築してからこの機能を選択すると、マッスルのどちらかの端のアタッチメ ント ロケータを選択してインタラクティブに移動できます。

<<< (選択項目のロード) </p>
ボタンは、選択したオブジェクトをテキスト
フィールドにロードし、マッスルを構築してアタッチする場所を指定します。

配置場所(At) アタッチ オブジェクトの Y 軸に沿ってジョイントを配置する 場所を指定します。

オフセット X(Off X) アタッチ オブジェクトのローカル X 軸に沿ってマッス ルのアタッチメントを配置する場所を指定します。

オフセット Y(Off Z) アタッチ オブジェクトのローカル Z 軸に沿ってマッス ルのアタッチメントを配置する場所を指定します。

スパン数(nSpans) マッスルの長辺方向の断面数を設定します。この数値を変 更した場合、再度構築/更新(Build/Update)をクリックして NURBS マッスル を更新してください。

セグメント数(nSegs) マッスルの周囲の放射状セクションの数を設定します。 この数値を変更した場合、構築/更新(Build/Update)ボタンをクリックして NURBS マッスルを更新してください。

幅(Width) マッスルの全幅を変更します。

減衰(Falloff) マッスルの両端のスケーリングを調整します。数値を小さくす るとマッスルの両端が丸味を帯びて厚くなり、数値を大きくすると薄くなりま す。

構築/更新(Build/Update) マッスルの作成または更新を行います。

削除(Delete) マッスルの構築操作を解除し、マッスルジオメトリ、断面、挿 入ロケータをすべて削除します。

断面(Cross Section)タブ

断面(Cross Section)タブでは、構築中のマッスルの断面カーブを編集し、マッ スルのシェイプをカスタマイズすることができます。

断面タブの設定項目は次のとおりです。

断面(Cross Section)リスト 1 つまたは複数のスパンを選択して調整や編集を 行うことができます。編集モード以外では、スパンが選択されます。編集モード では、ハイライトされて断面スパンのポイント操作が可能になります。

断面の編集(Edit Cross Section)/編集(EDITING) コンポーネント モードに 切り替わり、マッスル断面のポイントを直接操作できるようになります。

cMuscleBuilderCamera ビューポート このタブにはビルトインのカメラビュー があり、マッスルの構築中にその断面が自動的に分離されます。カメラ ビュー でポイントを操作することや、任意のシーン ビューで断面や NURBS サーフェ スを直接調整することができます。

確定 (Finalize) タブ

確定(Finalize) タブでは、マッスルの構築を完了し、NURBS サーフェスをマッ スル スキン デフォーマで扱えるシェイプに変換します。マッスルは、完成する まではマッスルとして接続したり使用したりすることはできません。また、マッ スルの変形を適用することもできません。

確定タブでは、適用するマッスル デフォーマやオプションを選択できます。 NURBS メッシュを変換してマッスル オブジェクト シェイプ ノードを設定し、 マッスル デフォーマで扱えるようにします。最後に、デフォーマでマッスルに リグを設定し、オリジナルのアタッチ オブジェクトやジョイントにコンストレ インして、Maya シーンの基本的なマッスル リグの階層内に配置します。

🐺 Muscle Builder	
Build Cross Section Finalize Muscle Parameters	
Deformer: Muscle Spline Deformer Muscle Stretch	٦
Num Controls 3 Type: cube	-
Create Mirrored Muscle 🗕 None 🌑 X 🔍 Y 🔍 Z	
Search: Replace:	
Convert to Muscle	

確定タブの設定項目は次のとおりです。

デフォーマ(Deformer) マッスルにのリギングに使用するデフォーマを指定 します。強力かつ柔軟性が高いため、マッスル スプライン デフォーマ (cMuscleSplineDeformer)をお勧めします。 コントロール数(Num Controls) マッスル スプライン デフォーマを指定する と、マッスルに作成するコントロール数を定義できます。両端に1つずつ最低 2つは必要です。通常は、3つ以上使用してマッスルの真中部分を細かくコント ロールまたはジグルできるようにします。

タイプ(Type) マッスルのコントロールのコントロール カーブ シェイプのタ イプを指定します。これは表示のみの機能で、設定を変更してもマッスルの変形 具合や外観は変わりません。

マッスルのミラー作成(Create Mirrored Muscle) 左右対称なリギングの場合 に、指定されたワールド軸に沿って2番目のマッスルをミラー作成するかどう かを指定します。

検索(Search)/置き換え(Replace) マッスルのミラーを構築する際に、ミ ラー コピーの構築場所と命名方法の定義に使用される命名規則を設定します。

マッスルに変換(Convert to Muscle) ボタン マッスルの構築を完了できる状態 になったら、このボタンをクリックします。関連する構築中のカーブとノードが すべて削除されて、NURBS サーフェスが互換性のある Maya マッスル オブジェ クトに変換されます。

マッスル パラメータ(Muscle Parameters)タブ

マッスル パラメータ (Muscle Parameters) タブでは、選択されたマッスル オ ブジェクトのパラメータを更新または変更できます。これには、cMuscleObject ノードの変更と、すべてのマッスル スプライン デフォーマまたはマッスル伸長 デフォーマへの変更が含まれます。

このタブは5つの主要セクションに分かれています。これは、マッスルオブジェ クトの変更、マッスル スプライン デフォーマとマッスル伸長デフォーマの両方 の伸長の基本設定、マッスル スプライン デフォーマのみのスプライン長、両方 のデフォーマのジグル プリセット、コピー/ペーストの基本オプションの5つで す。コピー/ペーストの設定を使用すると、オブジェクト間でこれらの設定をす べてコピーできます。

注: これらの値は、関連ノードのチャンネルボックス(Channel Box)またはア トリビュート エディタ(Attribute Editor)で直接変更することもできます。

マッスルパラメータ タブの設定項目は次のとおりです。

一般的な設定

リアルタイム更新(Realtime Update) オンの場合、マッスル パラメータ (Muscle Parameters)タブで行った変更が、選択したマッスルすべてに自動的 に適用されます。選択されたマッスルがある場合、このウィンドウにその値が自 動的にロードされます。オフの場合、設定を適用するには、選択項目のロード

(Load Selected)ボタンとマッスル オブジェクト値の適用(Apply Muscle Object Values)ボタンをクリックする必要があります。

マッスル オブジェクト設定(Muscle Object Settings)

スティッキーの強さ(Strength) マッスル スキン デフォーマと一緒に使用す るときに、このオブジェクトからのスライドの強度をコントロールします。通 常、この値は 1.0 に設定します。

脂肪(Fat) マッスル スキン デフォーマと一緒に使用するときに、スライド時 に押し込まれるオブジェクトのサーフェスからスキン メッシュまでのオフセッ トを定義します。たとえば脂肪をゼロに設定した場合、スキンは、カプセル、 ボーン、またはマッスルがタッチするまで押し出されません。脂肪の値を大きく すると、カプセル、ボーン、マッスルとスキンとのギャップが作成されます。

法線の反転(Reverse Normals) マッスルスキンデフォーマと一緒に使用する ときに、ポイントが外側でなく内側に押されるようにスライド エフェクトを変 更します。このアトリビュートは通常**オフ**に設定されています。

半径(Radius) カプセルの主半径または主サイズを設定します。

長さ(Length) カプセルの長さを設定します。カプセルの終点ロケータが作成 されると、この値は距離に基づいて自動的に変更されます。

カプセル軸(Capsule Axis) カプセルの長辺方向にする軸を設定します。

描画(Draw)

スクリーンに描画されるものを指定します。

オフ(off) 何も描画されません。

脂肪(fat)オブジェクトが脂肪の距離に描画されるか、スライドを適用する場 合にはスキンが配置されるオフセットを示します。

マッスル(muscle) 脂肪が追加されていないカプセルの真の半径、またはポリ ゴン オブジェクトか NURBS マッスルの真のサーフェスを示します。

シェーディング(Shaded)

シーン ビューでは、どのように描画が行われるかを設定します。

ワイヤフレームのみ(wireframe-only) シェーディングモードの場合でも、オ ブジェクトはワイヤフレームとして描画されます。

シェーディング(shaded) シーン ビューがワイヤフレーム表示の場合、オブ ジェクトをワイヤフレームで描画します。シーンがシェーディング ビューであ る場合はシェーディングします。

ワイヤフレームとシェーディング(wireframe-and-shaded)オブジェクトは同様に描画されますが、シェーディングモードでは、シェーディングされたオブジェクトの上にワイヤフレームが描画されます。

ワイヤのハイライト(Highlight wire) Maya のデフォルトでは、選択したオブ ジェクトは白または緑色でハイライトされます。この値が1の場合、選択され たオブジェクトのワイヤフレームも同様にハイライトされます。0に設定すると ハイライトされないため、オブジェクトを選択してもワイヤフレーム カラーは 変わりません。

シェーディングのハイライト(Highlight Shaded)前述に同じです。ただし、 こちらは、選択時にシェーディングカラーとオブジェクトをハイライトするか どうかは設定できません。

セグメント数(nSeg) カプセルの長辺方向に描画するセグメントの数をコント ロールします。ある程度、セグメントは描画されますが、スライド エフェクト では実際のスムース カプセルが常に使用されるため、このパラメータは変形で はなく、描画のみに影響します。

サイド数(nSides) カプセルの直径の周りに描画されるサイド数をコントロールします。ある程度、セグメントは描画されますが、スライド エフェクトでは 実際のスムース カプセルが常に使用されるため、このパラメータは変形ではな く、描画のみに影響します。

選択項目のロード(Load Selected) 現在選択されているマッスルの値をロードします。リアルタイム更新(Realtime Update)がオンの場合、選択内容が変更されると自動的にロードが行われます。

マッスル オブジェクト値の適用(Apply Muscle Object Values) 選択されてい るすべてのマッスルにカレントの値を適用します。リアルタイム更新(Realtime Update)がオンの場合、マッスル パラメータ(Muscle Parameters)タブの値 が変更されると自動的に適用が行われます。

伸長ボリュームのプリセット(Stretch Volume Presets)

デフォルト(**Default**)/小さい(Small)/通常(Medium)/大きい(Large) 収縮と伸長の値をすべてプリセット値に戻します。

収縮-X(Squash-X)/収縮-Z(Squash-Z) 短くなっていくときのマッスルの開始/真中/終了の全体的なスケーリングを設定します。これらの設定は、マッスル スプライン デフォーマとマッスル伸長で変形されたオブジェクトの両方に作用 します。マッスル伸長で変形されたオブジェクトの場合、X と Z の平均が使用 されます。これは、マッスル伸長には X と Z の個別の設定がないためです。

伸長-X(Stretch-X)/伸長-Z(Stretch-Z) 長くなっていくときのマッスルの開始/真中/終了の全体的なスケーリングを設定します。これらの設定は、マッスル スプライン デフォーマとマッスル伸長で変形されたオブジェクトの両方に作用 します。マッスル伸長で変形されたオブジェクトの場合、X と Z の平均が使用 されます。これは、マッスル伸長には X と Z の個別の設定がないためです。

アップ軸(Up Axis) 開始/終了エイムのアップベクトルに使用する軸を指定します。マッスル スプライン デフォーマ コントロールのアップ ベクトルの軸も 設定します。マッスルにフリップまたはツイストが生じた場合、この値を変更すると解消される場合があります。

開始方向(aimStart)/終了方向(aimEnd) マッスルビルダ(Muscle Builder) ウィンドウで構築したマッスルの場合に、マッスルの開始または終了が反対側に 向かう量、またはジョイントにペアレント化されているかのように留まる度合い を設定します。

選択項目のロード(Load Selected) 現在選択されているマッスルの値をロードします。リアルタイム更新(Realtime Update)がオンの場合、選択内容が変更されると自動的にロードが行われます。

伸張値を適用(Apply Stretch Values) 選択されているすべてのマッスルにカレントの値を適用します。**リアルタイム更新(Realtime Update)**がオンの場合、ウィンドウの値が変更されると自動的に適用が行われます。

スプラインの長さ設定(Spline Length Settings)

カレントをデフォルトとして設定(Set Current as Default) マッスルのカレントの長さをデフォルト長として設定します。これは、通常マッスルスプラインデフォーマが適用されている場合には設定されているため、必要ありません。

カレントを収縮として設定(Set Current as Squash) マッスルのカレントの長 さを収縮の最短長として設定します。マッスル スプライン デフォーマ オブジェ クトがこの長さに達したときに、その収縮ボリュームの設定が完全にオンになり ます。収縮の度合いがそれより強くなっても、スケール係数は変更されません。

カレントを伸長として設定(Set Current as Stretch) マッスルのカレントの長 さを伸長の最大長として設定します。マッスル スプライン デフォーマ オブジェ クトがこの長さに達したときに、その伸長ボリュームの設定が完全にオンになり ます。伸長の度合いがそれより強くなっても、スケール係数は変更されません。

ジグル プリセット(Jiggle Presets)

デフォルト (Default) /軽い (Light) /通常 (Medium) /重い (Heavy) /オフ (OFF) 基本的なジグル パラメータをすべてプリセット値に戻します。

注: マッスル スプライン デフォーマ オブジェクトに 4 つ以上のコントロールが あると、開始/中間/終了(Start/Mid/End)の値がマッスルの長辺方向に沿って 滑らかに補間されます。

ジグル(Jiggle) マッスル各部のジグルの全体的な強さを設定します。値を大きくするほど動きも大きくなります。

サイクル(Cycle)マッスルをバウンスさせるフレーム数です。値を小さくするほどマッスルは素早くバウスンし、大きくするほどより多数のフレームにわたってゆっくりとバウンスします。

レスト(Rest) マッスルを静止させるまでのフレーム数です。値を小さくする ほどマッスルは素早くジグリングを停止し、大きくするほど長くジグリングしま す。

収縮時に弱める(Dampen On Squash) 長さが変化するときのマッスルのジグ ルを伴う動作方法をコントロールします。0に設定すると、ジグルの値が設定ど おりに適用されます。1に設定すると、ジグルの度合いは減衰し、マッスルが収 縮するサイクルが速くなります。これにより、マッスルが収縮するときにジグル が停止するため、マッスルは圧力がかかったように見えます。

伸長時に弱める(Dampen On Stretch) 長さが変化するときのマッスルのジグ ルを伴う動作方法をコントロールします。0に設定すると、ジグルの値が設定ど おりに適用されます。1に設定すると、ジグルの度合いは減衰し、マッスルの伸 長サイクルが速くなります。これにより、マッスルが拡張するときにジグルが停 止するため、マッスルは圧力がかかったように見えます。

選択項目のロード(Load Selected) カレントのマッスルの値をロードします。 リアルタイム更新(Realtime Update)がオンの場合、選択内容が変更されると 自動的にロードが行われます。

ジグル値の適用(Apply Jiggle Values) ウィンドウのカレントの値を現在選択 されているすべてのマッスルに適用します。リアルタイム更新(Realtime Update)がオンの場合、ウィンドウの値が変更されると自動的に適用が行われ ます。

マッスル設定のコピー/ペースト(Copy/Paste Muscle Settings)

選択項目からコピー(Copy from Selection) 現在選択されているマッスルの すべての設定をクリップボードにコピーします。

選択項目にペースト(Paste to Selected) クリップボードのすべての値を選択 されたマッスルにペーストします。

関連項目

■ マッスルビルダ(Muscle Builder)を使用してシンプルマッスルを作成する (31 ページ)

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィン ドウ

マッスル クリエイタ ウィンドウでは、変形/ポーズ、パラメータ設定が可能な NURBS マッスルを構築できます。

👼 Muscle Creator	_ 🗆 ×
Create Edit	
Muscle Name: Lf_Quadricep	
Num. Controls / Cross Sections: 5	
Num. Segments Around: 8	
Attach Start: jntLfUpLeg <<< Attach End: jntLfMidLeg	<<<
✓ Create cMuscleObject shape node	
▼ Mirror	
Mirror Axis: • X • Y • Z	
Search: Replace:	
▼ Copy/Paste	
Copy First Selected Muscle, Paste to Other Selected Muscles	

作成(Create)タブ マッスル名(Muscle Name) マッスルのベース名を指定できます。 コントロール/断面の数(Num. Controls/Cross Sections) マッスルの長辺方向 に沿って作成するコントロール オブジェクトと、シェイプを作成するために設 定するモデリング断面の数を指定できます。

コントロール/断面の数(Num. Segments Around) モデリング用にマッスルに 設定される断面サークルのポイント数を指定します。

アタッチ開始(Attach Start) 選択したオブジェクトをマッスルの開始オブジェ クトとしてロードできます。

アタッチ終了(Attach End) 選択したオブジェクトをマッスルの終了オブジェ クトとしてロードできます。

cMuscleObject シェイプ ノードの作成 オンの場合、マッスルの作成(Create Muscle)をクリックすると、cMuscleObject シェイプ ノードが作成されます。 オフの場合、cMuscleObject シェイプ ノードは作成されません。

マッスルの作成(Create Muscle) 作成(Create)タブで指定されたオプション に基づいて NURBS マッスルを作成します。

ミラー(Mirror)設定

ミラー軸(Mirror Axis) ミラーの中心線となる軸を指定できます。

検索(Search)/置き換え(Replace) ミラー操作中に検索して置き換える命名 規則を指定できます。たとえば、左から右にマッスルをミラーする場合は、検索 (Search)フィールドに「Lf」、置き換え(Replace)フィールドに「Rt」と入 力します。

選択項目からマッスルをミラー 現在選択されているマッスルをミラーします。

コピー/ペースト (Copy/Paste) 設定

最初に選択したマッスルをコピーし、選択したその他のマッスルにペーストしま す(Copy First Selected Muscle, Paste to Other Selected Muscles) 最初に選 択されたマッスルの設定をすべて(ジグル コントロールの値とスカルプト情報 など)コピーし、選択された別のマッスルにペーストします。

編集 (Edit) タブ

スカルプト(Sculpting)設定

作用(Affect) 編集する断面の軸を選択できます。デフォルトは X-Z です。

場所(Location) スカルプト(Sculpt)スライダを作用させるマッスルの部分 を設定します。スライダを左に設定するとマッスルの開始部分が調整され、右に 設定すると終了部分が調整されます。

減衰(Falloff)場所(Location)からの減衰の度合いに作用します。スライダの減衰(Falloff)の値を小さくすると、断面数が少なくなって減衰の影響が強くなります。

スカルプト(Sculpt) マッスルのサイズを変更します。

成長(Grow)設定

成長させるサーフェス(Grow to Surface) マッスルを成長させるメッシュの名

前を入力するか、そのメッシュを選択して ^{<<<} ボタンをクリックしてロード します。

メインボーン(Main Bone) マッスルの長辺方向に沿った主要ジョイントの名

前を入力するか、そのジョイント選択して

</>

 ボタンをクリックしてロードします。

メイン ボーン チップ(Main Bone Tip) メイン ボーン(Main Bone)をロー

ドするときに、自動的にロードします。

「ボタンを使用して手動でボーンを入力することもできます。

角度(Angle) 断面の成長させるポイントをコントロールします。角度(Angle) を 180 に設定すると、断面上のすべてのポイントが外方向に成長します。180 より小さい値に設定すると、その角度内にあるポイントだけが成長します。

脂肪(Fat) オフセットを設定してポイントの成長をサーフェスの内側に留めま す。

たとえば、**脂肪(Fat)**を2に設定すると、ポイントはサーフェスの内側から最大2単位までしか成長しません。これは、マッスルから成長したサーフェスまでのオフセットとして捉えることができます。

% レスト/収縮/伸長(% Rest/Sq/St) 成長する断面ポイントごとに、ポイント を配置する最終的な量を設定します。デフォルトではレスト(Rest)ポイントは 100%で、ポイントがサーフェスに当たります。収縮(Squash)と伸長(Stretch) のパーセンテージを設定すると、これらのカーブの成長度合いをレスト カーブ よりも増減させることができます。 % レスト/収縮/伸長の値を 100% より大きくすると、成長させるサーフェス (Grow To Surface) で選択したメッシュのシェイプに基づいてマッスルが成長 しますが、断面がメッシュよりも大きくなります。

マッスルの成長(Grow Muscle) メイン ボーン(Main Bone)とメイン ボー ンチップ(Main Bone Tip)のボーンで定義された中心線から外側にマッスル を成長させます。

選択したポイントの成長(Grow Sel Points) 選択したポイントから外方向に マッスルを成長させます。

シリンダにリセット(Reset to Cyl) マッスルをシリンダ シェイプにリセット します。

ポーズ(Poses)設定

カレントの状態を設定(Set Current State As) ボタン

選択したマッスルの レスト(Rest)、収縮(Squash)、伸長(Stretch)の状態を格納します。

幅のリセット(Reset Width) アタッチ ロケータの距離をマッスルの新しいデ フォルトの開始/終了幅にリセットします。

断面設定

編集(Edit)タブの下部にあるオプションでは、選択されたマッスルのコント ロールや断面を選択できます。

コントロール(Controls)断面ごとにコントロールを選択できます。このコン トロールは各部のジグル設定を持つアニメーション コントロールです。

レストの断面(CSect Rest) レストまたはデフォルト状態の断面を設定し、マッ スルのデフォルト シェイプをモデリングできます。

収縮の断面(CSect Squash) 収縮断面を選択し、収縮状態のマッスルの外観を 形成できます。

伸長の断面(CSect Stretch) 伸長断面を選択し、伸長状態のマッスルの外観を 形成できます。

ロケータのアタッチ(Attach Locs) 終点のアタッチ ロケータをすばやく選択 できます。

レストのアタッチ(Attach Rest) 各断面のデフォルトのアタッチ位置を選択 し、デフォルト ポーズでのマッスルの中心線の設定を調整できます。

収縮のアタッチ(Attach Squash) 収縮アタッチ ポイントを選択し、収縮ポーズのマッスルの中心線を調整できます。

伸長のアタッチ(Attach Stretch) 伸長アタッチ ポイントを選択し、伸長ポーズのマッスルの中心線の表示を調整できます。

関連項目

- マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する (22 ページ)
- マッスルをスカルプトする (26 ページ)
- マッスルを成長させる (28 ページ)
- マッスルのポーズ状態を設定する (25 ページ)

スティッキー バインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウ

このウィンドウは、適度なスティッキーのウェイト付けができるNURBSマッス ルの中心からポイントまでの距離を設定します。

マッスルの中心からの最大距離(Max. Distance from center of muscle) 最大 距離を手動で入力できます。

自動計算(Auto-Calculate) Maya マッスルで、スティッキー バインドに使用 するマッスルのジオメトリ上の中心点からの最適な全長を定義できます。

この距離を確認するには、球体の視覚化をオンにします。詳細については、ス ティッキー バインド距離を視覚化する (58 ページ)を参照してください。

平均値(Avg. Value) マッスルの中心からの最大距離(Max. Distance from center of muscle)値フィールドで指定する数値を使用します(複数の NURBS オブジェクトが選択されている場合、表示される数値は全部の平均値です)。

すべてのポイント(ALL Points) マッスルを接続し、メッシュのすべてのポイントにウェイト付けできるようにします。メモリが妥当な値であれば、このオプションだけを使用してください。



マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウ

マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウでは、主要なマッスルデフォーマのすべてのウェイトをペイントまたは設定できます。ペイントッールまたはポイントベースのエディタとして機能します。通常の Maya アーティザン ツールと同じ機能がかなり搭載されている上に、真のカラーフィードバックや Mayaマッスルで可能な各ウェイトタイプのペイント機能も提供されます。

🐻 Muscle Paint 📃 🗆 🗙		
Geo: jackie <<<		
Node: cMuscleSystem1		
Opacity: 1.000		
Radius: 1.000		
Stylus: Off 🔻 Reflect: Off 💌 Project		
✓ Paint Weights: Sticky ▼ ✓ Normalize		
Weight: 1.000		
✓ Live Update Set Weight / Flood		
Replace Add Scale Smooth		
0. cMuscleSurfaceright_shoulderMus1 1. cMuscleSurfaceright_forearmMus1 2. cMuscleSurfaceIt=jholderMus1 3. cMuscleSurfaceIeft_forearmMus1		
S. right_hip 6. right_hipe 7. right_ankle 8. left_hipe 9. left_ankle		
Filter: *		
Draw Gray Point Size:		
Close		

マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウのオプションと機能は次のとおりです。

ジオメトリ(Geo) 現在ペイントされているジオメトリを設定します。

ヒント: ジオメトリ (Geo) フィールドを右クリックし、マッスル デフォーマ を適用させるメッシュをロードできます。

ノード(Node) 指定したジオメトリで現在使用されているマッスル デフォー マを表示します。

ヒント: ノード(Node)フィールドを右クリックし、デフォーマ全体を有効/無 効にして一時的にウェイト ペインティングに関するすばやいフィードバックが 得られます。

ブラシプロファイル ガウス(Gaussian)、ソフト(Soft)、ソリッド(Solid)、 スクエア(Square)の4つのブラシプロファイルがあります。最初の2つでは ブラシのエッジ周囲の減衰がソフトになります。これによりウェイト付けはス ムースになりますが、各ポイントの値が指定された値と正確に一致しなくなる場 合があります。ソリッド ブラシとスクエア ブラシの値は常に正確ですが、ソフ ト エッジはありません。

不透明度(Opacity) ブラシの不透明度を設定します。スムース操作を行うと きはほんとんど必ず便利に利用できます。この機能ではスムース ペイントの強 度を設定できます。他のモードでは、実際のウェイトの乗数として機能します。 たとえば、ウェイトを1.0、不透明度を0.5 に設定すると、ペイントされる実際 のウェイトは 0.5 になります。

ヒント:不透明度(Opacity)フィールドを右クリックし、表示されるウェイトの値を選択できます。

半径(Radius) ブラシのサイズを設定します。

ヒント: 半径(Radius) フィールドを右クリックすると、共通ブラシのサイズが 複数表示されます。

スタイラス(Stylus) 通常の Maya アーティザン での タブレット サポートが 適用されます。スタイラス圧力はブラシの不透明度か半径、またはその両方に影 響を及ぼすことができます。

反射(Reflect) ペイントの際に、メッシュの反対側にミラーペイントします。 ウェイトは選択された同じマッスル/ボーンに設定されますが、ペイントは両側 に施されます。ブラシをミラーする軸を選択できます。これは、ポイントごとの スキンのジグル ウェイトまたはリラックス ウェイトをペイントしてミラー エ フェクトを適用する場合に便利です。

投影(Project) チェックすると、ペイント ブラシが円形になり、カレント カ メラ ビューから投影されます。チェックを外すと、ブラシ プロファイルがペイ ントしているサーフェスに対して垂直になります。

ペイント(Paint) オンの場合、メッシュに直接ペイントできます。マッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンドウが開いているとき、またはペイント(Paint) チェックボックスがオンになっているときにポイントを選択すると、そのポイ ントがペイント可能になり、マスクの残りは「マスキング」されます。ポイント が選択されていないと、メッシュ全体がペイント可能になります。 オフの場合、サーフェスのポイントを直接選択し、スライダを調整するか **ウェ** イトの設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood)をクリックしてウェイトを設定で きます。オフの場合、ウィンドウの動作がコンポーネント エディタにより近く なります。

ウェイト(Weights) デフォーマにペイントするウェイトを設定します。リラックスウェイトやジグルウェイトなどボーン/マッスルに関連していないウェイトの場合、インフルエンスリストは空になります。

正規化(Normalize) 自動的にオン/オフになり、通常は変更する必要はありま せん。すべてのマッスル/ボーンでペイントされたウェイトを0から1に正規化 するかどうかを設定します。たとえば、Bone A にペイントするときに Bone B がウェイト付けされている場合、2つの間の値は常に最大1になるまで加算され ます。スティッキー ウェイトではこの機能がオンになっており、スケルトンを 動かすとメッシュも 100% 移動します。その他のウェイトではほとんどオフに なっています。

ウェイト(Weight) ペイントするウェイトを設定するか、ペイント(Paint) モードがオフの場合は現在選択されているポイントのウェイトを設定します。

ヒント: ウェイト (Weight) フィールドを右クリックし、表示されるウェイト の値を選択します。

ライブアップデート(Live Update) ペイント(Paint)モードがオフでコン ポーネント ウェイトを直接設定する場合、ここで、スライダへの変更を即座に 更新するか、またはウェイトの設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood)をクリッ クしてから更新するかを指定します。オンの場合、ウェイトへの変更はすべてす ぐに反映されます。オフの場合、ウェイトの変更を設定するにはウェイトの設 定/塗りつぶしをクリックする必要があります。また、オンの場合、ウェイト (Weight)の値には、選択された全ポイントのカレントのマッスル/ボーンに対 する平均ウェイトが表示されます。オフの場合、ポイントの選択が変更されても ウェイトは更新されません。

ウェイトの設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood) ペイント(Paint)モードで は、ペイントしている全ポイントまたはマスキングしたポイントのカレントの値 と効力が塗りつぶされます。ペイント モードがオフの場合、選択されたポイン トに指定したウェイトを設定します。

置き換え(Replace)/加算(Add)/スケール(Scale)/スムース (Smooth)

ペイント (Paint) モードの時に、実行中のペイント操作を設定します。

置き換え(Replace) 各ポイントでペイントするときに、設定した値にウェイト を変更します。

加算(Add) ウェイトの値を各ポイントに加算します。

スケール(Scale) ウェイトを指定された値にスケールします。

スムース(Smooth) ポイントでウェイトをスムースします。

注: スムース操作の実行中は、インフルエンス リストの「保持」を必ず有効に し、ほとんどのボーン/マッスルで、ウェイトがスムースされず望ましくないイ ンフルエンスにならないようにします。

インフルエンス リスト

現在選択されているすべてのマッスルオブジェクトまたはウェイトのペイント 時に結合されたその他のノードが表示されます。たとえば、方向のペイント時に は、接続されたマッスル方向オブジェクトが表示されます。このリストからウェ イトをペイントするインフルエンスを選択してから、ウェイトをペイントまたは 設定することができます。複数のオブジェクトを選択しても、一番上のオブジェ クトしか使用されません。

複数のオブジェクトを選択するには、Ctrlをクリックしたまま選択して切り替え ます。

リストを右クリックして追加のオプションを表示します。

すべてを選択(Select All)/何も選択しない(Select None) 簡単にリストの全 オブジェクトを選択したり、まったく選択しないようにしたりできます。たとえ ば、リスト全体で**ウェイトのロック(Lock Weights)**を有効/無効にする場合 に、これを使用します。

ハイライトされたノードからポイントを選択(Select Points from Highlighted Nodes) 選択されたノードからウェイトが0以外のポイントを選択します。単 一のウェイトタイプをペイントする場合、ゼロより大きな値にウェイト付けさ れたポイントはすべて選択されます。これは、マスキングする場合、デバッグだ け行う場合などに便利な機能で、どのノードがメッシュのどのポイントに作用す るかを確認できます。

選択したポイントからノードをハイライト(Highlight Nodes from Selected Points) 反対方向に作用します。メッシュの1つまたは複数のポイントを選択 でき、このオプションでは、インフルエンスリストにある、選択したポイント に作用する項目がハイライトされます。ポイントに影響を与えるものをデバッグ できます。

注: リストをフィルタリングしている場合、ポイントに作用するノードがほかに あっても、ハイライトされるのはリストに表示されたノードのみです。これは便 利な1つのフィルタリング手法として利用できます。たとえば、ポイントを選 択してそれに作用するノードをハイライトしてから、フィルタ(Filter)フィー ルドを右クリックして表示リストを設定し、インフルエンスだけを表示できま す。

最後に、そのインフルエンスのウェイトのロック/保持(Lock/Hold)を有効 (Enable)または無効(Disable)に設定できます。インフルエンスを保持 (HOLD)に設定した場合、そのオブジェクトのウェイトは変更できなくなりま す。

たとえば、あるポイントの Bone A のウェイトが 0.75 で「**保持**」に設定されて いる場合に、Bone B へのウェイトを 1.0 に置き換えようとしても、Bone B の ウェイトは 0.25 になります。これは、ウェイトのロックがオフになっていない ためです。スムースまたはスケールの操作時、調整中のものを除くすべてのイン フルエンスを「**保持**」に設定し、追加のウェイトが別のオブジェクトにかからな いようにすると良いでしょう。

ヒント: マッスル ペイント ウィンドウのサイズを変更すれば、オブジェクトの リストが長くなります。

フィルタ(Filter)フィールド インフルエンス リストの表示項目を名前/ワイル ドカードで制限できます。1つまたは複数のワイルドカードまたは名前を使用し てフィルタリングすることができます。たとえば、このフィールドを「*Lf*」に 設定すると、名前に「Lf」が含まれるオブジェクトだけが表示されます。「Head* Neck*」と設定すると、Head または Neck で始まるオブジェクトだけが表示さ れます。

フィールドを右クリックすると、「*」と設定してリストをリセットできます。 さらに、選択したノードだけフィルタリングできます。リストにある1つまた は複数の項目をハイライトすると、フィルタリングしてそのノードだけを表示で きます。

描画(Draw) オンの場合、ポイントのカレントのウェイト値がメッシュ上に 描画されます。ポリゴン メッシュ オブジェクトでは、メッシュのサーフェス上 に表示されます。その他のオブジェクトでは、頂点ごとに個々のポイントカラー が表示されます。オフの場合、カラー表示はオフになります。

グレー(Gray)オプションウェイトペイントの現在のカラーをオーバーライド して、描画するウェイト値が1から0に変化するに従って白から黒に変化する ように表示します。

ポイント サイズ (Point Size) スライダ NURBS またはサブディビジョン サーフェスの描画 (Draw) オプションがオンのときに表示されるポイントのサイズ を設定します。ポリゴン メッシュにペイントする場合は機能しません。

A/B/C カラー スライダ ペイント時に使用されるカラーをカスタマイズできま す。ウェイトが 0.5 から 0.0、0 に近づくに従って、カラーは A から B、C へと 変化します。0 の場合はすべてのカラーが黒になります。C カラーは黒以外のカ ラーに設定し、小さなウェイト値を検出できるようにすることをお勧めします。

閉じる(Close)ボタン マッスル ペイント ウィンドウを閉じ、カラーとペイン ト(Paint) モードをオフにします。

注: マッスルペイント ウィンドウはメッシュにマッスル表示シェイプを作成します。ペイント時以外であればこのノードは手動で削除できます。マッスルペイントウィンドウを再起動すると、必要に応じてこのノードが自動的に再作成されます。削除できる polyColorPerVertex ノードを作成することもできます。

関連項目

■ マッスル ウェイトをペイントする (100 ページ)

デフォルトウェイト(Default Weights)ウィン ドウ

デフォルト ウェイト(Default Weights) ウィンドウには、選択された**ウェイ** ト(Weight)のタイプに応じて次のオプションがあります。

ウェイト(Weight) 適用するウェイトのタイプを設定します。スティッキー、 スライド、方向、またはスマート コリジョンなどのインフルエンスを持つウェ イトの場合、ウェイト付けは接続されているノードによって決まるため、使用で きるのは スムース オプションのみです。単一のウェイト タイプにはほかのオプ ションがあります。

スムース(Smooth) メッシュの初期のウェイト付けを定義した後に、デフォ **ルト ウェイト** ウィンドウを適用するスムース操作の数を設定します。

減衰(Falloff) スライドウェイトを設定する場合に、マッスルまたはボーンの ウェイトの減衰開始位置を設定してウェイトをドロップオフさせます。 方向による(By Direction) 単一のウェイト タイプを設定する場合、ポイント の法線方向に基づいてウェイトを設定できます。たとえば、これを使用してモデ ルの下面をジグル用にウェイト付けし、上面よりも下面の方がジグルするように します。

方向(Direction) 方向によって設定する場合、ここで比較する方向を設定しま す。デフォルトは 0、-1、0 または負 Y であるため、ポイントはメッシュの下面 よりにウェイト付けされます。

角度(Angle) 方向ベースのウェイト付けの場合、ここで、ポイントがウェイト付けできるようになるスプレッド角度を設定します。たとえば、デフォルトの45 は、法線が設定された方向の45 度以内にあるすべてのポイントがウェイト付けされることを意味します。

曲率による(By Curvature) モデルの曲率に基づいてウェイトを設定できま す。モデルのスムースさまたは角度の大きさに基づいて、ウェイトの大小を調整 できます。

カーブ(Curve) ウェイト付けするポイントの隣接したポイントからの湾曲角 度を設定します。たとえば 5 に設定した場合、ウェイト付けするには、すべて のポイントが 5 度以上離れていなければなりません。

曲率の反転(Reverse Curvature) 最終値が反転するように曲率を設定します。 この場合、5という値は、5度以上離れたすべてのポイントがよりスムースに ウェイト付けされるということです。

ウェイトの削減(Prune Weights) 小数点単位でウェイトのレベルを指定できます。デフォルトのウェイト付けから小さいウェイトを削除したり削減したりするのに便利です。

デフォルト ウェイトを適用(Apply Default Weights) ウェイト付けを開始します。

関連項目

ウェイトのロードと保存 (102 ページ)

ウェイトの保存(Save Weights) ウィンドウ

ウェイトの保存(Save Weights)ウィンドウには、マッスルのウェイトを保存、 ロードするオプションが含まれます。**ウェイトの保存(Save Weights)**ウィン ドウの設定とオプションは次のとおりです。 **ノード(Node)** ウェイトをロードまたは保存するノードを指定します。

保存(Save)設定

ファイル名(Filename) ウェイトの保存に使用するファイルを指定します。こ れは単純な ASCII テキスト ファイルで Maya 以外のツールでも操作を簡単にカ スタマイズできます。

ウェイト(Weights) 保存するウェイトのタイプを選択します。

ウェイトの保存(Save Weights) ノード(Node)フィールドで指定された変形されたマッスル オブジェクトのすべてのポイントのウェイトを保存します。

ロード(Load)設定

ファイル名(Filename) ウェイトのロードに使用するファイルを指定します。

ウェイト(Weights) ロードするウェイトのタイプを設定します。ウェイトタ イプに互換性がある場合は、あるタイプから保存して別のタイプにロードするこ とができます。

正規化(Normalize) 自動的にオン/オフされますが、この値を無効にして、各 ポイントにロードされたウェイトを1.0に正規化するかどうか定義することもで きます。この設定は、単純なポイント単位のウェイトには影響しません。

ロード方法(Load By) ポイントの順序/インデックスまたは位置によってロードされるよう指定できます。ポイント位置のロードを使用すると速度は落ちますが、ウェイトのミラーリング、変更された可能性のあるトポロジへのリロードが可能になります。

ポイント位置の一致許容値 0以上の値では、ポイント位置のロードがオリジナ ルサーフェスからの距離に一致する距離が設定されます。値が-1の場合、許容 値の無効化/無視を意味します。

ヒント: 許容値(Tolerance)フィールドを右クリックすると、許容値のプリセット値を選択できます。

ウェイトの削減(Prune weights to) チェックされている場合、ロードされた ウェイトは指定された小数位に切り捨てられます。デフォルトは3で、ウェイ トが 0.12345 の場合は 0.123 となります。 **ヒント: 削減小数位(Prune decimal places)** フィールドを右クリックすると、 小数位のプリセット値を選択できます。

ミラー位置(Mirror Pos.) これは、ロードされたポイントをミラーリングする ためにポイント位置をロードするときに使用できます。通常は、検索(Search)/ 置き換え(Replace)フィールドと一緒に使用します。

検索(Search)/置き換え(Replace) ミラー位置(Mirror Position)オプショ ンで使用します。一致するポイントが見つかったら、オリジナルインフルエン スで検索と置き換えを実行し、ロードされたウェイトがミラー側に適用されるよ うにします。たとえば、検索/置き換えをそれぞれ_Lと_Rに設定すると、 MuscleBicep_L という名前のマッスルにウェイト付けするポイントが見つかっ た場合、ウェイトのロード時、代わって MuscleBicep_R に適用されます。

ファイルからインフルエンスを選択(Select Influences from File) ウェイト ファイルを保存するときは、使用されたオリジナルのボーン/マッスル/カプセル に関する情報が含まれます。このボタンをクリックすると、ファイルのデータに 基づいてオリジナル インフルエンスが再選択されます。このオプションは、検 素(Search)/置き換え(Replace)と一緒に使用して、すべてのインフルエン スの選択だけではなく、ミラー インフルエンスの選択にも使用できます。

ウェイトのロード(Load Weights) 指定したマッスル デフォーマ ノードに よって変形されているメッシュに、ファイルからウェイトをロードします。これ は選択されたポイントに対して機能します。ポイントが選択されていない場合、 オブジェクトの全ポイントが自動的に選択、ロードされます。ミラーリングに使 用するウェイトをロードする場合、オブジェクトのロードする側のポイントだけ を選択し、オリジナル側が変更されないようにすることが重要です。

セルフ コリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィンドウ

セルフコリジョンのグループ化(Self Collision Grouping)ウィンドウでは、領 域を設定してメッシュと衝突しないようにすることができます。**セルフコリジョ** ン(Self Collision)が有効になっている場合、対になったポイントはお互いに衝 突しようとします。別のマッスルデフォームオブジェクトが選択されると、ウィ ンドウは自動的にリフレッシュされます。

セルフ コリジョンのグループ化 ウィンドウのオプションは次のとおりです。

cMuscleSystem 選択したオブジェクト/ポイントに関連するマッスル デフォー マが表示されます。

名前(Name) グループを作成または編集/名前変更する場合、ここでその名前 を指定します。スペースも使用できます。

ポイントA(PtsA)/ポイントB(PtsB) グループ化の各半分のポイントイン

デックスをロード/指定できます。 ボタンは、選択したポイントをウィンドウにロードします。ポイント A/B ボタンでは、すでに選択してグループ化を表示/編集したポイントを再編集できます。

セルフ コリジョン グループ(Self Collision Groups)作成した各グループ化を 表示します。名前とグループの A 側と B 側のポイント数が表示されます。

編集(Edit) リストで現在選択されている項目のデータを、ウィンドウの名前 (Name) /ポイント A (PtsA) /ポイント B (PtsB) セクションと置き換えるこ とができます。

削除(Delete) リストから選択されたグループ化を削除します。

マッスル スプライン(Muscle Spline)ウィン ドウ

マッスル スプライン ウィンドウの基本オプションは次のとおりです。

名前(Name) スプラインとすべての関連オブジェクトに使用する名前を指定 します。名前の衝突を避けるために、固有の名前を指定してください。

挿入コントロール数とタイプ(Num Insertion Controls & Type) スプライン に作成するコントロールオブジェクト/ポイントの数を設定します。各ポイント には接線長とジグル コントロールがあります。コントロール オブジェクトとし て使用するシェイプまたはノードのタイプを選択することもできます。

ドリブン数とタイプ(Num Driven & Type) スプライン カーブに「スタック」 するオブジェクトの数を設定します。設定したオブジェクトはカーブに影響を受 け、カーブの移動に従って移動/回転します。通常は、スキニングに使用できる ため、ジョイントが使用されますが、ほかのブジェクトを選択することもできま す。

中間コントロールのコンストレイン(Constrain Mid Controls) オンの場合、 真中のコントロール オブジェクトはすべて自動的にコンストレインされ、最初 と最後に作成されたオブジェクトの間の正しい位置に配置、エイムされます。た だし、手動でもコントロールは可能です。オフの場合、コントロールはコンスト レインされません。

マッスル スプライン リグの作成(Create Muscle Spline Rig)準備が整った ら、このボタンをクリックして選択オプションで設定したスプラインを作成して ください。

関連項目

■ マッスル スプライン デフォーマを作成する (40 ページ)

マッスルスプラインデフォーマ(Muscle Spline Deformer)ウィンドウ

マッスル スプライン デフォーマ (Muscle Spline Deformer) ウィンドウの基本 オプションは次のとおりです。

名前(Name) マッスル スプラインまたはマッスル スプライン デフォーマで 使用されていない固有の名前を入力します。作成したリグ ノードでこの名前が 使用されます。

コントロール数(Num Controls) スプラインとデフォーマで使用するコント ロールの数を設定します。最低でも、スプラインの開始点に1つ終了点に1つ の2つのコントロールが必要です。

タイプ(Type) スプライン コントロールの形状を選択できます。

マッスル オブジェクトの作成(Make Muscle Object) チェックされている場 合、オブジェクトが変換されてマッスル オブジェクト シェイプ ノードが設定さ れます。これにより、マッスル スキンデフォーマに接続できるようになります。

マッスル スプライン デフォーマのセットアップ(Setup Muscle Spline Deformer) 提供された設定で選択されたオブジェクトにデフォーマを適用します。

関連項目

■ マッスル スプライン デフォーマを作成する (40 ページ)

マッスルスプラインデフォーマ(Muscle Spline Deformer Shape)ウィンドウ

マッスルスプラインデフォーマのシェイプ(Muscle Spline Deformer Shape) ウィンドウのオプションは次のとおりです。

ジオメトリ(Geo) 修正するジオメトリを指定します。

<<< (選択項目のロード) </p>

デフォルト(Def) 形成するマッスル スプライン デフォーマを表示します。

スカルプトの準備(Prep for Sculpt) スカルプトするメッシュを準備し、直接 修正してシェイプを修正できるテンポラリジオメトリを作成します。

カラー サンプル(Color Swatch) テンポラリ スカルプト ジオメトリのカラー を設定します。

新規作成(Create New) テンポラリ ジオメトリの変更をスカルプトした後、 カレントの状態(Current State)の長さの新しいターゲット シェイプを作成し ます。

編集(Edit) テンポラリ ジオメトリの変更をスカルプトした後、右側のリスト から修正するターゲット シェイプを選択し、このボタンをクリックします。オ リジナル シェイプがスカルプトしたばかりのシェイプに置き換えられます。

名前の変更(Rename) リストからターゲット シェイプを選択してクリック し、名前を変更します。

削除(Delete) 右側のリストからターゲットシェイプを選択してクリックし、 ターゲット シェイプを削除します。

ブレンド(Blend)作成したシェイプのブレンドをどのようにオン、オフにす るかを設定します。小さい値の場合、シェイプはマッスルの長さがオリジナルの スカルプト長にごく近い場合のみ、トリガされます。大きい値の場合、マッスル のカレントの状態/長さがスカルプト長よりもかなり離れていてもシェイプがブ レンドされます。

カレントの状態(Current State) マッスルのカレントの状態を表示します。-1 はマッスルが完全に収縮されている状態、+1は完全に伸長した状態、0はデフォ ルトの長さであることを意味します。

関連項目

 マッスル スプライン デフォーマでカスタム マッスル シェイプを設定する (46ページ)

マッスル ノード

9

マッスル ノード

このマニュアルでは、Mayaマッスルにコネクトされるすべてのノードについて説 明します。

cMuscleCreator ノード

これはディペンデンシー ノードの1つで、必要な NURBS サーフェスを計算し、 新しいマッスルを作成します。事実上、このノードは入力カーブ、その他のアト リビュートに基づいて、マッスルのカレント シェイプを出力します。

ここでは、cMuscleCreator ノードのアトリビュートについて説明します。

断面(Cross Sections) 最終的な NURBS ジオメトリ マッスルの断面の数を設定 します。ただし、これは実際の断面カーブ/コントロールとは異なるので注意して ください。断面カーブ/コントロールは、マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウで作成する前にのみ設定できます。

サイド(Sides) NURBS マッスル周囲のポイント数を設定します。

許容値(Tolerance) マッスルの長さなどを処理するために、cMuscleCreator ノードで内部的に使用される精度を設定します。デフォルトは24です。この値が 大きくなればなるほど、精度は高くなります。この値を変更する必要はありませ ん。

アップ軸(Up Axis) 自動的にアタッチ ポイントをドライブするためには、 cMuscleCreator ノードがツイスト/回転の処理方法を認識していなければなりま せん。使用するクロス軸は、このアトリビュートによって決まります。フリップ に問題がある場合は、この軸を変更してコントロールの方向を調整します。

フラット断面 (Flat Cross Sections)

断面のカーブ ポイントで、X-Z 位置のみ、または 3D 位置のどちらに基づいて サーフェスをドライブするかを設定します。

オン 3D でモデル化した場合でも、断面カーブはマッスルに対して二次元的な影響のみを与えます。

オフマッスルの長辺方向に沿って断面ポイントを移動することにより、マッス ルポイントもこの方向にスカルプトされます。

コントロールの表示(Show Controls) マッスルに関連するコントロールの可 視性をオンまたはオフにします。

レストムーバの表示(Show Rest Movers) マッスルに関連するレスト シェイ プの可視性をオンまたはオフにします。

収縮ムーバの表示(Show Squash Movers)マッスルに関連する収縮シェイプ の可視性をオンまたはオフにします。

伸長ムーバの表示(Show Stretch Movers) マッスルに関連する伸長シェイプ の可視性をオンまたはオフにします。

重力の強さ(Gravity Strength)マッスルの「レストのアタッチ」コントロー ルはそれぞれ、各断面に対する重力の影響度合いを設定するための重力アトリ ビュートを持ちます。このアトリビュートは、重力に応じてマッスルを動かすた めの乗数です。

重力ジグル(Gravity Jiggle) ジグルが発生したときに、マッスルを重力の方向 により多く動かします。

重力サイクル(Gravity Cycle)重力の方向にマッスルを動かすときのサイクル レートに作用し、マッスルの最上部がよりゆっくりと動くようにします。

重力 X/Y/Z(GravityX/Y/Z)重力の方向を設定します。デフォルトは負 Y で す。

基準(Based On)

マッスルがレスト、収縮、または伸長のうちどの状態であるかの判断基準を設定 します。

長さ(length)マッスルの状態は、アタッチコントロールに基づくマッスルの 長さによってのみドライブされます。 **ポーズ(pose) レスト(Rest)、収縮(Squash)、伸長(Stretch)**ボタンを 使用してポーズを格納した場合、ポーズ データ セットのみ使用されます。

ポーズか長さ(pose or length) ポーズ ボタンが格納されるまで長さを使用し ます。格納後は、ポーズ データが代わりに使用されます。これはデフォルトの 状態です。

補間モード(Interp Mode)

マッスルの3つの状態の間を補間する方法を設定します。

リニア(linear) リニア補間を行います。これがデフォルトの設定です。

スムース ステップ(smooth-step) 状態をよりスムースに補間します。

アニメーションカーブ(animCurve) Mayaのグラフエディタ(Graph Editor) を使用して 収縮(Sq)と伸長(St)カーブを調整し、マッスルの状態がレスト から収縮または伸長に変更するレートを設定します。

ポーズ使用(Pose Uses) マッスルのポーズ状態(カーブの長さではなくポーズ ボタン)を使用する場合、これにより、状態の読み取り方法が決まります。ポー ズは、親に対する子ボーンの角度か相対位置、またはこの両方により決定されま す。

ポーズ読み取り軸(Pose Read Axis) ポーズの読み取りに使用されるボーンの 軸を設定します。

ツイストのポーズ使用(Pose Use Twist) ツイストの結果、ポーズ状態が解除 されたときに、マッスルをデフォルトの状態に戻すかどうかを設定します。デ フォルトは **オフ** です。

デフォルト幅開始(Def Width Start) /デフォルト幅終了(Def Width End) マッ スルの開始/終了ロケータのデフォルト距離。ウィンドウのポーズ(Pose) セク ションで幅のリセット(Reset Width) ボタンを使用すると、自動的に設定され ます。この情報は、自動ワイド化(autoWiden)を使用しているときに適用さ れます。

デフォルトの長さ(Len Default)/収縮時の長さ(Len Squash)/伸長時の長さ (Len Stretch) マッスル アタッチ コントロールの位置に基づいて暗示される マッスル カーブの距離を表します。マッスルの状態の判断に「長さ」を使用す る場合、これらの値はマッスルの状態を表します。

自動回転(Auto Rotate) 必要に応じてコントロールを自動的に回転できるよう に、マッスル コントロールとアタッチ カーブを設定します。 自動ワイド化(Auto Widen) マッスルのどちらかの端にあるオリジナルのア タッチ ポイントを移動して、マッスル収縮の最後のスパンを作成します。この 距離に基づいて、マッスル全体の幅を増減する必要がある場合は自動ワイド化 (autoWiden)を大きくします。これにより、開始/終了アタッチ ポイントを移 動した場合に、マッスル全体がスケール アウトされるようになります。

収縮時に弱める(Dampen On Squash)/伸長時に弱める(Dampen On Stretch) マッスルの収縮に従ってマッスルをジグルして弱めるようにサイクル させ、マッスル張力のシミュレーションを支援します。

手動伸縮(Manual Sq St) ポーズに関係なく、マッスルを収縮断面または伸長 断面に手動でスケールするためのアニメーション コントロール。マッスルは、 負の値では伸長し、正の値では収縮します。

リニア自動収縮(Linear Auto Squash)/リニア自動伸長(Linear Auto Stretch) マッスルのアタッチ位置をすでに設定、または調整している場合で も、これらのアトリビュートで設定をオーバーライドできます。これにより、 マッスルの状態が収縮ポーズまたは伸長ポーズに達すると、マッスルの断面が開 始位置から終了位置までリニア位置に入ります。

ユーザ スケール(User Scale) このアトリビュートは、リグのメインのスケー リング ノードに接続して、マッスルのリグ スケールをサポートします。

リセット フレーム(Reset Frame) ジグルの開始フレームを設定します。この フレーム以前のすべてフレームで、ジグルは無効化されます。1つの Maya ファ イルで複数のショットをアニメートしている場合、キャラクタが突然移動したと きに不必要なジグルが表示されないようにするには、ステップ キーを使用して これをアニメートします。

関連項目

■ マッスル クリエイタを使用してマッスルを作成する (22 ページ)

cMuscleDirection ノード

これはスライディングの方向調整を実装し、Muscleデフォーマノードに接続するロケータノードの1つです。

ここでは、cMuscleDirection ノードのアトリビュートについて説明します。

強さ(Strength) ポイントにおける cMuscleDirection エフェクトの強さをコ ントロールします。このエフェクトは、すでにペイントされているウェイトの最 上部にかけられます。同一ポイントで複数の cMuscleDirection ノードが競合している場合、1 を超える値だけがエフェクトを修正します。

減衰内側(Falloff Inner)/減衰外側(Falloff Outer) ノードの表示をコントロールします。出力サーフェスには影響しません。

タイプ(Type)

この方向への押し込みのタイプを設定します。

ベクトル(vector) cMuscleDirection ノード上の矢印で示された方向に沿って、基本スライド押し込みを行います。

放射状(radial) カプセルやいくつかのリングのように、中心線から外向きに 押し込みが行われるようにノードを変更します。

長さ(Length) 放射状(radial)モードで、cMuscleDirection で表示される長 さをコントロールします。

方向軸(Dir Axis) 方向ノードで使用する軸を設定します。ベクトル モードで は、この軸はスライド方向をコントロールするために使用されます。放射状モー ドでは、主たる中心線軸で、方向はここから放射状に押し出されます。

方向ウェイトのロック(Lock Dir Wt) ペイントウェイトで、このノードのウェ イトをロックするように設定されます。通常、この設定を手動で編集することは ありません。

描画(Draw) ロケータをシーン ビューに描画するかどうかを決定します。

ハイライト(Highlight) 選択したときに、ロケータをトゥルーカラーで表示す るか Maya のデフォルト カラーを使用するかをコントロールします。

サイド数(N Sides) 描画の LOD を設定します。これはスキンの出力結果には 影響しません。値が大きいほど、ワイヤフレームの見た目がよりスムースになり ますが、描画速度は低下します。

入力カラー(In Color)/出力カラー(Out Color) cMuscleDirection ロケータ 内外の描画部分のワイヤフレームカラーを設定します(cMuscleDirection ノー ドが選択されている場合、アトリビュート エディタ(Attribute Editor)を使用 してアクセスすることもできます)。

関連項目

■ 方向ノードの使用 (62 ページ)

cMuscleDisplace ノード

これは cMuscleDisplay のジオメトリックまたはシェーダ ベースのデフォメー ションエフェクトの適用に必要なマッピング情報と位置を表示するロケータノー ドです。

cMuscleDisplace ノードには、次のようにさまざまなアトリビュートがあります。

モード (Mode)

cMuscleDisplace ノードの投影タイプを設定します。

平面(planar) フラットなプレーンに基づいてディスプレイスメントを設定し ます。プレーンがメッシュのサーフェスに近づくに従って、ポイントは外方向へ 移動します。

円柱(cylindrical) 前項と同様ですが、円柱投影を使用します。このモードは、 ボーン/ジョイント/カプセルにノードをペアレント化する場合により効果的で す。このタイプでは、サーフェスとの間でボーンやジョイントを移動するに従っ て、ディスプレイスメント エフェクトが発生します。

カーブ(curves) 任意の数の NURBS カーブを接続します。これによりイメー ジマップのエフェクトが置き換えられ、代わりにカーブがサーフェスに近づく に従って、半径と減衰を使用してエフェクトがコントロールされます。カーブ モードでは、ロケータは大文字の「C」としてディスプレイスメントされ、その 位置/配置は影響を持ちません。



長さ(Length) 平面モードでは、プレーンのサイズをコントロールします(ディ スプレイスメント ノードを不均一にスケールし、非正方形のシェイプにするこ とができます)。円柱モードでは、シリンダの長さをコントロールします。カー ブモードでは、長さには cMuscleDisplace ノードの表示上のサイズ調整以外の エフェクトはありません。

半径サイズ(Size Radius) 平面(Planar) モードでは、何もエフェクトはあり ません。**円柱**(Cylindrical) モードでは、シリンダの半径を設定します。カーブ (Curves) モードでは、ディスプレイスメント ノードに接続されているカーブ の暗示半径を設定します。

振幅(Amplitude) ポイント上でのディスプレイスメント ノードの高さまたは 強さをコントロールします。

減衰(Falloff) 平面モードと円柱モードでは、プレーンまたはシリンダの減衰 範囲を設定します。ディスプレイスメント ノードがサーフェスに近づくに従っ て、ディスプレイスメント エフェクトが発生します。遠ざかると、エフェクト は減衰します。この値には、エフェクトが0に減衰するまでの移動距離を設定 します。カーブ モードでは、ディスプレイスメントの減衰の起点となるカーブ からの距離を設定します。

押し込みモード(Push Mode)

ディスプレイスメントの発生方法を設定します。これは変形ベースのディスプレ イスメントに影響を与えるだけで、レンダー/シェーダディスプレイスメントに は影響しません。

法線(Normal) ディスプレイスメントは、ポイントが法線に沿って移動するに 従って発生します(または、変形の cMuscleDirection ノード/方向ウェイトに 影響されます)。これがデフォルトの設定です。

ギズモ(gizmo)押し込みの方向は、実際の cMuscleDisplace ノード自体に基づいています。これを表示するには、平面ディスプレイスメントを回転させるか、または円柱ディスプレイスメントを使用しています。この場合、ポイントは、ポイントの法線ではなく、cMuscleDisplace ロケータの方向に沿って移動します。

結合モード(Combine Mode) ディスプレイスメント エフェクトは1つずつ計 算されるので、cMuscleDisplace ノードの接続順序は重要です。各ディスプレイ スメントはメッシュに影響を与えるため、デフォーマは2つのノードの結合方 法を定義する必要があります。デフォルトの「最大」モードでは、ポイントを最 も大きく押し込むディスプレイスメント ノードと振幅が使用されます。ノード のうち最も大きなエフェクトを持つものがポイントの最終的な移動方法となり、 これはスライド エフェクトの作用とより厳密に一致します。「加算」モードで は両方のディスプレイスメントが結合され、常にディスプレイスメント ノード のエフェクトが既存のディスプレイスメントに追加されます。 下の図には、イメージマップにソフトな白い四角形を持つディスプレイスメン トノードが2つあり、ボックスを押し出しています。「最大」モードでは、ディ スプレイスメントノードのうち高い方がポイントを押し出しているのがわかり ます。「加算」モードでは、ボックスがオーバーラップしているところで、ディ スプレイスメントのエフェクトが2倍になっています。



描画(Draw) これは表示オプションのみです。ロケータ ノードを表示/非表示 にします。

ハイライト(Highlight) Mayaのデフォルトでは、選択したオブジェクトは白または緑色でハイライトされます。この値が1の場合、選択されたオブジェクトのワイヤフレームも同様にハイライトされます。0に設定するとハイライトされないため、オブジェクトを選択してもワイヤフレームカラーは変わりません。

ワイヤフレーム カラー(Color Wireframe) cMuscleDisplace ノードのシーン ビューでの表示カラーを設定します(このアトリビュートは**アトリビュート エ** ディタでのみ表示されます)。

ワイヤフレームカラー2(Color Wireframe 2) 選択時の cMuscleDisplace ノードの表示カラーを設定します(このアトリビュートはアトリビュート エディタ でのみ表示されます)。

サイド数(N Sides) 円柱モードでは、シリンダに表示されるスパン/ディテールの数を設定します。実際のディスプレイスメントの計算には影響しません。

注: cMuscleSystem ノードには、ディスプレイスメント デフォメーションに影響するディスプレイスメントの有効化 (enableDisplace) アトリビュートとコリ ジョン ディスプレイスメント (collisionDisplace) アトリビュートも含まれま す。詳細については、ディスプレイスメントアトリビュート (229 ページ)を参照 してください。

関連項目

- ディスプレイスメント デフォメーションを設定する (88 ページ)
- NURBS カーブを cMuscleDisplace ノードに接続する (90 ページ)

cMuscleDisplay ノード

これは、Muscle デフォーマ ウェイトのカラー表示と計算を実装するロケータ ノードです。マッスル ペイント ウィンドウを閉じると、自動的にメッシュから 削除されます。

関連項目

■ マッスル ウェイトをペイントする (100 ページ)

cMuscleKeepOut ノード

これは、cMuscleObject ノードに対するトランスフォーム ベースのスライド エ フェクト、またはコリジョン エフェクトを作成するロケータ ノードです。この ノードは、子オブジェクトがマッスル オブジェクトのボーン、カプセル、また はマッスルと衝突しているように見せるために、このオブジェクトに必要なオフ セットや位置を計算します。

たとえば、腕が常に胸の外側に来るように、平らにした特殊なジョイントを腕に ペアレント化し、腕を下げたときに胸のマッスル オブジェクトと衝突させるこ とができます。

cMuscleKeepOut ノードには、次のアトリビュートがあります。

有効化(Enable) Keep Out ノードがアクティブかどうかを設定します。オフ に設定した場合、計算は無効になります。

入力方向 X/Y/Z (In DirectionX/Y/Z) スライドで使用されるノードのローカル の方向を設定します。実際のスライド方向は反転されるので、Y軸がスライドし ているように表示するには、-Y を設定します。

精度(Quality)

これはマッスル デフォーマでのスライド精度と同じです。NURBS マッスルオ ブジェクトでは、次のようになります。 **フル(Full)**実際のスライドを正確に作成します。

中(Medium) サーフェスの概算を使用します。

低(Low) カプセルを使用して、シェイプを概算します。

描画(Draw) KeepOut ノードを描画するかどうかを設定します。

関連項目

■ KeepOut ノードを使用したコリジョンのトランスフォーム (116 ページ)

cMuscleMultiCollide ノード

これは、マルチオブジェクト エフェクトとセルフ コリジョン エフェクトの両方 を提供するために、メインのマッスル デフォーマよりもシンプルなスタンドア ローン型のデフォーマを提供するデフォーマ ノードです。

マルチ コリジョン デフォーマを調整するためのアトリビュートは次のとおりで す。

エンベロープ(Envelope) デフォーマ全体を有効/無効にする標準の Maya デフォーマ エンベロープ アトリビュート。0 の場合、マルチオブジェクト コリジョンは無効になります。

許容値(Tolerance) 計算で使用される内部許容値を設定します。これは他の値 と内部的に乗算されるもので、調整の必要はありません。

減衰(Falloff) 各コリジョン領域でポイントがボリューム化される距離を設定 します。

ボリューム化(Volumize) コリジョン領域で発生するバルジまたはボリューム 化の量を設定します。

ブラーの反復(Blur Iterations) コリジョンが発生すると、その解決のためにポ イントは移動/平滑化されます。よりスムース/ソフトな外観を得るために、この エフェクトを徐々にぼかし、コリジョンを取り囲むその他のポイントに影響を与 えます。これはこの計算で行われる反復回数を設定します。

リラックスの反復(Relax Iterations) コリジョン後、減衰領域内のポイント は、リラックス アルゴリズムを使ってリラックスできます。これはその反復回 数を設定します。
リラックスの強さ(Relax Strength) セルフ コリジョン後、減衰領域内のポイントは、リラックス アルゴリズムを使ってリラックスできます。これはリラックス エフェクトの強さを設定します。

スムースの反復(Smooth Iterations) コリジョン後、減衰領域内のポイント は、通常のスムース アルゴリズムを使ってスムースにできます。これはその反 復回数を設定します。

スムースの強さ(Smooth Strength) コリジョン後、減衰領域内のポイントは、 スムース アルゴリズムを使ってスムースにできます。これはスムース エフェク トの強さを設定します。

スムースの保持(Smooth Hold) コリジョンスムージングで、スムース操作中 のスムースの保持量を設定します。値が大きいほど、ポイントを法線に沿ってス ムースにすることはできなくなり、保持されるボリュームが大きくなります。

関連項目

- マルチオブジェクト コリジョン (115 ページ)
- セルフ コリジョン (114 ページ)

cMuscleObject ノード

これは、メインのマッスル/ボーン/カプセル オブジェクト ノードを実装するロ ケータ ノードです。マッスル デフォーマ ノードに接続される任意の NURBS サーフェス、ポリゴンメッシュ、またはトランスフォーム/ジョイントには、こ れを適切な接続を持つシェイプ ノードとして適用する必要があります。

ここでは、cMuscleObject ノードのアトリビュートについて説明します。

スティッキーの強さ(Sticky Strength) マッスル デフォーマで使用する場合、 このオブジェクトからのスティッキーの強さをコントロールします。通常、1.0 に設定します。これは、このノードに対してペイントされているスティッキー ウェイトの乗数です。スライドの強さ(Sliding Strength)アトリビュートに加 え、この値によってスティッキーの量とウェイトをペイントした後のスライドの 量を調整できます。

スライドの強さ(Sliding Strength)オブジェクトのスライドエフェクトの量 を設定します。通常、1.0に設定します。スティッキーの強さ(Sticky Strength) アトリビュートに加え、この値によってスティッキーの量とウェイトをペイント した後のスライドの量をツィークできます。 **脂肪(Fat)** マッスル スキン デフォーマとともに使用した場合、これはカプセル、ボーン、またはマッスル オブジェクトのサーフェスと、スライドを使用したときに押し出されたスキンの間のオフセットを定義します。

たとえば、**脂肪(Fat)**を0に設定すると、カプセル、ボーン、またはマッスル のサーフェスがタッチするまで、スキンは押し出されません。脂肪の値を大きく すると、カプセル、ボーンまたはマッスルとスキンの間にギャップが作成されま す。

法線の反転(Reverse Normals) マッスル スキン デフォーマと一緒に使用する ときに、ポイントが外側でなく内側に押されるようにスライド エフェクトを変 更します。通常、このアトリビュートはオフに設定されます。下にスライドせず に、メッシュと衝突するように見えるマッスルまたはボーンを作成するには、こ れをオンにします。

相対(Relative) cMuscleSystem ノードの相対スティッキー(Relative Sticky) で相対(relative)がオンの場合に、ノードのエフェクトを相対的にするかどう かを設定します。オンの場合(デフォルト)、マッスルのスティッキー エフェ クトは、さらにローカルとみなされるため、二重トランスフォームは行われませ ん。

注: これは、cMuscleSystem の相対スティッキー アトリビュートの相対がオン の場合のみエフェクトが生じます。

半径(Radius) カプセルの主半径または主サイズを設定します。

長さ(Length) カプセルの長さを設定します。カプセルの終点ロケータが作成 されると、この値は距離に基づいて自動的に変更されます。

カプセル軸(Capsule Axis) カプセルの長辺方向の軸を設定します。

スティッキーに作用(Affect Sticky) デフォルト ウェイト ツールで使用されま す。ノードのスティッキーに作用(Affect Sticky)がオンに設定されている場 合、このノードのスティッキー ウェイトにデフォルト ウェイトが設定されます。

スライドに作用(Affect Sliding) デフォルトウェイト(Default Weights)ツー ルで使用されます。ノードのスライドに作用(Affect Sliding)がオンに設定さ れている場合、このノードのスライド ウェイトにデフォルト ウェイトが設定さ れます。

ユーザスケールX/Y/Z(User Scale X/Y/Z)NURBSマッスルで、リグのスケー リングが適切に作用するようにスティッキー ウェイトのエフェクトを変更する ために使用されます。通常、これらのアトリビュートには、リグのスケールに使 用される最上部レベルのリグ コントロールを接続できます。

スティッキーウェイトのロック(Lock Sticky Wt) ペイントとともに使用され、 このオブジェクトのスティッキーウェイトをロックできるようにします。通常、 手動では編集しません。

スライドウェイトのロック(Lock Sliding Wt) ペイントとともに使用され、こ のオブジェクトのスライド ウェイトをロックできるようにします。通常、手動 では編集しません。

描画(Draw)

スクリーンに描画されるものを設定します。

オフ(off) 何も描画されません。

脂肪(fat) オブジェクトは脂肪(fat)距離の位置に描画されます。または、 スライドした場合にスキンが配置されるところにオフセットを表示します。

マッスル(muscle) 脂肪を追加していないカプセルの実際の半径、またはポリ ゴンオブジェクトもしくは NURBS マッスルの実際のサーフェスを表示します。

シェーディング(Shaded)

シーン ビューで、どのように描画が行われるかを設定します。

ワイヤフレームのみ(wireframe-only) シェーディング モードでもワイヤフ レームとしてオブジェクトを描画します。

シェーディング(shaded) シーン ビューがワイヤフレーム表示の場合、オブ ジェクトをワイヤフレームで描画します。シーンがシェーディング ビューであ る場合はシェーディングします。

ワイヤフレームとシェーディング(wireframe-and-shaded)オブジェクトは同様に描画されますが、シェーディングモードでは、シェーディングされたオブジェクトの上にワイヤフレームが描画されます。

ハイライト(Highlight) Mayaのデフォルトでは、選択したオブジェクトは白または緑色でハイライトされます。この値が1の場合、選択されたオブジェクトのワイヤフレームも同様にハイライトされます。0に設定するとハイライトされないため、オブジェクトを選択してもワイヤフレームカラーは変わりません。

シェーディングのハイライト(Highlight Shaded) 前述に同じです。ただし、 こちらは、選択時にシェーディング カラーとオブジェクトをハイライトするか どうかは設定できません。 **セグメント数(N Seg)** カプセルの長辺方向に描画するセグメントの数をコントロールします。ある程度、セグメントは描画されますが、スライドエフェクトでは実際のスムースカプセルが常に使用されるため、このパラメータは変形ではなく、描画のみに影響します。

サイド数(N Sides) カプセルの直径の周りに描画されるサイド数をコントロールします。ある程度、セグメントは描画されますが、スライドエフェクトでは 実際のスムース カプセルが常に使用されるため、このパラメータは変形ではな く、描画のみに影響します。

ワイヤカラー(Wire Color) ワイヤフレームシェーディングモードでのカプセルの表示カラーを設定します。このアトリビュートは、アトリビュート エディタでのみ表示されます。

シェーディングカラー(Shade Color) シェーディング モードでのカプセルの 表示カラーを設定します。このアトリビュートは、アトリビュート エディタで のみ表示されます。

関連項目

■ マッスルオブジェクトをマッスルデフォーマに接続する (74 ページ)

cMuscleRelative ノード

これは、相対スティッキー スキニング機能を提供するために、メインの cMuscleSystem デフォーマ ノードに接続される補助デフォーマ ノードです。 skinCluster またはその他の一般的な Maya デフォーマの下、メッシュの基本状 態の大半に影響を与えるブレンド シェイプまたはデフォーマの後ろに配置する 必要があります。

このノードの唯一のアトリビュートは**エンベロープ(Envelope**)ですが、相対 (Relative) モードを適切に機能させるには、このアトリビュートをオンのまま にしておく必要があります。

関連項目

- 相対スティッキー デフォメーションを設定する (83 ページ)
- マッスル スキン デフォーマを適用する (69 ページ)
- cMuscleSystem /- F (225 $\neg \vartheta$)

cMuscleShader ノード

これは、Maya レンダラの cMuscleDisplace 機能で必要なディスプレイスメント シェーディングを計算する Maya シェーダ ノードです。

関連項目

■ cMuscleDisplace /- F (200 $\neg - \checkmark$)

cMuscleSmartCollide ノード

これはメイン デフォーマの cMuscleSmartCollide 変形機能のガイドが表示され るプレーンを描画するロケータ ノードです。

基本アトリビュート

ここでは、cMuscleSmartCollide ノードの基本アトリビュートについて説明します。

有効化(Enable) 他のノードは機能させたまま、特定の cMuscleSmartCollide ノードを有効/無効にします。

コリジョンモード (Collide Mode)

発生するコリジョンのタイプを設定します。

プレーン(plane) このモードは高速ですが、プレーンに沿ってただポイントを 圧縮するだけです。

メッシュ(mesh) このモードは低速ですが、メッシュ同士を実際に交差させて、コリジョン内のポイントがより正確に移動されます。

軸(Axis) cMuscleSmartCollide ノードをコンストレインする軸を設定します。 これは通常、ポイントが Y 軸沿いにあると仮定して、Y 軸に設定されます。適 切な値の検出が試みられますが、異なる結果が必要な場合は、調整できます。

最小角度/最大角度(Angle Min/Max) 大半のウェイトはメッシュの全体に渡っ てペイントできますが、それらはジョイントの方向にのみ操作されます。これら の値はこのウェイトの方向からの減衰を設定します。最小角度内のポイントがす べて完全に移動し、外角に減衰します。最もスムースな補間を行うには、角度を 0 から 180 度の間で設定します。 バイアス(Bias) cMuscleSmartCollide ノードは2つのトランスフォームに自動的にコンストレインされ、cMuscleSmartConstraintノードを使用して接続されます。デフォルトでは、ノードの回転は2つのジョイントまたはトランスフォームの平均です。このアトリビュートにより、値をどちらかのジョイントにバイアスすることができます。負の値を指定するとAノードに、正の値を指定するとBノードに向かうようになります。

バイアス調整(Bias Adjust) ノードをジョイント/トランスフォーム A と B の 間で均等にスプリットし、その後、ジョイントが回転、トリガするときにこのバ イアスの調整が必要になることがあります。このアトリビュートは、ノードがト リガされるときにバイアスが発生するように変更を設定します。

ユーザ スケール(User Scale) 拡張可能なリグにするには、このアトリビュートをリグのマスター スケーリング ノードに接続します。

手動スケール(Manual Scale) 動きやその他のアトリビュートは距離をベース にしているため、これらの値の乗数として手動スケール(Manual Scale)もス ケールを設定します。たとえば、バルクA(bulkA)を10に、バルク角度A (bulkAngular)を10というふうに設定する代わりに、これらは1のままにし ておいて手動スケールを10に設定します。この値は、最初に選択したジョイン トの距離に基づいてノードを作成した時に初期化されます。

プリ スムージング アトリビュート

スムース ウェイトとその関連アトリビュートは、基本のマッスル スムージング エフェクトを適用します。他のウェイトと同様、これらも角度減衰による影響を 受けます。プリスムージングは、他のスマート コリジョン デフォメーションの 前に適用されます。

スムースの反復(プリ)(Smooth Iterations Pre) このノードは、デフォーマ の他の部分が実行される前に、スマート スムース ウェイトを使用してメッシュ に対するプリ スムージング操作を計算します。これはその反復回数を設定しま す。0 ~ 24 の範囲の値を設定することをお勧めします。

スムースの強さ(プリ)(Smooth Strength Pre) プリ スムージングのエフェ クトの強さを設定します。

スムースの保持(プリ)(Smooth Hold Pre) プリ スムージングで、スムース 保持を設定します。これにより、ポイントはほぼ法線に沿ってスムースにされま す。1 を設定すると、ポイントを法線に沿ってスムースできなくなるため、ボ リュームは保持されますがそれほどスムースにはなりません。

移動アトリビュート

バルク A/B (Bulk A/B) これらのウェイトとアトリビュートは、メッシュが A または B ジョイントから外側に向かって放射状に移動する距離を設定します。 方向はジョイントの位置から推定され、ジョイントが一体化して移動する方向に 発生します。これは、メッシュ内でマッスルまたはボリュームを暗示する場合に 便利です。

バルク角度 A/B (Bulk Angular A/B) 角度バルク ウェイトはバルクと似ていますが、2つのジョイントの平均方向に発生します。したがって、AとBの両側が同じ方向になります。これは、スキニングに起因するゴムホース エフェクトなどの場合、ジョイントの中心にウェイトを固定するのに使用できます。

バルク角度の 方向



バルク角度ウェイトの例

バルクのワイド化 A/B (Bulk Widen A/B) ワイド化ウェイトにより、メッシュ はジョイントのベンドと垂直方向、外側に向かってスケールされます。その他の ウェイトと同様、このウェイトも最小角度 (Angle Min) と最大角度 (Angle Max) の設定に従ってスケールされます。



スライド A/B(Slide A/B) スマート スライド ウェイトにより、ペイントされ たポイントは中心から遠ざかるようにジョイントの長辺方向に移動します。「A」 領域のポイントは後方に、「B」領域のポイントは前方に移動します。これは接 続位置にあるギャップを広げるのに役立ちます(望ましい場合)。また、実際の 皮膚が筋肉に沿って引き寄せられる様子をシミュレートすることもできます。た とえば、手首を曲げたときに、下部の皮膚は肘に向かって移動します。このよう なエフェクトを得るには、cMuscleSmartCollide ノードで、正または負の値を 持つスライド ウェイトを使用します。

後面スライド A/B (Slide Rear A/B) 後面スライド (Slide Rear) アトリビュー トはスライド (Slide) アトリビュートと同じスライドウェイトを使用しますが、 メッシュの「後面」にあるポイントを反対方向に移動させます。これも、マッス ルの動きをシミュレートし、スキニングを支援するために使用できます。「スラ イド」は減衰角度内にあるポイントを移動しますが、後面スライドは角度外のポ イントを移動します。



スライド角度 A/B (Slide Angular A/B) このウェイトはプレーンの法線方向 に、プレーンから離れるようにポイントを移動します。これを使用して、ジョイ ント位置にある領域の圧縮や展開を容易にできます。



後面スライド角度 A/B(Slide Angular Rear A/B) このウェイトはジョイント角 度の後方平均方向に沿って、外向きにポイントを移動します。これはちょうどバ ルク角度を逆にしたような機能で、肘の突起や指関節のシミュレートを容易にす ることができます。

リンクル A/B (Wrinkle A/B) スマート リンクル ウェイトはリンクル スプレッ ド (wrinkleSpread) アトリビュートに応じて、ジョイントを起点に、法線に 沿って外向きにポイントを移動します。これはリンクル ウェイトとはまったく 異なるウェイトです。通常のリンクル ウェイトはリラックス デフォメーション の一部で、ポイントが圧縮され、リラックス モードの場合に適用されます。ス マート リンクル (Smart Wrinkle) はスマート コリジョン ノードと変形の一部 で、スマート コリジョン ノードのトリガ時に適用されます。



スマート リンクル ウェイトの例

リンクルスプレッド(Wrinkle Spread) リンクルの発生を放射状にするか、または法線からより遠ざけるかを設定します。0に設定した場合、リンクルはプレーンの周りによりフラットな放射状になります。1に設定された場合、ポイントの法線が使用されます。

コリジョンアトリビュート

フラット化A/B(Flatten A/B) スマートフラット化ウェイトとともに、衝突、 フラット化させるメッシュの部分、セルフ コリジョン用に A または B ポイント に対するフラット化の量をコントロールするために使用されます。通常、 cMuscleSmartCollide ノードの作用対象となる領域全体を 1.0 に設定します。

リジッド A/B(Rigid A/B) A または B ポイントを固定する程度を設定します。 セルフ コリジョンの間、固定の程度が高いポイントの移動量は、より小さくな ります。

これにより、コリジョン発生時に、あるサイドの固定を他のサイドよりも強くし たり弱くしたりすることができます。たとえば、ある領域を他のところよりも硬 く移動しづらくする必要がある場合は、**リジッド A**(Rigid A)または**リジッド** B(Rigid B)の値を大きくして、フラット化の間にそのサイドがあまり移動でき ないようにします。

コリジョン ブラーの反復 (Collision Blur Iterations) コリジョンの計算後、他 のポイントにも作用させるために、コリジョン ポイントのモーションをぼかす ことができます。これにより、周辺領域のコリジョンのエフェクトがソフトにな ります。

ボリューム化 A/B(Volumize A/B) コリジョン発生時に、その周りのポイント を「ボリューム化」、つまり膨らませてボリュームを持たせることができます。 このアトリビュートは、スマート ボリューム化ウェイトとともにバルジの量を 設定します。 ボリューム化のオフセット(Volumize Offset) ボリューム化の方向と量は、コ リジョンで使用される暗示された中心点に基づいています。これは B ジョイン トのジョイント ピボット位置をベースとしますが、実際には、通常、ジョイン トの長辺方向の量です。この値を使って、ノードがトリガされたときのコリジョ ン中心のモーション/オフセットを設定し、この内部位置をスライドさせると、 より適切なボリューム化エフェクトを得ることができます。

ボリューム化の膨張(Volumize Puff) ポイントをコリジョンから放射状にボ リューム化するか、または法線に基づいて外向きに展開するかを設定します。0 に設定すると、ポイントは放射状にボリューム化されるため、再衝突はしませ ん。1 に設定すると、法線に沿ってボリューム化されます。

ボリューム化の距離(Volumize Dist) ポイントがコリジョン/プレーンから移 動可能で、ボリューム化も行える距離を設定します。ペイント可能なスマート ボリューム化(Smart Volumize)ウェイトとともに、このアトリビュートはコ リジョンによるバルジ アウトの量をコントロールします。このため、ボリュー ム化されるポイント上にスムースなランプを作成することができます。

ボリューム化の減衰(Volumize Falloff) プレーンからの距離に加えて、この減 衰値はコリジョンの暗示された中心からの球状 3D 減衰を指定します。ポイント はこの距離から減衰され、ボリューム化の効果は小さくなります。





ポスト スムージング アトリビュート

ポスト スムージングは、変形とコリジョンの計算後に適用されます。これらを 変形の前または後に使用すると、領域をスムースにしてより適切な結果を得るこ とができます。 スムースの反復(ポスト)(Smooth Iterations Post) このノードは、デフォーマの他の部分を実行した後で、スマート スムース ウェイトを使用してメッシュ に対するポスト スムージング操作を計算します。これはその反復回数を設定します。0~24 の範囲の値を設定することをお勧めします。

スムースの強さ(ポスト)(Smooth Strength Post) ポストスムージングで、 エフェクトの強さを設定します。

スムースの保持(ポスト)(Smooth Hold Post) ポスト スムージングで、ス ムース保持を設定します。これにより、ポイントはほぼ法線に沿ってスムースに されます。1を設定すると、ポイントを法線に沿ってスムースできなくなるた め、ボリュームは保持されますがそれほどスムースにはなりません。

スマートウェイトのロック(Lock Smart Wt) ウェイト付けでノードの「保持」 を有効化するかどうかをマークするために、マッスルペイント(Muscle Paint) ツールで使用されます。インフルエンス リストで「保持」が有効化されている ノードはロックされるため、ウェイトの調整はできなくなります。通常、この値 を直接編集することはありません。

表示アトリビュート

描画(Draw) cMuscleSmartCollide ノードの表示のオン/オフを切り替えます。

シェーディング(Shaded) ノードの表示を、ワイヤフレーム(wireframe)、 シェーディング(shaded)、またはワイヤフレームとシェーディング(wireframe and shaded)から選んで設定します。

ハイライト(Highlight) Mayaのデフォルトでは、選択したノードは白または 緑色でハイライトされます。この値が1である場合、選択したノードは同様に ハイライトされます。0の場合はハイライトされません。したがって、選択して もノードのカラーは変わりません。

カラー(Color)トリガされないときのノードの表示カラーを設定します。

カラートリガ(Color Trigger) ノードがトリガされるとき(ジョイントが一緒 に回転するとき)、cMuscleSmartCollide ノードのカラーはこのカラーに補間 します。

不透明度(Opacity) ノードのシーン ビューに描画されたプレーンの不透明度 を設定します。1 に設定するとプレーンは塗りつぶされ、0 に設定すると透明に なります。

表示サイズ(Display Size) プレーンの表示サイズを調整します。実際の計算に は影響を与えません。

関連項目

■ スマート コリジョン (112 ページ)

cMuscleSmartConstraint / - F

これは、cMuscleSmartCollide セットアップの情報を取得するディペンデンシー ノードで、実際の cMuscleSmartCollide ノードの位置と方向をドライブします。

関連項目

- cMuscleSmartCollide /- F (209 $\neg \vec{v}$)
- スマート コリジョン (112 ページ)

cMuscleSpline ノード

これは、任意の数の制御点をサポートして基本エルミート カーブの描画と計算 を実装するロケータ ノードで、カーブに沿って任意の数のポイントを出力しま す。cMuscleSpline ノードは cMuscleSpline デフォーマの基本であるため、こ れらの設定の多くは、スプラインだけでなくデフォーマ自体もコントロールしま す。

ここでは、cMuscleSpline ノードのアトリビュートについて説明します。これら のアトリビュートを表示するには、cMuscleSpline オブジェクトを選択し、アト リビュート エディタを開きます。スプライン コントロール オブジェクト アト リビュートの詳細については、cMuscleSplineDeformer ノード (220 ページ)を参 照してください。



描画(Draw)

スプライン カーブ自体に表示されるものを設定します。

オフ(Off) スプラインの表示を消します。

スプライン(spline) スプラインのみを描画します。

スプラインとポイント(spline and points) 各制御点にスプラインとドットを 描画します。

スプライン、ポイント、接線(spline, points and tangents) 接線も描画します。



カラー(Color) スプライン カーブの表示カラーを設定します。

注: アトリビュート エディタでは、通常の Maya カラー サンプルを使用してカ ラーを設定することもできます。

許容値(Tolerance) スプラインの長さの計算やカーブの描画に使用する精度を 設定します。値が小さいほど結果は粗く正確さが低くなり、大きいほど正確さが 上がります。デフォルトの 24 は最適値で、変更する必要はありません。

接線モード (Tangent Mode)

接線モードを設定します。これがどのように機能するのかを理解するには、接線 モード(tangentMode)を変更し、コントロールをインタラクティブに移動し て、両方のケースでその動作を比較します。

相対(relative) 接線は、1つの制御点からもう1つの制御点の距離に基づいて 自動的に伸縮します。この結果、よりスムースなカーブが得られます。

絶対(absolute) 接線は、各ポイントで設定どおりの長さになり、変化しません。



アップ軸(Up Axis) 各制御点で「アップ」軸として使用する軸を設定します。 これにより、カーブに沿ってドライブされるジョイント/ノードのスピンがコン トロールされます。フリップが生じた場合は、アップ軸を X から Z、または Z から X に切り替えてください。

注: 処理可能なツイストの最大値は 180° です。この値を超えるとフリップする ようになります。

リセット フレーム(Reset Frame) ジグル計算で、ジグル リセットをオンにす るフレームを設定します。ここで設定したフレーム以前のフレームのジグルがす べてオフになります。たとえば、あるシーンにアニメートするショットが複数存 在する場合、ステップ キーを使用してこの値をキー設定し、必要に応じて異な るフレームのジグルをリセットすることができます。

収縮時に弱める (Dampen On Squash)

カーブの長さが変化したときに、ジグルを伴うカーブがどのように動作するかを コントロールします。

0 ジグル値が設定どおりに適用されます。

1 ジグルの量が抑制され、カーブの収縮に従ってサイクルが速くなります。

伸長時に弱める (Dampen On Stretch)

カーブの長さが変化したときに、ジグルを伴うカーブがどのように動作するかを コントロールします。

0 ジグル値が設定どおりに適用されます。

1 ジグルの量が抑制され、カーブの伸長に従ってサイクルが速くなります。

デフォルト/収縮時/伸長時の長さ(Len Default/Squash/Stretch) スプライン のデフォルト/最小/最大の長さを設定します。長さをデフォルトから収縮にする と収縮時に弱める(dampenOnSquash)が影響を受け、伸長にすると伸長時に 弱める(dampenOnStretch)が影響を受けます。このスプラインが cMuscleSplineDeformer ノードと連動している場合、スプラインの長さがこれ らの値の間に達すると、マッスルの収縮と伸長が推進されます。

注: これらの値により、スプラインの実際の長さがクランプされることはありま せんが、収縮と伸長が発生するときの最小/最大範囲が設定されます。

カレントの長さ(Cur Len) スプライン出力で、スプライン カーブのカレント の長さを表します。これはカスタム リギングに便利です。

収縮量/伸長量(Pct Squash/Stretch) スプラインで行われている収縮または伸 長の量を表す出力値です。値の範囲は0~1です。カレントの長さ(curLen) がデフォルトの長さ(lenDefault)から収縮時の長さ(lenSquash)に変化する と、収縮量(pctSquash)は0から1に変化します。カレントの長さがデフォ ルトの長さから伸長時の長さに変化すると、伸長量は0から1に変化します。 これらの値はカスタムリギングに便利です。

関連項目

- cMuscleSplineDeformer / F (220 $\neg \checkmark$)
- マッスル スプライン デフォーマを作成する (40 ページ)
- マッスル スプライン デフォーマを設定する (41 ページ)

cMuscleSplineDeformer / - F

これは cMuscleStretch デフォーマよりも強力なマッスル デフォメーションを提 供するデフォーマ ノードで、カスタムマッスル シェイプを含みます。このノー ドの一部は、cMuscleSpline ノードからドライブされます。

ここでは、cMuscleSplineDeformer ノードのアトリビュートについて説明しま す。スプライン コントロール オブジェクト アトリビュートの詳細については、 スプライン コントロール オブジェクト アトリビュート (222 ページ)を参照して ください。

注: これらの設定の多くは、マッスルパラメータ(Muscle Parameters)タブで 変更できます。 **カレントの長さ(Cur Len)**カレントの cMuscleSpline のカーブの長さ。

収縮量(Pct Squash) 現在のスプライン カーブの収縮量。この値は、スプラインが短くなるに従って、0 から 1 に変化します。

伸長量(Pct Stretch) 現在のスプライン カーブの伸長量。この値は、スプラインが長くなるに従って、0 から 1 に変化します。

シェイプの有効化(Enable Shaping)オンの場合、カスタムマッスルの成形が アクティブになり、スプラインの長さが変化するに従って、アーティストが設定 した任意のシェイプが使用されます。

シェイプブレンド(Shaping Blend) カスタムマッスルシェイプで、シェイプ がどのようにブレンドされるかをコントロールします。値が大きいと、シェイプ はより長い範囲にわたって減衰し、一度にたくさんブレンドされるようになりま す。値が小さいと、スプラインの長さがシェイプ作成時の長さに近づいたときに のみ、シェイプがオン/オフされるようになります。

収縮 X 開始(Squash XStart)/収縮 Z 開始(Squash ZStart) スプラインがデ フォルトの長さよりも短い場合に、オブジェクトの先頭セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

収縮 X 中間(Squash XMid)/収縮 Z 中間(Squash ZMid) スプラインがデフォ ルトの長さよりも短い場合に、オブジェクトの真中セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

収縮 X 終了(Squash XEnd)/収縮 Z 終了(Squash ZEnd) スプラインがデフォ ルトの長さよりも短い場合に、オブジェクトの終了セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

伸長 X 開始(Stretch XStart)/伸長 Z 開始(Stretch ZStart) スプラインがデ フォルトの長さよりも長い場合に、オブジェクトの先頭セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

伸長 X 中間(Stretch XMid)/伸長 Z 中間(Stretch ZMid) スプラインがデフォ ルトの長さよりも長い場合に、オブジェクトの真中セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

伸長 X 終了(Stretch XEnd)/伸長 Z 終了(Stretch ZEnd) スプラインがデフォ ルトの長さよりも長い場合に、オブジェクトの終了セクションで、X または Z でのスケーリングの量をコントロールします。

スプライン コントロール オブジェクト アトリビュート

スプライン コントロール オブジェクトには、次のアトリビュートがあります。



移動(Translate)/回転(Rotate) 各コントロールは全体的な移動/回転を左右 し、これによりスプライン ポイントの位置が決まります。コントロールを手動 でペアレント化し、FK タイプのセットアップを有効に使うことができます。

接線の長さ(Tangent Length) 各ポイントでの接線の長さをコントロールします。この値が大きくなるほど、接線は長くなります。

ジグル(Jiggle) 各コントロール ポイントは独立したジグルを持ちます。これ は、この位置でのジグルの強さを設定します。値が大きいほど、モーションが大 きくなります。

ジグル X/Y/Z(Jiggle X/Y/Z) コントロールのローカル空間に関連してジグル の量をコントロールします。

ジグルインパクト(Jiggle Impact) マッスルが突然動作を開始または終了した ときに発生するインパクト ジグルの強さを設定します。モーションは、スプラ インの軸を中心として放射状に適用されます。

ジグルインパクト開始(Jiggle Impact Start)/ジグルインパクト中止(Jiggle Impact Stop) ジグルインパクトモーションをトリガするために適用するフォースの大きさを設定します。値が大きくなるほどジグルがトリガされる可能性が低くなり、値が小さくなるほど可能性が高まります。

サイクル(Cycle) 制御点をバウンスさせるフレーム数を設定します。値が小 さいほどバウンス速度が上がって頻度も高くなり、大きいほどゆっくりとしたバ ウンスになります。

レスト(Rest) ジグルを強制的に停止した後で、静止させるまでにかかるフレーム数を設定します。値が小さいほどジグルはすぐに終了し、値が大きいほどジグルの継続時間が長くなります。

関連項目

CMuscleSpline /- F (217 $\sim - i$)

 マッスル スプライン デフォーマでカスタム マッスル シェイプを設定する (46ページ)

cMuscleStretch ノード

これは任意のオブジェクトで基本の3ポイントデフォメーションを行うデフォーマノードです。高速なマッスルデフォメーションに使用できます。

手動収縮(Manual Squish) 長さが変化していない場合でも、マッスルを収縮 することができます。これにより、収縮/伸長のスケール設定がジオメトリに適 用されるようになります。値が大きい場合は伸長デフォメーション、小さい場合 は収縮デフォメーションが行われます。

最大伸長(Max Stretch) 伸長が最大になるときのパーセンテージを設定しま す。値2は、完全に伸長したときにマッスルがデフォルトの2倍の長さになる ことを表します。

伸長開始(Stretch Start)/伸長中間(Stretch Mid)/伸長終了(Stretch End) マッスルの長さが伸びたときのオブジェクトの X-Z スケール係数を設定 します。

最大収縮(Max Squash) 収縮が最大になるときのパーセンテージを設定しま す。値0.5は、完全に収縮したときに、マッスルがデフォルトの半分の長さにな ることを表します。

収縮開始(Squash Start)/収縮中間(Squash Mid)/収縮終了(Squash End) マッスルの長さが縮んだときのオブジェクトの X-Z スケール係数を設定 します。

X 係数(X Factor)/Z 係数(Z Factor) 不均一に収縮、伸長するために、全体的な X と Z の収縮を調整することができます。

ウェイト開始(Weight Start)/ウェイト中間(Weight Mid)/ウェイト終了 (Weight End) ジオメトリに対する各コントロールの「引き寄せ」を設定しま す。これらの設定により、コントロールの移動に従って、マッスルの開始、真 中、終了の外観を微調整できるようになります。

リセット フレーム(Reset Frame) ジグルのリセットが行われるフレームを設 定します。このフレーム以前のフレームのジグル エフェクトは 0 になります。 通常、ステップ キーを使用してこれをキー設定し、たとえば、複数のショット があってフレーム間に高速アクションがあるため、ジグルのリセットが必要に なった場合に、アニメーションの途中でジグルをリセットできるようにすること ができます。

ジグル開始(Jiggle Start)/ジグル中間(Jiggle Mid)/ジグル終了(Jiggle End) オブジェクトの先頭、真中、末尾におけるジグルの強さを設定します。 値が大きいほど、モーションが大きくなります。

サイクル開始(Cycle Start)/サイクル中間(Cycle Mid)/サイクル終了(Cycle End) 関連するセクションをバウンスさせるフレーム数を設定します。値が小 さいほどバウンス速度が上がって頻度も高くなり、大きいほどゆっくりとしたバ ウンスになります。

レスト開始(Rest Start)/レスト中間(Rest Mid)/レスト終了(Rest End) 関 連するセクションのジグルを停止させるまでのフレーム数を設定します。値が小 さいほどモーションの停止にかかる時間は短くなりますが、大きいほどジグルは 長く続きます。

収縮時に弱める(Dampen On Squash)オブジェクトが伸長状態の場合に、ジ グルが抑制され、処理速度が向上します。

伸長時に弱める(Dampen On Stretch) オブジェクトが伸長状態の場合に、ジ グルが抑制され、処理速度が向上します。

関連項目

■ マッスル伸長デフォーマを作成する (50 ページ)

cMuscleSurfAttach ノード

これは NURBS またはポリゴン サーフェスにアタッチされる locator ノードで す。このノードは、NURBS にアタッチする u、v の指定された位置、またはポ リゴン メッシュで暗示されたポリゴン内の 2 つのエッジとサブ u-v の位置につ いて、オブジェクトに対して移動と回転、及び法線と接線を計算します。これに より、変形中の NURBS やメッシュ サーフェスにロケータを「貼り付け」でき ます。

関連項目

マッスルのアタッチ ポイントを設定する (20 ページ)

cMuscleSystem ノード

これは、メインのスキンデフォーマノードを実装するデフォーマノードで、基本的なスキニングやスライドで、cMuscleObject、cMuscleDirection、 cMuscleSmartCollideノードからの複数の接続をサポートします。また、キャッ シング、リラックス、ジグル、セルフ コリジョンなどではスタンドアローンで 動作することもできます。

主なアトリビュート

マッスル スキン デフォーマには、特定の機能には直接関連していない重要なア トリビュートがいくつかあります。

エンベロープ(Envelope) デフォーマによって適用される変形の量を指定する 共通の Maya エンベロープ設定。これを0に設定することは、**ノード状態** (nodeState) 設定を無効化し、事実上デフォーマをオフにすることと同じで す。

キャッシュ(Cache)

キャッシング アルゴリズムの状態を設定します。

無効(disabled) キャッシュ機能は使用されません。

書き込みファイル(write-file) フレームが変更されるたびに、独立した ASCII ファイルにキャッシュを書き出します。

読み取りファイル(read-file) 外部ファイルの内容をキャッシュに読み取ります。

書き込みノード(write-node) フレームが変更されるたびに、マッスルデフォー マノードに直接キャッシュ データを書き出します。

読み取りノード(read-node) マッスルデフォーマノードからキャッシュデー タを読み込みます。

警告メッセージを表示(Show Warnings) このオプションは、スクリプト エ ディタ(Script Editor)への警告メッセージ出力の表示をオンにします。これに より、ポイントに適切にバインドされていなかったマッスルに対してスティッ キー ウェイトを設定したかどうかを確認することができるため、このオプショ ンは重要です。ポイントが適切にバインドされていない場合、マッスル デフォ メーション速度は低下します。無効なバインドがあるかどうかを確認するには、 警告メッセージを表示(Show Warnings)をオンにし、スクリプト エディタを 確認します。それから、メインメニューバーからマッスル>スキンセットアッ プ > 無効なスティッキー バインド ポイントの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Invalid Sticky Bind Points)を選択して無効なバインドを修正できます。

ユーザスケールXY/Z(User Scale XY/Z) これらのアトリビュートは、リグの マスター スケーリング ノードをデフォーマに接続するために使用します。これ により、リグのスケールを上下させたときに、フォース項目などの距離ベースの 値が適切に動作します。

スティッキー アトリビュート

マッスル デフォーマには、スティッキー デフォメーションの動作に影響を与え る、次のアトリビュートが含まれます。

スティッキーの有効化(Enable Sticky) スティッキー デフォメーションを有効/ 無効にします。

相対スティッキー(Relative Sticky)

相対スティッキーモードがオンかオフかを選択します。

オフ(off)相対スティッキー モードをオフにします。スティッキー ウェイト は、skinCluster のように、メッシュ上のポイントを完全に移動します。

相対(relative) 相対スティッキー モードをオンにします。cMuscleObjects は、skinCluster をマッスルの下で使用したときに、二重トランスフォームが行 われないように変形されます。

詳細については、相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)を参照してく ださい。

正規化を強制(Force Normalize) マッスルオブジェクトは、そのスティッキー (Sticky)値にスティッキーの強さ(Sticky Strength)アトリビュートを作用さ せることが可能であり、相対モードではウェイトを正規化しないことを選択でき るため、変形中にウェイトの正規化を強制できます。オンの場合、変形中に、す べてのスティッキーウェイトの値は 1.0 に正規化されます。

スティッキー A/B/C(Sticky A/B/C) これらのアトリビュートは、使用するス ティッキー ウェイトのセットを決定します。通常、一度に1つの値しか設定で きませんが、これらの値をブレンドすることができます。これらのアトリビュー トの値は内部的に正規化されるため、二重トランスフォームは行われません。た とえば、スティッキー A/B/C を1、1、0 に設定すると、実際の結果は 0.5 0.5 0 になります。

関連項目

■ スティッキー デフォメーション (56 ページ)

スライダ アトリビュート

マッスル デフォーマの基本的なスライド設定は次のとおりです。

スライドの有効化(Enable Sliding) 1.0 に設定した場合、スライドするオブ ジェクトに対してスライド ウェイトをペイントすると、スライドが有効化され ます。

そのオブジェクトでスライドが必要な場所にのみ、ウェイトをペイントしてくだ さい。前述のように方向ウェイトをペイントして、スライドの方向をより詳細に コントロールすることもできます。

精度(Quality)

スライド計算の精度を設定します。値が大きいほど、外観は向上しますが、速度 は低下します。

フル(Full)実際のカプセル、ポリゴンボーン、NURBSマッスルのスライドが 計算されます。

中(Medium) パフォーマンスを高速化するために、NURBS マッスルの精度を 少し下げます。通常は、中(Medium)を使用すると、許容レベルのスライドを 実現できます。精度が中でも、ポリゴン ボーンには変化は見られません。

低(Low) ポリゴン メッシュと NURBS オブジェクトの両方を含むオブジェクトはすべて、内部的にカプセルに変換されます。それほど正確ではありませんが、スライドの表示の見当をつけることができます。最良の結果を得るためには、ポリゴン オブジェクトのジオメトリの長辺方向がオブジェクトのローカル Y軸方向にあることが必要です。これにより、最も正確なカプセルの置換が行われます。



デフォルト メッシュと マッスル

低精度スライド

標準精度スライド

最高精度スライド

シュリンク ラップ(Shrink Wrap)通常、スライドはカプセル/ボーン/マッス ルが、メッシュのサーフェスを超えて外側に押し出されたときにのみ発生しま す。シュリンク ラップ (Shrink Wrap)アトリビュートでは、オブジェクトが スキンよりも低い場合でも、スライドを発生させることができます。その結果、 スキンは外側だけでなく内側も見るようになり、スキン メッシュを最も遠くに あるオブジェクトに移動します。これは、より引き締まったマッスル定義をする ために使用できますし、モデリング ツールとしても便利です。スライド後に下 になるオブジェクトがない場合、ポイントはそのままの位置に残されます。



デフォルト メッシュと カプセル/マッスル



スライド有効



シュリンク ラップ付で スライド有効



カプセルとマッスル

デフォルト メッシュと リグの外側



バインドを使用(Use Bind) 最近接ボーン/マッスルに対するスキン メッシュ の脂肪オフセットを格納し、別のマッスルがポイントをスライドする場合でも、 変形全体でこのオフセットを使用します。

詳細については、スライド デフォメーションに対して一定の脂肪オフセットを 設定する (84 ページ)を参照してください。

負の脂肪を許可(Allow Neg Fat) これはバインドを使用(Use Bind)がオンの 場合に使用されます。アクティブであれば、脂肪がバインドされてマッスル/ボー ンが元々モデルと交差していると、すべてのマッスル/ボーンの下にポイントを とどめられるようになります。オフの場合、メッシュは常にサーフェス上にあり ます。バインドを使用がオフの場合、このアトリビュートは影響力を持ちませ ん。

関連項目

■ スライド デフォメーション (60 ページ)

ディスプレイスメント アトリビュート

ディスプレイスメントの有効化(Enable Displace) マッスルデフォーマのディ スプレイスメント計算自体を無効/有効にします。

コリジョンディスプレイスメント(Collision Displace) 他の変形機能に対する コリジョン(Collisions)アトリビュートの動作方法を決定します。たとえば、 スムース操作を完了したときに、スムースにしながら、メッシュのサーフェス上 をスライドするマッスルやボーンと衝突するマッスルと一緒に「再スライド」さ せることができます。オンの場合、このような「再コリジョン」には、スライド するマッスル/ボーンのみではなく、ディスプレイスメント ノードも含まれま す。オフの場合、ジグル、リラックス、スムースなどの操作では、コリジョン モードがオンに設定されていても、ディスプレイスメント デフォメーションは 再計算されません。

関連項目

■ ディスプレイスメント デフォメーションとレンダリング (64 ページ)

フォースアトリビュート

フォースの有効化(Enable Force) フォース計算を有効/無効にします。

重力の強さ(Gravity Strength)重力方向にポイントを移動する量を指定しま す。この量は、各ポイントのフォース(Force)ポイントウェイトに乗算されま す。

重力 X/Y/Z(Gravity X/Y/Z) 重力の影響を受けたときに移動するポイントの重 力方向を設定します。



重力を適用したフォース ウェイト

風の強さ(Wind Strength) 風/ノイズに基づいてポイントのモーション量を設定します。値が大きいほど、ポイントの移動量も大きくなります。



風を適用したフォース ウェイト

風方向 X/Y/Z(Wind Dir X/Y/Z)風に基づいてポイントが移動するときの一般 的な方向を設定します。これらの値は正規化されるため、1、1、0 は実際には内 部的に 0.5、0.5、0 に変換されます。

風速(Wind Speed)時間の経過に従って、風が変化する割合を設定します。値 が小さいほどノイズ ディスプレイスメントの変化は遅くなります。値が大きい ほど各フレームでの変化速度が速くなります。

風のノイズ(Wind Noise)通常、0から1の範囲の値を設定します。これはペイントされたウェイト値に対する、風エフェクトのノイズの大きさを表します。 値0の場合、ポイントは風の方向に移動するだけで、可視ノイズはありません。 1の場合、ポイントはランダムな方向に移動し、ノイズは**風速(windSpeed)**に 基づいて変化します。値が1を超えると、さらにディスプレイスメントが大き くなります。

風のノイズのスケール(Wind Noise Scale) ノイズの目に見える起伏の大きさ を設定します。値が大きいほどノイズ/風によるバンプが大きくなり、ディスプ レイスメントの見た目がスムースになる傾向があります。値が小さいほど、ノイ ズバンプも小さくなります。

風のノイズのダーティ(Wind Noise Dirty) ノイズまたは風の外観がどの程度、 ダーティかを設定します。**風のノイズのスケール(Wind Noise Scale**)の値が大 きくても、この値を大きくすると、ディスプレイスメントによりシャープで頻繁 な変化が発生します。最小値は1です。

注:風はワールド空間に適用されます。つまり、風速(Wind Speed)が0であっても、空間内でオブジェクトを移動するとノイズの変化が起こります。

関連項目

■ フォース デフォメーション (65 ページ)

ジグル アトリビュート

ジグルで使用されるマッスル デフォーマ設定は次のとおりです。

ジグルの有効化(Enable Jiggle)オフの場合、処理速度を上げるためにジグルの計算は無効化されます。オンの場合、ポイント単位でスキンジグルが計算されます。

ジグル コリジョン(Jiggle Collisions) ジグル エフェクトの間、スライド コリ ジョンが処理されるようになります。これにより、通常は、スライドまたは押し 出されるものに当たった場合でも、ポイントはスライドします。このためには、 スライドの有効化(enableSliding)オプションをオンにしておく必要がありま す。ただし、ジグルではセルフ コリジョンは行われません。

リセット フレーム(Reset Frame) その位置(とそれより前)にベース フレー ムを設定します。ジグルは影響を持たず、リセットされます。ファイル内で複数 のショットをアニメートするときに、キャラクタが次から次へとすばやくフレー ムを移動している場合には、これが便利です。ステップ キーフレームを使用し てこの値にキーフレームを設定し、各ショットの開始時にリセットされるよう調 整できます。

最小ジグル(Jiggle Min)/最大ジグル(Jiggle Max) ジグル ウェイトのペイン ト後、これらのポイントに適用されるジグルの実際の量または強さを設定しま す。

最小サイクル(Cycle Min)/最大サイクル(Cycle Max) サイクル ウェイトの ペイント後、ペイントされたウェイトに基づいて、各ポイントをバウンスさせる フレーム時間を設定します。

最小レスト(Rest Min)/最大レスト(Rest Max) レスト ウェイトのペイント 後、各ポイントの移動を中止して静止させるまでのフレーム時間を設定します。

関連項目

■ ポイント単位のジグル デフォメーション (66 ページ)

リラックス アトリビュート

リラックスで使用されるマッスル デフォーマ設定は次のとおりです。

リラックスの有効化(Enable Relax)オフの場合、処理速度を上げるためにリ ラックスの計算は無効化されます。オンの場合、リラックスは有効化されます。 リラックス モード (Relax Mode)

適用されるリラックス計算のタイプを設定します。

法線(Normal) ポイントが圧縮されたときはリンクル、伸長したときは引き出 されるようにリラックスを設定します。リンクルの度合いは、リンクル モード の場合よりも小さくなります。

引き寄せ(Pull) このモードではリンクルは一切発生せず、ポイントが大きく引き離されているか伸長されている場合にのみ、リラックスが動作します。

リンクル(Wrinkle)「引き出し」のように動作し、メッシュに影響するリンク ルエフェクトと引き寄せエフェクトの両方を持ちますが、リンクルの度合いは 大きくなります。リンクルウェイトはリンクルセクションに、リラックスウェ イトは引き寄せエフェクトにそれぞれ影響を与えます。

リラックスコリジョン(Relax Collisions)オンの場合、リラックスの計算中、 スライドするボーンまたはマッスルのコリジョンが発生します。スライドを使用 している場合、これによりリラックスで望ましい結果が得られることがよくあり ます。このためには、スライドの有効化(enableSliding)アトリビュートをオ ンにしておく必要があります。コリジョン ディスプレイスメント

(collisionDisplace)がオンでディスプレイスメントが使用されている場合にも、 ディスプレイスメント ノードでコリジョンが発生します。

リラックスの反復(Relax Iterations) リラックスのために実行される計算の回 数を設定します。値が大きいほど正確で安定した結果が得られますが、計算にか かる時間は長くなります。通常、8から64の範囲内の値が効果的に動作します。 多くの場合、中間値である24または36を設定すれば、十分な安定性と変形が 得られます。この値を大きくしてもメッシュが少し変化するだけなので、通常は これよりも小さな値で十分です。

リラックスの強さ(Relax Strength) リラックスの全体的な強さを設定します。 これにより、ウェイトを再ペイントするよりも簡単にリラックス計算全体の効果 を軽減することができます。メッシュがばらばらになる場合は、この値を小さく するといいでしょう。

リンクルの強さ(Wrinkle Strength) リンクル モードで、メッシュの圧縮に連 れて発生するリンクルの量を設定します。1 を超える値を設定できます。

リラックスの圧縮(Relax Compress) リラックスの強さ(Relax Strength)と 似ていますが、圧縮処理中のポイントにのみ適用されます。

リラックスの展開(Relax Expand) リラックスの強さ(Relax Strength)と似ていますが、展開または引き離し処理中のポイントにのみ適用されます。

関連項目

■ リラックス デフォメーション (67 ページ)

スムース アトリビュート

スムースで使用されるマッスル デフォーマ設定は次のとおりです。

スムースの有効化(Enable Smooth)オフの場合、処理速度を上げるためにス ムースの計算は無効化されます。オンの場合、スムース機能が有効化されます。

スムースコリジョン(Smooth Collisions) オンの場合、スムースの計算中、ス ライドするボーンまたはマッスルのコリジョンが発生します。スライドを使用し ている場合、これによりスムースで望ましい結果が得られることがよくありま す。このためには、スムースの有効化(enableSliding)アトリビュートをオン にしておく必要があります。ディスプレイスメント モードがアクティブでコリ ジョンディスプレイスメント(collisionsDisplace)がオンの場合、これは cMuscleDisplace ノードとも衝突します。

スムースの反復(Smooth Iterations) スムースのために実行される計算の回数 を設定します。値が大きいほどよりスムースになりますが、計算にかかる時間は 長くなります。通常、8 から 64 の範囲内の値が効果的に動作します。多くの場 合、中間値である 24 または 36 を設定すれば、十分な安定性と変形が得られま す。この値を大きくしてもメッシュが少し変化するだけなので、通常はこれより も小さな値で十分です。

スムースの強さ(Smooth Strength) スムースの全体的な強さを設定します。 これにより、ウェイトを再ペイントせずに、スムース計算全体の効果を軽減する ことができます。

スムースの圧縮(Smooth Compress) スムース操作により、デフォルト メッ シュの見た目を変更することができます。スムースの強さ(Smooth Strength) の代わりにスムースの圧縮(Smooth Compress)を使用すると、メッシュで一 部のペイント ポイントを圧縮している場合にのみ、該当部分がスムースにされ ます。これは、つままれる領域の場合にも役に立ちます。

スムースの展開(Smooth Expand) スムース操作により、デフォルトメッシュ の見た目を変更することができます。スムースの強さ(Smooth Strength)の 代わりにスムースの展開(SmoothExpand)を使用すると、ペイントポイント を遠くに引き離す場合にのみ、これらのポイントがスムースにされるようになり ます。 スムースの保持(Smooth Hold) 通常、スムースでは3方向すべてにスムース 処理が行われるため、この結果、メッシュはボリュームを失います。スムースの 保持(SmoothHold)を適用すると、ポイントの法線方向のスムース処理が軽減 されるようになります。つまり、ポイントはスムースにされますが、失われるボ リュームの量は少なくなります。0.5 から 0.8 の範囲の値を指定することをお勧 めします。

関連項目

■ スムース デフォメーション (69 ページ)

コリジョンアトリビュート

セルフ コリジョン (Self Collision) の動作を調整するには、マッスル デフォー マの次のアトリビュートを使用します。

セルフコリジョン(Self Collison) セルフコリジョンの計算を有効/無効にしま す。処理速度を上げるために**オフ**に設定し、レンダリングまたは最終チェックの 前に**オン**にすることもできます。

セルフ許容値(Self Tolerance)計算で使用される内部許容値を設定します。これは他の値と内部的に乗算されるもので、調整の必要はありません。

セルフ減衰(Self Falloff) コリジョンが発生したときに、周囲のポイントがバルジアウトされ、ボリュームが保持されます。この値は、ボリューム化エフェクトでポイントを0に減衰するまでの距離を表します。値が大きいほど、ボリューム化される領域も広くなります。

セルフボリューム化(Self Volumize)ボリュームを保持するためにボリューム 化/バルジアウトされるポイントの量、または強さを設定します。

セルフ ブラーの反復(Self Blur Iterations) コリジョンが発生すると、その解 決のためにポイントは移動/平滑化されます。よりスムース/ソフトな外観を得る ために、このエフェクトをぼかし、コリジョンを取り囲むその他のポイントに影 響を与えます。これはこの計算で行われる反復回数を設定します。

セルフ リラックスの反復(Self Relax Iterations) セルフ コリジョン後、減衰 領域内のポイントは、リラックス アルゴリズムを使ってリラックスできます。 これはその反復回数を設定します。

セルフ リラックスの強さ(Self Relax Strength) セルフ コリジョン後、減衰領 域内のポイントは、リラックス アルゴリズムを使ってリラックスできます。こ れはリラックス エフェクトの強さを設定します。 **セルフ スムースの反復(Self Smooth Iterations)** セルフ コリジョン後、減衰 領域内のポイントは、通常のスムース アルゴリズムを使ってスムースにできま す。これはその反復回数を設定します。

セルフスムースの強さ(Self Smooth Strength) セルフコリジョン後、減衰領 域内のポイントは、リラックス アルゴリズムを使ってリラックスできます。こ れはリラックス エフェクトの強さを設定します。

セルフ スムースの保持(Self Smooth Hold) セルフ コリジョン スムージング の場合に、スムース操作中のスムースの保持量を設定します。値が大きいほど、 ポイントを法線に沿ってスムースにすることはできなくなり、保持されるボリュー ムが大きくなります。

関連項目

■ セルフコリジョン (114 ページ)

関連項目

- cMuscleObject /- F (205 $\neg \vartheta$)
- **CMuscleDirection** $\nearrow \vdash (198 \ \ \neg \rightarrow)$
- cMuscleSmartCollide /- F (209 $\neg \vartheta$)

Mayaマッスルの高度なテ クニック



Maya マッスルの高度なテクニック チュートリアルは、Maya の主要なツールと機能と Maya リ ギングについての基礎知識を持つユーザを対象にしています。チュートリアルを終了すると、独 自のキャラクタとプロジェクトに Maya マッスル スキン デフォーマを使用する方法を理解でき ます。

次のチュートリアルを行います。

- シンプルマッスルのリギング(237ページ)
- マッスルのリギング (278 ページ)

シンプル マッスルのリギング

基礎知識

このチュートリアルでは、Maya マッスルビルダ(Muscle Builder)を使用して シンプルマッスルを作成する基本的なワークフローを説明します。次の6つの レッスンを行います。

- レッスン 1: 基本的なスキン デフォメーションの設定 (238 ページ)
- レッスン 2: スティッキー ウェイトをボーンにペイントする (246 ページ)
- レッスン 3: シンプル マッスルの設定 (252 ページ)

- レッスン 4: スティッキー ウェイトをシンプル マッスルにペイントする (262 ページ)
- レッスン 5: スライド デフォメーションの設定 (267 ページ)
- レッスン 6: ジグル デフォメーションの設定 (274 ページ)

レッスンの準備

説明どおりにレッスンを進めるために、Maya マッスルがロードされていること を確認してください。マッスルがロードされている場合は、メインメニューバー にマッスル (Muscle) メニューが表示されます。マッスルを手動でロードする 必要がある場合は、『Maya マッスル』マニュアルの「Maya マッスルをロード する (2 ページ)」を参照してください。

Maya マッスルの高度なテクニックのレッスン データをダウンロードしていな い場合は、www.autodesk.com/maya-advancedtechniques からダウンロードしま す。

チュートリアルを進めるときは、定期的に、各セクションの終了時に、作業内容 を保存することをお勧めします。ただし、各レッスンの完成シーンのサンプル ファイルは付属しています。

レッスン1:基本的なスキン デフォメーションの設定

このレッスンでは、ボーンとジョイントを使用してマッスル デフォーマによっ て変形されるオブジェクトの設定方法を示します。基本的なスキン デフォメー ション用のリグを準備し、メッシュに初期のウェイト付けを設定します。

注: Maya skinCluster をオブジェクトに適用済みの場合は、このレッスンに似た ワークフローに従って、これを変換してマッスルを簡単に使用できます。『*Maya* マッスル』マニュアルの「Maya スキンを Maya マッスルに変換する (71 ペー ジ)」を参照して、skinCluster をマッスル セットアップに変換する方法を学習 します。

レッスンで使用するシーンを開く

1 DragonLeg Basic Start.mb ファイルをロードします。

このシーンには、脚の基本ポリゴン メッシュ、アニメートした単純な IK リグを設定したジョイント、バックグラウンドのライトが収められていま す。



 ディスプレイ レイヤ エディタ(Display Layer Editor) で lyrSkin と lyrLIGHTS のレイヤをオフにしてスキンを非表示にし、下にあるリグを表示します。

ヒント: Alt + b (Windows) またはOption + b (Mac OS X) ホットキー を使用してシーンビューで背景のカラーを切り替えます。

 タイムラインをスクラブして、アニメーションを表示します。
時間とともに脚が前後に移動するので、IK リグの基本セットアップを確認 できます。基本的な Maya ジョイントに加えて、ヒップの骨と膝頭のポリ ゴン ボーン オブジェクトが 2 つあります。

マッスルを設定する

現在、このリグには安定したルートジョイントがありません。スキニングにマッ スル デフォーマを使用するため、Maya ジョイントではなくカプセル オブジェ クトを作成してルートとして使用します。 カプセルは、実際のサイズや厚みがある点を除いては、ジョイントに似ており、 スティッキー ウェイト付け用と実際のスライド エフェクト用の両方のジョイン トとしてマッスル スキン デフォーマで使用できます。カプセルはボーンとして 効果的に機能し、ポリゴン メッシュ ボーンよりも高速です。

カプセル オブジェクトを作成して設定するには

 カプセルオブジェクトを作成するには、マッスル>マッスル/ボーン>カ プセルの作成(Muscle>Muscles/Bones>Make Capsule)を選択します。 カプセルオブジェクトが原点に表示されます。アウトライナ(Outliner) で、grpMUSCLESというグループが追加されていることがわかります。こ

で、grpMUSCLESというクルークが追加されていることかわかります。こ のグループにはすべてのカプセルとマッスルが保持され、リグの階層をク リーンな状態に維持するようになっています。

注: カプセルはロケータであるため、カプセルを表示するには、ビューの表示 (Show) メニューの表示 > ロケータ (Show > Locators) をオンにして おく必要があります。

 マッスル > シンプル マッスル > マッスル パラメータの設定(Muscle > Simple Muscles > Set Muscle Parameters)を選択して、マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウを開きます。

マッスル パラメータ(Muscle Parameters) タブの上部では、カプセル、 ボーン、マッスルの基本的なアトリビュートを編集できます。アトリビュー トエディタ(Attribute Editor)またはチャンネル ボックス(Channel Box)を使ってもこれらをコントロールできます。

3 マッスルオブジェクト設定(Muscle Object Settings)で、カプセルの長 さ(Length)の値を4に設定し、マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィ ンドウを閉じます。

ヒント: マッスルオブジェクト設定(Muscle Object Settings) でカプセル のカラーを調整することもできます。

4 カプセルを移動、回転し、図に示すように boneBlade オブジェクトのそば に配置します。これはルート オブジェクトに適した位置です。

240 | Maya マッスルの高度なテクニック


スキニング用にマッスルスキンデフォーマに接続できるのは cMuscleObject シェイプ ノードを含むオブジェクトだけであるため、すべてのジョイント とポリゴン ボーンを変換してこのノードを含める必要があります。

ジョイントをボーンに変換する

ジョイントごとに手動でカプセルを作成しなくても、Mayaマッスルを使用する と、直接マッスルデフォーマに接続できるようにジョイントがカプセルに自動 的に変換されます。変換したジョイントは、通常の Maya ジョイントとマッス ルのカプセル オブジェクトの両方の機能を備えています。

1 ドラゴンの脚のリグにあるすべてのジョイントを選択します。



ヒント: アウトライナ(Outliner)ウィンドウ上部のフィルタ フィールド を使用して、すべての脚のジョイントをすばやく分離します。jnt* と入力 して、その命名規則を使用している脚のジョイント オブジェクトのみを表 示します。

マッスル>マッスル/ボーン>サーフェスをマッスル/ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)を選択します。

サーフェスではなくジョイントを変換するため、ジョイントをカプセルに 変換(Joint to Capsule Conversion)ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで、どの軸をリグのジョイントの長辺方向 に向けるかを設定します。Maya のデフォルトは X ですが、このリグでは Y 軸でのより正確なジョイント回転軸を得るために、カスタムのジョイントの方向ツールを使用します。リギングの前に、このようなツールを使用してジョイントを設定することを強くお勧めします。

ジョイントをカプセルに変換(Joint to Capsule Conversion) ウィンドウのY軸(Y-Axis)をクリックします。

それぞれのジョイントがカプセル オブジェクトに変換されて、シェイプ ノードが含まれます。カプセルのカラーと長さは、マッスル パラメータで 調整できます。



次に、リグのポリゴンボーンオブジェクトを変換します。こうすることで スキニング用のマッスル デフォーマにコネクトされます。

4 膝蓋骨と肩甲骨のオブジェクトを選択してから、マッスル>マッスル/ボーン>サーフェスをマッスル/ボーンに変換(Muscle > Muscles/Bones > Convert Surface to Muscle/Bone)を選択します。

ポリゴン メッシュ オブジェクトが変換されて新しい cMuscleObject シェ イプ ノードにコネクトされます。



シーンに視覚的な変更は見えませんが、新しいシェープのノードはチャン ネルボックス (Channel Box) に表示されます。マッスルビルダ (Muscle Builder) ウィンドウを使用してシェイプの表示をオンにし、カラーや他の 設定を調整することもできます。強さ (Strength) の設定は 1.0 のままに しておいてください。

ー連のジョイントとポリゴンメッシュオブジェクトを変換して、マッスルスキンデフォーマを使用する準備が完了したので、これでスキンデフォーマを適用 してマッスルオブジェクトを接続できます。

マッスル スキン デフォーマを適用する

これらの手順では、デフォーマを適用するメッシュだけを選択します。ボーンと マッスルは後から接続します。

マッスル スキン デフォーマを適用するには

- 1 ディスプレイレイヤエディタ (Display Layer Editor) で lyrSkin レイヤを オンにし、シーンビューでドラゴンの脚のスキンメッシュを選択します。
- マッスル > スキン セットアップ > マッスル システム スキン デフォーマを 適用(Muscle > Skin Setup > Apply Muscle System Skin Deformer)を選 択します。

デフォーマが適用されるとウィンドウが表示され、後で使用する場合に備 えてリラックス デフォーマの必要な情報が事前に計算されます。 このプロセスが完了しても、ドラゴンの脚のメッシュには変化がないよう に見えますが、マッスル スキン デフォーマ ノードが適用されています。 cMuscleSystem ノードアトリビュートは、チャンネル ボックス(Channel Box)またはアトリビュート エディタ(Attribute Editor)で確認できま す。

この時点では、メッシュをアニメートしても、デフォメーション エフェクトは生じません。これは、ボーンとマッスルがスキン メッシュに接続およびウェイト付けされていないためです。次の手順で、すべてのカプセルとボーンを接続します。

マッスル オブジェクトを接続する

- フレーム0に移動すると、どのようにボーン/カプセルがデフォルトのベースポーズにあることがわかります。
- 2 アウトライナ (Outliner) で以下を選択します。
 - 前のレッスンで作成したルート カプセル オブジェクト、カプセルに変換したすべてのジョイントを含むすべてのカプセル オブジェクト (muscleCapsule1)
 - 2つのポリゴンボーンオブジェクト (boneKneeCapRt boneBlade)
 - スキンメッシュ (pSkinMesh)



3 マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトを接続 (Muscle > Muscle Objects > Connect selected Muscle Objects)を選択し ます。 すべてのボーンがマッスル デフォーマに接続されます。この時点では、タ イムラインをスクラブしても、スキン メッシュにはモーションは生成され ません。これはデフォルトのスキン ウェイトを適用していないためです。

デフォルト ウェイトを適用する

デフォルト ウェイトをボーンとポリゴン メッシュ オブジェクトに適用すること は、Maya skinCluster を使用したウェイト付けと似ています。スキンのポイン トはカプセル/ボーンの移動時に一緒に移動します。

デフォルト ウェイトを適用するには

1 スキンメッシュ (pSkinMesh)を選択します。

ヒント: ここでマッスル > マッスル ウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights)からマッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンドウを を開き、メッシュをペイント モードで表示すると、この後の手順が完了し た時点でウェイトを確認することができます。

- マッスル>ウェイト付け>デフォルトウェイトを適用(Muscle>Weighting > Apply Default Weights)を選択します。
- 3 表示されるデフォルトウェイト(Default Weights)ウィンドウのウェイト(Weight)ドロップダウンリストでスティッキー(Sticky)を選択し、スムース(Smooth)の値を3に設定します。 スムース値は、スムース操作で行う反復回数を設定します。
- 4 デフォルトウェイトを適用(Apply Default Weights)をクリックします。 これでデフォルトのスティッキーウェイトが適用されたので、タイムライ ンをスクラブすると、エフェクトが表示されるようになります。カプセル/ ボーンを移動すると、スキンメッシュが移動します。

これで1番目のレッスンは終わりです。このレッスンの完成ファイルである DragonLeg_Basic_End.mbは、Mayaマッスルの高度なテクニックのフォルダに あります。

レッスンを終えて

このレッスンでは、以下について学習しました。

■ カプセル オブジェクトを作成する

- ジョイントをカプセル/ボーンに変換する
- スキン メッシュにマッスル デフォーマを適用する
- ボーンとカプセルオブジェクトをスキンメッシュに接続する
- リグにデフォルト ウェイトを適用する

これでドラゴンの脚のメッシュのデフォルト ウェイトを洗練させる準備が整い ました。次にマッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウを使用してウェイ トをペイントします。

レッスン 2: スティッキー ウェイトをボーンにペイン トする

次の手順では、メッシュにウェイトをペイントします。マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウを使用すると、カプセル、ボーン、マッスルのウェ イトをペイントでき、コンポーネント エディタのように頂点へのウェイトの設 定もできます。

レッスンで使用するシーンを開く

▶ 前のレッスンで作業したシーンをロードするか、DragonLeg_Paint_Start.mb ファイルをロードします。

このシーンにはボーンとカプセル オブジェクトが接続されたドラゴンの脚 があります。ドラゴンの脚のメッシュは、基本的なスキン デフォメーショ ン用にデフォルトのスティッキー ウェイトをカプセルに適用して設定され ています。

ディスプレイ レイヤ エディタ(Display Layer Editor)を使用すると、このリグのさまざまな部分の表示/非表示を切り替えることができます。

ウェイトをペイントする

ボーンとポリゴン メッシュ オブジェクトにデフォルト ウェイトを適用した後 で、マッスル ペイント (Muscle Paint) ウィンドウを使用してデフォルト ウェ イトの作用を増減してこのウェイトを洗練させることができます。

シーンビューで、まだオンになっていない場合は、シェーディング>すべてをスムースシェード(Shading > Smooth Shade All)を選択します。

2 スキンメッシュオブジェクト (pSkinMesh)を選択してから、マッスル>マッスルウェイトのペイント (Muscle > Paint Muscle Weights)を選択します。

マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウが表示され、ペイントモードでメッシュが黒のカラーで表示されます。

マッスルペイントウィンドウは、アーティザンペイントツールと同じ基本 機能を多数実装しています。特定のアトリビュートの詳細については、 『*Maya* マッスル』ガイドのマッスル ペイント(Muscle Paint)ウィンド ウ (182 ページ)を参照してください。

- 3 マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウを次のように設定します:
 - ウェイト(Weight) プルダウン メニューから スティッキー(Sticky) を選択します。
 - インフルエンス リストで「jntShoulder」を選択します。
 - 置き換え(Replace)をオンにします。



4 ドラゴンの脚からヒップにかけての領域で、jntShoulder (ヒップ) ボーン にウェイトをペイントします。 ペイントすると必ず、デフォルト ウェイトはペイント中のウェイト値で置 き換えられます(デフォルト値は 1)。**ウェイト**値は、**マッスル ペイント** (Muscle Paint) ウィンドウで調整して続けてペイントできます。

ヒント: シーン ビューで b キーを押しながら左右にドラッグすると、ブラシのサイズを調整できます。



- 5 ウェイトのペイントが終了したら、マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウを閉じます。
- 6 タイムラインをスクラブして、ボーンの移動に伴うスキンの変形に対する ペイント済みウェイトの作用を確認します。 次の手順では、上肢全体ではなく、特定の頂点にウェイトを設定します。

指定したポイントにウェイトを設定する

- 1 マッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウを開き、インフルエンスリ ストで jntLegUp オブジェクトを選択します。
- 2 マッスルペイントウィンドウでペイント (Paint) モードをオフにします。



ペイント機能が**マッスルペイント** ウィンドウで無効化されて、スキンメッシュのポイントが表示されます。

3 ウェイトを設定する上肢の特定のポイントを選択します。



ヒント: ポイントをより正確に選択するには、投げ縄ツール(Lasso Tool)を使用します。

ライブ アップデート(Live Update)オプションはオンに設定されていま す。これは、ウェイト(Weight)スライダをドラッグすると、ウェイトが インタラクティブに更新されることを意味します。ライブ アップデート

(Live Update)をオフにするとウェイト値を設定できますが、ウェイトの 設定/塗りつぶし(Set Weight/Flood)をクリックするまでウェイトは変更 されません。

選択したポイントが複数あり、**ライブアップデート**(Live Update)がオン の場合、**ウェイト**(Weight)スライダは、選択したポイントに対してカレ ント オブジェクトの平均ウェイトを示すように自動的に調整されます。た とえば、メッシュが黒のポイントとメッシュが赤のポイントを複数選択し た場合は、**ウェイト**(Weight)スライダはこれらのポイントの平均値を示 します。

- 4 **ウェイト**(Weight)スライダを使用して、値を 0.5 までドラッグします。 カラーが黄色になり、この領域のウェイトが半分であることを示します。
- 5 スライドを 1.0 までドラッグすると、ドラゴンの脚のメッシュの選択した ポイントが上肢ボーンに 100% ウェイト付けされます。

ウェイトをスムースする

次の手順では、肩(ヒップ)と上肢のジョイントとの間のトランジションにス ムースを行います。ウェイトが他のボーンに再び正規化されないように、ウェイ トをロックすることができます。

 シーン内の何もない領域をクリックして選択を解除し、マッスルペイント (Muscle Paint)ウィンドウでペイント(Paint)モードをオンにします。

注: Paint (ペイント) モードを再びオンにするときには、ポイントが選択 されていないことが重要です。ポイントを選択した状態でペイント (Paint) モードをオンにすると、選択されたポイントしかペイントできません。ポ イントを選択していない状態でペイント (Paint) モードをオンにすると、 メッシュ全体がペイント可能になります。

 インフルエンス リストで jntShoulder と jntLegUp のボーン以外のすべて のボーンを選択し、右クリックしてポップアップ メニューからハイライト された項目のウェイトのロック/保持の有効化(Enable Lock/Hold Weight on highlighted items)を選択します。

各ジョイントの横に**保持(HOLD**)マーカが表示されます。このマーカは、 これらの項目のカレント ウェイトがロックされていて、その項目の周囲を ペイントしようとしても調整できないことを示します。これで現在ロック されていないジョイントは肩と上肢の2つだけになったため、その間でウェ イトを他のジョイントに影響なくスムースできます。

- 3 インフルエンス リストで jntLegUp を選択し、スムース(Smooth)をオンにします。
- 4 上肢の上部エッジに沿って数回ペイントします。



- 5 タイムラインをスクラブすると、ヒップと上肢の間のデフォメーションが スムースになっているのを確認できます。
- 6 インフルエンス リストですべての項目を選択し、右クリックしてハイライトしたされた項目上のウェイトのロック/保持の無効化(Disable Lock/Hold Weight on highlighted items)を選択して、その他のボーンのペイントを続行します。
- 7 引き続き、このレッスンで学習したテクニックを使用してウェイトをペイントし、基本的なリジッドボーンスキニング用にジョイント/カプセルにウェイトをスムースします。ポリゴンの膝蓋骨と肩甲骨のウェイトはゼロのままにしておきます。後半のレッスンで、これらのオブジェクトをスライドエフェクトに使用します。

これでボーンを使用した基礎的なスキンのセットアップが完了しました。この レッスンの完成ファイルである DragonLeg_Paint_End.mb は、Maya マッスル の高度なテクニックのフォルダにあります。

レッスンを終えて



このレッスンでは、以下について学習しました。

- マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウを使用してボーンにスティッキーウェイトをペイントする
- メッシュ上の指定したポイントにウェイトを適用する
- スムース ウェイトを適用してウェイト間のトランジションを改善する

スティッキー ウェイトをボーンまたはカプセルにペイントすると、Maya skinClusters と同様の効果が得られます。スライドやジグルなどマッスル スキ ン デフォーマを使用したその他の機能については、この後のレッスンで説明し ます。

一般的には、マッスルとスティッキーウェイトを使用する前に、最初にメッシュ のカプセル/ボーンにのみウェイトをペイントすることをお勧めします。これは、 ウェイト付けの構造や構成を維持するのに役立ちます。

レッスン3:シンプルマッスルの設定

前のレッスンでは、カプセルとボーンのみを使用してマッスル デフォーマを設 定しました。これにより、追加のスキニングを構築する基礎知識が得られまし た。このレッスンでは、シンプル マッスルを作成して、メッシュでマッスル デ フォメーションを設定する方法について学習します。

レッスンで使用するシーンを開く

1 前のレッスンで使用したファイルをロードするか、 DragonLeg_Muscles_Start.mbファイルをロードします。

252 | Maya マッスルの高度なテクニック

このファイルには、すべてのマッスルとボーンを接続してカプセルにデフォ ルトの基本的なスティッキー ウェイトを適用したドラゴンの脚が収められ ています。

- 2 次にいずれかを実行してスキンメッシュの表示を変更し、下にあるリグが 見えるようにします。
 - ディスプレイレイヤエディタ(Display Layer Editor)で lyrSkin レイ ヤをオフにして、マッスルで作業を行う間一時的にスキンを非表示にし ます。
 - パネルメニューからシェーディング>X線表示(Shading>X-Ray)を 選択します。

シンプルマッスルを作成する

既存の NURBS サーフェスをマッスルに変換してリグを設定できますが、Maya マッスルにはマッスルを簡単に構築、設定するためのツールが用意されていま す。次の手順では、マッスルビルダ(Muscle Builder)を使用してシンプルマッ スルを作成します。

 メイン メニューからマッスル > シンプル マッスル > マッスル ビルダ (Muscle > Simple Muscles > Muscle Builder)を選択します。

マッスル ビルダ (Muscle Builder) ウィンドウが表示されます。

- 2 アウトライナ(Outliner) ウィンドウを使用して、以下の操作でマッスルの アタッチオブジェクトをマッスルビルダ(Muscle Builder) にロードしま す:
 - jntShoulder カプセルを選択して、Obj 1 のアタッチ(Attach Obj 1)
 の
 をクリックします。
 - jntLegLo カプセルを選択して、Obj 2 のアタッチ(Attach Obj 2)の
 *を*クリックします。

これらの ズボタンをクリックすると、選択したオブジェクトがア タッチ オブジェクト(Attach Object)フィールドにロードされます。

3 構築/更新(Build/Update)をクリックします。

マッスルのシェイプは、開始アタッチ オブジェクト(Obj 1 のアタッチ) から終了アタッチ オブジェクト(Obj 2 のアタッチ)へ生成されます。作 業中にシーン ビューをワイヤフレーム モードまたは X 線モードに変更し て結果を確認できます。

ヒント: Obj 1 のアタッチまたは Obj 2 のアタッチ ボタンをクリックする と、アタッチ ロケータを直接選択して、シーン ビューに配置できます。

このチュートリアルでは、**構築(Build)** タブのパラメータはデフォルト設 定のままでかまいません。必要に応じて、シンプル マッスル設定を調整で きます。使用可能なアトリビュートの詳細については、『*Maya*マッスル』 マニュアルの構築(Build) タブ (170 ページ)を参照してください。

注: タイムラインをスクラブすると、マッスルはアタッチされたままです が、正しく伸長や収縮はしません。これはデフォメーションの設定がまだ 完了していないためです。

マッスルの一般的な配置と設定が完了すると、マッスルのシェイプをより 詳細にスカルプトできます。

シンプル マッスルのシェイプをスカルプトする

 マッスルビルダ(Muscle Builder)で、断面(Cross Section)タブに切り 替えます。

このタブには3つの主要なセクションがあります。左側のリストには、マッ スルの各断面が表示されます。通常は最初と最後の断面が調整されます。2 つのビューパネルがあり、長辺方向と側面からのすべてのマッスル断面の ビューを表示します。



- 2 断面リストからカーブ3 (Curve 3) とカーブ5 (Curve 5)を選択しま す。ビューパネルでこれらをX軸とZ軸で移動できます。 断面(Cross Section)カーブリストで1つまたは複数の項目を選択する と、これらのカーブが選択されます。このビューパネルまたはシーンビュー で、これらを移動することができます。
- 3 タブの上部にある**断面の編集(Edit Cross Section)**をクリックします。 これで断面は編集可能になり、ビューパネルがコンポーネントモードに自 動的に切り替わり、断面カーブのポイントを直接編集できるようになりま す。
- 4 目的のマッスルのシェイプが得られるまで、断面の編集を続けます。



ヒント: マッスル ビルダ (Muscle Builder) のビュー パネルでは、パンす ることができます。簡単にビューパネルを中心に戻すには、再度**断面 (Cross** Section) タブをクリックします。

5 完了したら、タブの最上部にある**編集(EDITING**)ラベルをクリックしま す。

これでマッスルのスカルプトは完了です。次の手順では、構築プロセスを 完了し、マッスルにリグを設定して適切な変形を行います。

シンプル マッスルを確定する

- マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウで、確定(Finalize)タブに 切り替えます。
 このタブでは、マッスルを変形してリグを設定する方法を選択できます。
 確定(Finalize)タブのアトリビュートの詳細については、「確定 (Finalize)タブ(171ページ)」を参照してください。
- 2 マッスルスプラインデフォーマ(Muscle Spline Deformer)が選択されていて、コントロール数(Num Controls)が3に設定されていることを確認します。

注: これにより、マッスルの始点、中間点、終点の3つのムーバが得られます。

3 マッスルに変換(Convert to Muscle)をクリックします。

警告ダイアログ ボックスが表示され、この操作でこのマッスルの断面が確 定されることを示します。またこのダイアログ ボックスにより、マッスル とコントロールのベース名を選択できます。

後からマッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウで簡単にマッスルを 選択してウェイト付けできるように、使いやすくわかりやすい命名規則を 採用することをお勧めします。たとえば、上肢の裏側の中心近くに配置す るマッスルを作成した場合は、「hamstringsCenter」という名前を付けま す。

4 名前を入力して OK をクリックします。

マッスルにリグが設定され、cMuscleObject シェイプ ノードが作成されま す。ワイヤフレーム モードでは、3 つの黄色いボックス コントロールが表 示されます。これらのコントロールはアニメートが可能でジグル設定を持 ち、適切なカプセルにコンストレインされます。



5 マッスルパラメータ(Muscle Parameters) タブに切り替えて、下にスク ロールします。

このセクションでは、選択したマッスルのデフォーマをカスタマイズでき ます。一部のコントロールは、アトリビュートエディタ(Attribute Editor) またはチャンネル ボックス(Channel Box)で直接操作することもできま す。 **チャンネルボックス**でデフォーマアトリビュートを確認するには、マッス ルのサーフェスを選択します。

6 フレーム単位でタイムラインをスクラブして、マッスルの収縮と伸長を確認します。1フレームずつスクラブすると、意のフレームに移動して任意の時間のマッスルパラメータ(Muscle Parameters)を調整しても、正しく再生されます。

収縮と伸長を調整する

マッスルの収縮と伸長を設定する前に、マッスルの最小長と最大長を設定してお くことをお勧めします。デフォルトでは、マッスルの最小収縮値はオリジナルの 長さの 1/2 に、最大伸長値はオリジナルの長さの 2 倍に設定されます。マッス ルの長さをこれらの設定に変更すると、ボリュームを最大限に変更できます。

収縮と伸長の長さ設定を調整するには

- シーンビューシェーディングをすべてをスムースシェード(Smooth Shade All)に設定し、ディスプレイレイヤエディタ(Display Layer Editor)で lyrSkin レイヤをオフにします。
- マッスルビルダ(Muscle Builder)のマッスルパラメータ(Muscle Parameters)タブを開いたままにしておき、次の操作を実行して収縮ポー ズを定義します。
 - FootIKMover コントロールを選択して、脚を収縮位置まで上げます。
 - マッスルのサーフェスを選択します。
 - マッスルパラメータ(Muscle Parameters) タブのスプラインの長さ設定(Spline Length Setting) セクションで、カレントを収縮として設定(Set Current as Squash)をクリックします。



これによりマッスルの最小収縮値はカレントの長さに設定されます。

- 3 次の操作を行い、伸長ポーズを定義します。
 - FootIKMover コントロールを選択して、脚が完全に伸長するように下 に移動します。
 - マッスルのサーフェスを選択します。
 - スプラインの長さ設定 (Spline Length Settings) セクションで、カレ ントを伸長として設定 (Set Current as Stretch) をクリックします。



最小と最大の伸長値を設定すると、収縮/伸長の設定が視覚的な出力に対し てより直接的な影響を与えます。これは、最小と最大の伸長値がマッスル が変化する実際の長さに密接に関連しているためです。これにはボリュー ムを失わないように伸長を抑制する働きもあります。さらに、これにより 収縮時に弱める(Dampen On Squash)と伸長時に弱める(Dampen On Stretch)の値が正しく機能します。

 必要に応じて伸長ボリュームのプリセット(Stretch Volume Presets)を調 整します。

マッスルビルダ(Muscle Builder)での変更内容がマッスルに作用するように、マッスルのサーフェスが選択されていることを確認します。伸長の 設定により、マッスルの始点、中間点、終点でのX軸とZ軸の基本的な放 射状ボリュームの変化を設定できます。

マッスルが縮小するときにフリップする場合は、アップ軸(Up-Axis)を変 更すると修正できます。マッスルが湾曲するとき、エイム値は先端がどの ように適応するかを設定します。

ヒント: アニメーションを再生し、再生中に設定を調整することができま す。伸長ボリューム プリセットをクリックすると、値は自動的に複数のプ リセット値の1つに設定されます。

ジグル パラメータを表示する

シンプルマッスルのジグルでは、マッスルの始点と中間点と終点を全体的にコントロールできます。マッスルにリグを設定して4つ以上のムーバを作成した場合は、黄色いムーバに特定のジグル値を直接設定することもできます。マッスルビルダウィンドウのマッスルパラメータタブに配置されているジグルプリセット(Jiggle Presets)のエフェクトを確認することができます。

 Jiggle Presets 						
Default	Lig	ht				
	START	MID	END			
Jiggle:	0.0000	0.6500	0.0000			
Cycle:	8.0000	8.0000	8.0000			
Rest:	10.0000	10.0000	10.0000			
Dampen on Squash:		0.7500				
		0.7500				
Load Selected				liggle Values		

ジグル パラメータを表示するには

- 1 アニメーションを再生します。
- アニメーションを再生しながら各ジグルプリセット (Jiggle Presets) ボタン(デフォルト(Default)、軽い(Light)、通常(Medium)、重い(Heavy)、オフ(OFF))をクリックして、マッスルに対する各プリセットのエフェクトを確認します。

レッスンを終えて

このレッスンでは、以下について学習しました。

- マッスルビルダ (Muscle Builder) を使用してシンプルマッスルを作成する
- シンプルマッスルをスカルプトして確定する
- マッスルのパラメータを調整する

cMuscleSplineDeformer を使用してシンプル マッスルにリグを設定した場合、 カスタム マッスル シェイプを実行して、マッスルのさまざまな長さでの表示を 正確にコントロールできます。詳細については、『*Maya*マッスル』マニュアル のcMuscleSplineDeformer ノード (220 ページ)とマッスル スプライン デフォー マを設定する (41 ページ)を参照してください。

多数のシンプル マッスルを構築するときに、マッスルとボーンを貫通させたい 場合があります。たとえば、シュリンク ラップ(Shrink Wrap)の使用時に、 マッスルとボーンの間にギャップや空間が生成されるよりも、貫通してもマッス ルがしっかりと固まっている方が自然です。

構築(Build) タブに戻り、新しい設定を選択し、これまでに学習したテクニックを使用して、リグにさらにマッスルを構築することができます。このレッスンで完成したマッスル リグは、DragonLeg_Muscles_End.mb という名前で格納されています。



レッスン 4: スティッキー ウェイトをシンプル マッス ルにペイントする

前のレッスンでは、マッスルとボーンを作成し、ボーン カプセルにスキン ウェ イトを設定しました。このレッスンでは、シンプル マッスルにウェイトを追加 します。これはボーンのウェイト付けと同じプロセスですが、マッスルのウェイ ト付けではマッスルの移動時だけでなく、そのサーフェスの移動時とジグル時に もメッシュが変形する点が異なります。スキン メッシュは、スティッキー ウェ イトを使用するとマッスルのサーフェスに効果的にアタッチされるため、マッス ルがジグルまたはバルジする場合、これにウェイト付けされているスキンも同様 の影響を受けます。この手順だけで、リグがよりリアルで目を引くものになりま す。

前半のレッスンでボーンを接続したように、最初にマッスルをマッスル スキン デフォーマに接続する必要があります。マッスル ビルダ(Muscle Builder)を 使用してマッスルを作成したため、マッスルにはすでに cMuscleObject シェイ プノードによりリグが設定されています。このため、すぐに接続することがで きます。

レッスンで使用するシーンを開く

 前のレッスンで使用したファイルをロードするか、 DragonLeg_Sticky_Start.mb ファイルをロードします。
 このファイルでは、スキンメッシュがボーンカプセルにウェイト付けされ、マッスルが設定されてボーンにアタッチされています。

スティッキー バインド距離を視覚化する

ボーンにウェイト付けするのとは異なり、マッスルにウエイト付けする場合はス キンメッシュポイントがマッスルサーフェスにバインドされます。マッスルが 最初にコネクトされるとき、スティッキーバインド操作によりスキンとマッス ル間の距離を計算します。この計算速度を上げるために、マッスルの中心から一 定の距離以内のポイントだけを計算させるようにします。たとえば、キャラクタ の左腕のマッスルを右脚のポイントにウェイト付けする必要が生じることはほと んどあり得ません。スティッキーバインドを使用すると、マッスルに近いポイ ントのみを計算できます。

シンプルマッスルをコネクトする際にスティッキーバインドウィンドウが表示 され、そこで距離をコントロールできます。通常、自動計算の値を使用すれば十 分ですが、値の影響をプレビューすることもできます。このレッスンでは、脚の スティッキーバインドの距離を視覚化する方法を説明します。

スティッキー バインド距離内にあるすべてのポイントが計算され、マッスルに 正しくウェイト付けされます。この距離を超えるポイントはすべて無視されま す。このプロセスは、そのポイントをウェイト付けするかどうかを設定するだけ であり、実際にウェイト付けが実行されるわけではありません。指定距離を超え るポイントにもウェイトを設定できますが、ほとんどの場合正しく変形されませ ん。距離を短く設定しすぎた場合は、いつでも戻って後からスティッキーを再バ インドすることができます(メッシュ全体の場合でも可能です)。

スティッキー バインド距離を視覚化するには

1 大腿の上部にあるシンプルマッスル(MusLegUpFront)を選択します。





 メインメニューからマッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスル オブジェクトのスティッキーバインド距離を視覚化(Muscle > Muscle Objects > Visualize Sticky Bind Distance for selected Muscle Objects)を 選択します。

選択したマッスルの周囲に黄色い視覚化球体が表示されます。



球体の半径を使用してスティッキーバインドの距離に影響されるスキンポ イントを視覚化できます。

3 チャンネルボックス(Channel Box)の入力リストで makeNurbSphere1 をクリックし、球体の半径(Radius)の値を調節してどの値が適切か確認します。

注: 球体そのものはテンポラリ オブジェクトであり、距離の視覚化以外は マッスルに関係しません。

4 作業が完了したら、球体を削除します。 これでマッスルサーフェスをスキンに接続できるようになりました。

マッスル オブジェクトを接続する

1 フレーム 0 に移動して、すべての NURBS マッスルとスキン メッシュを選 択します。



 マッスル>マッスルオブジェクト>選択したマッスルオブジェクトを接続 (Muscle > Muscle Objects > Connect selected Muscle Objects)を選択し ます。

スティッキーバインドの最大距離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィ ンドが表示されます。詳細については、「スティッキー バインドの最大距 離(Sticky Bind Maximum Distance)ウィンドウ (181 ページ)」を参照し てください。

3 自動計算(Auto-Calculate)をクリックします。

それぞれのマッスルがマッスルスキンデフォーマに接続されて、スティッ キーウェイトが設定可能になります。このプロセスが完了すると、ボーン/ カプセルのウェイトのペイントと同じ方法でマッスル ウェイトをペイント できます。

マッスル ウェイトをペイントする

- 1 スキンメッシュのみを選択します。
- メインメニューからマッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle> Paint Muscle Weights)を選択します。

マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウが表示されます。カプセル ウェイトをペイントしたときと同様に、このウィンドウを使用して、マッ スルにスティッキーウェイトをペイントして設定できます。

- 3 ウェイト (Weights) プルダウン メニューからスティッキー (Sticky) を 選択します。
- インフルエンス リストでマッスルを選択します。
 マッスル ウェイトをペイントするときは、ボーンからマッスルにゆっくり とウェイトを追加してください。
- 5 マッスル ウェイトのペイントを開始するには
 - **ウェイト**(Weight) 値に 0.1 などの小さい値を設定し、ペイント モー ドとして加算(Add)を選択します。
 - スキンのマッスルにウェイトをペイントします。
 - タイムラインをスクラブして、変形によってアニメーションがどのよう に表示されるかを確認します。

ヒント: ウェイト (Weight) スライダを右クリックして、1/10の増分をプ リセット ウェイトから選択することもできます。

6 目的の変形エフェクトが得られるまで、各マッスルにウェイトのペイント を繰り返します。スティッキー ウェイトをマッスルに追加すると、スキン がマッスルのサーフェスに沿ってどのように移動するかを確認してください。



ヒント:通常、レンダーするのはスキンのみでありマッスルではないため、マッ スルの相互貫通を心配する必要はありません。次のレッスンでは、マッスルと ボーンにスライドウェイトを追加します。これにより交差するときにスキンが マッスルから押し出されます。 このレッスンの完成ファイルである DragonLeg_sticky_End.mb は、Maya マッ スルの高度なテクニックのフォルダにあります。このファイルには、マッスル デフォメーションを表示する調整済みのアニメーションもあります。

レッスンを終えて

このレッスンでは、以下について学習しました。

- スティッキーバインド距離を視覚化する
- シンプル マッスル オブジェクトをマッスル スキン デフォーマに接続する
- マッスル ウェイトをペイントする

レッスン 5: スライド デフォメーションの設定

これまでに、脚のメッシュに対して機能するマッスルのリグを設定しました。ス ライドウェイトを使用すると、マッスルスキンデフォーマでさらに精度の高い リギングが得られます。スライドデフォーマを使用すると、スキンの下を滑ら かに動くマッスルとボーンを作成できます。後半のレッスンで作成するリラック スウェイトと一緒に使用すると、非常に効果的なスキンの押し出しとスライド の効果が得られます。

レッスンで使用するシーンを開く

 前のレッスンで使用したファイルをロードするか、 DragonLeg_Sliding_Start.mbファイルをロードします。
 このファイルには、スティッキーウェイトを使用してボーンとマッスルに スキンとウェイトが正しく設定された脚が収められています。

スライド デフォメーションを有効にする

 スキンメッシュを選択し、チャンネルボックス(Channel Box)の入力 (INPUTS) セクションで、cMuscleSystem1ノードをクリックして、その アトリビュートを表示します。

デフォーマの各メインセクションは、ラベルのヘッダで分類されています。 ここでは、スライド(SLIDING)セクションに表示されるものを使用しま す。スライドデフォーマはオン/オフの切り替えが可能です。これにより、 動作や再生を高速化できます。



 スライドの有効化(Enable Sliding)をオン(on)に設定し、精度 (quality)をフル(Full)に設定したままにします。

後から必要に応じて**精度**アトリビュートを調整できます。詳細については、 『*Maya*マッスル』マニュアルのスライダアトリビュート (227ページ)を参 照してください。

スライド ウェイトをペイントする

最初にヒップの肩甲骨にウェイトをペイントします。

- スキンメッシュを選択し、マッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights)を選択します。
 マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウが表示されます。
- 2 ウェイト(Weights) プルダウンメニューからスライド(Sliding)を選択 します。
- 3 ウェイト(Weight)スライダを 1.0 に設定し、置き換え(Replace)をオ ンにします。
- 4 インフルエンス リストで、boneBlade を選択します。
- 5 肩甲骨が押し出される可能性のある領域のウェイトをペイントします。



ヒント: ボーンの周囲の領域だけをペイントすると高速化できるうえに、 メッシュの遠い部分のポイントが肩甲骨の影響を受けることがありません。

ペイントしながら、スライド デフォメーションが発生し始めるのを確認で きます。ボーンに関連するメッシュの詳細が不十分なため、スライドは正 確というわけではありません。これは、小さいまたは薄いボーンやマッス ルにスライドが発生する領域のスキンの詳細が必要となる良い例です。

脂肪オフセットを設定する

スライド時にマッスルやボーンがスキンを貫通することがよくある領域では、**脂 防**(Fat)値を設定してマッスルまたはボーンとスキンとの間にオフセットを作 成できます。各マッスルまたはボーン オブジェクトでは、cMuscleObject シェ イプ ノードでこの**脂肪**アトリビュートがオンに設定されています。

MusHipBack マッスルは、スキンが頻繁に後ろのマッスルを貫通するため、良い例となっています。下のイメージは、スライドウェイトがペイントされたマッスルと、0.55 に設定されたマッスルの脂肪オフセットを示します。



スキン メッシュから肩甲骨へのオフセットを定義するには

- 1 肩甲骨のオブジェクトを選択します。
- アトリビュートエディタ(Attribute Editor)でcMuscleObject_boneBlade1 タブを選択して、肩甲骨のcMuscleObjectシェイプノードのアトリビュー トを表示します。
- **3 脂肪(Fat)** 値を 1.0 に設定します。

これでスキンが肩甲骨からオフセットされました。

 Muscle Object Attributes 	
Sticky Strength 1.000	
Sliding Strength 1.000	
Fat 1.000	
 Relative Affect Sticky Affect Sliding 	
User Scale 1.000 1.000 1.000	
Lock Sticky Wt Lock Sliding Wt	
Draw off	
Shaded shaded 👻	
Highlight 1.000	
Highlight Shaded 1.000	
N Seg 3	
N Sides 12	
Wirecolor 🖉 👘 🖬	
Shadecolor	

スライドは少数のポイントにのみ作用するようになって少しシャープになり、 マッスルに自己貫通が発生していることがわかります。次の手順では、方向ウェ イトを使用してスライドを改善します。

Direction ノードを作成する

何も選択されていないことを確認しマッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウを閉じてから、マッスル>方向>マッスル方向の作成(Muscle > Direction > Make Muscle Direction)を選択します。

デフォルトでは、ベクトル タイプの Direction ノードが原点に作成されま す。このノードには、マッスル スキン デフォーマに接続してからスライド が動作する方向を示す矢印があります。

この場合は、何も選択されていないため、新しい cMuscleDirection シェイ プノードが作成されます。



ヒント: Direction ノードはメッシュの中心線に基づいて放射状に作成する 場合が多く、カプセルは一般的に中心線に沿ったボーンに使用されるため、 任意のカプセルを cMuscleDirection ノードとしても機能するように簡単に 変換できます。カプセルを選択し、マッスル > 方向 > マッスル方向の作成 (Muscle > Direction > Make Muscle Direction)を選択します。カプセル は、カプセルと放射状のマッスルの方向の両方に同時に変換されます。こ れによってカプセルは、デフォーマに接続する際にカプセルのマッスル オ ブジェクトとして、またはマッスルの方向として、どちらの方法でも使用 できます。

- チャンネルボックス(Channel Box)またはアトリビュートエディタ (Attribute Editor)で、cMuscleDirection ノードのタイプ(Type)アト リビュートを放射状(radial)に設定します。
 - これにより、軸に沿った放射状タイプの押し出しが作成されます。長さ (Length)と減衰外側(Falloff Outer)アトリビュートは、この軸の長さ をコントロールします。

次に、方向オブジェクトをマッスル デフォーマに接続します。

Direction ノードを接続する

- 1 方向オブジェクトとスキンメッシュを選択します。
- メインメニューからマッスル>方向>選択したマッスル方向を接続(Muscle > Direction > Connect selected Muscle Directions)を選択します。
 方向オブジェクトが接続されますが、メッシュに目に見える変化はありません。これは方向ウェイトのペイントが完了していないためです。
- 3 方向オブジェクトを移動してヒップの裏側のマッスルに揃えます。



4 アウトライナ (Outliner) で中マウス ボタンを押しながら cMuscleDirection1 を iControlMusHipBack1 にドラッグして、方向オブ ジェクトを一番目の後ろのヒップ マッスルのコントロールにペアレント化 します。



5 方向オブジェクトの長さ(Length)アトリビュートを 3.0 に設定します。

減衰外側(Falloff Outer)アトリビュートは1.0に設定したままにします。 これは先端の長さを変更するだけです。Directionノードの実際のエフェクトが生成されるのは、ウェイト付けだけです。内側/外側減衰(Inner/Outer Falloff)の値は、主に視覚的なフィードバックに使用します。

方向ウェイトをペイントする

- スキンメッシュを選択し、マッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights)を選択します。
- 2 マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウで、ウェイト(Weights) プルダウンメニューから方向(Direction)を選択します。 これにより、接続された任意の Direction ノードに方向ウェイトを設定し てペイントできます。
- 3 スライドウェイトをペイントしたのと同じ領域内にあるヒップ周辺の方向 ウェイトをペイントします。



これでスライド方向がマッスルの Direction ノードの中心線から放射状に 押し出されるように補正されました。貫通の問題も解決しました。

- 4 タイムラインをスクラブして、アニメーションを確認します。
- **5 チャンネルボックス(Channel Box)**の入力(INPUTS)セクションで、 cMuscleSystem1 ノードをクリックします。
- 6 スライドの有効化(Enable Sliding)オプションのオン/オフを切り替えて、 スライドの有効/無効によるメッシュの表示内容を比較します。
- 7 必要に応じて、引き続きウェイトをペイントして Direction ノードを作成 するか、DragonLeg Sliding End.mb を開いて完成例を確認します。

レッスンを終えて



このレッスンでは、以下について学習しました。

- スライド デフォメーションを設定する
- スライド ウェイトをペイントする
- 脂肪オフセットを設定する
- Direction ノードを設定してスライドの発生方法を調整する

レッスン 6: ジグル デフォメーションの設定

これまでのレッスンでは、筋肉が収縮した脚を作成しました。より詳細なコント ロールを得るために、Maya マッスルを使用して、メッシュでジグル ウェイト をポイント単位にペイントできます。

注: ジグルデフォーマは、マッスルのスキニングを実行していない場合でも使用 できます。たとえば、Maya skinCluster を使用してオブジェクトにスキンを設 定しているか、まったくスキンを設定していない場合でも、移動するオブジェク トにジグリング用のウェイトをペイントして追加することで、ジグルエフェク トが得られます。

レッスンで使用するシーンを開く

 前のレッスンで使用したファイルをロードするか、 DragonLeg_Jiggle_Start.mb ファイルをロードします。
 このリグには、ボーンとマッスルにスティッキーウェイトとスライドウェ イトが適用された完全な脚が収められています。

ジグル デフォメーションを有効にする

他の機能と同様に、ジグル デフォーマも単独でオンとオフを切り替えることが できます。ジグルが発生すると、ジグル コリジョンが有効になり、スライドし ているボーンやマッスルにポイントが移動しないようにできます。セルフ コリ ジョンはありません。スライド デフォーマが有効な場合はコリジョンがスライ ドするだけです。

- 1 スキンメッシュを選択します。
- **2** アトリビュートエディタ(Attribute Editor)で、cMuscleSystem1 タブを 選択します。
- 3 ジグルの有効化(Enable Jiggle)をオンにします。

ジグル ウェイトをペイントする

- 1 スキンメッシュを選択します。
- **2** マッスル>マッスルウェイトのペイント(Muscle > Paint Muscle Weights) を選択します。

マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウが開きます。

- 3 マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウで、ウェイト(Weights) プル ダウン メニューからジグル(Jiggle)を選択します。
- 4 以下の図に示すように、脚の中心にジグルウェイトをペイントします(ポイント単位のスキンジグルを設定する他のスキンメッシュの領域に、ウェイトをペイントすることもできます)。



5 メッシュのさまざまな領域をペイントし、ウィンドウ>プレイブラスト (Window > Playblast)でアニメーションをブレイブラストして結果を確 認します。

一般的に、ジグル関連のウェイトを使用する際には、ペイント時に減衰を スムースにする事で良い結果を得られます。終了したらマッスルペイント (Muscle Paint) ウィンドウを閉じます。

注: チャンネル ボックス(Channel Box)またはアトリビュート エディタ (Attribute Editor) で、cMuscleSystem ノードのその他の ジグル アトリ ビュートを確認できます。各アトリビュートの詳細については、『*Maya* マッスル』ガイドのジグル アトリビュート (231 ページ)を参照してくださ い。

これで、基本的な脚のリギングは完成しました。このレッスンの完成ファイルで ある DragonLeg_Jiggle_End.mb は、Maya マッスルの高度なテクニックのフォ ルダにあります。

注: ポイント単位のスキン ジグルのジグル計算はマシン リソースをかなり消費 する場合があるため、ライティングやレンダリングなどの操作中には、マッスル のポイント単位のキャッシュ機能を使用すると、より高速なアニメーション再生 が可能です。次のステップでは、アニメーションの各フレームを Maya シーン のノードに内部的にキャッシュします。このようにして再生をキャッシュする と、再生とインタラクションの速度が向上します。

キャッシュを作成する

- 1 スキン メッシュ オブジェクトを選択します。
- メインメニューからマッスル>キャッシング>キャッシュの作成(Muscle > Caching > Create Cache)を選択します。

フレームレンジはカレントのタイムスライダレンジになっており、キャッ シュ データは Maya シーンに保存される設定になっています。表示される キャッシュの生成(Generate Cache) ダイアログのオプションは、デフォ ルトのままにしておきます。
注: このレッスンでは、ノードベースのキャッシングを使用します。外部 ファイルベースのキャッシングを使用する場合は、アトリビュート エディ タ (Attribute Editor)を使用するか、メインメニューからマッスル>キャッ シング > ファイル キャッシュの場所を設定 (Muscle > Caching > Set Location of Cache File)を選択して、パスとベース ファイル名を設定でき ます。

3 スキンメッシュが選択されたままであることを確認し、選択したオブジェ クトのキャッシュを生成(Generate Cache for Selected Objects)をクリッ クします。

タイム スライダが再生されてキャッシュが計算されるとともに、進捗ウィンドウが表示されます。

ー度ドラゴンの脚のアニメーションをキャッシュしておくと、プレイブラ ストを高速化でき、カメラ角度を変更して再生し、さまざまな角度からア ニメーションを確認できます。データがキャッシュされており、変形は実 際には計算されないため、再生が高速化します。

4 アニメーションを再生します。

コンピュータの処理速度によって異なりますが、キャッシュされたアニメー ションはほぼリアルタイムで再生されます。cMuscleSystem ノードの cache アトリビュート (チャンネルボックス (Channel Box) またはアトリビュー ト エディタ (Attribute Editor) で確認可能) は、キャッシュが読み取り ノード (read-node) に設定されたことを示します。つまり、完全な計算を 実行するのではなく、ポイント キャッシュを読み取るようになりました。

注: キャッシュされたデータを表示しているときに設定を変更しようとしても (スライド デフォメーションのオン/オフ設定やウェイトのペイントなど)、 メッシュには何も作用しません。

キャッシュを削除するには

- ▶ 次のいずれかを実行します。
 - マッスル>キャッシング>ノードキャッシュの削除(Muscle>Caching > Delete Node Cache)を選択して、クリアするフレームを選択します。
 - cMuscleSystem ノードのキャッシュ(cache) アトリビュートを無効 (disabled) に切り替えます。 これによりキャッシングが無効になり、通常の計算に戻ります。

レッスンを終えて

このレッスンでは、以下について学習しました。

- ジグル デフォメーションを設定する
- ジグル ウェイトをペイントする
- ポイント単位のキャッシュを設定してより高速な再生とアニメーションを実行する

このレッスンの完成ファイルである DragonLeg_Cache_End.mb は、Maya マッ スルの高度なテクニックのフォルダにあります。

マッスルのリギング

基礎知識



モデル: Alan Wilson 作

この高度なテクニックのチュートリアルでは、いくつかのレッスンによって Maya マッスル クリエイタ (Muscle Creator)の基本的なワークフローと機能につい て説明します。

- レッスン 1: マッスル オブジェクトを作成して設定する (279 ページ)
- レッスン 2: マッスルのポーズ状態を設定する (283 ページ)
- レッスン 3: マッスル シェイプを編集する (286 ページ)
- レッスン 4: マッスルの長さの調整 (288 ページ)

278 | Maya マッスルの高度なテクニック

- レッスン 5: マッスルのスカルプト (292 ページ)
- レッスン 6: マッスルのミラーリング (295 ページ)

レッスンの準備

このチュートリアルを説明どおりに進めるために、Mayaマッスルがロードされ ていることを確認してください。マッスルがロードされている場合は、メイン メニュー バーにマッスル (Muscle) メニューが表示されます。マッスルを手動 でロードする必要がある場合は、『Mayaマッスル』マニュアルのMayaマッス ルをロードする (2 ページ)を参照してください。

Maya マッスルの高度なテクニックのレッスン データをダウンロードしていな い場合は、www.autodesk.com/maya-advancedtechniques からダウンロードしま す。

チュートリアルを進めるときは、定期的に、そして各セクションの終了時に、作 業内容を保存することをお勧めします。ただし、各例の完成シーンのサンプル ファイルも付属しています。

レッスン1: マッスル オブジェクトを作成して設定す る



レッスンで使用するシーンを開く

1 Sabertooth Create Start.mb ファイルをロードします。

このシーンにはカプセルを含むようジョイントを変換した四足歩行リグが 含まれています。ディスプレイレイヤエディタ(Display Layer Editor) を使用して、モデルのスキンの表示/非表示を切り替えることができます。

ヒント: Alt + b (Windows) またはOption + b (Mac OS X) ホットキー を使用してシーンビューで背景のカラーを切り替えます。

タイムラインをスクラブして、ウォークサイクルアニメーションを観察してみてください。

四足歩行リグは現時点でマッスル構造が不足しています。このレッスンでは、 マッスル クリエイタ(Muscle Creator)を使用してマッスルを追加するワーク フローのサンプルを紹介します。マッスル クリエイタにより、マッスルを作成 してミラーできるだけでなく、スカルプトをコントロールし、マッスルがリアル に動作するように形成する事もできます。

マッスルを作成する

 メインメニューからマッスル>マッスル/ボーン>マッスル クリエイタ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。

マッスル クリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウが表示されます。作成 (Create) タブの上半分には、マッスルの名前、コントロール/断面の数、 マッスルの周辺セグメントの数、マッスルがアタッチされるジョイントを 設定できるコントロールがあります。

- 2 マッスルクリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウで以下を実行します。
 - マッスル名 (Muscle Nam) に Mus_L_FrontLeg と入力します。

ヒント: キャラクタの左側と右側のマッスルを区別できるようなわかり やすい名前を付けると、階層内で識別しやすくなります。

- コントロール/断面の数(Num. Controls / Cross Sections) を4に設定 します。
- 周辺セグメントの数(Num. Segments Around)を8に設定します。

- **3 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)**ウィンドウを開いたまま、以下を 実行してマッスルのアタッチ オブジェクトを設定します。
 - bn_L_F_Humerus01 カプセルを(シーン ビューまたはアウトライナ (Outliner) で)選択し、マッスル クリエイタウィンドウのアタッチ



■ bn_L_F_TiborRaiiMinor01 カプセルを選択し、アタッチ終了(Attach





ボタンをクリックすると、選択したオブジェクトがアタッチ開始 フィールドとアタッチ終了フィールドにロードされます。

4 マッスルの作成 (Create Muscle)

🐻 Muscle Creator 📃 🗆 🗙
Create Edit
Muscle Name: Mus_L_FrontLeg
Num. Controls / Cross Sections: 4
Num. Segments Around: 8
Attach Start: n_L_F_Humerus01 <<<< Attach End: =_TiborRaiiMinor01 <<<<
✓ Create cMuscleObject shape node
Create Muscle
▼ Mirror
Mirror Axis: • X • Y • Z
Search: Replace:
Mirror Muscle from Selection
▼ Copy/Paste
Copy First Selected Muscle, Paste to Other Selected Muscles

をクリックします。

これで、**アタッチ開始**フィールドと**アタッチ終了**フィールドで指定したジョ イントに、新しいマッスルがアタッチされました。

マッスルを見やすくするために、シーン ビューをワイヤフレームに変更す ることもできます。マッスルは主に NURBS サーフェス、マッスルの各終 端にある 2 つのアタッチ ポイント、一連の断面コントロールで構成されて います。



レッスンを終えて

このレッスンでは、2つのジョイントにアタッチされるマッスルの作成方法について学習しました。このレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Create_End.mbは、Mayaマッスルの高度なテクニックのフォルダ にあります。

これで剣歯虎のマッスルを洗練させて編集する準備が整いました。次にポーズ状態を設定してマッスルの各終端のロケータを調整します。

レッスン2:マッスルのポーズ状態を設定する

このレッスンでは、マッスルのポーズ状態を設定する方法について紹介します。

レッスンで使用するシーンを開く

- Sabertooth_Set_Start.mb ファイルをロードします。
 このシーンには、前脚のマッスルを持つ剣歯虎が含まれています。
- 2 タイムラインをスクラブして、脚のマッスルがアニメーション全体を通してどのように変形するか確認します。 前脚のマッスルの変形が強調されていることがわかります。デフォルトでは、すべてのマッスルに一定量のジグルが含まれているため、デフォメーションが発生します。次の手順では、デフォルトのジグルを削除して、マッスルのポーズ状態をより適切に視覚化して設定できるようにします。

ポーズ状態の設定

注: ポーズ状態はマッスルのスカルプトを開始する前に設定しておくのが最適で すが、マッスル作成プロセスのどの時点でも編集できます。

デフォルトのジグルをオフにするには

- 1 前脚のマッスルを選択します。
- 2 シーン ビューで前面カメラに切り替えて、マッスル サーフェスの長さに 沿って 4 つの断面コントロールを選択します。

これらの外側のワイヤフレーム ボックスに、ジグル設定が格納されます。



3 チャンネルボックス(Channel Box)で、**ジグル(Jiggle**)アトリビュート を0に設定します。 4 パース ビューに戻して、再度アニメーション全体をスクラブします。 マッスル デフォメーションがかなり自然になっています。デフォルトのジ グル値がないため、次の手順では 3 つのメイン ポーズ状態をより簡単に設 定できます。

ポーズ状態を設定するには

- 1 前脚のマッスルを選択します。
- メインメニューからマッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイタ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。
- 3 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)で、編集(Edit)タブに切り替え ます。

編集タブには、さまざまなポーズ状態のマッスル サーフェスを形成し、微 調整できるコントロールがあります。

- 4 フレーム3に進み、前脚のマッスルをレスト状態にします。
- 5 マッスルクリエイタのポーズ (Poses) セクションで、レスト (Rest) ボタ ンをクリックします。

これで、マッスルのカレントポーズがレスト状態に設定されます。



6 フレーム 15 に進み、伸長(Stretch)をクリックします。
 この時点で上肢と脚のジョイントはほぼ平行で、マッスルが正しく伸長した位置になっていることを示します。

マッスルのサーフェスは、状態が設定されると薄くなります。



7 フレーム 7 に進み、収縮(Squash)をクリックします。
 この時点で上肢は脚のジョイントに対してほぼ直角で、マッスルが正しく
 収縮していることを示します。

マッスル サーフェスのボリュームが少し拡張され、その新しい設定状態に 合うように補正されます。



これでポーズの状態が設定され、アニメーション全体をスクラブすると前脚の筋 肉が伸縮する様子がわかります。

レッスンを終えて

このレッスンでは、マッスルのポーズ状態の設定方法について学習しました。こ のレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Set_End.mb は、Maya マッスル の高度なテクニックのフォルダにあります。

これでマッスルのアタッチ ポイント ロケータを調整し、その長さとシェイプを 編集する準備が整いました。

レッスン3:マッスルシェイプを編集する

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) を使用して作成した各マッスルは、各 終端にある 2 つの分離したアタッチ ロケータにコンストレインされています。 これらのロケータは、最初にマッスルを作成したときに指定したジョイントにペ アレント化されています。これらのロケータを移動して、マッスル シェイプを 変更します。ここでは、マッスル サーフェスが前脚の周囲を覆うように調整し ます。

注: マッスルのアタッチロケータを再ペアレント化することにより、マッスルを リグの別のジョイントに再ペアレント化することができます。

レッスンで使用するシーンを開く

➤ Sabertooth_Edit_Start.mb ファイルをロードします。 このシーンには、3つのポーズ状態がすべて設定された前脚のマッスルを持 つ剣歯虎が含まれています。

マッスル ロケータの位置を調整する

マッスル ロケータを調整するには

- 1 前脚のマッスルを選択します。
- 2 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)を開き、編集(Edit)タブに切り 替えます。

編集タブの下部には、選択したマッスルに使用できるさまざまな断面コン トロールとアタッチ ポイントがすべてリスト表示されます。

3 ロケータのアタッチ(Attach Locs) セクションで、Ctrl キーを押しながら 脚のマッスルの2つの両端のロケータである locMus_L_FrontLeg_End1、 locMus_L_FrontLeg_End2 をクリックします。



4 移動ツールを使用して、このロケータをY軸に沿って下方に足首付近まで 移動し、それからZ軸に沿って上肢ジョイントの正面まで移動します。 マッスルサーフェスが伸長し、新しいロケータの位置に合わせて補正され ます。



- **5** locMus_L_FrontLeg_Start1を選択して上肢ジョイントのベース付近まで移動し、脚の側面を外側に向けます。
- 6 locMus_L_FrontLeg_Start2 を選択し、locMus_L_FrontLeg_Start1 の横に 移動します。



マッスル サーフェスに沿った各断面コントロールが個別に回転し、新しい ロケータの位置に合わせて補正します。

7 アニメーション全体をスクラブし、新しいシェイプに基づいたマッスルの 動作を確認します。



レッスンを終えて

このレッスンでは、マッスルのアタッチ ロケータを調整してより最適にマッス ルを形成する方法について学習しました。このレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Edit_End.mb は、Maya マッスルの高度なテクニックのフォルダに あります。

これでマッスル サーフェスの長さを調整する準備が整いました。

レッスン4:マッスルの長さの調整

マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウを使用して作成したマッス ルには、デフォルトのレスト位置、収縮状態、伸長状態それぞれに1つずつ、 編集可能な3つのビルトイン断面カーブ セットがあります。シーン ビュー、ま たはマッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウを使用してカーブを直 接編集できます。次の例では、これらの各ポーズのマッスルの長さを調整する方 法について説明します。

レッスンで使用するシーンを開く

1 Sabertooth_Length_Start.mb ファイルをロードします。

このシーンには、カプセル化されたボーン、前脚のマッスル、首のマッス ルを持つ剣歯虎が含まれており、3つのポーズ状態がすべて設定されていま す。



2 フレーム単位でスクラブして、首のマッスルの収縮と伸長を確認します。 首のマッスルが頚部のジョイントから上肢のジョイントまで直線でつながっ ていることに注目してください。これにより、マッスル サーフェスは、虎 の胴体から外側に大きく突き出すか、あるいは肩のジョイントを貫通する ことになります。これは見た目が不自然なだけでなく、マッスルの動作に も影響します。次の手順では、これを修正するために、各ポーズ状態のマッ スルの中心線が虎の胴体の輪郭に沿うように変更します。

マッスルの長さを調整する

次の手順では、マッスル ロケータを使用して各ポーズ状態でのマッスルの長さ を調整します。

レスト ロケータを調整する

- メイン メニューからマッスル > マッスル/ボーン > マッスル クリエイタ (Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator)を選択します。
 マッスル クリエイタ (Muscle Creator) ウィンドウが開きます。
- 2 フレーム0に進みます。ここでは、首のマッスルがレスト状態になっています。
- 3 首のマッスルサーフェスを選択し、マッスルクリエイタ(Muscle Creator)の編集(Edit)タブに切り替えます。
- **4 レストのアタッチ(Attach Rest**)セクションで、AttachMidMus_L_Neck11 を選択します。

これにより、首のマッスルの上部にある最初の内側のワイヤフレームボックスが選択されます。これが隣接する断面のアタッチポイントを表します。



5 移動ツールを使用して首のマッスルの上部の位置を調整し、頸部のポイン トを突き抜けずにその周囲を回るようにします。



6 満足な結果が得られるまで、残りのレストのアタッチ(Attach Rest)ポイントで処理を繰り返します。

マッスルのシェイプは自然な形で虎の胴体に沿うようにする必要がありま す。このアタッチ ポイントは完璧に配置しなくてもかまいません。後でい つでも微調整できます。

収縮ロケータを調整する

- 1 フレーム5に進みます。ここでは首のマッスルが収縮状態になっています。
- 2 まず編集(Edit)タブの収縮のアタッチ(Attach Squash) セクションから アタッチポイントを選択してこの状態の中心線を調整し、それから移動ツー ルを使用して再配置します。



伸長ロケータを調整する

1 フレーム 17 に進みます。ここでは首のマッスルが伸長状態になっていま す。



- 2 編集(Edit) タブの伸長のアタッチ(Attach Stretch) セクションからア タッチ ポイントを選択し、移動ツールを使用してマッスルが肩を回って上 肢で終了するように再配置します。
- 3 アニメーション全体をスクラブし、行った変更結果を確認します。

レッスンを終えて

このレッスンでは、マッスルの中心線を変更して長さを調整する方法について学習しました。このレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Length_End.mb は、Mayaマッスルの高度なテクニックのフォルダにあります。これでマッスルのサーフェスをスカルプトする準備が整いました。

レッスン 5: マッスルのスカルプト

マッスルの断面カーブを編集して、マッスルを必要なシェイプにスカルプすることもできます。マッスル クリエイタ (Muscle Creator) のスカルプト コントロールにより、編集するポーズ状態と軸を選択し、スライダを使用してマッスルサーフェスを調整できます。

注: マッスルを編集する前に、目的のポーズ状態が選択されていることを確認し ます。一度に複数の状態を選択すると、マッスル サーフェスに対して行った変 更は選択したすべての状態に反映されます。

レッスンで使用するシーンを開く

➤ Sabertooth_Sculpt_Start.mb ファイルをロードします。 このシーンには、カプセル化されたボーン、前脚のマッスル、首のマッス ルを持つ剣歯虎が含まれており、3つのポーズ状態がすべて設定されていま す。

各ポーズ状態のマッスルをスカルプトする

- マッスルクリエイタ(Muscle Creator)を開き(マッスル>マッスル/ボーン>マッスルクリエイタ(Muscle>Muscles/Bones>Muscle Creator))、 編集(Edit) タブに切り替えます。
- 2 首のマッスルを選択します。 カレントのレスト状態の首のマッスルは Z 軸でより薄くする必要があります。
- 3 マッスルクリエイタ(Muscle Creator)のスカルプト(Sculpting) セク ションで、Z軸(Zaxis)とレスト(Rest)パラメータのみが選択されてい る状態にします。



- 4 マッスルのチューブ形状が失われて平らな細長い形状になるまでスカルプ
 ト (Sculpt) スライダを左にドラッグします。
- **5 レスト (Left)** パラメータを選択したままで**Z**軸の選択を解除し、**X**軸 (X axis)を選択します。



6 場所(Location)スライダを伸長(St)パラメータの下にくるまで左にド ラッグして、減衰(Falloff)スライダをほぼ同じ位置までドラッグします。 これにより、少し内側にカーブした首のマッスルの上部にある断面カーブ が分離します。



- 7 スカルプトスライダを内方向の曲率が消えるまで右にドラッグします。
- 8 フレーム17に進みます。ここでは、首のマッスルが最大限に引き伸ばされ た伸長状態になっています。



注: 目的の状態のマッスルをスカルプトする前に、その状態のマッスルが一番良く表示されるフレームまで移動していることを確認してください。そうでないと、デフォメーション結果をマッスル サーフェス上で正しく確認できないことがあります。

- **9 場所(Location)**スライダを中間までドラッグして、**減衰(Falloff)**スラ イダを右にドラッグします。これによりスカルプト範囲が最大に設定され、 マッスルの長さ全体に作用します。
- 10 Z軸と伸長(St)パラメータを選択します。
- **11 スカルプト**スライダを左にマッスル全体がより薄くなるまでドラッグしま す。



12 再度アニメーションをスクラブして、スカルプトの変更を確認します。

294 | Maya マッスルの高度なテクニック



レッスンを終えて

このレッスンでは、さまざまなポーズ状態のマッスルをスカルプトする方法につ いて学習しました。このレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Sculpt_End.mbは、Mayaマッスルの高度なテクニックのフォルダ にあります。

レッスン 6: マッスルのミラーリング

マッスル クリエイタ(Muscle Creator)により、命名規則をリファレンスとし て使用して、マッスルをミラーすることができます。作成プロセスのどの時点で も選択したマッスルをミラーすることができます。

レッスンで使用するシーンを開く

➤ Sabertooth_Mirror_Start.mb ファイルをロードします。 このシーンには首と脚のジョイントにマッスルを適用した剣歯虎が含まれ ています。マッスルを前脚の一方から他方にミラーします。

マッスルをミラーする

- マッスルクリエイタ(Muscle Creator) ウィンドウ(マッスル>マッスル/ ボーン>マッスル クリエイタ(Muscle > Muscles/Bones > Muscle Creator))を開き、作成(Create) タブに切り替えます。
- **2 ミラー(Mirror)**セクションで、**ミラー軸(Mirror Axis)**として **X** を選択 します。
- **3 検索 (Search)** フィールドに_Lを、**置き換え (Replace)** フィールドに_R を入力します。

メッシュの各「サイド」のマッスルは、Left または Right の命名規則に準 じたジョイントにペアレント化されている必要があります。

ヒント: また、検索フィールドを右クリックして、使用可能な命名規則から選択することもできます。これにより、置き換えフィールドは自動的に入力されます。



4 前脚のマッスルサーフェスを選択します。



5 マッスル クリエイタ(Muscle Creator)ウィンドウで、選択項目からマッ スルをミラー(Mirror Muscle from Selection)をクリックします。

選択したマッスルに基づいて、新しいマッスルが右前脚に作成されます。



6 (オプション)続けてマッスルをミラーするには、再度マッスルを選択して、**選択項目からマッスルをミラー**をクリックします。



レッスンを終えて

このレッスンでは、マッスルをメッシュの一方から他方にミラーする方法につい て学習しました。このレッスンの完成ファイルである Sabertooth_Mirror_End.mb は、Maya マッスルの高度なテクニックのフォルダにあります。

マッスルのトラブルシュー ティング

このセクションはMaya[®] マッスルのトラブルシューティングに関する質問とその回答、ヒント や便利な使い方について説明します。

カプセルのトラブルシューティング

カプセルやマッスル オブジェクトが表示されない これらのオブジェクトを表示 するには、Mayaシーンの表示(Show)メニューでロケータ(Locators)をチェッ クしておく必要があります。

カプセルを複製したが、上手く動作しない カプセルは特殊なロケータで、接続に も特別なセットアップが必要です。単にオブジェクトを複製しただけでは、複製 オブジェクトで接続の維持や復元を行うことはできません。既存のカプセルを複 製するのではなく、必ずマッスル > マッスル/ボーン > カプセルの作成(Muscle > Muscles/Bones > Make Capsule) メニュー項目を使用することをお勧めしま す。詳細については、カプセルを作成する (13 ページ)を参照してください。

すでに cMuscleObject シェイプ ノードがあるカプセルまたはマッスルを複製した 場合は、無効なマッスル オブジェクト ノードの修正 (Fix Invalid Muscle Object Nodes) メニュー項目を使用して有効なシェイプを再作成できますが、オリジナ ルシェイプの古い設定はすべて失われます。詳細については、無効なマッスルオ ブジェクト ノードを修正する (54 ページ)を参照してください。

マッスルのトラブルシューティング

以前の cMuscleSystem 1.xx ファイルは使用できますか? コア機能に技術的な変更 が加えられたため、cMuscleSystem の従来のバージョンで作成したファイルを

77

Mayaマッスルで使用できるようにするには、変換/更新を行う必要があります。 詳細については、Mayaマッスルのセットアップデータを再初期化する(76ページ)を参照してください。

マッスルを持つリグを参照すると、ファイル ロード エラーが表示される この 問題は、リグをテストしたとき、またはリグ ファイルでジグルをテストするた めに時間をスクラブしたときに発生する可能性があります。マッスル ジグル キャッシュを削除する (51ページ)を参照して、すべてのマッスルのジグルキャッ シュを削除してください。これにより、リグからジグル キャッシュ情報が削除 され、参照されるリグ アニメーション ファイルで明確に設定されるようになり ます。このエラーは、参照されるリグを持つアニメーションファイルをアニメー トしてリロードしない限り発生しません。

マッスルの接続解除に長い時間がかかる。回避策はありますか? あります。接続 解除メニュー項目はまず、マッスルまたはノードに設定されたウェイトをすべて 0にしようとするため、この作業に長い時間がかかります。これを短縮するに は、手動で接続を解除してください。

手動でマッスルを接続解除するには

- 1 マッスルペイント(Muscle Paint)ウィンドウで削除するノードを選択し、 スティッキーウェイトをすべて0に設定します(0に塗りつぶします)。
- 2 マッスルまたはノードを削除するか、デフォーマとの接続を解除します。
- 3 メインメニューバーからマッスル > スキンセットアップ > 削除済みや欠落したマッスルの自動修正(Muscle > Skin Setup > Auto-Fix Deleted/Missing Muscles)を選択します。これにより、接続解除の処理が正しく確定されます。

マッスルウェイトのペイントに関するトラブル シューティング

ウェイトのペイントカラーが表示されない/カラーとウェイトが更新されないパネルメニューから表示 > ロケータ(Show > Locators)を選択すると、ウェイトのペイントに関する更新を表示、実行できます。

スキニングを始めてしまったが、マッスルやカプセルを調整、再配置する必要が 出てきた マッスルをスキンした後でも、マッスルやボーンのベースポーズをリ セットすることはできます。つまり、スキニングの開始後でも、スティッキー

300 | マッスルのトラブルシューティング

ウェイト スキニングがリセットされるように、オブジェクトのデフォルト位置 を再配置または編集することが可能です。詳細については、選択したマッスル オブジェクトのベース ポーズをリセットする (79 ページ)を参照してください。

マッスルにスティッキー ウェイトをペイントしたら、ポイントが突然外れてな くなったように見える。変形速度が極端に落ちる。 マッスルをバインドすると きに、スティッキー バインド距離がウェイト付けするポイントを十分含められ る程十分にあることを確認します。または、マッスルのスティッキーを再度バイ ンドします。詳細については、選択したマッスル オブジェクトにスティッキー を再バインドする (81ページ)を参照してください。マッスルウェイト (Muscle Paint) ウィンドウのインフルエンス リストで、ウェイトをスケールまたはス ムースする場合は、そのポイントにウェイト付けするオブジェクトの「ウェイト のロック/保持」オプションが無効になっていることも確認します。

また、マッスル デフォーマには警告メッセージを表示(showWarnings)オプ ションもあり、これをオンにすると範囲外にポイントを持つマッスルも表示でき るため、これらのマッスル上のスティッキーを再バインドすることができます。 これでポイントが外れなくなりますが、必要に応じて作業中にバインド情報を計 算すると、変形速度が遅くなることがあります。この解決方法の詳細について は、無効なスティッキーバインドポイントの自動修正 (77ページ)を参照してく ださい。

メッシュに polyColorPerVertex ノードが表示されるのはなぜですか? ポリゴン オブジェクトのペイント ウェイトでは、カラーの表示に Maya の polyColorPerVertex ノードが使用されるため、マッスル デフォーマで変形した ポリゴン オブジェクトすべてにこのノードが表示されます。さらに、それ以前 の値はすべて上書きされます。独自の目的で polyColorPerVertex ノードを使用 する場合、ペイントを終了し、デフォメーション ウェイトを設定してからこの ノードを使用する必要があります。

ペイントのときに、オブジェクトを選択して移動すると、ペイント モードに戻 れない ペイントから移動や回転ツールなどを使用した作業に移ると、事実上、 ペイントモードを終了したことになります。マッスルペイント(Muscle Paint) ウィンドウを閉じてから開くという操作を行わずにペイントに戻るには、ウェイ トをペイントするオブジェクトを再度選択し、マッスルペイントウィンドウで、 ペイント中の項目リストからボーン/マッスル、またはウェイトをクリックしま す。

cMuscleDisplayShape ノードを削除することはできますか? はい、cMuscleDisplay シェイプ ノードは削除できます。これにより、メッシュに blendShape ノード を適用できます。マッスル ペイント (Muscle Paint) ウィンドウを開きなおす と、このノードが再度作成されます。Maya マッスルでは、マッスルペイント ウィンドウを適切に閉じると、このノードは自動的に削除されます。

変形に関するトラブルシューティング

メッシュのデフォーマの設定をペイント/変更しても何も起こらず、前の変形の ままになる キャッシュアトリビュートが読み取りノード (read-node) または 読み取りファイル (read-file) に設定されていないか確認してください。キャッ シュ モードが読み取りノードまたは読み取りファイルに設定されていると、 キャッシュのみが変更に使用されるため、デフォーマへの変更は表示されませ ん。更新するには、まず、キャッシュ アトリビュートを無効 (disabled) にし ます。

ネガティブ フレームをキャッシュできますか? できます。マッスル デフォーマ では、最高 1024 までのネガティブ フレーム値を使用できます。このため、ファ イル キャッシュへの出力は、保存されている実際のフレーム番号に 1024 加え てオフセットされます。

サブフレームは使用できますか? できます。キャッシュ データを使用している 場合でも、マッスルはサブフレーム間で変形されます。キャッシュ データは、 キャッシュ フレーム情報間で線形的に補間されます。

リラックス ウェイトとスムース ウェイトの違いは何ですか? リラックスとス ムースは一見似ているように思えますが、異なるものです。リラックス ウェイ トでは、メッシュが従来のポイントをある程度維持したままオリジナルにより近 い状態に戻ろうするため、結果的にリンクルが発生します。スムース ウェイト では、ポイントが実際にスムースされ、ポイントのオリジナル位置は考慮されま せん。通常、スムースではポイント同士が近づけられてディテールが失われます が、リラックスでは必要なものに応じてポイントの遠近が調整されます。

リラックス機能の使い方に関するヒントはありませんか? リラックスの計算には 時間がかかることがあります。したがって、通常はこの機能は作業の最後、レン ダリングの前にオンにしてください。リラックス ウェイトをペイントまたは設 定する場合、エンベロープを0に設定してデフォーマ全体を無効化します。さ らに、リラックスを使ってアニメーションをプレビューする場合は、任意の角度 からの再生速度を上げるために、リラックスをオンにしてからアニメーション シーケンスのキャッシュを生成することをお勧めします。詳細については、キャッ シュを作成する (126 ページ)を参照してください。

通常は新しい**リンクル(Wrinkle)**または**引き寄せ(Pull)**モードが最適です。 これにより、マッスルのスライド エフェクトをリラックスさせるときにリンク

302 | マッスルのトラブルシューティング

ルを回避できます。リンクル エフェクトを得るには独立したリンクル ウェイト を使用します。**法線(Normal)**モードでは、望ましくないリンクルが突出して しまうことがあります。

全体的なスムージングを行う場合、スムース ウェイトを使用することもできま す。リラックスを使用してリンクルがペイントされたリンクルを取得し、**リンク** ル(Wrinkle)モードをアクティブにしてから、スムース ウェイトとスムージン グを使用して本来のスムース デフォメーションを行います。

シュリンク ラップの使用に関するアドバイスはありませんか? シュリンク ラッ プではスライドエフェクトの処理速度が低下します。シュリンクラップはモデ リング機能に使用できますが、実際にリギングする場合はオフにすることをお勧 めします。また、単にジオメトリを小さくするかマッスルの外側ではなく内側に モデリングすることにより、同様のエフェクトを得ることもできます。つまり、 スキン メッシュを大きくしてマッスルを取り囲む代わりに、小さくしてシュリ ンク ラップのない通常のスライドを使用し、非常によく似たエフェクトを作成 します。

マッスルの適用後、メッシュにブレンドシェイプを適用できない cMuscleDisplay シェイプ ノードがすべて削除されていることを確認してください。これには、 たとえば次の MEL コマンドを実行します。

delete `ls -type "cMuscleDisplay" "*"` ;

これにより、cMuscleDisplay ノードがすべて削除されます。その後、ブレンド シェイプデフォーマを適用します。もう一度マッスルペイント(Muscle Paint) ウィンドウを開くと、これらのノードが再作成されますが、ダイアログを適切に 閉じると自動的に削除されます。

スマート コリジョン デフォメーションが Maya マッスルで使用される Maya skinClusters と連携しない skinCluster でマッスルを使用している場合、変更に は相対モードを使用します。これは、実際のスティッキー ウェイトを使ってス キニングしていない場合でも必要です。相対モードに切り替えると(詳細につい ては、相対スティッキー デフォメーション (59 ページ)を参照)、Maya マッス ルで skinCluster を使用したときにスマート コリジョン ルーチンが適切に動作 するようになります。

マッスルのセルフ コリジョンが断続的にポップすることがある コリジョン領域 が複雑すぎる場合、セルフ コリジョン アルゴリズムが無効化されているように 見えることがあります。また、コリジョン領域の大きさによっては、同じ現象が 起こることもあります。この問題は、多くの場合、衝突させる必要のない領域後 面に値「0」のコリジョンウェイトをペイントするだけで解決でき、計算時間を 短縮することもできます。たとえば、腕では肘後面の大きなセクションを黒(ま たは 0) でペイントし、腕前面の衝突を適切に解決できます。別の解決策とし て、完全に自動化されたセルフ コリジョンより高速で安定したマッスル スマー ト コリジョン ノードを使用することもできます(詳細については、 cMuscleSmartCollide ノード (209 ページ)を参照してください)。

マッスル ジグル キャッシュ、ポイント単位のスキン ジグル キャッシュ、また はノード キャッシュを削除する理由はありますか? はい。まず、リグの参照時 にそのリグでマッスルのアニメートがテストされている場合、アニメーション ファイルのリロードでエラーが発生する可能性があります。これは、リグとアニ メーション ファイルの両方がマッスルのジグル情報を格納しようとするためで す。この解決方法の詳細については、マッスル ジグル キャッシュを削除する (51 ページ)を参照してください。

また、ショットをアニメートするときに、ライティング、レンダリング、または 再生の処理速度を上げるためにノードや外部ファイルのキャッシュを計画してい る場合、データやポイントごとのスキン ジグル データを保持する必要はありま せん。すべてのポイントは事実上、すでにキャッシュされているからです。ポイ ントごとのスキン ジグル データを削除すると、シーンの保存に必要なディスク スペースを大幅に節約できます。ポイントごとのスキン ジグル キャッシュを削 除しなければ、Maya ファイルのサイズが大きくなる可能性があります。

キャッシュが不良であると判断した場合、またはキャッシュが不要になった場合 にノード キャッシュを削除しても、ファイルのサイズを削減できる可能性があ ります。また、代わりに外部ファイルをキャッシュすることもできます(詳細に ついては、ノード キャッシュを削除する (127 ページ)を参照してください)。

ある側面から別の側面にマッスルをミラーする方法はありますか? マッスル ク リエイタ ウィンドウを使って構築した新しいマッスルは、作成後、マッスルを コピー/ペースト、またはミラーすることができます。詳細については、マッス ルをミラーする (30 ページ)を参照してください。

従来のマッスルスプラインデフォーマを使用している場合、シンプルマッスル の構築には、マッスルビルダ(Muscle Builder)ウィンドウの確定(Finalize) タブにあるミラー作成オプションの使用をお勧めします。これには、アタッチ (Attach)オブジェクトとマッスルに適切な名前を付ける必要があります。ミ ラーリングはマッスルの作成とともに行う必要があります。

索引

С

```
cMuscleBindSticky コマンド
                       129
cMuscleCache コマンド
                  131
cMuscleCompIndex コマンド
                        131
cMuscleCreator ノード 195
cMuscleDirection ノード
                    198
   作成 86
cMuscleDisplace ノード
                    200
   高度な使用方法 64
cMuscleDisplay ノード
                   203
cMuscleKeepOut ノード
                    203
cMuscleMultiCollide デフォーマ
                          122
cMuscleMultiCollide ノード
                       204
cMuscleObject ノード
                  205
cMuscleQuery コマンド 132
cMuscleRayIntersect コマンド
                        133-134
cMuscleRelative ノード
                   208
cMuscleShader ノード
                  209
cMuscleSmartCollide ノード
                       117, 209
   コネクト
           118
   作成 117
cMuscleSmartConstraint ノード
                          217
cMuscleSpline デフォーマ
   カスタム マッスル シェイプ
                          46
   基本ポーズをリセットする
                         43
   作成 40
   設定
        41
cMuscleSpline ノード 217
cMuscleSplineBind コマンド
                       134
cMuscleSplineDeformer ノード
                         220
cMuscleStretch デフォーマ
   作成
       50
cMuscleStretch ノード
                   223
cMuscleSurfAttach ノード
                     224
cMuscleSystem ノード 225
   Collision アトリビュート
                        235
```

Displace アトリビュート 229 Force アトリビュート 230 Jiggle アトリビュート 231 Relax アトリビュート 233 Sliding アトリビュート 228 Smooth アトリビュート 234 Sticky アトリビュート 227 主なアトリビュート 225 cMuscleWeight コマンド 135 cMuscleWeightDefault コマンド 137 cMuscleWeightMirror コマンド 140 cMuscleWeightPrune コマンド 144 cMuscleWeightSave コマンド 141

Κ

KeepOut ノード 117

う

ウェイト	
削除 108	
スティッキー 56	
スライド 61	
転送 107	
方向 62	
保存 102	
ミラーリング 106	
ロード 102	
ロードと保存 102	
ウェイト値のペイント	
トラブルシューティング	300

か

概要 1

カプセル 7 作成 13 設定を調整する 15 ポリゴン シリンダの作成 15

き

キャッシュ 125

Ζ

コネクト cMuscleSmartCollide ノード 118 NURBS カーブを cMuscleDisplace に 90 マッスルと KeepOut 123 マッスルをデフォーマに 74 コマンド 129 cMuscleBindSticky 129 cMuscleCache 131 cMuscleCompIndex 131 cMuscleQuery 132 cMuscleRayIntersect 133 cMuscleRelaxSetup 134 cMuscleSplineBind 134 cMuscleWeight 135 cMuscleWeightDefault 137 cMuscleWeightMirror 140 cMuscleWeightPrune 144cMuscleWeightSave 141 コリジョン 111 コリジョンのトランスフォーム 117 スマート コリジョン 112 セルフ コリジョン 115 マルチオブジェクト コリジョン 116

さ

削除 ジグル キャッシュ 51 ノード キャッシュ 127 マッスルのヒストリ 79 作成

cMuscleDirection 86 cMuscleShader ネットワーク 92 cMuscleSmartCollide ノード 117 mental ray mib_cMuscleShader ネッ トワーク 94 キャッシュ 126 ベースポーズ 80 マッスル 7

L

ジグル 12 キャッシュの削除 51 ジグル デフォメーション 66,97 自動修正 78 欠落したマッスル 78 無効な cMuscleObject ノード 54 無効なスティッキー バインド 77 脂肪オフセット 84 シンプルマッスル 11 完了 37 作成 31 シェイプの変更 34 パラメータの調整 39

す

スキン デフォメーション 55 スティッキー ウェイト 56 デフォメーション 56 スティッキー バインド距離 58,82 スティッキー バインド距離を視覚化す る 82 スティッキー バインドの最大距離 181 スティッキーを再バインドする 81 スマート コリジョン 112 領域ウェイト 113 領域ウェイトのセットアップ 119 スムース デフォメーション 69

スライド ウェイト 61 デフォメーション 60

せ

切断 Muscle ノード 77 マッスルオブジェクト 78 設定 ジグル デフォメーション 97 相対スティッキー デフォメーショ ン 83 ディスプレイスメント デフォメーショ ン 88 フォース デフォメーション 97 セットアップ データの再初期化 76 セルフ コリジョン 115 セルフ コリジョンのグループ化ウィンド ウ 190

そ

相対スティッキー デフォメーション 59, 83

た

ダイアログ ボックス マッスル ウェイトの保存 188 マッスル スプライン デフォーマ シェ イプ 193

τ

ディスプレイスメント デフォメーショ ン 64, 88 適用 cMuscleMultiCollide デフォーマ 122 デフォルト ウェイト 98 マッスル デフォーマ 69 デフォメーション ジグル 66 スキン 55 スティッキー 56 スムース 69 スライド 60 相対スティッキー 59 ディスプレイスメント 64 トラブルシューティング 302 フォース 65 マッスル 11 リラックス 67 デフォルト ウェイト 98 デフォルト ウェイト ツール 187

と

トラブルシューティング 299

の

ノード 195 cMuscleCreator 195 cMuscleDirection 198 cMuscleDisplace 200 cMuscleDisplay 203 cMuscleKeepOut 203 cMuscleMultiCollide 204 cMuscleObject 205 cMuscleRelative 208 cMuscleShader 209 cMuscleSmartCollide 209 cMuscleSmartConstraint 217 cMuscleSpline 217 cMuscleSplineDeformer 220 cMuscleStretch 223 cMuscleSurfAttach 224 cMuscleSystem 225

ふ

フォース デフォメーション 65,97

く

```
変換
NURBS をマッスル オブジェクト
に 19
ジョイントをカプセルに 17
スキンをマッスルに 71
ポリゴン メッシュをボーンに 18
```

ほ

ポイントキャッシング 125 方向 ウェイト 62 ノード 62 ポリゴンボーン 8

ま

マスターマッスルコントロール 52 マッスル 8 Direction ノードの作成 270 アタッチ ポイント 20 ウェイト 100 ウェイトのスムース 250 基本的なスキン デフォメーショ ン 238 キャッシュの削除 277 キャッシュの作成 276 コンポーネント 10 削除 25 作成 23 ジグル デフォメーション 274 ジグル パラメータ 260 指定したポイントにウェイトを設 定 248 脂肪オフセット 269 収縮と伸長の調整 258 種類 8 シンプル マッスル シェイプのスカルプ ト 254

シンプルマッスルの確定 256 シンプルマッスルの作成 253 スカルプト 26 スティッキー ウェイトのペイン ト 246 スライド ウェイトのペイント 268 スライド デフォメーション 267 成長 28 トラブルシューティング 299 パラメータ 240 ペイントウェイト 246,265 方向ウェイトのペイント 273 ポーズ状態の設定 25 マッスルオブジェクトの接続 264 ミラーリング 30 マッスル ウェイトのペイント 100 マッスルウェイトの保存 188 マッスル クリエイタ ウィンドウ 177 クリエイタ タブ 177 設定をコピー & ペーストする 30 開く 23 編集タブ 178 ワークフロー 22 マッスル スプライン ツール 191 マッスル スプライン デフォーマ シェイ プ 193 マッスル スプライン デフォーマ ツー ル 192 マッスル デフォーマ 適用 69 マッスル デフォメーション 11 マッスルビルダ 237 マッスル ビルダ ウィンドウ 169 確定タブ 171 構築タブ 170 断面タブ 171 マッスル パラメータ タブ 172 ワークフロー 31 マッスルペイント ツール 182 マッスルのメニュー 145

マッスルのリギング 278 作成 280 スカルプト 292 長さの調整 288 編集 286 ポーズ状態の設定 283 ミラーリング 295 マッスルのロード 2 マルチオブジェクト コリジョン 116 ワークフロー 2

り

リセット ベース ポーズ 79 リラックス デフォメーション 67

わ

め

メニュー 145